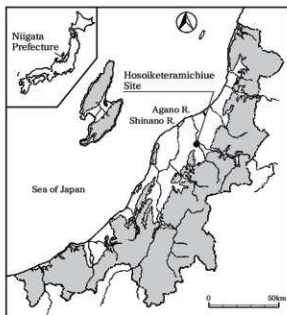


ほそ いけ てら みち うえ
細池寺道上遺跡Ⅱ 第25次調査

— 県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第11次発掘調査報告書 —



2014











新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市秋葉区入安寺15番地1号ほかに所在する細池寺道上遺跡の発掘調査記録である。
書名は既刊の発掘調査報告書〔北村・菊地2004〕に続く2冊目の報告書であることから『細池寺道上遺跡Ⅱ』とした。
- 2 調査は県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区造成に伴い、新潟県から新潟市が受託し実施した。調査主体は新潟市教育委員会（以下、市教委という）であるが、平成19～22年度までは新潟市文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター（以下市埋文センターという）が、23年度以降は新潟市文化財センター（以下市文化財センターという）が補助執行している。
- 3 発掘調査のうち現地作業を平成19年度に実施し、整理作業を平成19～24年度にかけて行った。発掘調査と整理作業の体制については、第Ⅲ章に記した。
- 4 出土遺物および現地調査、整理作業の記録類は、市文化財センターが一括して保管している。
- 5 本書の執筆・編集は潮田憲幸（市文化財センター主査）が行った。
- 6 本書で用いた写真は、遺構個別写真については諏山えりか・潮田・高野裕子・八藤後智人（市文化財センター）が撮影し、空中写真のみ株式会社オリスによる。遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に委託して撮影した。
- 7 遺構図のトレースおよび各種図版作成・編集に関しては、株式会社セピアス（22年度まで）、有限会社不二出版（23年度以降）に委託してデジタル化およびデータ編集を行った。
- 8 本報告中で述べられる新潟市内の遺跡の情報は、全て平成24（2012）年12月31日現在のものである。
- 9 当遺跡の調査成果は、以下の刊行物で内容の一部が公表されているが、本書の記載内容をもって正式な報告とする。内容に齟齬がある場合は、本書の記述に従うものとする。
新潟市埋蔵文化財センター（編）2008『新潟市遺跡発掘調査速報会資料』新潟市埋蔵文化財センター
新潟市教育委員会（編）2008『平成19年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会
- 10 現地調査から本書の作成に至るまで、下記の方々・諸機関よりご指導・ご協力をいただいた。
伊藤秀和、滝沢規朗、春日真実、新津郷土地改良区、金屋地区自治会（船不同、所属・敬称略）

凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（遺構図版・遺物図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。
- 3 掲載図・写真のうち、既存の地形図・写真等を使用したものは、原因の作成者・作成年を示した。
- 4 本文中の注は各章末尾に記した。引用・参考文献は編著者と発行年を西暦で示し、巻末に一括して掲載した。
- 5 遺構は区毎、遺物は器種別（土器・陶磁器、石器・石製品、土製品、金属製品）の通し番号とし、本文および観察表・図版の番号は一致する。
- 6 土壌・遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局発行の『新版 標準土色帖』〔小山・竹原 1967〕を用いた。
- 7 土器実測図の断面は、須臾器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。
- 8 遺物図版で用いるトーンは、以下のとおりとする。

土器	 スス	 被熱による赤化部分	 支脚痕
	 黒色処理		
石器・石製品	 スス・炭化	 赤化部分	 被熱部
	 砥痕	 敲打痕	 打撃痕 (破砕時)

- 9 土器実測図で全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差を考慮し中軸線の両側に空白を設けた。
- 10 遺物の注記は「07 細池寺道上」とし、続けて出土地点・層位等を記した。
- 11 遺構・遺物観察表中における（ ）付きの数値は、推定値を意味する。
- 12 遺構平面図での切り合い関係のある遺構の上端・下端の表現について、切られている遺構の場合、上端の復元が可能ならば破線、下端は切っている遺構より深ければ実線、浅くても復元が可能であれば破線で示した。
- 13 遺構観察表において、切り合い・拡張等で重なり合っている遺構の新旧関係を表現する際に、「<」や「>」を用いた。
例えば、SK1 < SK2 となる場合は、SK1 が古く、SK2 が新しい。
- 14 遺物観察表には、別途凡例を付した。

目 次

第I章 序 説	1
第1節 遺跡概観	1
第2節 調査に至る経緯	1
第II章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
A 越後平野の地形環境	3
B 両新地区の地形環境	3
第2節 歴史的環境	4
第III章 調査の概要	11
第1節 試掘・確認調査	11
第2節 本発掘調査	11
A 調査方法	11
B 調査経過	13
C 工事立会	13
D 調査体制	14
第3節 整理作業	14
A 整理方法	14
B 整理経過	15
C 整理体制	16
第IV章 基本層序と遺構	18
第1節 概 要	18
第2節 基本層序	18
第3節 遺 構	19
A 1 区	19
B 2 区	21
C 3 区	23
D 4 区	25
E 6 区	28
F 7 区	30
第V章 遺 物	42
第1節 概 要	42
第2節 土器・陶磁器	47
A 出土状況	47
B 古代の土器	47
C 中世の土器・陶磁器	52
D 遺物各説	53

第3節 土製品・石製品・金属製品・搬入礫・鉄滓	59
A 出土状況	59
B 石器・石製品・搬入礫	59
C 土製品	61
D 金属製品・銭貨・鉄滓	61
第VI章 8区 工事立会	62
A 基本層序	62
B 遺構	62
C 遺物	62
第VII章 総括	63
第1節 遺物	63
A 古代の土器	63
B 中世の土器	68
第2節 遺構	69
A 帰属時期の決定	69
第3節 まとめ	73
引用・参考文献	78
別表	81
報告書抄録・奥付	巻末

挿図目次

第1図 新潟市周辺地形分類図	5	第19図 8区遺構検出状況	62
第2図 古代・中世遺跡分布図	8	第20図 8区遺物分布状況(古代・中世)	62
第3図 調査区周辺の確認調査状況	12	第21図 細池寺道上遺構別器種構成比率(口残値)	63
第4図 基本層序模式図	18	第22図 細池寺道上遺跡主要土器器無台検法量	64
第5図 遺構割合	18	第23図 周辺遺跡主要遺構別器種組成図	65
第6図 掘立柱建物の分類図	31	第24図 周辺遺跡の土器器無台検法量比較(器高指数)	
第7図 遺物出土割合	42	第25図 周辺遺跡の土器器無台検法量比較(底径指数)	66
第8図 1・2区包含層出土遺物重量分布図 (古代・中世)	43		67
第9図 3・4・6区包含層出土遺物重量分布図 (古代・中世)	44	第26図 珠洲焼 片口鉢・推鉢 断面形体分類図	68
第10図 5・7区包含層出土遺物重量分布図(古代)	45	第27図 珠洲焼 片口鉢・推鉢 口縁型式変遷図	69
第11図 5・7区包含層出土遺物重量分布図(中世)	46	第28図 Ⅱ期区画溝における古代・中世遺物の供伴状況	70
第12図 須恵器のタタキメと当て具痕	47	第29図 時期別の遺構 5・7区	71
第13図 主要器種分類図 須恵器・施釉陶器	49	第30図 時期別の遺構 1～4・6区	72
第14図 主要器種分類図 土師器	50	第31図 時期別の掘立柱建物と付帯施設	73
第15図 土師器無台検 分類別法量分布	50	第32図 阿賀野川流路の変遷図 阿賀野市々々島付近	75
第16図 黒色土器無台検 分類別法量分布	51	第33図 正保絵図に見える遺跡周辺の地名及び流路	75
第17図 珠洲焼の調整痕	52	第34図 阿賀野川・早出川の流路の変遷(推定)	76
第18図 中世土器・陶磁器 主要器種分類表	52		

表 目 次

第 1 表 調査履歴	2	第 6 表 整理作業工程	15
第 2 表 細池寺道上遺跡周辺の古代遺跡一覧表	9	第 7 表 遺構検出状況	18
第 3 表 細池寺道上遺跡周辺の中世遺跡一覧表	10	第 8 表 調査区別遺物出土状況(重量別)	42
第 4 表 両新地区ほ場整備年度別試掘・確認調査面積	11	第 9 表 器種構成・法量比較事例遺跡一覧	64
第 5 表 発掘作業工程	14	第 10 表 接合関係にある遺構一覧	69

別 表 目 次

別表 1 細池寺道上遺跡遺構計測表(柱穴列)	81	別表 7 細池寺道上遺跡 金属製品・鉄貨・鉄滓観察表	
別表 2 細池寺道上遺跡遺構計測表(掘立柱建物)	81	別表 8 細池寺道上遺跡 遺構出土古代土器器種構成率	93
別表 3 細池寺道上遺跡遺構計測表	81	別表 9 細池寺道上遺跡 遺構出土中世土器器種構成率	94
別表 4 細池寺道上遺跡 土器・陶磁器観察表	86		
別表 5 細池寺道上遺跡 土製品観察表	93		
別表 6 細池寺道上遺跡 石器・石製品・搬入礫観察表	93		

図 版 目 次

図版 1 周辺の旧地形図(1/25,000)		図版 26 5区・7区 遺構分割図(1)	
図版 2 周辺の旧地割図(1/10,000)		図版 27 7区 遺構分割図(2)	
図版 3 細池寺道上遺跡と周辺の遺跡(1/20,000)		図版 28 7区 遺構分割図(3)	
図版 4 両新ほ場整備に伴う試掘・確認調査位置図 (1/12,500)		図版 29 7区 遺構分割図(4)	
図版 5 細池寺道上遺跡調査区とグリッド設定図(1) (1/20,000)		図版 30 7区 遺構分割図(5)	
図版 6 細池寺道上遺跡調査区とグリッド設定図(2) (1/2,500)		図版 31 7区 遺構分割図(6)	
図版 7 遺構全体図(1/1,000)		図版 32 7区 SD 主要断面早見表	
図版 8 1区 遺構全体平面図及び基本層序		図版 33 7区 個別図 1(SA, SB)	
図版 9 1区 遺構個別図(SD, SE, SK, SX)		図版 34 7区 個別図 2(SB)	
図版 10 2区 遺構全体平面図及び基本層序		図版 35 7区 個別図 3(SB)	
図版 11 2区 遺構個別図 1(SD)		図版 36 7区 遺構個別図 4(SD)	
図版 12 2区 遺構個別図 2(SE, SK)		図版 37 7区 遺構個別図 5(SD)	
図版 13 3区 遺構全体平面図 1		図版 38 7区 遺構個別図 6(SD)	
図版 14 3区 遺構全体平面図 2 及び基本層序		図版 39 7区 遺構個別図 7(SD)	
図版 15 3区 遺構個別図 1(SD)		図版 40 7区 遺構個別図 8(SE)	
図版 16 3区 遺構個別図 2(SK, SX)		図版 41 7区 遺構個別図 9(SK)	
図版 17 4区 遺構全体平面図及び基本層序		図版 42 7区 遺構個別図 10(SK)	
図版 18 4区 遺構個別図 1(SD)		図版 43 7区 遺構個別図 11(SK)	
図版 19 4区 遺構個別図 2(SD)		図版 44 7区 遺構個別図 12(SK)	
図版 20 4区 遺構個別図 3(SE)		図版 45 7区 遺構個別図 13(SX, P)	
図版 21 4区 遺構個別図 4(SK, SX)		図版 46 出土遺物 1(2~7区 遺構出土土器 2区 SD9 3区 SD4・20・44・84 4区 SD5・11・22・ 36・74・83・88・91, SK7・68 7区 SD2・ 21・30・47)	
図版 22 6区 遺構全体平面図及び基本層序		図版 47 出土遺物 2(7区 遺構出土土器 SD30・47・ 93・108・133・363・775, SX17)	
図版 23 6区 遺構個別図(SD, SK, SX)		図版 48 出土遺物 3(7区 遺構出土土器 SD133, SE677・704, SK1・20・34・56)	
図版 24 5区・7区 基本層序			
図版 25 5区・7区 遺構配置図			

図版 49 出土遺物 4 (7区 遺構出土土器 SK56・68・69・77・92・97・116・577)
図版 50 出土遺物 5 (7区 遺構出土土器 SD2, SK116・140・141・145・202・442・575)
図版 51 出土遺物 6 (7区 遺構出土土器 SK145)
図版 52 出土遺物 7 (7区 遺構出土土器 SK575・577, SX144, P70・581・584)
図版 53 出土遺物 8 (包含層出土土器 1～4区, 7区)
図版 54 出土遺物 9 (包含層出土土器 7区)
図版 55 出土遺物 10 (包含層出土土器 7区)
図版 56 出土遺物 11 (包含層出土土器 7・8区)

図版 57 出土遺物 12 (2～7区 遺構出土土器・石製品・搬入礫 2区 SD17・24・34・63, SE25 3区 SD33 4区 SD72・83・106, SE59 7区 SD2, SE678)
図版 58 出土遺物 13 (7区 遺構出土土器・石製品・搬入礫 SD30・108・267・718・775, SK56・92)
図版 59 出土遺物 14 (7区 遺構出土土器・石製品・搬入礫 SK141・145・575・601 2・6～8区 包含層出土土器・石製品・土製品・鉄製品・銭貨)
図版 60 第12図 遺物分布 5・7区 古代・中世土器接合関係図

写真図版目次

写真図版 1 細池寺道上遺跡周辺空中写真
写真図版 2 平成19年度調査区周辺現況空中写真
写真図版 3 空中写真
写真図版 4 基本層序 (1) 1区～4区
写真図版 5 基本層序 (2) 6区・7区
写真図版 6 1区1 (着手前、完掘, SD11・14・33)
写真図版 7 1区2 (SD3・46, SE51, SK2・68)
写真図版 8 1区3 (SK20・22・54・55, SX7・15)
写真図版 9 2区1 (着手前、完掘, SD9・15・17)
写真図版 10 2区2 (SD23・24・34・55・56・63)
写真図版 11 2区3 (SD63・89, SE25・97, SK67)
写真図版 12 2区4 (SK10・16・37・96)
写真図版 13 3区1 (着手前、完掘, SD4・7・10・16)
写真図版 14 3区2 (SD19・20・23・33・39, SK24)
写真図版 15 3区3 (SD39・40・44・45・57・84, SX81)
写真図版 16 3区4 (SD57, SK15・24・47・50・70・71, SX81, P82)
写真図版 17 3区5 (河跡)
写真図版 18 4区1 (着手前、完掘, SD1・5・11・18)
写真図版 19 4区2 (SD23・30・34・36・50)
写真図版 20 4区3 (SD50・71・72・74, SK73)
写真図版 21 4区4 (SD77・78・83・94, SE112, P121)
写真図版 22 4区5 (SD88・91・106・113)
写真図版 23 4区6 (SD113, SE59・70・103・112)
写真図版 24 4区7 (SD3・22, SE117, SK6・7・14, P118)
写真図版 25 4区8 (SK40・41・44・46・68)
写真図版 26 4区9 (SD21・94, SK69・73・109, SX19・76)
写真図版 27 6区1 (着手前、完掘, SD10・11・16)
写真図版 28 6区2 (SD18・19・21・24, 畝状遺構 (SD8・27～30))
写真図版 29 6区3 (畝状遺構 (SD31～38), SK1・3)
写真図版 30 6区4 (SD18, SK4・12・13・26, SX20)
写真図版 31 7区 空中写真

写真図版 32 7区 俯瞰写真1
写真図版 33 7区 俯瞰写真2
1期遺構集中部分、堀立柱建物 (SB7)
写真図版 34 7区 柱穴列 (SA1) 及び堀立柱建物 (SB1～6・10)
写真図版 35 7区 堀立柱建物 (SB7～9)
写真図版 36 7区 11S-5F 周辺の遺構, II期区画溝 1 (SD30・47・108・133ほか)
写真図版 37 7区 II期区画溝 2 (SD108・190・775・808ほか)
写真図版 38 7区 I (SD2・17・21, SK20)
写真図版 39 7区 2 (SD30・47・108・607, SK66・74)
写真図版 40 7区 3 (SD93・96・102・133・267, SK98)
写真図版 41 7区 4 (SD133・190～193・207・267・268)
写真図版 42 7区 5 (SD190・268・367・382・390・413・423, SX694)
写真図版 43 7区 6 (SD423・487・635・636・662・712～716, SX720, P638)
写真図版 44 7区 7 (SD716・718・719・773・775・808・837・878・918, SX807)
写真図版 45 7区 8 (SE399・434・677・678)
写真図版 46 7区 9 (SE678・704, SK1・18)
写真図版 47 7区 10 (SK22・23・28・34・50, P52)
写真図版 48 7区 11 (SK53・56・68・69・76)
写真図版 49 7区 12 (SK77・86・90・92)
写真図版 50 7区 13 (SD93, SK97・98・99・116・140, SX143)
写真図版 51 7区 14 (SK140・141・145)
写真図版 52 7区 15 (SD2, SK145・194・195・200)
写真図版 53 7区 16 (SK201・202・250・273)
写真図版 54 7区 17 (SK292・324・409・411)
写真図版 55 7区 18 (SK414・442・488・575・576, P580)
写真図版 56 7区 19 (SK575～577・597・601, P584)

- 写真図版 57 7区 20 (SK681・682・799・899)
- 写真図版 58 7区 21 (SX26・58・106・118・119・144)
- 写真図版 59 7区 22 (SX144・327・328・550・693)
- 写真図版 60 7区 23 (SX693・743・807・P70・229・421・742)
- 写真図版 61 7区 24 (P581・584) 8区 (遺跡発見・検出状況)
- 写真図版 62 主要遺物側面写真
- 写真図版 63 SK145 出土 土師器鬮 (99) 展開写真
- 写真図版 64 遺構出土土器・陶磁器 1 (2～4・7区)
- 写真図版 65 遺構出土土器・陶磁器 2 (7区)
- 写真図版 66 遺構出土土器・陶磁器 3 (7区)
- 写真図版 67 遺構出土土器・陶磁器 4 (7区)
- 写真図版 68 遺構出土土器・陶磁器 5 (7区)、
包含層出土土器・陶磁器 1 (1～4・7区)
- 写真図版 69 包含層出土土器・陶磁器 2 (7区)
- 写真図版 70 包含層出土土器・陶磁器 3 (7区)
- 写真図版 71 石器・石製品、搬入礫、土製品、鉄製品、
鉄貨、鉄滓
- 写真図版 72 石製品、搬入礫
- 写真図版 73 調整痕拡大写真 1
- 写真図版 74 調整痕拡大写真 2

第 I 章 序 説

第 1 節 遺 跡 概 観

細池寺道上遺跡は、新潟市秋葉区大安寺・六郷・金屋を中心とする面積約 1,572,000 (157.2ha) m² の遺跡である。昭和 60 (1985) 年から 20 年以上にわたって断続的に調査されており、調査の結果古代・中世の農村集落的性格を有する遺跡であることが判明している。

遺跡の発見は昭和 60 年 8 月に行われた新潟県教育委員会 (以下県教委という) による遺跡分布調査によるが、遺物が採取された地点を中心として、細池、木津橋、寺道上等複数の遺跡に分かれていた。本格的な調査は平成 2 (1990) 年、磐越自動車道建設にともない県教委が実施した細池遺跡・寺道上遺跡の確認調査 (第 1・2 次調査) が最初である [小池ほか 1994]。

両遺跡は平成 3 (1991) ～平成 4 (1992) 年にかけて県教委により約 34,000m² が調査され、古代・中世にかけての遺構・遺物が出土し、細池遺跡では中世のほ場と思われる区画も発見されている (小池ほか前掲)。また、平成 8・9 (1996・1997) 年には新潟市教育委員会 (以下新潟市教委という) による細池遺跡の本調査 [立木ほか 1998] が、平成 11 (1999) 年には寺道上遺跡の本調査 (渡邊ほか 2001) が同市教委により実施されている。

遺跡の範囲は一連の調査を通じて拡大されてきたが、平成 13 (2001) 年から始まった両新地区ほ場整備事業に伴う確認調査の結果、木津橋遺跡・土手外遺跡など付近の遺跡を統合し、細池寺道上遺跡として再登録されている。この後、平成 15 年 (2003) 年に鉄塔建設に伴う本調査が実施された [北村ほか 2004] が、平成 16 (2004) 年以降は、ほ場整備事業に係わる調査が多くを占める。本書で報告する調査次数は分布調査を除いて通算で 25 回目 (第 1 表)、細池寺道上遺跡としては 13 回目、ほ場整備による調査として 11 回目となる。調査面積は 8952.7m² である。

第 2 節 調査に至る経緯

今次調査は、平成 7 (1995) 年度に新潟県新潟土木事務所 (現新潟県新潟地域振興局) および新潟東土地改良区 (現新潟郷土地改良区) の計画する両新地区 (旧中島原部阿賀浦村・新開村) における県営ほ場整備事業の計画が当時の新潟市教育委員会にもたらされたことに端を発する。

事業の見直し等を経て計画が具体化したのは平成 11 (1999) 年以降で、事業対象面積は両新地区の農地約 170ha、新潟県新潟農地事務所 (現新潟県新潟地域振興局 新潟農業振興部 以下新潟地域振興局という) が事業主体となる。新潟市教委は新潟地域振興局と協議を行い、計画地全域を対象とした試掘・確認調査を実施することで合意した。

試掘・確認調査は平成 13～18 年度にわたって行われ、その過程で道上遺跡、下久保遺跡等新たな遺跡も発見され、道上遺跡は平成 17 年度に、下久保遺跡については平成 18 年度に本発掘調査を実施している。試掘・確認調査の結果をもとに事業主体である新潟地域振興局および新潟郷土地改良区、新潟市教育委員会 (平成 17 年度以降は合併により新潟市歴史文化課が引き継ぐ) の間で事前協議を行い、工事の施工に際し保護層 (埋蔵文化財を保護するために設ける一定の厚さの層)⁽¹⁾ を確保できない部分については本発掘調査を実施することで合意した。

今次調査は、新潟地域振興局の平成 19 年度工事計画にもとづき、埋蔵文化財の保護層が確保できない田面および用水管 (以下路線部という) 部分約 8952.7m² の面積が対象となっている。

第1表 調査履歴

調査年度 調査年度 (注)	調査年度	調査種別	調査原因	原因者	調査主体	調査担当	調査面積 (㎡)	文献	旧遺跡名	備考
	S60(1985)8.4	分布調査	新潟県道跡評 新分布調査		新潟県教育委員会	横山 藤栄				
	H1(1989)	分布調査	『新津市史』 編纂事業		新潟市教育委員会	川上 貞肇		『川上ほか 1989』		『新津市史』に掲載 され、一般に周知
1	H2(1990)10.1~10.18	確認調査	磐越自動車道	建設省	新潟県教育委員会	小池 義人	958.0	『小池ほか 1994』	新池	
2	H2(1990)10.1~10.18	確認調査	磐越自動車道	建設省	新潟県教育委員会	小池 義人	820.0	『小池ほか 1994』	寺道上	
3	H3(1991)4.15~12.7	本発掘調査	磐越自動車道	建設省	新潟県教育委員会	小池 義人			新池	古代・中世の集落跡 および中世のほろを 検出。遺物は新津庄 院史、佐治産直志郎 を以て今世紀を主 体とする。
4	H3(1991)7.8~12.7	本発掘調査	磐越自動車道	建設省	新潟県教育委員会	小池 義人			寺道上	
5	H4(1992)4.8~8.7	本発掘調査	磐越自動車道	建設省	新潟県教育委員会	小池 義人	34,320	『小池ほか 1994』	新池	
6	H4(1992)4.24~5.28	本発掘調査	磐越自動車道	建設省	新潟県教育委員会	小池 義人			寺道上	
7	H7(1995)11.6~11.10	確認調査	農道拡幅	新津市	新潟市教育委員会	渡邊 朋和	97.0		新池	
8	H8(1996)7.22~7.23	確認調査	農道拡幅	新津市	新潟市教育委員会	渡邊 朋和	53.0		寺道上	
9	H8(1996)10.17~12.13	本発掘調査	農道拡幅	新津市	新潟市教育委員会	渡邊 朋和	1429.0	『立木ほか 1998』	新池	
10	H9(1997)10.7~11.25	本発掘調査	農道拡幅	新津市	新潟市教育委員会	立木 文明	1419.0	1998]	新池	
11	H9(1997)10.30	確認調査	農道拡幅	新津市	新潟市教育委員会	渡邊 朋和	9.0		寺道上	
12	H11(1999)10.1~12.15	本発掘調査	農道拡幅	新津市	新潟市教育委員会	渡邊 朋和	844.0	『渡邊ほか 2001』	寺道上	
13	H13(2001)10.15~11.8	確認調査	向新地区住場 整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	渡邊 朋和			寺道上	
14	H13(2001)10.15~11.8	確認調査	向新地区住場 整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	渡邊 朋和			木津崎	確認調査の結果、 新池・寺道上・木津崎 遺跡を統合し、新池 寺道上遺跡とする。
15	H13(2001)10.15~11.8	確認調査	向新地区住場 整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	渡邊 朋和	1147.0		新池	
16	H13(2001)10.15~11.8	確認調査	向新地区住場 整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	渡邊 朋和			土手外	
17	H14(2002)10.16~10.24	確認調査	鉄道建設	東北電力	新潟市教育委員会	立木 文明	86.4			
18	H14(2002)10.16~11.15	確認調査	向新地区住場 整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	渡邊 朋和				土手外を統合
19	H14(2002)10.16~11.15	確認調査	向新地区住場 整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	渡邊 朋和	1701.0			土手外
20	H15(2003)9.5~12.19	本発掘調査	鉄道建設	東北電力	新潟市教育委員会	北村 淳	412.0	『北村ほか 2004』		
21	H15(2003)11.17~12.1	確認調査	向新地区住場 整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	渡邊 朋和	491.0			
22	H16(2004)10.4~11.5	確認調査	向新地区住場 整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	渡邊 朋和	40.0			
23	H17(2005)10.11~10.26	確認調査	向新地区住場 整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	渡邊 すすみ	154.5			
24	H18(2006)11.30	確認調査	向新地区住場 整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	沢田 敦	24.0			
25	H19(2007)6.11~12.11	本発掘調査	向新地区住場 整備事業	新潟県	新潟市教育委員会	鎌山えりか	8952.7	『本書』		

事前協議から発掘調査着手までの流れとしては、以下のとおりである。

平成19年

3月27日 新潟地域振興局長から新潟県教育委員会教育長へ文化財保護法第94条第1項にもとづく通知がなされる(平成19年3月26日付新振津農第595号)。

3月27日 新潟地域振興局長から新潟市教育委員会教育長へ本発掘調査依頼書が提出される(平成19年3月26日付新振津農第595-3号)。

4月23日 新潟県教育委員会教育長から新潟農地事務所長へ、文化財保護法第94条にもとづく本発掘調査の実施に関する指示がなされる(平成19年4月23日付教文第82号)。

6月11日 上記の指示にもとづき、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長宛てに文化財保護法第99条第1項にもとづく通知(平成19年6月11日付新歴第1820号)を提出し、調査に着手する。

(1) 発掘調査の要否の判断については、平成11年9月10日付教文第578号にて新潟県教育委員会教育長より通知された「発掘調査の要否の判断基準について(通知)」にもとづく。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境 (第1図)

A 越後平野の地形環境

越後平野は、長さ約100km、幅約25km、面積約2,040km²の広がりを持つ日本海側最大の平野である。平野中には日本有数の大河である信濃川と阿賀野川が貫流し、途中で多くの中・小河川の水を集めながら日本海へ注いでいる。両河川の河口部に位置する新潟市は、人口約81万人を数える政令指定都市である⁽¹⁾。

新潟市の地形は、海岸部の砂丘、西の角田山塊、南東部の新津丘陵と、その間の沖積面に大別される。海岸線後退にともなう風沙作用により形成された砂丘は、海岸線と並行に弧状に連なって分布している。これらの砂丘は全て完新世第四紀以降の形成とされ、更新世由来の「古砂丘」に対し「新砂丘」と呼ばれている〔新潟砂丘グループ1979〕。砂丘列は10列3群(Ⅰ～Ⅲ)に分かれ、最も内陸の列(いわゆる亀田砂丘)は海岸線から約11km離れている。砂丘列は中央区烏屋野・江南区茅野山付近で途切れ、角田山塊で再び現れるが、この間の沖積面にも埋没した砂丘列が存在することがわかっている⁽²⁾。

市の西縁を海岸線に沿って連なる彦彦・角田山塊および南東部に位置する新津丘陵は、第三紀中新世(2,500万～500万年前)の火山活動を起源とし、海底噴出した溶岩が更新世前期(170万年前～70万年前)に隆起して形成された地形で、山麓に更新世起源の段丘を有している。段丘裾部は山地から流れ出る河川により侵食され、小規模な扇状地や谷底平野を形成する。豊かな自然環境を有するが、古くから木材の供給や製鉄・製陶場としての利用など、人間の積極的な介入を受け里山化が進んでおり、植生のかんりの部分に人為的な変化が見られる。

市域の大部分を占める沖積面は、完新世以後、海岸部を砂丘に仕切られた内海状の環境下において、河川の沖積作用により形成されたものである。地層は主に粘土やシルト、いわゆるガツボと呼ばれる未分解の植物遺体から成り、特に河川や湖沼跡の地盤は非常に軟弱である。平野中には、旧・現河道に沿って自然堤防が数多く分布しており、地形図や空中写真から、その痕跡を多く確認することができる。旧河道や潟湖は、近代以降も沼沢地として多く残っていたが、戦中から昭和30年代にかけての耕地整理による乾田化でほとんどが姿を消している。

B 両新地区の地形環境

細池寺道上遺跡の所在する秋葉区両新地区は、新津丘陵のやや北東2.5kmの沖積地に位置し、阿賀野川、能代川、小阿賀野川、早出川に囲まれている。周囲は農村地帯で、水田とそれを転用した麦畑が多くを占める。

表層地質は主に河川堆積物から成り、砂、シルト、粘土を主な土壌成分とする。地形は自然堤防と後背低地に分けられ、南東から北西に向かって緩やかに傾斜している。自然堤防の発達は良好で、標高は秋葉区六郷付近で海拔9.6m、後背低地は秋葉区寺新田付近で海拔8.5～9.0mとなり、両者間には最大で1m程度の標高差がある。

地形形成過程で影響を与えた河川は阿賀野川と早出川と思われるが、第1図のとおり、遺跡周辺における阿賀野川は東側に曲流し、阿賀野市側(右岸)を攻撃斜面としているため、遺跡周辺の阿賀野川による沖積作用は、右岸と比べ顕著でないと思われる。対して早出川は、秋葉区市新から金屋を通過して大安寺方面に抜ける旧河道状の低湿地が存在し、その両岸に自然堤防が分布している。これらの自然堤防は、標高は低いが、数多く分布しており、遺跡周辺の初期の地形形成は早出川の沖積作用に負うところが多いと思われる⁽³⁾。耕地整理前の地籍図では、多くが畑地として利用されて、水田は旧河道と思われる箇所のみとなっており(図版2)、新津丘陵の北・西の沖積地と比べ畑地の割合が圧倒的に多いのが特徴である。

第2節 歴史的環境 (第2図 第2表)

秋葉区内の遺跡数は平成24年12月31日現在、112か所を数える。この地域は平野の背後に新津丘陵をかかえ、豊かな自然環境と良好な居住性を有する地域であるため、平野部と比べて様々な時代の遺跡が存在する。

遺跡は、古い時代ほど丘陵部に多く、時代が下るにつれて丘陵縁辺から平野部に分布を広げていく。旧石器時代から古墳時代までの遺跡の多くは丘陵・段丘上に分布しているが、奈良・平安時代になると、水田耕作を背景とした平野部の開発が進み、自然堤防を中心に遺跡の増加が見られる一方で、製鉄遺跡や須恵器窯などの生産遺跡は燃料材の入手が容易な丘陵の麓に引き続き営まれる。中世以降、ほ場や灌漑施設の整備などを通して、中・長期的な居住がなされるようになり、近世初期には現集落の大部分が成立している。

以下に時代ごとに遺跡の分布とその時代背景を述べる。

旧石器時代

人々は丘陵・山地を主な生活の舞台とし、定期的な移動を繰り返しながら狩猟・採集で生計を立てていたと想定される。市内で確認されている旧石器時代の遺跡は3か所で、弥彦・角田山麓と新津丘陵にのみ分布しているが、資料は断片的である。

秋葉区内で確認されているのは草水町2丁目遺跡と古津八幡山遺跡の2か所で、前者は段丘上に、後者は丘陵の尾根に立地している。いずれも遺構は発見されず、ナイフ形石器と石刃がわずかに出土しているのみで、両遺跡における旧石器時代の様相は不明である。

縄文時代

西蒲区・秋葉区・江南区・北区など、丘陵周辺と砂丘のある地域に多く分布し、特に西蒲区・秋葉区に集中する。後期までは丘陵部に生活の基盤を置いていたようだが、晩期になると沖積地に進出する遺跡もあらわれる。

秋葉区では愛宕浮遺跡(草創期)、平遺跡(中・後期)、秋葉遺跡(中・後期)、原遺跡(中・晩期)など、縄文草創期から晩期までの遺跡が分布する。平野部の遺跡では大野中遺跡(中期)、大沢谷内遺跡(晩期中葉～終末)などがある。平野部の遺跡は主に微高地上に立地すると思われるが、大野中遺跡のように地表下2m程度で確認される例もあり、実際には相当数の縄文遺跡が沖積面下に埋没していると思われる。

弥生時代

市内では、緒立遺跡(西区)・西郷遺跡(江南区)など、内陸部に残る砂丘縁辺で最初期の生活痕が見られるが、秋葉区内で確認されている遺跡は弥生後期を主体とする。丘陵部では古津八幡山遺跡、埋葬地遺跡、居村C遺跡が主な遺跡として知られ、特に古津八幡山遺跡は環濠、堅穴建物、前方後方墳墓などを有する拠点集落で、東北系(天王山式)と北陸系両系統の土器が出土するなど、この時代の地域間交流を考えると注目される。平野部では丘陵西麓の微高地に立地する舟戸遺跡、丘陵東側の能代川自然堤防上に立地する五泉市寛下遺跡で若干の出土報告がなされているが、いずれもまとまった量ではない。社会は狩猟・採集を基盤とする経済から稲などの農業生産を主体とする経済に転換しつつあり、遺跡の分布もこうした背景を反映し、水田耕作に有利な平野寄りの立地傾向を示す。

古墳時代

前期に各地で造営される古墳と、終末期に信濃川・阿賀野川河口部に設置される浮足櫓がこの時代を特徴づける。大和王権の勢力は、4世紀後半に新潟平野に及んだとされ(石崎1993)、市内では角田山麓の山谷古墳(西蒲区:前方後方墳)と菖蒲塚古墳(西蒲区:前方後円墳)、砂丘上に立地する緒立八幡神社古墳(西区:円墳)、新津丘陵の古津八幡山古墳(秋葉区:円墳)がそれぞれ前期の造営とされている⁽⁴⁾。

647年には北方経営と対蝦夷政策の拠点として、大和政権により浮足櫓が設置される。その位置については諸説あるが、東区山下(小林2005)、北区内(金子2007)などが近年主流になりつつある。

古津八幡山古墳は新津丘陵東縁の尾根上に造られた直径約60mの円墳で、県内最大規模を誇る。また、同古墳の南約1.5kmの段丘上にも、三沢塚（円塚古墳）と呼ばれる直径19mほどの円形を呈する塚状の遺構が存在する〔新潟市2007〕が、詳細は不明である。

大規模な墳墓が尾根上にあらわれる一方で、水田耕作が主たる生業となった結果、日常生活の舞台は徐々に平野部に移ったと考えられる。秋葉区では高矢C遺跡・舟戸遺跡などの集落的性格を有する遺跡が丘陵麓部に分布するほか、中田遺跡、沖ノ羽遺跡、上浦B遺跡、結遺跡など平野部に立地する遺跡も増えてくる。

細池寺道上遺跡およびその周囲では古墳時代の遺跡は発見されていないが、3kmほど下流には先に挙げた沖ノ羽・中田・結等の遺跡が分布している。

古 代（奈良・平安時代）

9世紀成立の『和名類聚抄』には越後国蒲原郡に日置・勇礼・桜井・青海・小伏の郷名が記載されている。新津・五泉地域には日置郷が所在したとされる〔井上ほか2002〕が、決定的な証拠は見つかっていない。8世紀半ばに懸田永年私財法が制定されると、国衙や寺院・土豪などが農地開発に乗り出し、やがて初期荘園に発展していく。このような時代背景を反映してか、新潟平野全域で9世紀後半以降遺跡数が飛躍的に増加し始め、積極的な平野部への進出がなされたと考えられている。

新津丘陵周辺も状況は同じで、遺跡の分布は丘陵縁部から平野部の自然堤防が主体となってくる。これまでの遺跡の調査例から、平野部の遺跡は水田耕作を中核とし、畑作や、周辺の河川・湖沼での漁撈などを組み合わせた食料獲得活動を行っていたと思われる。遺構の数や土器の形態等から、多くの遺跡は1世代程度で廃絶したと考えられるが、上浦A遺跡や沖ノ羽遺跡のような、複数の時期にわたり存続したと思われる遺跡も散見される。

丘陵部は生産活動の場として利用されるようになり、製鉄・製陶に関連する遺跡が新津丘陵の縁部に営まれる。製鉄関連遺跡は丘陵の西側縁部に分布し、居村A～C遺跡・大入遺跡などから鉄の製錬炉および多数の木炭を検出している。また山崎窯跡、草水町二丁目窯跡、秋葉二丁目窯跡、七本松窯跡などの在地須臾器窯が8世紀後半から9世紀前半にかけて新津丘陵北東麓一帯で操業し、周辺の遺跡に須臾器を供給している。新津丘陵は、これら生産活動に伴う燃料や日常生活の新炭材の供給源の役割を果たしていたと思われ、この時期に丘陵の里山化が進んだと思われる。細池寺道上遺跡における調査ではこの時代の遺物量が最も多い。

中 世（鎌倉～安土・桃山時代）

平安中期ごろからそれまでの国・郡を単位とする支配体制が崩れ、荘園や国衙領による支配体制が成立する。新潟市周辺では弥彦荘・青海荘・菅名荘・金津保などの荘園・国衙領の存在が知られており、秋葉区は大部分が金津保に属していたとされる〔木村1989, 井上ほか2002〕。現在の地名が文献上で確認されるのもこの時期からで、12世紀には新津・金津など現集落に通じる姓を名乗る人物が記録にあらわれている。

集落遺跡の多くは平野部の自然堤防もしくは砂丘に立地する。古代遺跡と複相をなすことも多く、古代から本格化した平野部での生活が完全に定着したことを示すものであろう。秋葉区内では沖ノ羽遺跡、江内遺跡、内野遺跡などが集落跡と考えられている。

在地領主の勢力振興にともない城館や山城跡が出現するものもこの時期の特徴で、秋葉区内では新津城（山谷町）、大関館（大関）などが平野部の自然堤防上に、程島館（程島）、五本田館跡（矢代田）などが丘陵末端に立地している。山城とされる遺跡は金津城（秋葉区金津）、東島城（同東島）、西紙屋山城跡（同天ヶ沢新田）であるが、いずれも本格的な調査はなされておらず、実態は不明である。

細池寺道上遺跡では1992年の第5・6次調査で縦横に走る大規模な溝や、塚跡と思われる広範囲にわたる浅い掘り込みが確認されている〔小池ほか1994〕ほか、今回の調査でも平安時代に構築されたと思われる溝を引き続き使用している形跡が認められるなど、積極的に地形改変や長期的な施設の維持・管理がなされていたことが見て取れる。



第2圖 古代・中世遺跡分布図

第3表 相池寺道上遺跡周辺の中世遺跡一覧表

No.	市町村名	遺跡名	時代	No.	市町村名	遺跡名	時代	No.	市町村名	遺跡名	時代
1	新井市	北島遺跡	室町	63	新井市	北島遺跡	室町	135	五上市	相池城	室町
2	新井市	北島遺跡	室町	64	新井市	北島遺跡	室町	136	五上市	相池城	室町
3	新井市	北島遺跡	室町	65	新井市	北島遺跡	室町	137	五上市	相池城	室町
4	新井市	北島遺跡	室町	66	新井市	北島遺跡	室町	138	五上市	相池城	室町
5	新井市	北島遺跡	室町	67	新井市	北島遺跡	室町	139	五上市	相池城	室町
6	新井市	北島遺跡	室町	68	新井市	北島遺跡	室町	140	五上市	相池城	室町
7	新井市	北島遺跡	室町	69	新井市	北島遺跡	室町	141	五上市	相池城	室町
8	新井市	北島遺跡	室町	70	新井市	北島遺跡	室町	142	五上市	相池城	室町
9	新井市	北島遺跡	室町	71	新井市	北島遺跡	室町	143	五上市	相池城	室町
10	新井市	北島遺跡	室町	72	新井市	北島遺跡	室町	144	五上市	相池城	室町
11	新井市	北島遺跡	室町	73	新井市	北島遺跡	室町	145	五上市	相池城	室町
12	新井市	北島遺跡	室町	74	新井市	北島遺跡	室町	146	五上市	相池城	室町
13	新井市	北島遺跡	室町	75	新井市	北島遺跡	室町	147	五上市	相池城	室町
14	新井市	北島遺跡	室町	76	新井市	北島遺跡	室町	148	五上市	相池城	室町
15	新井市	北島遺跡	室町	77	新井市	北島遺跡	室町	149	五上市	相池城	室町
16	新井市	北島遺跡	室町	78	新井市	北島遺跡	室町	150	五上市	相池城	室町
17	新井市	北島遺跡	室町	79	新井市	北島遺跡	室町	151	五上市	相池城	室町
18	新井市	北島遺跡	室町	80	新井市	北島遺跡	室町	152	五上市	相池城	室町
19	新井市	北島遺跡	室町	81	新井市	北島遺跡	室町	153	五上市	相池城	室町
20	新井市	北島遺跡	室町	82	新井市	北島遺跡	室町	154	五上市	相池城	室町
21	新井市	北島遺跡	室町	83	新井市	北島遺跡	室町	155	五上市	相池城	室町
22	新井市	北島遺跡	室町	84	新井市	北島遺跡	室町	156	五上市	相池城	室町
23	新井市	北島遺跡	室町	85	新井市	北島遺跡	室町	157	五上市	相池城	室町
24	新井市	北島遺跡	室町	86	新井市	北島遺跡	室町	158	五上市	相池城	室町
25	新井市	北島遺跡	室町	87	新井市	北島遺跡	室町	159	五上市	相池城	室町
26	新井市	北島遺跡	室町	88	新井市	北島遺跡	室町	160	五上市	相池城	室町
27	新井市	北島遺跡	室町	89	新井市	北島遺跡	室町	161	五上市	相池城	室町
28	新井市	北島遺跡	室町	90	新井市	北島遺跡	室町	162	五上市	相池城	室町
29	新井市	北島遺跡	室町	91	新井市	北島遺跡	室町	163	五上市	相池城	室町
30	新井市	北島遺跡	室町	92	新井市	北島遺跡	室町	164	五上市	相池城	室町
31	新井市	北島遺跡	室町	93	新井市	北島遺跡	室町	165	五上市	相池城	室町
32	新井市	北島遺跡	室町	94	新井市	北島遺跡	室町	166	五上市	相池城	室町
33	新井市	北島遺跡	室町	95	新井市	北島遺跡	室町	167	五上市	相池城	室町
34	新井市	北島遺跡	室町	96	新井市	北島遺跡	室町	168	五上市	相池城	室町
35	新井市	北島遺跡	室町	97	新井市	北島遺跡	室町	169	五上市	相池城	室町
36	新井市	北島遺跡	室町	98	新井市	北島遺跡	室町	170	五上市	相池城	室町
37	新井市	北島遺跡	室町	99	新井市	北島遺跡	室町	171	五上市	相池城	室町
38	新井市	北島遺跡	室町	100	新井市	北島遺跡	室町	172	五上市	相池城	室町
39	新井市	北島遺跡	室町	101	新井市	北島遺跡	室町	173	五上市	相池城	室町
40	新井市	北島遺跡	室町	102	新井市	北島遺跡	室町	174	五上市	相池城	室町
41	新井市	北島遺跡	室町	103	新井市	北島遺跡	室町	175	五上市	相池城	室町
42	新井市	北島遺跡	室町	104	新井市	北島遺跡	室町	176	五上市	相池城	室町
43	新井市	北島遺跡	室町	105	新井市	北島遺跡	室町	177	五上市	相池城	室町
44	新井市	北島遺跡	室町	106	新井市	北島遺跡	室町	178	五上市	相池城	室町
45	新井市	北島遺跡	室町	107	新井市	北島遺跡	室町	179	五上市	相池城	室町
46	新井市	北島遺跡	室町	108	新井市	北島遺跡	室町	180	五上市	相池城	室町
47	新井市	北島遺跡	室町	109	新井市	北島遺跡	室町	181	五上市	相池城	室町
48	新井市	北島遺跡	室町	110	新井市	北島遺跡	室町	182	五上市	相池城	室町
49	新井市	北島遺跡	室町	111	新井市	北島遺跡	室町	183	五上市	相池城	室町
50	新井市	北島遺跡	室町	112	新井市	北島遺跡	室町	184	五上市	相池城	室町
51	新井市	北島遺跡	室町	113	新井市	北島遺跡	室町	185	五上市	相池城	室町
52	新井市	北島遺跡	室町	114	新井市	北島遺跡	室町	186	五上市	相池城	室町
53	新井市	北島遺跡	室町	115	新井市	北島遺跡	室町	187	五上市	相池城	室町
54	新井市	北島遺跡	室町	116	新井市	北島遺跡	室町	188	五上市	相池城	室町
55	新井市	北島遺跡	室町	117	新井市	北島遺跡	室町	189	五上市	相池城	室町
56	新井市	北島遺跡	室町	118	新井市	北島遺跡	室町	190	五上市	相池城	室町
57	新井市	北島遺跡	室町	119	新井市	北島遺跡	室町	191	五上市	相池城	室町
58	新井市	北島遺跡	室町	120	新井市	北島遺跡	室町	192	五上市	相池城	室町
59	新井市	北島遺跡	室町	121	新井市	北島遺跡	室町	193	五上市	相池城	室町
60	新井市	北島遺跡	室町	122	新井市	北島遺跡	室町	194	五上市	相池城	室町
61	新井市	北島遺跡	室町	123	新井市	北島遺跡	室町	195	五上市	相池城	室町
62	新井市	北島遺跡	室町	124	新井市	北島遺跡	室町	196	五上市	相池城	室町

近世

中世末から近世初期にかけて低湿地の開拓が本格化し、元禄年間(1688~1704年)成立とされる「新津組・小須戸組絵図」には大安寺・木津橋・金屋など現在の地名に通じる集落が記載されている。秋葉区は当初大半が新発田藩領で、それに幕府領・高田藩領・旗本領などが混在する状況であった。18世紀末以降、2度に渡る大きな領地替えがあり、新津市街が幕府領となるなど、領域に変動がある。

16世紀半ば以降、阿賀野川・早出川・能代川流域では、取水のため堰が設けられ治水・利水施設が整備され、水田ほかの整備が進み、近世末には現在と大差ない景観となっていたと思われる⁽⁵⁾。

市内には約50箇所の近世遺跡が存在するが、中央区の近世新潟町跡(17~19世紀)、秋葉区の江内遺跡(17世紀)などが発掘調査され、近世集落が、現市街地・集落と重複して存在することが判明している。また、災害や開発などで移転した集落も文献上で確認できることがあり、旧地形の復元や遺跡分布を考慮する上での資料となり得る。

- (1) 平成17年3月21日に周辺の12市町村と合併した新潟市は、同年9月に西蒲原郡香町との合併を経て、平成18年4月1日より区制を敷き、政令指定都市に移行した。この結果人口約81万、市域は南北約34.9km、東西約42.4km、面積約726.1km²と、越後平野の3分の1強を占めるの城市を有するに至った。
- (2) 緒立遺跡(渡邊すみみ1994)・の場遺跡(小形邦明^註1993)・四十石遺跡(渡邊すみみ^註2012)の調査により、新砂丘I・IIが沖積地下に埋没していることが部分的に明らかと証明されている。
- (3) 両新地区の農業用水が早出川水系から供給されているのは、その名残といえようか。
- (4) 古津八幡山古墳については、確認調査の結果、前期末~中期前頭との見解も示されている。
- (5) 明治44年陸地測量部測図1/25,000地形図より

第三章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査(第3図 第4表 図版4)

両新地区ほ場整備に伴う事前の試掘・確認調査は、平成13年～18年度にかけて実施し、計3,643.9m²を調査した(第4表)。ほ場整備範囲全体を対象とし、周辺の西江浦・下久保・道上遺跡の範囲も含め約640箇所を掘削している。掘削方法は任意に設定した箇所を重機で坪掘りし、遺構・遺物の有無の確認後、層位を記録し、その場で埋戻した。地盤が軟弱であることと、引き続き水田として耕作する箇所が多いため、埋戻しに際しては事業者側の指示にしたがい適宜川砂を用いた。

工区全体の試掘箇所については図版4に、今次調査地周辺の状況については主な土層柱状を含めて第3図に示した。遺物包含層相当層であるⅢ層と遺構確認面のⅣ層が多く試掘坑で確認されており、両層が周辺地域に広く分布していることがわかる。

第4表 両新地区ほ場整備年度別試掘・確認調査面積

年度	面積
平成13年度	1147.0㎡
平成14年度	1787.4㎡
平成15年度	491.0㎡
平成16年度	40.0㎡
平成17年度	154.5㎡
平成18年度	24.0㎡
合計	3643.9㎡

第2節 本発掘調査

試掘・確認調査によって明らかになった遺跡の範囲及び深度と工事計画を突き合わせ、平成19年度工区のうち、十分な保護層を確保できない水路・給水ユニット部分と、遺構確認面までが浅く保護層が確保できない田面8952.7m²について本発掘調査対象地とした(第3図)。

A 調査方法

1) 現況(写真図版2)

現況は水田および転作の麦畑が多くを占める。路線部の3区は砂利敷の農道、4区はアスファルト舗装の道路である。掘削前の地表面標高は9m前後、地形は全体的に東から北西方向に緩く傾斜している。

2) グリッドの設定(図版5・6)

世界測地系に基づき設定し、打設は測量業者による。基準点はX座標200400.000、Y座標56900.000に設定した大大グリッド1A1A杭(北緯37度48分15秒14414、東経139度08分42秒21710)を基点に10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。

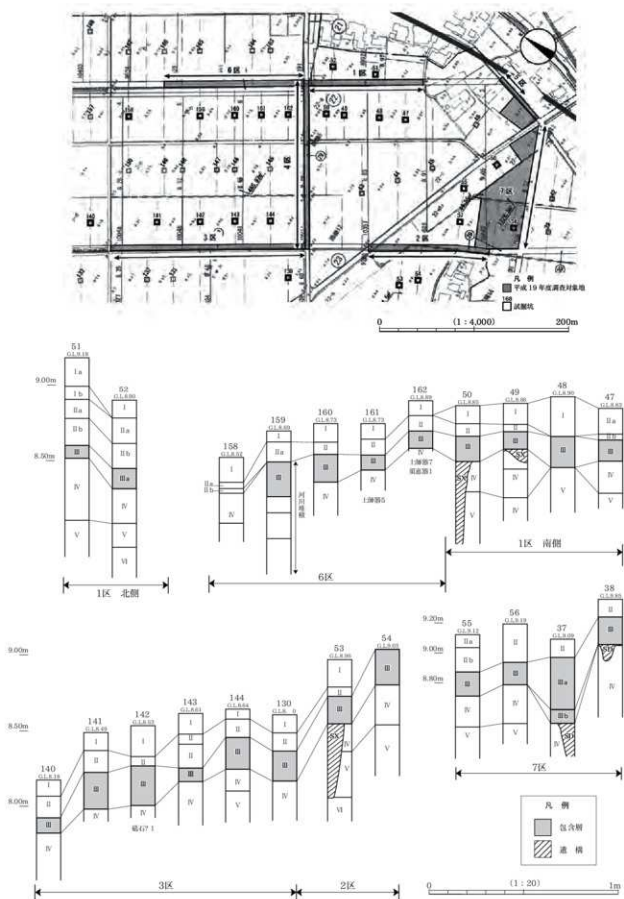
大グリッドの名称は基準杭から南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットとし、この組み合わせにより表示した。大グリッドはさらに2m方眼の小グリッドに25分割され、大大、大、小の組み合わせで運用される(例7P-1J16)。

3) 調査方法

以下の段階を経た。

①調査区の設定 調査区は大きく路線部(1～6区)と水田部(7区)に分かれるが、調査は並行して行った。境界杭は既設のものを使用し、トランシットで掘削範囲を設定した。

②表土除去 法面パケット装備の0.40m²級重機を使用した。表土中で一定量の遺物が出土しているが、7区は地表面から遺構確認面(以後確認面という)までの深度が浅く、包含層もかなりの擾乱を受けていることが判明したため、遺物の出土に注意しつつ、機械掘削により確認面を露出させた。1～6区については、地表から確



第3図 調査区周辺の確認調査状況

認めまで深度があり、包含層の残存も良好であったが、遺物がきわめて希薄なため、水田部と同様に機力により確認面を露出させた。

手順としては最初に重機で遺構確認面を露出させた後、その面を追って表土を除去する。発生した排土は事業者側と事前に協議した場所に排出した。なお調査区の外壁には、崩落等の危険を考慮し、10～20%の勾配をつけている。また、表土除去と並行して調査区内縁に沿って土側溝を設け、要所に水中ポンプを設置して雨水・湧水等の排水系を構築した⁽¹⁾。

③ 遺構確認・掘削 遺構の検出は、人力によった。検出された遺構はプラン確認後、種別・番号を付し、部分的に掘削して覆土の断面を記録後、完掘している。なお、遺構検出作業と平行して、遺構の量と分布を把握するため1/200スケールで略測図を作成した。

④ 遺構実測 平面図および地形測量を測量業者に委託した。通常は断面と完掘後の平面を図化するが、状況によって出土遺物の詳細やエレベーションを記録したものもある。なお、ピットは柱穴を除いて断面図を作成していない。

⑤ 写真撮影 主に35mmおよび6×7版のフィルムカメラ並びにデジタルカメラで撮影した。撮影対象は調査着手前、基本層序、遺構の断面および完掘状態を基本とし、必要に応じて作業風景、周辺地形など、調査資料として必要と思われるものを撮影した⁽²⁾。止むを得ない場合を除いて、完掘写真と断面写真の撮影方向は同一である。調査区全体の完掘写真は路線部(1～6区)は西側からの俯瞰撮影としたが、7区(水田部)のみ空中写真を撮影した。

⑥ 遺物の取上げ 遺構・包含層とも小グリッド単位で取上げている。取上げ時にグリッド・遺構名・層位(もしくは出土した深さ)・日付等を記入した。なお、一括出土など特殊な出土状況の遺物においては、1点ごとに番号を付し、トータルステーションで出土位置を押さえた上で取上げた。

⑦ 分析用サンプル採取 井戸の土壌サンプリングを実施した。下層の覆土を採り置いて洗浄し、木製品や食物残渣の有無を調べた。

B 調査経過(第5表)

平成19年6月11日から準備工を開始し、プレハブ、機材等を設置・搬入する。測量関係では基準点の設置も行った。同18日に1・7区とも重機・作業員を投入し、表土除去を開始。並行して法面仕上げと土側溝の掘削を行い、要所に水中ポンプを設置して排水を始めた。7区は面積が広く、9月まで断続的に表土除去を行った。路線部は各区の調査完了を待って引き渡す計画であるため、7区と並行して調査に入り、1区より順に仕上げていくことになった。各区の調査期間は第5表記載のとおりである。

路線部は11月30日の6区の終了をもって調査を完了し、残った7区も12月6日までに掘削を終了、空中写真撮影を経て同日より撤収作業を開始し、並行して遺構の崩り残しと測量もれをチェックした。諸事確認を終え、同11日に事業者側に全調査区を引き渡し、撤収を完了した。

C 工事立会

調査区周辺で実施されたほ場整備関連の工事にともない実施した工事立会である。

1) 1区隣接地(平成19年11月29・30日)

用水管の本管設置工事にともなう工事立会である。1区の遺物包含層から続く黒色土層が確認されたが、遺構・遺物は発見されなかった。

2) 4区隣接地(平成19年11月29・30日)

用水管の本管設置工事にともなう工事立会である。4区から延びる溝の一部が確認されたが、幅が狭小なため、断面写真を撮影するにとどめた。遺物は出土していない。

3) 8 区 (平成19年10月16～19日)

4区の調査中、隣接地において実施していたほ場整備にともなう仮設搬路の設置工事で、表土を除去しているのが確認されたため、現地では遺構の有無を精査したところ、溝や土坑のプランが確認された。至急歴史文化課と事業者で協議し、それ以上の掘削を行わないものとし、仮設搬路設の撤去後、埋め戻すことで擬似的な保護層を確保できることから、遺物を回収し遺構のプランを押さえるにとどめ、掘削調査は行わないこととした。検出遺構および出土遺物については図7および第6章に掲載した。

D 調査体制

発掘調査体制は、以下のとおりである。

平成19年度(2007年)

調査主体	新潟市教育委員会(教育長 佐藤満男)
調査担当	新潟市埋蔵文化財センター 主査 誠山えりか
所管課	新潟市歴史文化課(課長 倉地一則)
事務局	新潟市埋蔵文化財センター(所長 山田光行)
調査員	新潟市埋蔵文化財センター 学芸員 潮田恵幸 同 専門臨時職員 高野裕子 同 専門臨時職員 八藤後智人

第5表 発掘作業工程

	6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
1K		表土除去	遺構調査																		
2K			表土除去	遺構調査																	
3K				表土除去	遺構調査																
4K									表土除去	遺構調査											
5K																表土除去	遺構調査				
6K																表土除去	遺構調査				
7K																					
8K																					

第3節 整理作業

整理・報告に関する諸作業は、埋蔵文化財整理・報告書作成基準(新潟市埋蔵文化財センター2007)に従った。

A 整理方法

1) 遺構

遺構の整理については、以下の手順を踏んでいる。

- ① 図面合せ 手取り断面図と測量平面図の校正作業である。当市では断面図をもとに平面図を修正している。
- ② 掲載遺構の抽出および仮版下作成 報告書に掲載する遺構の平・断面図を抽出・レイアウトし、仮版下を作成する。
- ③ デジタル編集 仮版下をもとにデジタル編集した。

以上の作業のうち、①・②の図面合せについては整理補助員が、それをもとにした平面図の修正は測量業者が行った。③については業者に委託した。

2) 遺物

遺物整理は以下の手順をえている。

① 洗浄 2度の洗浄（予洗い、本洗い）を行った。

② 注記 遺跡名は「07 ホソイケ」とし、調査区名（1～8区）、グリッド、遺構名、出土層位等を注記した。

例：07 ホソイケ7区 8J-IC22 SE11 6層

③ 器種分類 遺物の器種分類を行った。器種・器形・材質等をもとにしているが、詳細はV章で述べる。

④ 包含層出土遺物の重量計測 包含層出土遺物について、小グリッド別の重量を計測した。

⑤ 遺構出土遺物の器種別重量・固体数計測 ③で実施した分類別に、重量を計測した。個体数計測方法は口縁部残存率計測法（宇野1992）を用いた。

⑥ 接合 遺構内部、遺構間、遺構・包含層間での接合関係を試みた。

⑦ 報告書掲載遺物の抽出 残存率の良いもの、時期決定の指標となるもの、希少なものを基準に抽出した。

⑧ 実測図・観察表の作成 実測図は、主に調査補助員が作成し、調査担当が確認・修正した。実測図記載の観察項目に基づいて遺物観察表を作成した。

⑨ トレース 遺物実測図をデジタルトレースした。

⑩ 版下作成 仮図版をもとにデジタル編集にて作成した。

以上の作業のうち、⑤までは整理補助員が主に作成し、⑨および⑩については業者に委託した。

B 整理経過

報告書刊行までの流れを、以下に記述する。

平成19年度 遺物の洗浄は現地調査中に終了し、現地撤収後に図面校正・各種データの整理および注記作業並びに遺物の分類・集計作業を行った。

平成20年度 1～6区の遺構観察表および写真図版（仮）を作成。遺物については接合・復元・実測・デジタルトレース（一部）を行う。

平成21年度 遺物の追加抽出と実測、7区遺構観察表の作成。

平成22年度 遺物の追加実測。7区遺構仮図版、遺物仮図版、遺構・遺物観察表等の作成。

平成23年度 22年度までのデータを整理し、遺構表等の作成もれを補遺。加えて7区遺構の事実記載の執筆開始。一部の図版のデジタル版下を作成した。

平成24年度 原稿の執筆・掲載遺物の写真撮影を経てデジタル編集を行った。

第6表 整理作業工程

	4月		5月		12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
平成19年度							遺物洗浄・注記・図面校正・各種データ整理									
平成20年度	図面校正・各種データ整理						遺構・写真データ等整理・遺物基礎整理・遺物実測・デジタルトレース委託									
平成21年度							遺物実測									
平成22年度							遺構・遺物データ整理・遺物実測・版下作成									
平成23年度							各種データ整理・原稿執筆									
平成24年度							原稿・追加実測遺物トレース・デジタル編集									
平成25年度							刊行									

平成25年度 印刷・刊行。

C 整理体制

【平成19年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 佐藤満男）		
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則	課長補佐 山田一雄	埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）		
整理担当	新潟市埋蔵文化財センター 主査 諫山えりか		
調査員	新潟市埋蔵文化財センター	学芸員 潮田憲幸	
	同	専門臨時職員 高野裕子	
	同	専門臨時職員 八藤後智人	

【平成20年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 佐藤満男）		
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則	課長補佐 山田一雄	埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）		
整理担当	新潟市埋蔵文化財センター 主査 諫山えりか		
調査員	新潟市埋蔵文化財センター 副主査 潮田憲幸		
整理補助	市臨時職員		

【平成21年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）		
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則	課長補佐 額所洋一	埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）		
整理担当	新潟市埋蔵文化財センター 副主査 潮田憲幸		
整理補助	市臨時職員		

【平成22年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）		
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則	課長補佐 額所洋一	埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）		
整理担当	新潟市埋蔵文化財センター 副主査 潮田憲幸		
整理補助	市臨時職員		

【平成23年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）		
所管課	新潟市文化財センター（所長 高橋 保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）		
整理担当	新潟市文化財センター 副主査 潮田憲幸		
整理補助	市臨時職員		

【平成24年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課	新潟市文化財センター（所長 高橋 保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
整理担当	新潟市文化財センター 主査 潮田憲幸



発掘作業風景



整理作業風景

(1) 土留溝の掘削による遺構の一部破壊等が発生する可能性があるが、調査地が低湿地帯にあり、湛水により調査不能になることを防ぐ処置として行っている。

(2) 基本的に土坑以上の遺構はフィルム・デジタルカメラ併用としたが、ピットと自然地形はデジタルカメラのみとした。

第IV章 基本層序と遺構

第1節 概要

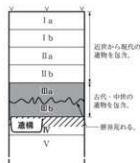
遺構の大部分は基本層序IV層上面で確認した。確認面までの深さは路線部(1～6区)が地表からおおむね40～100cm程度、水田部(7区)が30～40cm程度で、路線部が若干深くなる。

遺構は両者合計で1,258基発見されており(第7表)、溝とピットが主体である。遺構の主・長軸から大きく3グループに分けられるが、それぞれ切り合い関係が存在する上、遺物の出土傾向にも差異がある。出土する遺物は平安時代では須恵器、土師器などの土器が多く、中世の遺構からは珠洲焼や青磁が出土している。

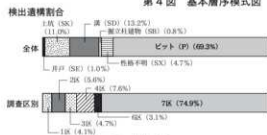
第7表 遺構検出状況

調査区	調査面積 (㎡)	遺構検出状況							合計
		竪立柱建物 (SB)	溝 (SD)	月井 (SE)	土坑 (SK)	性格不明 (SX)	ピット (P)		
1区	292.1		5条	1基	10基	4基	31基	51基	
2区	384.8		10条	2基	14基		44基	70基	
3区	723.9		14条		10基	3基	32基	59基	
4区	534.2		24条	5基	11基	4基	52基	96基	
5区	130.9						0基		
6区	425.2		20条		9基	4基	6基	39基	
7区	6,461.6	10棟	93条	5基	85基	43基	707基	943基	
合計	8,952.7	10棟	166条	13基	139基	59基	871基	1,258基	

※柱穴内(SA)を含む。



第4図 基本層序模式図



第5図 遺構割合

第2節 基本層序(第4図 図版8・10・14・17・22・24 写真図版4・5)

基本層序は全調査区共通である。土壌はシルトを主な成分とする水成堆積土(II層およびIV層以下)と、植生等が腐食した有機質の黒色土(III層)、客土(I層)からなる。III層が古代・中世の遺物包含層、IV層上面が古代・中世の遺構確認面である。表層部分は後世の客土や耕作による攪乱・変質がなされ、2・5・7区においてはIV層まで及ぶ。1・3・4・6区は包含層まで深度があり、人為攪乱の影響は少ない。全体として、洪水砂の貫入やラミナ状の堆積は目立たず、有機質に富んだ腐食層であるIII層が形成されていることから、冠水頻度の少ない安定した環境にあったことが窺える。

基本層序の決定は、主として目視による色調と土質および混入物の観察にもとづいている。普遍的に見られ、層質や色調でまとまりを見せる層をローマ数字で表記し、その中でさらに細分しえる土壌、スポット的にあらわれる土壌を小文字のアルファベットで表記した。層名は、この二者の組み合わせで表記し、8層に分類される。

層序および層名の決定にあたっては、細池遺跡・寺道上遺跡〔小池ほか1994〕、細池遺跡〔立木ほか1998〕、寺道上遺跡〔渡邊ほか2001〕との整合性を考慮してある(ローマ数字部分が共通)。

I 層 地表面の耕作土を一括した。由来となる土壌により層質・色調に若干ばらつきがあるが、耕作により攪乱が激しいことが多い。客土であると思われる。色調はおおむね灰黄褐色～暗褐色。

I a 層 灰黄褐色～暗褐色粘質シルト。耕作により攪乱されている層。粘性有り、しまりはやや弱い。

I b 層 暗黄褐色～暗褐色粘質シルト。I a 層と比べ、砂味が強い。

両者の分類が不可能な場合は、単にⅠ層と記述している。

Ⅱ層 灰褐色～淡青灰色を呈する粘質のシルト土壌。水田の床土と思われ、還元作用を受け灰色～青灰色となることが多い。Ⅲ層との層界が荒れることがある。近～現代の遺物を包含する。

Ⅱa層 灰褐色粘質シルト。粘性強、しまり強。細砂と粘土をブロック状に含む。耕作等により変質したⅡb層で、Ⅱb層との境界部が荒れることがある。近世～現代の遺物を包含する。

Ⅱb層 淡青灰色～青灰色粘質シルト。粘性強、しまり強。Ⅱa層土とⅢ層土をブロック状に含む。粘性強、しまり強。ラミナ状を呈することがある。7区では削平・攪乱を多分に受けている。

両者の分類が不可能な場合は、単にⅡ層と記述している。

Ⅲ層 有機質に富んだ黒色～暗褐色を呈する粘質シルト。有機分は主に植生に由来すると思われる。1・3区では植物が未分解の状態（いわゆるガッポ）で残存することが多いが、2・5・7区では完全に分解され、土壌化している。調査区全体を通して観察され、中世・古代の遺物を包含するが、削平・攪乱も多い。

Ⅲa層 黒色～暗褐色腐食シルトで、Ⅲb層より腐食が強い。粘性・しまりがあり、鉄分（パイプ状）、炭化物等が混入するが、おおむね均質。1区では未分解の植物遺体（ガッポ）を多く含む、灰褐色を呈する。古代・中世の遺物を包含する。中世の遺構は本層中から掘り込みが確認されることがある。

Ⅲb層 黒色～暗褐色腐食シルト。粘性あり。しまりやや有り。パイプ状の水酸化鉄と炭化物の混入が見られる。Ⅳ層土をブロック状に含む。上・下層界が荒れる場合が多く、植生もしくは耕作による攪乱の可能性がある。古代・中世の遺物を包含する。古代の遺構は本層中から掘り込まれる可能性がある。

両者の分類が不可能な場合は、単にⅢ層と記述している。

Ⅳ層 酸化して黄褐色～白褐色を呈する粘質シルト土壌。マンガン粒の帯状分布および鉄分（パイプ状）の沈着が見られる。安定した層で、調査区全体に普遍的に見ることができる。古代・中世および近世以降の遺構確認面である。粘性・しまりをやや有する。上部は耕作と植生により攪乱され、荒れることがある。本層以下での遺構・遺物の出土は見られない。

Ⅴ層 やや還元したシルトと細砂の互層で、下部で湧水を見る。水酸化鉄の斑状分布やマンガン粒の沈着が見られる。地山であり、遺構・遺物の検出はないが、井戸や溝・ピットは本層中まで掘り込まれる。

第3節 遺 構

遺構は1,258基検出された(第7表)。調査面積の関係もあるが、7区が圧倒的に多い。遺構の種類ではピット(P)が全体の7割を占め、溝、土坑と続く(第5図)。

以下、調査区別に主な遺構を記述する。遺構種類の略標記および記述の順番は〔奈良文化財研究所2010〕を参考とした。記述内容は巻末の遺構計測表にもとづき、所在する調査区、遺構名、所在グリッド、確認面、切合い関係、軸方位、規模(長さ・幅・深度)、平・断面の形状、覆土の状況、遺物の有無等である。なお、5区(10S-10I)は遺構が検出されなかったため、記述はない。

A 1 区(図版8・9 写真図版6～8)

長さ約121m、上端で面積292.1m²を測る。北西部をのぞき大部分が低湿地帯にあり、中・小河川跡と思われる部分が3箇所確認できる。上部は盛土や耕作で攪乱されているが、遺構確認面までの深さがあるため、遺構の残存は良好である。遺構確認面までの深さは南東端で地表下約1.5～2m、中部で1m前後、北西端で30～50cmとなり、南東から北西に向かって徐々に標高を増す。

遺構は溝とピットを主体とし、井戸(SE)1基、溝状遺構(SD)5条、土坑(SK)10基、ピット(P)31基、性格不明遺構(SX)4基の合計51基を検出した。遺構は前述した河川間に多く分布する。遺物はきわめて少なく、古

代と中世の土器・陶磁器が破片状態で出土しているに過ぎない。

a) 溝状遺構 (SD)

SD3 (図版8・9 写真図版7) 9S-9B9 および 14 に位置する。検出面はIV層上部である。SK2 に切られる。上端で幅 36cm を測り、確認面からの深さは 9cm である。長軸は N-55°-E を向く。断面は血形である。覆土は腐食質のシルトからなり、2層に分層できる。遺物は出土していない。

SD11 (図版8・9 写真図版6) 9S-7A12・13・18 および 19 に位置する。検出面はIV層上面であるが、プランが不明瞭であったため、遺構精査の際に上部を 3cm ほど削平している。長軸主軸線は N-69°-E を向く。途中から西に向かって分岐する。主線上端の最大幅は 78cm を測る。深さは 16cm である。断面は血形を呈する。覆土はやや暗褐色を呈する砂質のシルトからなり、主線部で 2層、支線部では 1層に分層できる。遺物は出土していない。

SD14 (図版8・9 写真図版6) 9S-6A21・9S-7A1 に位置する。検出面はIIIb層上部である。上端で幅 54cm、深さは 37cm である。主軸は N-59°-E を向く。断面は半円形で、覆土は 4層に分かれる。遺物の出土はない。

SD33 (図版8・9 写真図版6) 9R-4I18・19・23・24、9R-5I4 に位置し、河2を切っている。検出面はIV層上面である。河2の傾斜に沿って構築され、主軸は北東 (N-82°-E) へ向かっているが、河2に交わると南北方向 (N-14°-E) に流れを変える。幅は上端で 173cm、深さは 30cm である。断面は血形を呈する。覆土は 5層に分かれる。遺物の出土はない。

SD46 (図版8・9 写真図版7) 9R-3H13・14 に位置し、IIIb層上部で検出した。主軸は N-58°-E を向き、河2と平行に構築されている。断面は血形を呈する。上端で幅 82cm、深さ 17cm を測る。覆土は 3層に分かれる。遺物の出土はない。

b) 井戸 (SE)

SE51 (図版9 写真図版7) 9R-6J9・14・15・20 に位置し、IV層上面で検出され、SK68を切っている。大部分が調査区外にあるが、調査しえた部分から推定すると径 220cm 程度の円形をなすと思われる。覆土は 6層に分層され、深さは 46cm である。断面はやや深めの血形を呈する。覆土は 6層に分かれる。地山ブロックの少ないレンズ状堆積であり、時間をかけて埋没した可能性が高い。底部付近で湧水する。遺物は出土していない。

c) 土坑 (SK)

SK2 (図版9 写真図版7) 9S-9B9 および 14 に位置する。IV層上部で検出し、SD3を切っている。上端で長さ 32cm × 幅 18cm、深さは 3cm を測り、長軸は N-36°-W を向く。平面形は楕円形、断面は血形である。覆土は単層で、V層を基調とした細砂の中に SD3 由来の腐食質シルトをブロック状に含んでいる。遺物は出土していない。

SK20 (図版9 写真図版8) 9R-6J8 および 9 に位置し、SK55に隣接する。検出面はIV層上面である。上端で長さ 65cm × 幅 57cm、深さ 14cm を測り、円形をなす。長軸は N-21°-E を向く。断面は血形で覆土は 3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK22 (図版9 写真図版8) 9R-5J22 に位置する。検出面はIV層上部である。上端で長さ 50cm × 幅 32cm、深さ 12cm を測る。遺構の長軸は N-25°-E を向く。平面形は楕円形、断面は血形を呈す。覆土は 2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK54 (図版9 写真図版8) 9R-6J20 に位置する。検出面はIV層上部である。上端で長さ 50cm × 28cm を測り、長軸は N-21°-W を向く。平面形は不整形、断面は血形を呈し、深さは 14cm で、覆土は 2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK55 (図版9 写真図版8) 9R-6J8 に位置し、SK20と隣接する。検出面はIV層上面である。上端で長さ推定 80cm × 幅推定 62cm を測る。遺構の長軸は N-49°-W を向く。平面形は方形、断面は血形で、深さは 17cm、覆土は 3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK68 (図版9 写真図版7) 9R-6J14・15に位置し、SE51に切られる。検出面はIV層上面である。上端で長さ85cm×幅推定70cmを測る。長軸は恐らくN-68°-Wであろう。平面形は方形、断面は皿形を呈し、深さは14cm、覆土は2層に分層できる。遺物は出土していない。

d) 性格不明遺構 (SX)

SX7 (図版9 写真図版8) 9S-8B17に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ163cm×32cm、深さ4cmを測り、長軸はN-33°-Wを向く。平面形は不整形、断面は皿形である。覆土は単層で、V層を基調とした細砂の中に腐食質シルトをブロック状に含む。遺物は出土していない。

SX15 (図版9 写真図版8) 9R-6J20、9S-6A16・21に位置する。検出面はIV層上面である。調査区の際で検出されているため、全体の形状は不明であるが、検出部分では上端で長さ199cm×幅18cm、深さ18cmと規模が大きい。遺構の長軸はN-34°-Wを向く。断面は皿形である。覆土は単層としたが、大部分が調査区外に広がっているため、一部の観察にとどまっていることを明記しておく。土質は隣接するSE51と類似する。遺物の出土は見られない。

e) 河 跡

河2 (図版8) 9R-4I24、9R-5I4・5・9・10・15、9R-5J6に位置する。流路の幅は上端で約340cm、確認面からの深さ約70cmの自然河川である。底面の傾斜から調査区付近では北から南へ向かって流下していたようである。右岸には傾斜を利用して溝 (SD33) が掘られるなど、河川を利用したと思われる痕跡が認められる。下部にわずかに細砂・シルトの互層を見るが、堆積土の大部分は未分解の植物遺体 (ガッポ) を多く含む泥炭質のシルトである。河川の規模が小さいため、埋積が早く進んだと思われる。最下部で平安時代の土師器が出土しており、この時代には河川として機能していたと思われる。

B 2 区 (図版10～12 写真図版9～12)

長さ約104m、面積は上端で384.8m²を測る。調査区の東端部は7区と隣接する。地形は南東から北西にかけて緩やかに傾斜し、遺構は標高の高い南東部に集中する。現地表面から遺構確認面までは概ね40～60cmあるが、確認面までの深さが浅い南東部では、耕作等により攪乱されることがある。

遺構は井戸 (SE) 2基、溝状遺構 (SD) 10条、土坑 (SK) 14基、ピット (P) 44基の合計70基を検出した。遺物は古代の土器を中心に出土している。

a) 溝 状 遺 構 (SD)

SD9 (図版10・11 写真図版9) 11R-7C3・7・8・12に位置する。III層上面で検出されるが、掘込みは2層中からなされるようである。幅は上端で推定70cm、深さ推定66cm 主軸方位はN-19°Eである。上部は攪乱されている。断面は階段形を呈し、覆土は5層に分かれる。5層から珠洲系陶器の鉢、近世陶磁器および曲物の底部および籬、が出土している。

SD15 (図版10・11 写真図版9) 11R-6B4・8・9・14に位置する。検出面はIV層上面である。幅は上端で推定88cm、主軸はN-27°-Wを向く。断面は半円形～U字形、44cmの深さがある。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SD17 (図版10・11 写真図版9) 11R-6B4・9・14に位置する。検出面はIV層上面である。幅は上端で48cm、主軸はN-8°-Wを向くが、北端で西へ屈曲する。断面は台形で、深さは34cmを測る。覆土は4層に分かれる。1層から籬が出土している。

SD23 (図版10・11 写真図版10) 11R-5B12・13に位置する。検出面はIV層上面である。幅は上端で約61cm、主軸はN-85°-Eを向く。断面は階段形で、深さは24cmを測る。テラス部を有し、底部は一段深くなる。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。SD24と平行する。

SD24 (図版10・11 写真図版10) 11R-5B11～13に位置する。IV層上面で検出した。幅は上端で約53cm、

軸はN-87°-Eである。断面は血形、深さは10cmである。覆土は2層に分かれ、1層から砥石が出土している。遺構の配置・層位からSD23と同時期と思われる。

SD34 (図版10・11 写真図版10) 11R-4A20・25, 11R-4B16・21, 11R-5A5, 11R-5B1・6に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-3°-Eを向く。断面は半円形を呈し、上端で幅推定70cm、深さ33cmを測る。覆土は5層に分かれる。砥石が5層から出土している。

SD55 (図版10・11 写真図版10) 11Q-2J24, 11Q-3J4に位置し、IV層上面で検出した。SD56を切る。幅は上端で推定30cm、主軸はN-3°-Eを向き、SD56と交差する。断面は血形、深さは5cmである。覆土は単層で、掘り込みは浅い(5cm)。遺物は出土していない。

SD56 (図版10・11 写真図版10) 11Q-2J24に位置し、SD55に切られる。検出面はIV層上面である。幅は上端で推定20cm、主軸はN-79°-Wを向く。断面は血形を呈する。覆土は単層で、掘り込みは浅い(4cm)。遺物は出土していない。

SD63 (図版10・11・12 写真図版10) 11Q-2J12・13・17～20に位置し、SE97を切る。検出面はIV層上面である。上端で幅156cm、確認面からの深さ73cmを測る。主軸方向はN-84°-Wである。断面は半円形を呈す。覆土は6層に分かれ、2層で砥石が出土している。

SD89 (図版10・11 写真図版9・11) 10Q-8G13～15・19・20・25, 10Q-9G5に位置し、IV層上面で検出した。部分検出であるため、遺構の正確な形状は不明である。2本の溝から構成される。軸はそれぞれ東西N-59°-W、南北N-4°-Wを向く。確認面からの深さは36cmを測る。断面は血形～階段形である。覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

b) 井戸(SE)

SE25 (図版12 写真図版11) 11R-5B3・4・8・9に位置する。検出面はIV層上面である。遺構の規模は推定径が約280cm、確認面からの深さは110cmで、底部付近で激しく湧水する。断面は不整な台形、平面は楕円形を呈し、覆土は15層に分かれる。ラミナ状に堆積する12層以下は自然状態での埋積によると思われるが、9層以上ではIV層がブロック状に混入しており、短時間で埋め戻しを行ったとみられる。底部に平面が方形の掘り込みが確認されており、水溜の設置が推定される。1層で砥石、10層で釘が出土している。

SE97 (図版12 写真図版11) 11Q-2J17・18・23に位置する。検出面はIV層上面である。SD63に切られる。調査部分から推定すると平面形は上端で直径200cmを測る円形と思われる。断面は階段状で、確認面からの深さは83cmである。長軸方向はN-35°-Wを向く。覆土は5層に分かれる。3層からⅢb・IV層質のブロック状混入が見られ、短時間で埋め戻された状況にあったことが解る。底部は円形に一段低くなっており、曲物等の井戸枠の存在が推定される。遺物は出土していない。

c) 土坑(SK)

SK10 (図版12 写真図版12) 11R-6B20・25, 11R-6C21に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ60cm×幅41cm、深さ10cmを測り、N-60°-W方向に長軸がある。平面形は不整形、断面は台形を呈す。覆土は2層に分かれる。遺物の出土はない。

SK16 (図版12 写真図版12) 11R-6B15に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ63cm×44cm、深さ13cmを測り、長軸方向はN-55°-Eである。平面形は楕円形、断面は血形を呈す。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK37 (図版12 写真図版12) 11R-4A8・9に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ86cm×61cm、深さ35cmを測り、長軸はN-2°-Eである。平面形は不整形、断面は血形～半円形を呈する。覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

SK61 (図版12) 11Q-2J18・23に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ34cm×幅33cm、深さ30cmを測り、長軸方向はN-60°-Eである。平面形は円形で断面形は台形を呈す。覆土は3層に分かれる。遺

物は出土していない。

SK67 (図版12 写真図版11) 11Q-2J14に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ58cm×幅45cmを測る。遺構の長軸はN-61°-Eを向く。平面形は楕円形、断面は箱形を呈し、確認面からの深さは12cmである。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK96 (図版12 写真図版12) 11Q-2J14・15・20に位置し、SD63に隣接する。検出面はIV層上面である。部分的な調査にとどまるため全体の形状は不明であるが、長軸はN-33°-Wを向くようである。断面は階段形で、覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

C 3 区 (図版13～16 写真図版13～17)

長さ約190mで、面積は上端で723.9m²である。調査前は砂利敷の農道となっており、路盤材が充填されていたが、水田面に直接盛土されていたため、包含層(Ⅲ層)以下の遺存状況は良好である。確認面までの深さは現地表から50～100cmと幅がある。若干の微高地はあるものの、地形は全般に低湿で、Ⅲ層中には未分解の植物遺体が多く混入し、IV層以下は還元が進み、青白色を呈することが多い。

遺構は溝とピットを中心に59基検出しており、内訳は溝状遺構(SD)14条、土坑(SK)10基、ピット(P)32基、性格不明遺構(SX)3基である。遺物は古代・中世の土器および埴輪・礫が出土しているが、量は少ない。

a) 溝状遺構(SD)

SD4 (図版14・15 写真図版13) 9Q-10B23～25、10Q-1B3～5・9・10・14・15・19・20・25に位置する。検出面はIV層上面である。底部は二条に分かれるが、断面では切り合い関係は確認できない。上端で幅推定235cmを測り、主軸はN-13°-Wを向く。断面は不整な皿形をなし、覆土は6層に分かれ、深さは40cmである。覆土中から珠洲焼の壺と播鉢が出土している。

SD7 (図版14・15 写真図版13) 9Q-10A15・20、9Q-10B11・12・16に位置する。検出面はIV層上面である。上端で幅推定97cmを測り、主軸はN-77°-Eを向く。確認面からの深さは55cmで、断面は逆台形である。覆土は7層に分層される。遺物の出土はない。隣接するSD10と主軸をほぼ同じくする。

SD10 (図版14・15 写真図版13) 9Q-10A9・10・14・15、9Q-10B6・11・12に位置する。検出面はIV層上面である。上端で幅推定173cmを測り、主軸はN-79°-Eを向く。溝の底部は途中で二条に分かれ、底面は東から西に向かって傾斜する。確認面からの深さは38cmで、断面は皿形である。覆土は4層に分かれる。遺物の出土はない。隣接するSD7と主軸方向を一にする。

SD16 (図版14・15 写真図版13) 9P-7I3・4、8～10、9P-7J6～8、11～13に位置する。検出面はIV層上面である。上端で幅推定130cmを測り、主軸はN-104°-Eを向く。確認面からの深さは45cm、断面は皿形～半円形で、覆土は5層に分かれる。遺物の出土はみられない。

SD19 (図版14・15 写真図版14) 9P-6I22～25に位置する。SD20に隣接し、主軸もほぼ同一である。検出面はIV層上面である。上端で幅85cmを測り、主軸はN-84°-Eを向く。確認面からの深さは20cm、断面は皿形で、覆土は2層に分かれる。遺物の出土はみられない。

SD20 (図版14・15 写真図版14) 9P-6I18・19・23・24に位置し、検出面はIV層上面である。SD19に隣接し、主軸方向もほぼ共通する。上端で幅51cmを測り、主軸はN-85°-Eを向く。確認面からの深さは36cm、断面は段の付いたV字形で、テラス状の張り出しを有する。覆土は5層に分かれる。珠洲焼の播鉢が出土している。

SD23 (図版14・15 写真図版14) 9P-4H24、9P-5H4・9・10、9P-5I6に位置する。検出面はIV層上面である。区画溝の一部と思われ、全体の規模は不明だが、幅は上端で46cmを測る。軸は東西N-95°-E、南北N-10°-Wを向く。断面は皿形で、深さ29cm、覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SD33 (図版13・15 写真図版14) 9P-4H11・12・16・17・21・22、9P-5H2に位置する。検出面はIV層上面である。底部は2条に別れる。上端で幅推定73cmを測り、主軸はN-7°-Wを向く。確認面からの深さは

38cm、断面は不整形で、覆土は3層に分かれる。2層から砥石が出土している。

SD39 (図版13・15 写真図版14・15) 9P-3G18・19・23～25、9P-4G3・4に位置する。検出面はIV層上面である。上端で幅220cmを測り、主軸はN-87°-Eを向く。断面は皿形をなし、確認面からの深さは45cmである。覆土は4層に分かれる。遺物の出土はない。

SD40 (図版13・15 写真図版15) 9P-3G11～13、16～18に位置する。検出面はIV層上面である。上端で幅130cmを測り、主軸はN-82°-Eを向く。断面は半円形をなし、確認面からの深さは40cmである。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SD44 (図版13・15 写真図版15) 9P-2F24・25、9P-2G16・17・21～23、9P-3F5・10、9P-3G1～3・6・7に位置し、SD84に切られる。検出面はIV層上面である。両岸に弱いテラス状の平坦面が見られ、断面は浅い台形である。幅は上端で330cm、確認面からの深さは86cm、主軸はN-92°-Eを向き、覆土は8層に分かれる。覆土中から珠洲焼の壺と、瀬戸焼、自然礫125点が出土している。

SD45 (図版13・15 写真図版15) 9P-2F8・9・13・14に位置する。検出面はIV層上面である。上端で幅45cmを測り、深さ17cm、主軸はN-83°-Eを向く。断面は不整な皿形で、覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD57 (図版13・15 写真図版15・16) 8P-10E1・2・6・7・12・13・17・18・22・23に位置する。検出面はIV層上面である。SX81に切られる。上端で幅推定145cmを測り、深さ38cm、主軸はN-15°-Wを向く。断面は台形～階段形で、覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

SD84 (図版13・15 写真図版15) 9P-3F5・10、9P-3G1・2・6・7に位置し、SD44を切っている。検出面はIV層上面である。上端で幅推定165cmを測り、断面は半円形で深さは52cm、主軸はN-84°-Eを向く。覆土は4層に分かれる。4層から珠洲焼が出土している。

b) 土 坑 (SK)

SK15 (図版16 写真図版16) 9P-7J22・23・9P-8J2・3に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ140cm×幅75cm、深さ21cmを測り、軸方向はN-35°-Eである。断面は皿形を呈し、平面形は楕円形を呈すると思われる。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK24 (図版16 写真図版16) 9P-5H5・10に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ56cm×幅50cm、深さ12cmを測り、軸方向はN-57°-Wである。平面形は円形、断面は皿形で、覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK47 (図版16 写真図版16) 9P-7I5・10に位置する。検出面はIV層上面である。上端で長さ36cm×幅35cm、主軸方向はN-57°-Eである。平面形は円形、断面は半円形を呈す。深さは16cmを測り、覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK50 (図版16 写真図版16) 9P-1E15に位置し、SK70に隣接する。検出面はIV層上面である。調査区外に位置する部分があるため遺構の形状は不明である。上端の幅で推定130cm、深さは28cmを測り、長軸はN-32°-Eである。断面は皿形で、覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK70 (図版16 写真図版16) 9P-1E15・20に位置し、SK50に隣接する。検出面はIV層上面である。遺構の大部分が調査区外のため形状、長さは不明である。上端の幅で推定21cm、深さは19cm、長軸はN-35°-Wを向く。断面は皿形で、覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK71 (図版16 写真図版16) 8P-9D24に位置する。検出面はIV層上面である。遺構の過半が調査区外のため形状、長さは不明である。上端の幅で推定35cm長軸はN-80°-Eを向く。深さは20cmを測り、断面は皿形で、覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

c) 性格不明遺構 (SX)

SX81 (図版16 写真図版15・16) 8P-10E17・18・22・23に位置し、SD57を切っている。検出面はIV層上

面である。一部が調査区外のため形状、長さは不明。幅は推定105cm、断面は台形で深さは27cmを測り、長軸はN-51°-Wを向く。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

d) 河 跡 (図版14 写真図版17)

3か所で検出されている。河1は9Q-9A、河2は8P-8D・8P-9D、河3は8P-6B・8P-7C付近に位置する。河1はN-61°-Wの軸を有し、流下方向は西→東となる。単層の浅い流路で、SD10に切られる。遺物は出土していない。河2は長軸N-11°-W、推定幅6.4m程度の河川である。遺物は出土していない。やはり南北方向に流れている。河3は調査区の北西端に位置する。大規模な河川もしくは湖沼の一部と思われる。遺物は出土していない。

D 4 区 (図版17～21 写真図版18～26)

長さ178m、面積は上端で534.2m²、地形は北東から南西に向かって傾斜する。遺構は井戸(SE)5基、溝状遺構(SD)23条、土坑(SK)11基、ピット(P)52基、性格不明遺構(SX)4基の合計95基を検出した。古代・中世の遺物が出土しているが、量はかなり少なく、遺物の分布は粗である。

a) 溝 状 遺 構

SD1 (図版17・18 写真図版18) 10Q-2C4・5・9・10・14・15に位置する。検出面はIV層上面である。幅は上端で推定225cm、主軸はN-78°-Eである。断面は不整な皿形を呈する。確認面からの深さは38cmである。覆土は9層に分かれる。遺物は出土していない。

SD3 (図版17・18 写真図版24) 10Q-1E6・7・11・12に位置し、SK14を切っている。検出面はIV層上面である。区画の一部と思われるが、全体の規模は不明である。軸も不明瞭だが、東西軸はSD11と同様にN-2°-Eを指向すると思われる。確認面からの深さは15cmで、断面は台形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SD5 (図版17・18 写真図版18) 10Q-1E2・3・7・8に位置し、SD18を切り、SD11・SK6に切られる。検出面はIV層上面である。SD11・18との間で複雑に切り合っているため、平面形は断面図からの復元である。主軸はN-67°-E、推定幅は上端で約225cm、深さ37cmを測り、断面は台形を呈する。覆土は8層に分かれる。青磁の椀が出土している。

SD11 (図版17・18 写真図版18) 9Q-10E23～25、10Q-1E3～5に位置し、SD5を切っている。検出面はIIIb層上面である。平面形上端は断面図より復元している。軸はN-2°-Eを指向し、推定幅は上端で93cm、断面は階段状の皿形を呈し、確認面からの深さは54cmである。覆土は6層に分かれる。土師器、黒色土器、珠洲焼の播鉢が出土している。

SD18 (図版17・18 写真図版18) 10Q-1E2・7・8に位置し、SD5に切られる。検出面はIV層上部である。主軸はN-54°-Eを向き、推定幅は上端で115cmである。断面は半円形で、確認面からの深さは32cmを測る。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SD21 (図版17・18 写真図版26) 9Q-10F12・17に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-20°-Eを向き、推定幅は上端で65cm、断面は台形で確認面からの深さは18cmである。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SD22 (図版17・18 写真図版24) 9Q-10F4・5・9・10・14・15に位置する。IV層上面で検出し、SE117を切っている。主軸はN-71°-Eを向き、幅は上端で215cmである。断面は台形を呈し、確認面からの深さは49cmである。覆土は8層に分かれる。SE117の埋積後に、その上端の幅に沿って溝を構築したようである。土師器、中世土師器が出土している。

SD23 (図版17・18 写真図版19) 9Q-10F5・10に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-82°-Eを向き、推定幅は上端で70cm、断面は半円形で、深さは29cmである。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SD30 (図版17・18 写真図版19) 9Q-9G21～23に位置する。検出面はIV層上面である。幅は上端で34cm、主軸方向はN-2°-Eである。断面は半円形をなし、確認面からの深さ10cm、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD34 (図版17・18 写真図版19) 9Q-9G13～15・18・19、9Q-9H11に位置する。検出面はIV層上面である。主軸方向はN-5°-W、溝の推定幅は上端で56cm、確認面からの深さは7cmである。断面は皿形をなし、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD36 (図版17・18 写真図版19) 9Q-9G10・14・15、9Q-9H6・7・11・12に位置する。検出面はIV層上部である。主軸はN-6°-Wを向き、推定幅は上端で170cm、確認面からの深さ42cmを測る。断面は不整な皿形を呈し、覆土は9層に分かれる。珠洲焼の甕が出土している。

SD50 (図版17・18 写真図版19・20) 9Q-7J10・15、9R-7A6～8・11に位置する区画溝の一部である。軸東西N-84°-W、南北N-2°-Eを向く。IV層上部で検出され、幅は上端で57cmである。断面はU字形をなし、確認面からの深さは57cmを測る。覆土はIV層をブロック状に含み、9層に分かれる。西端部に杭跡状のピットが2基(P119・120)存在する。遺物は出土していない。

SD71 (図版17・18 写真図版20) 9R-6B12・13・18に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-86°-Eである。推定幅は上端で48cm、断面は半円形を呈し、確認面からの深さ27cmを測る。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SD72 (図版17・18 写真図版20) 9R-6B7～10、11～14に位置し、主軸はN-2°-W方向である。検出面はIV層上面である。推定幅は上端で92cm、断面は不整な台形で、中央部は一段深くなる。確認面からの深さは26cmである。覆土は4層に分かれ、3層から砥石が出土している。

SD74 (図版17・18 写真図版20) 9R-5B25、9R-6B4・5・10に位置する。北半は覆乱されている。検出面はIV層上面である。主軸はN-77°-Eを向き、上端で推定幅200cm、深さは確認面から推定51cmを測る。断面はやや深い皿形を呈する。覆土は5層に分かれる。2層から珠洲系の甕、5層から珠洲焼の甕と須恵器の甕が出土している。

SD77 (図版17・19 写真図版21) 9R-5C5・10、9R-5D1～3、6～8に位置し、SD94とP97に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-1°-Eを向く。推定幅は上端で147cm、深さは確認面から70cmを測る。断面は不整な皿形である。覆土は12層に分かれる。遺物は出土していない。

SD78 (図版17・19 写真図版21) 9R-4D23、9R-5D3に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-72°-Eを向き、推定幅は上端で35cm、確認面からの深さ24cmを測る。断面は不整な箱形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD83 (図版17・19 写真図版21) 9R-4D15・18～20、9R-4E8・9・11～14・16・17に位置し、SE112を切っている。検出面はIV層上面である。主軸はN-17°-Wを向き、推定幅は上端で158cm、確認面からの深さ53cmである。断面は台形を呈し、覆土は6層に分かれる。珠洲系の甕、土師器、黒色土器、須恵器、砥石が出土している。SE112との切り合いは一部しか把握できなかったが、断面観察では、SE112の埋没後にその覆土を掘り込んで本遺構を構築しているようである。

SD88 (図版17・19 写真図版22) 9R-4E3～5・7～9、9R-3F21～23、9R-4F1に位置し、SD113に切られる。Ⅲb層で検出され、主軸はN-23°-W、幅は上端で80cmある。確認面からの深さは54cmを測り、断面は逆台形～半円形を呈する。覆土は4層に分かれる。珠洲焼、土師器、須恵器が出土している。

SD91 (図版17・19 写真図版22) 9R-3F16～19に位置し、SD106、SD113に切られる。検出面はIV層上面で、主軸はN-8°-Wを向く。推定幅は上端で85cm、確認面からの深さは23cmである。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分かれる。珠洲系の甕、土師器が出土している。

SD94 (図版17・19 写真図版26) 9R-5D1・6・11に位置し、SD77、SX76を切っている。検出面はIV層上面

で、主軸はN-89°-Wを向く。推定幅は上端で65cm、確認面からの深さは17cmである。断面は皿形を呈し、覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD106 (図版17・19 写真図版22) 9R-3F12・15・17・19, 9R-3G6・11に位置し、SD91を切り、SD113に切られる。検出面はIV層上面で、主軸はN-14°-Wである。推定幅は上端で140cm、確認面からの深さは52cmである。断面は皿形で、覆土は8層に分かれる。3層から礫が出土している。

SD113 (図版17・19 写真図版22・23) 9R-3F16・17・21・22に位置する。検出面はIV層上面である。SD88・SD91・SD106を切っている。主軸はN-55°-Eを向き、推定幅は上端で145cm、確認面からの深さは推定56cmである。断面は皿形～台形を呈し、覆土は6層に分かれる。遺物の出土はない。

b) 井 戸 (SE)

SE59 (図版17・20 写真図版23) 9R-7A3・4に位置する。確認面はIV層上面である。平面形は不整な楕円形で、上端でおおむね150cm×120cm、確認面からの深さ67cmを測る。断面は不整な台形を呈する。覆土は10層あるが、井戸側・水溜の埋土(1～7層まで)と、掘り方(8～10層)に分けられる。井戸本体の覆土は炭を多く含む土壌(6・7層)とIV層質土をブロック状に含む土壌(1～5層)に細分され、前者の堆積後、後者が短時間で堆積している。7層下部で地下水の湧出が見られる。井戸側・水溜は残存していないが、底部に円形の掘り方が確認されており、曲物等の水溜の設置が想定される。被熱した礫が下層～底部を中心に出土している。

SE70 (図版17・20 写真図版23) 9R-6B11・12に位置する。検出面はIV層上面である。平面形は推定幅上端で160cm×130cm程度の円形を呈すると思われる。断面は箱形で、確認面から底までの深さは113cmを測る。覆土は7層に分かれる。覆土にはⅢ・IV層土のブロックが混入し、短時間で埋め戻しが想定される。7層で地山から地下水の滲出が始まる。遺物は出土していない。

SE103 (図版17・20 写真図版23) 9R-5D1・2に位置する。検出面はIV層上面である。平面形は上端で推定幅直径65cmの円形、断面は段のついた箱形となる。確認面からの深さは64cm、覆土は5層に分かれ、上層はⅢ・IV層土のブロックが目立ち、短時間で埋め戻した可能性が高い。5層で湧水が見られる。遺物は出土していない。

SE112 (図版17・20 写真図版23) 9R-4E11・12・16・17に位置し、上部はSD83に切られている。SD83調査中に発見された平面形は楕円形を呈し、上端で140cm×135cm、断面は逆台形で深さ110cmを測る。多量の湧水により断面が崩落し、やむなくエレベーションのみの記録としたが、SE117と同様に井戸の埋没後に溝が構築される類のものである。遺物の出土はない。

SE117 (図版17・20 写真図版24) 9Q-10F4・5・9・10・14に位置し、上部をSD22に切られている。SD22調査中に発見された。平面は上端で235cm×220cmの円形、断面は逆台形で深度約103cmを測る。覆土は9層に分かれる。5・8・9層で炭化物・炭化粒を多く含む。遺物は出土していない。当遺構の埋没後にSD22が構築される。

c) 土 坑 (SK)

SK6 (図版17・21 写真図版24) 10Q-1E3に位置し、SD5を切っている。検出面はIV層上面である。上端で長さ70cm×幅68cmを測り、遺構の長軸はN-64°-Eである。平面は不整形、断面はU字形を呈す。確認面からの深度は53cm、覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK7 (図版17・21 写真図版24) 10Q-1E3・4・8・9に位置し、P118を切っている。検出面はIV層上面である。大きさは上端で長さ50cm×幅40cmを測り、長軸はN-34°-Wを向く。平面は円形、断面は半円形を呈す。確認面からの深度は22cm、覆土は3層に分かれる。覆土中から中世土師器が出土している。

SK14 (図版17・21 写真図版24) 10Q-1E6・7・11・12に位置する。検出面はIV層上面である。上部をSD3に切られる。平面は上端で長さ104cm×幅45cmの長楕円形で長軸はN-84°-Wを向く。断面は皿形で、確認面からの深さは22cmを測る。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK40 (図版17・21 写真図版25) 9Q-8H23に位置するが、遺構の過半が調査区外にあるため、全体の形状は

不明である。検出面はIV層上面である。上端の幅は推定95cmで、長軸はN-38°-Wを向く。断面は隅丸の台形、確認面からの深さは27cmで、覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK41 (図版17・21 写真図版25) 9Q-8H24、9Q-9H4に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-37°-Wを向く。平面は上端で長さ46cm×幅45cmの円形、断面は皿形で確認面からの深さ16cm、覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK44 (図版17・21 写真図版25) 9Q-7J21・22に位置する。検出面はIV層上面である。平面は上端で長さ90cm×幅53cmの不整な楕円形を呈し、長軸はN-7°-Eを向く。断面は台形で、確認面からの深さは30cmである。覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

SK46 (図版17・21 写真図版25) 9Q-7J13・14に位置し、IV層上面で検出される。遺構の規模は上端で幅が推定155cm、長軸はN-35°-Wを向く。平面は半円形を呈すると思われる。断面は不整な皿形を呈し、確認面からの深度は52cmを測る。覆土は8層に分かれる。遺物は出土していない。

SK68 (図版17・21 写真図版25) 9R-6B21に位置する。検出面はIV層上面である。平面形は上端で長さ46cm×幅38cmの不整形で、長軸はN-2°-Eを向く。底部に珠洲焼の播鉢の底部が正位で出土している。断面は台形だが、遺物の下に若干の掘り込みがある。確認面からの深さは21cmである。覆土は単層である。

SK69 (図版17・21 写真図版26) 9R-6B11に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-58°-Eを向く。遺構の規模は上端で長さ46cm×幅40cmである。断面は皿形で、確認面からの深度は10cmを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK73 (図版17・21 写真図版20・26) 9R-6B7・8に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-36°-Eを向く。一部が調査区外にあるため平面形は不明だが、推定幅は上端で長さ113cm×幅85cmを測る。断面は箱形で確認面からの深さは23cmである。覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

SK109 (図版17・21 写真図版26) 9R-2G22・23に位置し、確認面はIV層である。平面形は上端で推定長さ113cm×幅60cmの不整な楕円形で、長軸はN-57°-Eを向く。断面は皿形で、確認面からの深さ31cmである。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

d) 性格不明遺構 (SX)

SX19 (図版17・21 写真図版26) 9Q-10F17に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-84°-Wを向く。平面は不整な楕円形を呈すると思われるが、一部が調査区外にかかるため、全体の形状は不明である。推定幅は上端で長さ160cm×幅120cmを測る。断面は皿形で、確認面からの深さは16cmである。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SX76 (図版17・21 写真図版26) 9R-5C10・15、9R-5D6・11に位置し、SD94に切られる。確認面はIV層上面である。推定幅は上端で長さ120cm×幅65cm、平面形は不整な楕円形を呈する。長軸はN-79°-Wを向く。断面は皿形で、確認面からの深さは17cmを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

E 6 区 (図版22・23 写真図版27～30)

長さ約135m、面積は上端で425.2m²である。北部が最も標高が高く、中央部で低くなり、南部で再び標高を上げる。中央部には河川状の自然地形が検出されている。遺構数は溝状遺構(SD)20条、土坑(SK)9基、性格不明遺構(SX)4基、ピット(P)6基の合計39基を検出した。溝状遺構には畝を形成するものがある。遺物量は極めて少なく、古代の上飾器破片と鉄製品が少量出土した程度である。

a) 溝状遺構(SD)

単独のもの、畝状遺構に分けて記述する。

SD10(図版22・23 写真図版27) 8R-10F8・9・13に位置する。検出面はIV層上面である。主軸方位はN-32°-Eで、幅は上端で52cm、確認面からの深さは9cmを測る。断面は不整な皿形で、覆土は2層に分かれる。遺物

は出土していない。

SD11 (図版 22・23 写真図版 27) 8R-10F19・20・24・25 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-73°-E である。幅は上端で 55cm、確認面からの深さは 13cm である。断面は皿形で、覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD16 (図版 22・23 写真図版 27) 9R-1G12・13・17・18 に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-60°-E である。幅は上端で推定 75cm、深さは 37cm である。断面は台形で、覆土は 2 層に分かれる。1 層から鉄製品が出土している。

SD18 (図版 22・23 写真図版 28) 8R-2A19・22~24、8R-3A2・3 に位置し、河川状地形との際に構築される。一部をSK26に切られる。検出面はIII層上面である。主軸はN-43°-Eを向く。幅は上端で 90cm、確認面からの深さは 57cm である。断面は皿形~台形を呈し、覆土は 8 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD19 (図版 22・23 写真図版 28) 8R-9E10・14・15 に位置する。検出面はIV層上面である。SD34を切り、主軸はN-58°-Eを向く。幅は上端で推定 55cm、確認面からの深さは 41cm である。断面は台形で、覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD21 (図版 22・23 写真図版 28) 8Q-1J7・8・13 に位置する。検出面はIV層上面で、南部をSD24に切られる。主軸はN-37°-Wである。幅は上端で 40cm、深さは 12cm である。断面は皿形で、覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD24 (図版 22・23 写真図版 28) 8Q-1J13・14・17・18 に位置する。検出面はIV層上面で、SD21を切っている。主軸はN-56°-Eを向く。幅は上端で 45cm、深さは 17cm である。断面は皿形で、覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

畝状遺構 (図版 22・23 写真図版 28・29) SD8・SD27~38により構成される畝状の遺構である。8R-8E23・24、8R-9E3~5・8~10・14・15・20、8R-9F11・16・17・21・22、8R-10F1~3・16・21に位置する。検出面はIV層上面である。溝の主軸はいずれもN-20°-W前後で共通する。幅は上端で 30~40cm 前後、深さは 5~10cm 前後、溝の間隔は 30~40cm となっている。断面は皿状を呈するが、外壁面での観察では本来の断面は上部の開くU字形を呈している。覆土は単層である。遺物の出土はない。

c) 土 坑 (SK)

SK1 (図版 23 写真図版 29) 8Q-2J15、8R-2A11に位置するが、過半は調査区外にある。確認面はIV層上面である。長軸は、推定でN-35°-Wを向く。遺構の深さは 30cm で、断面は不整な皿形を呈する。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK3 (図版 23 写真図版 29) 8R-2A18・23に位置する。確認面はIV層上面である。平面形は円形を呈し、長軸はN-38°-Wを向く。長さは上端で 80cm、幅は 60cm ある。断面は皿形で、確認面からの深さは 18cm、覆土は 2 層に分かれる。遺物の出土はない。

SK4 (図版 23 写真図版 30) 8R-2A13・18に位置する。検出面はIV層上面である。大部分が調査区外に位置するため、平面形・長軸方向は不明である。推定断面は皿形である。確認面からの深さは 17cm、覆土は 2 層に分かれる。遺物の出土はない。

SK12 (図版 23 写真図版 30) 9R-1G6に位置する。確認面はIV層上面である。平面形は楕円形を呈し、長軸はN-43°-Wを向く。長さは上端で 94cm、幅は 70cm である。断面は皿形を呈し、確認面からの深さは 22cm、覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK13 (図版 23 写真図版 30) 9R-1G6・11・12に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-34°-Eを向く。上端で長さ 170cm、幅 130cm 測り、平面形は楕円形を呈する。遺構の深さは 32cm で、覆土は 5 層に分かれる。断面は台形を呈する。遺物の出土はない。

SK26 (図版 23 写真図版 30) 8R-3A2・3に位置し、SD18を切っている。検出面はIIIa層上面である。西半

が調査区外のため推定となるが、長軸はN-37°-Wを向き、平面形は円形を呈すると思われる。遺構の深さは50cmで、断面は半円形、覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

d) 性格不明遺構 (SX)

SX20 (図版22・23 写真図版30) 9R-1G24, 9R-2G4・5・9に位置する。検出面はIV層上面だが、部分検出のため遺構の規模は不明である。長軸は推定でN-34°-Wを向く。断面は皿形を呈し、覆土は3層に分かれる。確認面からの深さは24cmである。遺物は出土していない。

e) 河跡 (図版22)

調査区の中ほどに位置する河川状の落ち込み(河1・2)である。2箇所検出されているが、両者は同一の可能性もあり、まとめて記述する。サブレンチによる観察では8R-4B2・3付近でIV層までの深さが約150cmある。堆積は未分解の植物遺体(ガッポ)と細砂・粘土の互層となる。遺物は出土していない。

河1 8R-3A8~10・14・15・19・20・25, 8R-3B11・16・21・22, 8R-4B1~3・6~8・12~14・18~20に位置する。幅は上端で250cm、遺物の出土はない。

河2 8R-5C23・24, 8R-6C3~5・8~10・14・15・19・20・25, 8R-6D11・12・16~18・21~23, 8R-7D1~3・6~8・12~14・18~20・24・25, 8R-8D4・5・10, 8R-8E1・6~8・11~13に位置する。幅は上端で430cmある。遺物は出土していない。

F 7 区 (図版24~45 写真図版31~61)

上端面積は6,461.6m²である。広域農道を挟んで北部(606.4m²)と南部(5,855m²)に分かれる。地表面から30~40cm程度で遺構確認面(IV層)が露出するが、上層部はかなり攪乱されており、遺物包含層の残存は不良である。検出遺構は943基に及ぶ(第7表)。縦横に走り区画をなす溝を特徴とするが、前述のとおり地表から遺構確認面までが浅く、後世の攪乱をかなり受けているため、近世以後の遺構をかなり含んでいると思われる。

遺物は古代の須恵器・土師器、中世の土器・陶磁器を主体に112kg以上出土しており(第8表)、他の調査区を圧倒する。

a) 柱穴列 (SA)

直線的な列をなすピット群を柱穴列とした。2列確認されている。時期は不明であるが、近世以降の遺構に切られていること、SD108等の主要な遺構を切って構築されていることから、中世に帰属する遺構と思われる。

SA1 (図版25・31・33 写真図版34) 11R-6E24・25, 11R-6F16・17・21, 11R-7D13~18・21, 11R-7E2~4・6・7に位置する。検出面はIV層上面で、P379, P396, P456, P458~P468, P471, P499~P504, P524, P525, P527から構成される。各ピットの断面は三角形を呈するものが多く、柱穴のような掘方も観察できないことから、杭状の柱材を直接打ち込んだものと思われ、長軸方向はN-63°-Eである。調査区外にも広がっている可能性があるため正確な全長は不明であるが、調査区内での長さ(P471~P527)は24.0mを測る。SB2・SD108等の遺構を切っているが、遺物が出土していないため時期は明確にしない。

SA2 (図版25・27・33) 11S-5D10・15・20・24・25, 11S-6D4・9に位置する。検出面はIV層上面で、P722, P723, P725, P726から構成される。各ピットの断面が三角形を呈する傾向があるのはSA1と同様である。調査区外への広がりは不明だが、確認されている範囲では長さ(P723~P726周辺)は14.9m、長軸方位N-18°-Eである。切合い関係にある遺構はない。

b) 掘立柱建物 (SB)

10棟検出されているが、柱穴と思われるピットは路線部を含めて数多く存在するため、抽出しきれなかった建物が存在すると思われる。したがって、当欄で記述したものが必ずしも掘立柱建物の実数ではない。

抽出された10棟については、(春日2009)にもとづき、平面形から分類を行っている(第6図)。梁間2間型が4棟、梁間1間型が6棟である。各説では建物を構成する遺構と規模(桁行・梁行の総長)、身舎の面積を記載した。また、

SB1・8など、柱間寸法が算出しえる場合は、文中に記載している。規模から見た場合、面積的なばらつきが大きく、SB3・SB9などの10m²以下の梁間1間型のものは、居住用というよりも納屋・作業小屋程度のものであると思われる。いずれも遺物は出土していない。

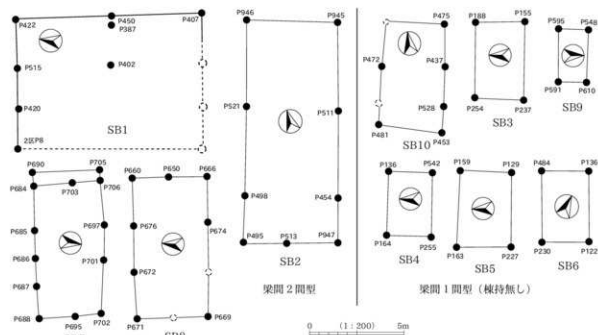
SB1 (図版31・32・33 写真図版34) 11R-7C9・10, 11R-7D6・7・11・12・16・17・20~23, 11R-9D1~3・7・8に位置し、SA1とSE399に切られる。検出面はIV層上面で、P8(2区)、P387、P402、P420、P422、P450、P407、P515から構成される。西部は調査区外となっているが、検出されている柱穴から、梁間2間型の建物と思われる。規模は桁行総長6.3m(約21尺)、梁行総長約4.8m(約16尺)で、柱間寸法は桁行がおおむね180cm、梁行230cm程度である。身舎部分の面積は30.2m²で、長軸はN-78°-Eを指す。

SB2 (図版31・34 写真図版34) 11R-5E19・24・25, 11R-6E3~5・8~10・13~15・17~20・22~25, 11R-6F1・6・11, 11R-7E3・4・5に位置し、SD108, SD423, SD193に切られる。検出面はIV層上面で、P365, P454, P495, P498, P511, P513, P521, P945~947から構成される。桁行総長約11.8m(約39.3尺)、梁行総長約5.1m(約17尺)の梁間2間型である。身舎の面積は56.7m²で、長軸はN-19°-Eを指す。明確な付帯施設は確認できなかったが、周囲のピット(P368, P448, P494, P496, P497, P507, P509, P522, P523, P530)から、庇などが存在した可能性もある。

SB3 (図版31・35 写真図版34) 11R-8G1~3・6~8に位置する。検出面はIV層上面で、P155, P188, P237, P254より成る。プランがSB4・5・6と重なっているが、切合い関係は不明である。桁行総長約4m(約13.3尺)、梁行総長2.5m(約8.3尺)の梁間1間型である。身舎の面積は10.52m²で、長軸はN-72°-Eを指す。付帯施設は認められない。

SB4 (図版29・31・35 写真図版34) 11R-8G2~4・7・8・12・13に位置する。検出面はIV層上面で、P136・P164, P255・P542より成る。プランがSB3・5・6と重なっているが、切合い関係は不明である。桁行総長約3.4m(約11.3尺)、梁行総長2.5m(約8.3尺)、身舎面積は7.88m²と小さな梁間1間型の建物である。長軸はN-76°-Eを指す。付帯施設は認められない。

SB5 (図版29・31・35 写真図版34) 11R-8G1~4・6~9・11~13に位置する。検出面はIV層上面で、P129, P159, P163, P227より成る。プランがSB3・4・6と重なっているが、切合い関係は不明である。梁



第6図 掘立柱建物の分類図

間1間型で、桁行総長約4.0m(約13.3尺)、梁行総長2.9m(約9.7尺)である。身舎の面積は11.46m²で、長軸はN-80°-Eを指す。付帯施設は認められない。

SB6 (図版29・31・35 写真図版34) 11R-8G3・7~9・12~14に位置する。検出面はIV層上面で、P122、P136、P230、P484より成る。プランがSB3・4・5と重なっているが、切合い関係は不明である。桁行総長約4.7(約15.7尺)、梁行総長2.5m(約8.3尺)の梁間1間型である。身舎の面積は9.28m²で、長軸はN-35°-Wを指す。付帯施設は認められない。

SB7 (図版30・33・34 写真図版35) 11R-4I21~25、11R-5I1~10に位置する。検出面はIV層上面で、P684~688、P690、P695、P697、P701~P703、P705、P706から構成されるが、主屋はP706、P702、P688、P684を頂点とする範囲で、P690とP705は此であろう。梁間2間型に分類される。桁行総長約6.9m(約23尺)、梁行総長3.3m(約11尺)である。身舎の面積は23.01m²だが、此を入れると27.1m²となり、SB10とほぼ同じになる。長軸はN-81°-Eを指す。P699が此、SD683が雨落ち溝、SE704が井戸として付帯すると思われる。

SB8 (図版28・30・34 写真図版35) 11R-6I10・15・20、11R-6J1~4・6~9・11~15に位置する。SD102、SD649、SE678に切られる。検出面はIV層上面で、P650、P660、P666、P669、P671、P672、P674、P676から構成される。一部がSD102、SD649、SE678等と重複している。桁行総長約7.4m(約24.7尺)、梁行総長3.9m(約13尺)、柱間寸法は桁行がおおむね210cm、梁行が170cm程度の梁間2間型である。身舎の面積は28.81m²で、長軸はN-84°-Eを指す。SE677が付帯施設と思われる。

SB9 (図版28・35 写真図版35) 11R-8J24・25に位置する。検出面はIV層上面である。P548、P591、P595、P610で構成される梁間1間型の建物である。大きさは桁行総長2.8m(約9.3尺)、梁行総長1.5m(約5尺)、身舎の面積4.24m²と、検出された掘立柱建物の中では最も小さい。長軸はN-88°-Eを向く。付帯施設は認められない。

SB10 (図版31・34 写真図版34) 11R-6D8~10・18~20・22~25に位置する。検出面はIV層上面である。SD423、SE434等に切られている。遺構はP437、P453、P472~475、P481、P528から構成される。桁行総長5.8m(約19.3尺)、梁行総長3.4m(約11.3尺)、柱間寸法は桁行が南部1単位が120cm、北部2単位は180cm、梁行が280cm程度の梁間1間型である。身舎の面積は18.59m²で、長軸はN-12°-Eを向く。付帯施設は認められない。

c) 溝状遺構(SD)

SD2 (図版29・36 写真図版33・38) 11R-8F21、11R-9E10・15・20・25、11R-9F1・2・11・16・21・22・23・24、11R-10F3・4に位置し、SD47、SK97、SK200、SK537を切っている。検出面はIV層である。SD93・96と共に区画を形成する。主軸は東西N-74°-W、南北N-21°-E。長さは上端で1,758cm、幅は上端で46cmを測る。確認面からの深さは44cmで、断面は皿形~台形を呈する。覆土は6層に分かれる。土師器、須恵器、礫、種子(モモ)が出土している。

SD17 (図版29・36 写真図版38) 11R-10F9・10・14に位置し、IV層上面で検出される。主軸はN-41°-Eを向く。幅は上端で46cm、確認面からの深さは30cmで、断面はU字形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器、黒色土器が出土している。

SD21 (図版29・36 写真図版34・38) 11R-10E10・15、11R-10F6・11・12に位置する。検出面はIV層上面である。SK20、SX26を切っている。主軸方位はN-75°-Wである。遺構の規模は上端で長さ423cm、幅44cm、確認面からの深さは44cmで、断面はU字形を呈する。覆土は3層に分かれる。土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

SD30 (図版28・29・31・36・37 写真図版34・36・39) 11R-8E14・15・19・20、11R-8F11~14・16~20・22~25、11R-8G16~25、11R-8H21~25、11R-8I21・22、11R-9H1~5・10、11R-9I1~10、

11R-9J1~3・6~10・14・15, 11S-9A6~15, 11S-9B6に位置する。検出面はIV層上面である。SK49, SX58, SX588, P208を切り、SD545, SK273, SX183, SX234, P182, P546, P582, P596に切られ、11R-8E14付近でSD108に接続する。主軸はN-82°-W、幅は上端で214cm、確認面からの深さは81cmで、断面は皿形~台形を呈する。覆土は15層に分かれる。土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、珠洲系の壺、中世土師器、土製品、鉄滓、礫、石製品、鉄製品が出土している。

SD47 (図版28・29・31・36 写真図版34・36・39) 11R-8D24・25, 11R-8E21・22, 11R-8G10・15・20・25, 11R-8H1・2・6~10・11・16・21, 11R-8I6~12, 11R-8J6~15, 11R-9E1~5, 11R-9F1~4・6~10・15, 11R-9G5~7・9~15, 11S-5A14・15・19・20・24・25, 11S-6A5・10・15・20・25, 11S-7A5・10・15・20・25, 11S-8A5~15に位置し、SD96, SD643, SD872, SK537, SX372, P439, P616, P871を切り、SD2, SD102, SD607, SD609, SX540に切られ、11R-9G5付近でSD30に、11R-9E3付近でSD108に、11R-8H6付近でSD133に接続する。検出面はIV層上面である。軸は東西N-78°-W、南北N-20°-Eを指向し、幅は上端で85cm、確認面からの深さは72cmで、断面は皿形~台形を呈する。覆土は9層に分かれる。土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、珠洲焼、鉄滓、銭貨が出土している。

SD93 (図版29・37 写真図版33・40) 11R-9E15, 11R-9F11・12・16~19・24に位置する。検出面はIV層上面である。SK98, SK141を切り、SD2・96と共に区画を形成する。主軸はN-72°-Wを向き、遺構の規模は上端で長さ764cm、幅51cm、確認面からの深さは29cmで、断面は台形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器、黒色土器、種子(モモ)が出土している。

SD96 (図版29・37 写真図版33・40) 11R-9F10・15・19・20に位置し、SD2・93と共に区画を形成する。検出面はIV層上面である。SD47に切られる。主軸方位はN-18°-Eを向く。幅は上端で57cm、確認面からの深さは4cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD102 (図版30・37 写真図版40) 11R-6H21, 11R-6I25, 11R-6J7・11・12・16・17・21, 11R-7G5・10・15, 11R-7H1・11・12・17~19・24・25, 11R-7I5・9・10・14・18・19・21・23, 11R-8I1~3に位置する区画溝である。検出面はIV層上面で、SB10, SD47, SD133, SD191~SD193を切り、P104, P107, P198に切られる。主軸は東西N-63°-W、南北N-20°-Eを指向し、幅は上端で29cm、確認面からの深さは6cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。モモの種子が出土している。

SD108 (図版29・31・36・37 写真図版36・37・39) 11R-5E10・14・15・19・20・24・25, 11R-6E4・5・9・10・14・15・18~20・23~25, 11R-7E3~5・8~10・13~15・18~20・23・24, 11R-8E2~4・7~9・12~14・17~19・22~24, 11R-9E2~4・7~9・12~14・17・18・22・23, 11R-10E3に位置し、SB2, SD190, SD532, SK205, SK206, P299, P300, P533を切り、SA1, SD193, SD383, SK354, P349, P362, P380, P508, P530, P531, P534に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-5°-Eを向き、幅は上端で276cm、確認面からの深さは88cm、断面は皿形~台形を呈する。覆土は17層に分かれる。土師器、須恵器、珠洲焼、中世土師器、緑釉陶器、礫、鉄製品が出土している。

SD133 (図版28・30・35・37 写真図版34・37・40) 11R-4H21・22, 11R-5H2・6・7・11・12・16・17・21・22, 11R-6H1・2・6・7・11・12・16・17・21, 11R-7H1・6・11・16・21・22, 11R-8H1・6ほかに位置する区画溝で、SK202, SX693を切り、SD102, SD267, SD607, SD609, SD624に切られ、11R-4H22でSD267に接続する。検出面はIV層上面である。軸は東西N-88°-W、南北N-3°-E、幅は上端で108cm、確認面からの深さは40cmで、断面は皿形~台形を呈する。覆土は8層に分かれる。土師器、珠洲焼、鉄滓が出土している。

SD190(図版31・37 写真図版34・41) 11R-6E14・19・20, 11R-6F16~18・23~25, 11R-7F5, 11R-7G1・2・6~9に位置し、SD382, P398を切り、SD108, P199に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-68°-Wを向き、幅は上端で26cm、確認面からの深さは12cmで、断面は半円形を呈する。覆土は2層に分かれる。

遺物は出土していない。

SD191 (図版 31・37 写真図版 34・41) 11R-6F13・18～20・25, 11R-6G21・22, 11R-7G2～4・9・10に位置し、SD102, P189に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-63°-Wを向く。幅は上端で34cm、確認面からの深さは20cmで、断面は半円形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD192 (図版 31・37 写真図版 34・41) 11R-6F1・2・7～9, 13～15・20, 11R-6G11・16・17・22～24, 11R-7G4・5に位置し、SD224を切り、SD102, P368に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-61°-Wを向く。幅は上端で49cm、確認面からの深さは43cmで、断面は台形を呈する。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SD193 (図版 31・37 写真図版 34・41) 11R-5E25, 11R-5F21, 11R-6D5, 11R-6E1～5, 11R-6F1～3・7～10・14・15, 11R-6G11・12・16～18・23～25, 11R-7G5, 11R-7H1に位置し、SB2, SD108, SD224, P225を切り、SD102, SX430に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-61°-Wを向く。幅は上端で67cm、確認面からの深さは93cmで、断面は台形を呈する。覆土は8層に分かれる。土師器、須恵器、鉄製品が出土している。

SD207 (図版 31・37 写真図版 34・41) 11R-6G11～13・18に位置する。検出面はIV層上面である。主軸方位はN-61°-Wである。幅は上端で20cm、確認面からの深さは4cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD224 (図版 31・37 写真図版 34・41) 11R-6F1・2・7～9・14・15, 11R-6G11・16～18・23・24に位置する。検出面はIV層上面である。SD192・193に切られるため遺構の平面規模は不明だが、主軸はN-61°-Wを指向するようである。確認面からの深さは14cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD267 (図版 30・38 写真図版 34・41) 11R-4F20・24・25, 11R-4G16・17・21～25, 11R-4H16～23, 11R-4I16～18に位置し、SD133, SD367, SK319を切り、SD268, SD432, SK394, P322, P323に切られている。検出面はIV層である。11R-4H22でSD133と接続し、区画の一部を形成する。軸はN-82°-Eを指向し、幅は上端で119cm、確認面からの深さは60cmで、断面は皿形～台形を呈する。覆土は7層に分かれる。軽石と礫が出土している。

SD268 (図版 30・38 写真図版 34・41・42) 11R-4G20・25, 11R-4H7・11・12・16, 11R-5G4・5に位置し、SD267, SK317, SK319, SX694, P275, P325を切る。検出面はIV層上面である。主軸はN-32°-Eを向く。幅は上端で50cm、確認面からの深さは20cmで、断面は台形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD382 (図版 31・37 写真図版 34・42) 11R-6E20, 11R-6F6・11・16に位置し、SD190に切られる。検出面はIV層上面である。主軸方位はN-25°-Eである。長さは上端で430cm、幅は20cm、確認面からの深さは4cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD390 (図版 31・38 写真図版 34・42) 11R-5F8・12・13・17・18・22に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-27°-Eを指向し、幅は上端で21cm、確認面からの深さは22cmで、断面はU字形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD413 (図版 31・38 写真図版 34・42) 11R-6D20・24・25, 11R-7D4・5・9・14に位置し、SD470に切られる。検出面はIV層である。主軸方位はN-18°-Eである。遺構の規模は上端で長さ740cm、幅55cm、確認面からの深さは9cmで、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD423 (図版 31・38 写真図版 34・42) 11R-6D8・9・13～15・20, 11R-6E4・5・9・10～14・16～19に位置し、SB2・SB10を切り、SD427, SD487, P526に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-79°-Wを向く。幅は上端で100cm、確認面からの深さは66cmで、断面は皿形を呈する。覆土は7層に分かれる。土

師器、唐津焼、近世陶磁器が出土している。

SD428 (図版 31・38) 11R-6E4・9に位置し、SD108、SD423を切っている。検出面はIV層上面である。主軸はN-5°-Eを向く。長さは上端で180cm、幅は24cm、確認面からの深さは25cmで断面は台形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD487 (図版 31・38 写真図版 34・43) 11R-6D5・10・15、11R-6E1・6に位置する。検出面はIV層上面である。SD423に切られる。主軸はN-7°-Eを向く。幅は上端で32cm、確認面からの深さは12cmで、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD607 (図版 27・28・36 写真図版 39) 11S-5B19・23・24、11S-6B3・7・8・12・13・17・21・22、11S-7A10・15・19・20・24・25、11S-7B1・6、11S-8A4・8・9に位置し、SD47、SD133、SD635、SD872を切り、P641に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-23°-Eを向く。幅は上端で28cm、確認面からの深さは18cmで、断面はU字形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD635 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-6B8~10・15、11S-6C6・11~15・19・20、11S-6D16~18・23に位置し、SD636を切り、SD607とP638に切られる。検出面はIV層上面で、主軸はN-75°-Wを向く。幅は上端で32cm、確認面からの深さは10cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD636 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-6C14・15、11S-6D11・16に位置し、SD635、SD712、SD714に切られる。確認面はIV層上面である。主軸はN-78°-Wを向く。幅は上端で18cm、確認面からの深さは6cmで、断面は台形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD662 (図版 30・38 写真図版 35・43) 11R-5J6・11・16・17・21・22、11R-6J1・2に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-13°-Wを向く。長さは上端で815cm、幅は53cm、確認面からの深さは23cmで、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD712 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-5D2・7・12・17・22、11S-6D2・7・11・12・16・17に位置する。検出面はIV層上面である。SD715に切られる。軸は東西N-79°-W、南北N-8°-Eを指向し、幅は上端で32cm、確認面からの深さは16cmで、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SD713 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-6D17・18に位置する。検出面はIV層上面である。主軸はN-80°-Wを向く。幅は上端で30cm、確認面からの深さは17cmで、断面は半円形を呈する。覆土は2層である。遺物は出土していない。

SD714 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-5D2・7・12・17・22、11S-6D1・2・6・11・16、11S-4D22・23に位置し、SD636を切り、SD715、SX720に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-13°-Eを向く。幅は上端で32cm、確認面からの深さは28cmで、断面はU字形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD715 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-6C5、11S-6D1・6~9に位置し、SD712、SD714を切る。検出面はIV層上面である。主軸方位はN-72°-Wである。遺構の規模は上端で長さは上端で761cm、幅30cm、確認面からの深さは13cmで、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD716 (図版 27・38 写真図版 43) 11S-5D7・12・16・17に位置し、SX720に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-83°-Wを向く。幅は上端30cm、確認面からの深さは50cmで、断面は皿形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SD718 (図版 27・38 写真図版 44) 11S-4D13~15・19・20、11S-4E16~18・23、11S-5E2・3・7・8・12・17・21・22、11S-6D20・25、11S-6E1・2・6・11・16・21、11S-7D5に位置し、SD770とSD773を切る。検出面はIV層上面である。主軸はN-13°-Eを向く。幅は上端で36cm、確認面からの深さは51cmで、断面はU字形を呈する。覆土は3層に分かれる。磁石が出土している。

SD719 (図版 27・39 写真図版 44) 11S-4D13~15・20、11S-4E11・16~18・23、11S-5E3・7・8・12・

13・17・22, 11S-6E1・2・6・7・11・16・21, 11S-7D5・10, 11S-7E1・6に位置し、SD770を切っている。検出面はIV層上面である。主軸はN-13°-Eを向く。幅は上端で35cm、確認面からの深さは36cmで、断面は血形～台形を呈する。覆土は2層に分かれる。珠洲焼が出土している。

SD773 (図版27・39 写真図版44) 11S-4D14・19・20に位置し、SD718に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-69°-Eを向く。幅は上端で20cm、確認面からの深さは6cmで、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD775 (図版26・39 写真図版37・44) 11S-2F4・5・9・10・14・15・20・25, 11S-2G11・16・17・21・22, 11S-3F5, 11S-3G1・2・6・7・11～13・16～18・22・23, 11S-4G2～4・8・9・13・14・18～20に位置し、SD808, SD856, SK777, SX841, SX932, P867, P874に切られる。検出面はIV層上面である。主軸はN-20°-Wを指向する。幅は上端で253cm、確認面からの深さは87cmで、断面は不整なV字形を呈する。覆土は15層に分かれる。土師器、須恵器、鉄製品が出土している。

SD808 (図版26・39 写真図版37・44) 11S-2G23, 11S-3G3・8・13・18・23に位置し、SD775を切る。検出面はIV層上面である。主軸方位はN-13°-Eである。遺構の規模は上端で長さ推定986cm、幅45cm、確認面からの深さは14cmで、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD837 (図版26・39 写真図版44) 11S-4F4・5, 11S-4G1に位置し、IV層上面で検出される。主軸方位はN-70°-Wである。遺構の規模は上端で長さ269cm、幅29cm、確認面からの深さは8cmで、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD878 (図版26・39 写真図版44) 11S-3F25, 11S-3G21に位置し、P852に切られる。検出面はIV層上面で、主軸はN-47°-Wを向く。幅は上端で32cm、確認面からの深さは8cmで、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD918 (図版26・39 写真図版44) 11S-1G14・19・24, 11S-2G4に位置する。検出面はIV層上面である。主軸方位はN-7°-Eである。遺構の規模は上端で長さ528cm、幅21cm、確認面からの深さは4cmで、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

d) 井 戸 (SE)

SE399 (図版31・40 写真図版45) 11R-7D7・8・12・13に位置する。検出面はIV層上面である。SB2を切っている。遺構の規模は上端で長さ164cm×幅148cm、確認面からの深さは110cmで、平面形は円形、断面はU字形を呈する。覆土は13層に分かれる。遺物は出土していない。

SE434 (図版31・40 写真図版45) 11R-6D18・23に位置する。検出面はIV層上面である。SB18を切っている。規模は上端で長さ177cm×幅推定125cm、確認面からの深さは92cmで、平面形は楕円形、断面はU字形を呈する。覆土は12層に分かれる。鉄製品が出土している。

SE677 (図版28・40 写真図版45) 11R-6J14・15に位置し、P667に切られる。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ149cm×幅143cm、確認面からの深さは127cmで、平面形は不整形、断面は台形を呈する。覆土は13層に分かれる。須恵器・珠洲焼・木片が出土している。SB8に付帯する可能性がある。

SE678 (図版28・40 写真図版45・46) 11R-6J13・14・18・19に位置する。検出面はIV層上面である。SB10を切っている。規模は上端で長さ133cm×幅106cm、確認面からの深さは120cmで、平面形は不整形、断面は台形を呈する。覆土は8層に分かれる。磁石・礫が出土している。

SE704 (図版30・40 写真図版46) 11R-5I11・12・17に位置する。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ178cm×幅167cm、確認面からの深さは93cmで、平面形は円形、断面U字形を呈する。覆土は9層に分かれる。土師器、須恵器、珠洲焼が出土している。SB7に付帯する可能性がある。

e) 土 坑 (SK)

SK1 (図版29・41 写真図版46) 11R-10E3・4・8・9・10・14に位置する。検出面はIV層上面である。遺構

の過半が調査区外にあるため規模は測定不能。確認面からの深さは28cmで、断面は血形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器、黒色土器、須恵器、鉄滓が出土している。

SK18 (図版29・41 写真図版46) 11R-10F7・12に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-45°-Eである。規模は上端で長さ137cm×幅118cm、確認面からの深さは10cmで、平面形は円形、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK20 (図版29・36 写真図版38) 11R-10E10・15、11R-10F6・11に位置し、SK24を切り、SD21に切られる。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ170cm×幅149cm、確認面からの深さは16cmある。平面形は楕円形、断面形は血形を呈する。覆土は1層に分かれる。土師器無台碗が1層から出土している。

SK22 (図版29・41 写真図版47) 11R-10E20、11R-10F16に位置し、SK23を含む。検出面はIV層上面である。遺構の過半が調査区外にあるため規模は測定不能。確認面からの深さは13cmで、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK23 (図版29・41 写真図版47) 11R-10E20に位置し、SK22に含まれる。検出面はIV層上面である。規模は不明である。確認面からの深さは60cmで、平面形は不明、断面は血形～台形を呈する。覆土は7層に分かれる。遺物は出土していない。

SK28 (図版29・41 写真図版47) 11R-10F1に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-60°-Wである。規模は上端で長さ63cm×幅56cm、確認面からの深さは24cmで、平面形は方形、断面は不整なV字形を呈する。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK34 (図版29・41 写真図版47) 12R-1F25、12R-1G21、12R-2G1に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は推定N-41°-Wである。規模は上端で長さ推定212cm×幅86cm、確認面からの深さは22cmで、平面形は不整形、断面は血形～V字形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器が出土している。

SK50 (図版28・41 写真図版47) 11R-9I7に位置し、P52を含みSK53を切っている。検出面はIV層上面である。長軸はN-60°-Wである。規模は上端で長さ74cm×幅46cm、確認面からの深さは9cmで、平面形は楕円形、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK53 (図版28・41 写真図版48) 11R-9I7・8に位置し、SD51を切って、SK50に切られる。検出面はIV層上面である。長軸はN-20°-Eを向く。規模は上端で長さ63cm×幅36cm、確認面からの深さは56cmで、平面形は楕円形、断面はV字形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK56 (図版28・29・41 写真図版48) 11R-8I15・20に位置し、P67を切っている。検出面はIV層上面である。長軸はN-12°-Eを向く。規模は上端で長さ166cm×幅142cm、確認面からの深さは32cmで、平面形は円形、断面は血形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器、須恵器、黒色土器、軽石等が多く出土し、一括廃棄に近い状況を示す。

SK68 (図版29・41 写真図版48) 11R-10F10に位置し、SK69に切られる。検出面はIV層上面である。遺構の長さは測定不能だが、幅は32cmある。確認面からの深さは9cmで、平面形は不明、断面は血形を呈する。覆土は単層である。土師器と須恵器が出土している。

SK69 (図版28・29・41 写真図版48) 11R-10F10に位置し、検出面はIV層上面である。SK68を切っている。側溝に破壊されているため、遺構の長さは測定不能だが、幅は44cmある。確認面からの深さは20cmで、平面形は不明、断面は血形を呈する。覆土は単層である。土師器が出土している。

SK76 (図版29・41 写真図版48) 11R-9E24・25に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-35°-Wである。規模は上端で長さ71cm×幅60cm、確認面からの深さは15cmで、平面形は円形、断面は血形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK77 (図版29・41 写真図版49) 11R-9E25に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-40°-Wである。規模は上端で長さ72cm×幅64cm、確認面からの深さは18cmで、平面形は円形、断面は血形を呈する。覆

土は3層に分かれる。土師器が出土している。

SK86 (図版29・41 写真図版49) 11R-9F21に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-35°-Wである。規模は上端で長さ70cm×幅62cm、確認面からの深さは20cmで、平面形は円形、断面は半円形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK90 (図版29・42 写真図版49) 11R-9F16・17に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-65°-Wである。規模は上端で長さ54cm×幅32cm、確認面からの深さは8cmで、平面形は楕円形、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK92 (図版29・42 写真図版49) 11R-9F13・14・19に位置し、SK116とSX143を切っている。検出面はIV層上面である。長軸はN-78°-Wである。規模は上端で長さ170cm×幅99cm、確認面からの深さは16cmで、平面形は楕円形、断面は血形を呈する。覆土は3層に分かれる。土師器、須恵器、礫、粘土塊等が出土している。

SK97 (図版29・42 写真図版50) 11R-9F16・21に位置し、SD2に切られる。検出面はIV層上面である。長さは不明だが、幅は71cmある。確認面からの深さは20cmで、平面形は不明、断面は血形を呈する。覆土は3層に分かれる。土師器、須恵器、木片が出土している。

SK98 (図版29・42 写真図版33・50) 11R-9F17・18・22・23に位置する。SK99を切り、SD93に切られる。検出面はIV層上面である。長さは不明だが、幅は推定58cm、確認面からの深さは19cmで、平面形は不整形、断面は血形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK99 (図版29・42 写真図版50) 11R-9F17・18に位置し、SK98・SD93に切られる。検出面はIV層上面である。攪乱により遺構の平面規模は測定不能である。確認面からの深さは34cmを測る。平面形は不整形円形、断面は不整な血形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK116 (図版29・42 写真図版49・50) 11R-9F13・14に位置し、SX92・SX143に切られる。検出面はIV層である。長軸はN-70°-Wを指向する。規模は上端で長さ203cm×幅124cm、確認面からの深さは15cmで、平面形は楕円形、断面は血形を呈する。覆土は3層に分かれる。土師器と鉄滓が出土している。

SK140 (図版29・42 写真図版50・51) 11R-9F17に位置し、SD93に切られる。検出面はIV層上面である。遺構の規模、平面形は不明。確認面からの深さは25cmで、断面は血形を呈する。覆土は3層に分かれる。土師器が出土している。

SK141 (図版29・42 写真図版51) 11R-9F19に位置し、SD93に切られる。検出面はIV層上面である。遺構の長さはSD93による攪乱で測定不能だが、幅は112cm、確認面からの深さは7cmを測る。平面形は不明、断面は血形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器、須恵器、礫等のまとまった出土がある。

SK145 (図版23・42 写真図版51・52) 11R-9F11・12に位置し、検出面はIV層上面である。長軸はN-50°-Wを向く。規模は上端で長さ267cm×幅213cm、確認面からの深さは16cmで、平面形は不整形円形、断面は血形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器、礫、軽石がまとめて出土している。

SK194 (図版31・42 写真図版52) 11R-6H21に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-68°-Eである。規模は上端で長さ38cm×幅32cm、確認面からの深さは40cmで、平面形は方形、断面はU字形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK195 (図版29・42 写真図版52) 11R-9E23・24に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-60°-Wである。規模は上端で長さ42cm×幅35cm、確認面からの深さは18cmで、平面形は楕円形、断面は半円形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK200 (図版31・42 写真図版52) 11R-8F21・22、11R-9F1に位置し、SD2に切られる。検出面はIV層である。長軸はN-75°-Eを向く。規模は上端で長さ推定86cm×幅推定80cm、確認面からの深さは12cmで、平面形は不整形、断面は血形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK201 (図版29・43 写真図版53) 11R-9G3・4に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-22°-Eを向

く。規模は上端で長さ112cm×幅88cm、確認面からの深さは22cmで、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK202 (図版31・43 写真図版53) 11R-7G20・25, 11R-7H16・21に位置し、SD133に切られる。検出面はIV層上面である。遺構の長さは不明だが、幅は上端で51cm、確認面からの深さは24cmある。平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器が出土している。

SK250 (図版30・31・43 写真図版52・53) 11R-5G17・22に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-80°-Wである。規模は上端で長さ96cm×幅60cm、確認面からの深さは24cmで、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK273 (図版31・43 写真図版53) 11R-8E20, 11R-8F16に位置し、SD30に切られる。検出面はIV層上面である。長軸は推定N-80°-Eである。規模は上端で長さ推定67cm×幅推定37cm、確認面からの深さは24cmで、平面形は不整形、断面は台形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK292 (図版31・43 写真図版54) 11R-7F23, 11R-8F3に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-70°-Eである。規模は上端で長さ61cm×幅54cm、確認面からの深さは3cmで、平面形は不整形、断面は半円形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK317 (図版30・38 写真図版42) 11R-4G24・25, 11R-5G4・5に位置し、SD268に切られる。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ測定不能、幅86cm、確認面からの深さは22cmで、平面形は不明、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK324 (図版31・43 写真図版54) 11R-9E6・11に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-40°-Wである。規模は上端で長さ95cm×幅90cm、確認面からの深さは16cmで、平面形は円形、断面は皿形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK409 (図版31・43 写真図版54) 11R-7D21・22, 11R-8D1・2に位置する。検出面はIV層上面である。長軸は推定でN-109°-Wを向く。規模は上端で長さ推定103cm×幅85cm、確認面からの深さは29cmで、平面形は不明、断面は半円形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK411 (図版31・43 写真図版54) 11R-7E16・17に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-15°-Wを向く。規模は上端で長さ116cm×幅112cm、確認面からの深さは29cmで、平面形は方形、断面は皿形を呈する。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK414 (図版31・43 写真図版55) 11R-7D5・10・15に位置し、IV層上面で検出される。長軸はN-24°-Eである。遺構の規模は上端で長さ271cm×幅推定104cm、確認面からの深さは26cmで、平面形は不整形、断面は台形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK442 (図版29・43 写真図版55) 11R-9F7に位置し、IV層上面で検出される。長軸はN-60°-Wである。規模は上端で長さ96cm×幅84cm、確認面からの深さは17cmで、平面形は円形、断面は皿形を呈する。覆土は2層に分かれる。土師器が出土している。

SK488 (図版31・43 写真図版55) 11R-6D4・5・9・10に位置し、SK535に切られる。検出面はIV層上面である。遺構の過半が調査区外のため、長さは不明。幅は上端で推定185cm、確認面からの深さは62cmある。平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は7層に分かれる。遺物は出土していない。

SK575 (図版28・44 写真図版55・56) 11R-7J21・22, 11R-8J1・2に位置し、SK576を切り、P580に切られる。検出面はIV層上面である。長軸はN-26°-Eを向く。規模は上端で長さ357cm×幅280cm、確認面からの深さは30cmで、平面形は不整形、断面は皿形を呈する。覆土は4層に分かれる。土師器、黒色土器、礫、鉄製品がまぎらって出土し、一括廃棄に近い状況である。

SK576 (図版28・44 写真図版55・56) 11R-7J22に位置し、SK575に切られる。検出面はIV層上面で、長軸はN-32°-Eを向く。規模は上端で長さ136cm×幅80cm、確認面からの深さは33cmで、平面形は不整形、

断面は血形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK577 (図版28・44 写真図版56) 11R-8J2～4・8・9に位置し、P584を切る。IV層上面で検出され、長軸はN-56°-Eを指向する。規模は上端で長さ267cm×幅250cm、確認面からの深さは29cmで、平面形は不整形、断面は血形を呈する。覆土は6層に分かれる。土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器がまぎって出土している。

SK597 (図版28・44 写真図版56) 11S-8B7・8に位置し、IV層で検出される。長軸はN-90°-Eである。遺構の規模は上端で長さ55cm、幅48cm、確認面からの深さは13cmで、平面形は円形、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK601 (図版28・44 写真図版56) 11S-7B22・23、11S-8B2・3に位置し、IV層上面で検出される。長軸はN-47°-Eである。規模は上端で長さ210cm×幅194cm、確認面からの深さは25cmで、平面形は円形、断面は血形を呈する。覆土は5層に分かれる。軽石が出土している。

SK681 (図版30・44 写真図版57) 11R-4I21に位置し、IV層上面で検出される。長軸はN-75°-Eである。規模は上端で長さ78cm×幅76cm、確認面からの深さは24cmで、平面形は円形、断面は台形を呈する。覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。

SK682 (図版30・44 写真図版57) 11R-4I21・22に位置し、IV層上面で検出される。長軸はN-53°-Wを向く。規模は上端で長さ80cm×幅52cm、確認面からの深さは36cmで、平面形は不整形、断面は箱形を呈する。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SK799 (図版27・44 写真図版57) 11S-6F4に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-57°-Eを向く。規模は上端で長さ49cm×幅33cm、確認面からの深さは22cmで、平面形は楕円形、断面は階段状を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SK899 (図版26・44 写真図版57) 11S-2H7に位置し、IV層上面で検出される。長軸はN-60°-Wを向く。規模は上端で長さ46cm×幅32cm、確認面からの深さは20cmで、平面形は楕円形、断面は不整形円形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

f) 性格不明遺構 (SX)

SX26 (図版29・45 写真図版58) 11R-10F12に位置し、SX144を切り、SD21に切られている。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ推定96cm×幅推定74cm、確認面からの深さは12cmで、平面形は不明、断面は血形を呈する。覆土は単層である。土師器が出土している。

SX58 (図版29・45 写真図版57) 11R-8I24・25、11R-9I4・5に位置し、SD30に切られる。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ200cmあるが、SD30の擾乱により、幅は不明である。確認面からの深さは13cmで、平面形は不明、断面は血形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SX106 (図版29・45 写真図版58) 11R-8I4・9に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-0°である。規模は上端で長さ94cm×幅39cm、確認面からの深さは12cmで、平面形は不整形、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX118 (図版29・45 写真図版58) 11R-7H24・25、11R-8H5に位置し、SX119を切る。検出面はIV層上面である。長軸はN-53°-Wを向く。遺構の規模は上端で長さ90cm×幅69cm、確認面からの深さは50cmで、平面形は不整形、断面は台形を呈する。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。

SX119 (図版29・45 写真図版58) 11R-7H25に位置し、SX118に切られる。検出面はIV層上面で、長軸はN-42°-Eを指向する。SX118の擾乱により、正確な規模は不明ながら、幅は上端で36cm、確認面からの深さは10cmある。平面形は不明、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX144 (図版29・45 写真図版58・59) 11R-10F11・12・16・17に位置し、SX26、P27、P60、P61に切られる。検出面はIV層上面で、長軸はN-44°-Wを向く。規模は上端で長さ210cm×幅176cm、確認面からの深さは

20cmで、平面形は円形、断面は血形を呈する。覆土は単層で、土師器、須恵器が出土している。

SX327 (図版30・45 写真図版59) 11R-4G17・18に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-35°-Eである。規模は上端で長さ63cm×幅32cm、確認面からの深さは6cmで、平面形は不整形、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX328 (図版30・45 写真図版59) 11R-4G20に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-15°-Eである。規模は上端で長さ108cm×幅102cm、確認面からの深さは14cmで、平面形は不整形、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX550 (図版29・45 写真図版59) 11R-8J18に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-50°-Wである。規模は上端で長さ79cm×幅30cm、確認面からの深さは11cmで、平面形は不整形、断面は緩いV字形を呈する。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SX693 (図版30・45 写真図版60) 11R-4H22・23、11R-5G2・3に位置し、SD133に切られる。検出面はIV層上面で、長さはSD133の攪乱により測定不能だが、幅は上端で69cm、確認面からの深さは30cmある。平面形は不明、断面はV字形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SX694 (図版30・38 写真図版42) 11R-4H11・16に位置し、SD268に切られる。検出面はIV層上面で、長軸はN-54°-Eを向く。長さはSD268の攪乱により不明、幅は上端で84cm、確認面からの深さは4cmで、平面形は不明、断面は血形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX743 (図版27・45 写真図版60) 11S-5F19・24に位置し、SX742を切り、P744に切られる。検出面はIV層上面で、長軸はN-28°-Eを向く。規模は上端で長さ90cm×幅43cm、確認面からの深さは11cmで、平面形は長円形、断面は不整形半円形を呈する。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX807 (図版26・39 写真図版60) 11S-3G16・17に位置し、SD775に含まれる。検出面はIV層上面である。長軸はN-20°-Wである。規模は上端で長さ81cm×幅55cm、確認面からの深さは23cmで、平面形は楕円形、断面は血形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

g) ビ ッ ト (P)

掲載遺物が出土しているビットについて、記載した。

P70 (図版29・45 写真図版60) 11R-8I19・20に位置する。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ52cm×幅40cm、確認面からの深さは23cm、平・断面とも不整形を呈す。柱穴と思われるが判然としない。土師器、須恵器が出土している。

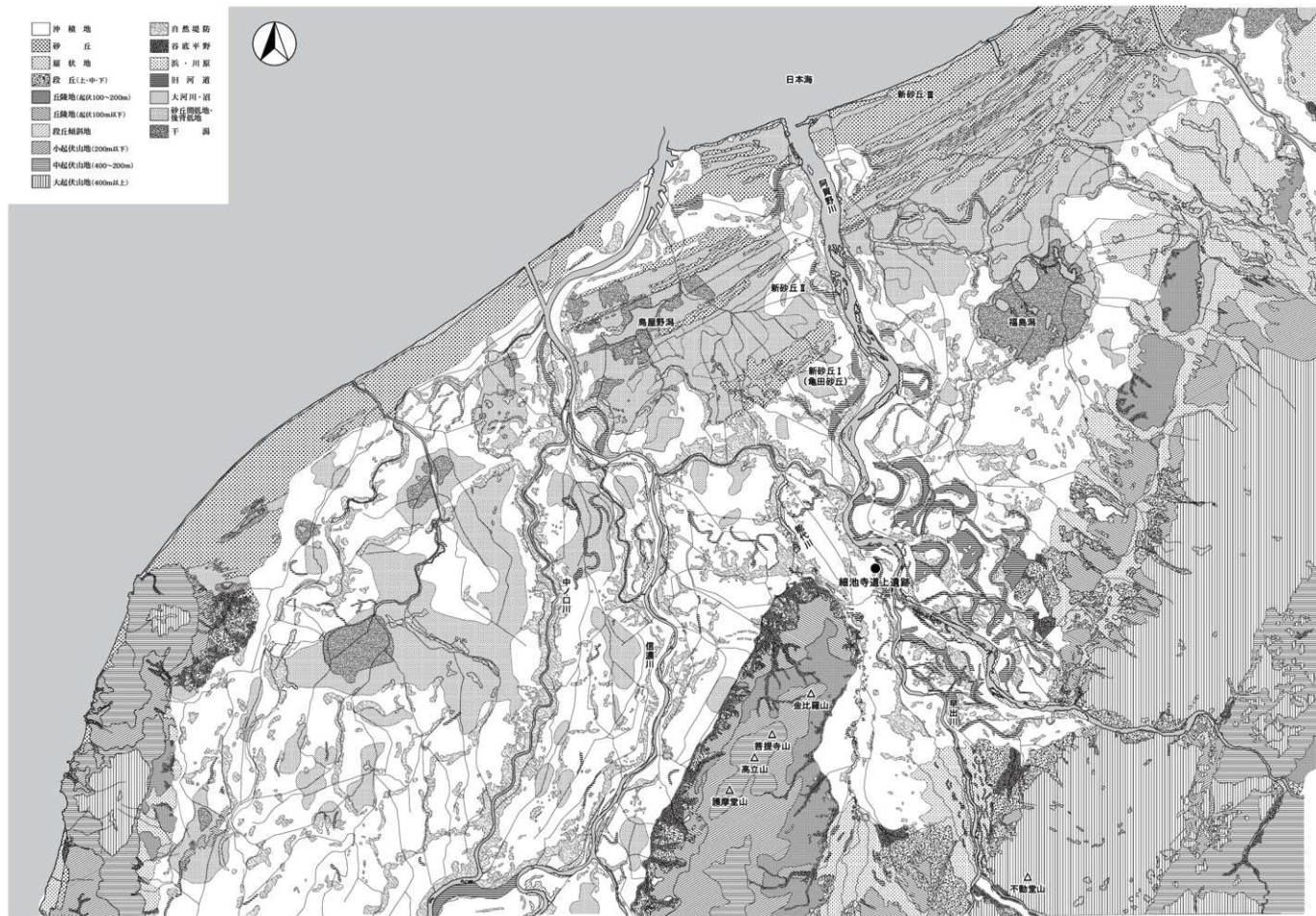
P229 (図版31・45 写真図版60) 11R-6F5に位置する。検出面はIV層上面である。長軸はN-70°-Wを向く。規模は上端で長さ46cm×幅34cm、確認面からの深さは31cmで、平面形は不整形、断面は台形を呈する。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

P421 (図版31・45 写真図版60) 11R-6D19に位置する。検出面はIV層上面である。遺構の規模は上端で長さ37cm、幅31cm、確認面からの深さは44cm。平面形は円形で、断面はU字形を呈す形状から柱穴であろう。遺物は出土していない。

P581 (図版28・45 写真図版61) 11S-8A17に位置し、P572に切られる。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ24cm×幅18cm、平面形は円形で、断面はU字形を呈す。深さは6cm。土師器が出土している。

P584 (図版28・44 写真図版61) 11R-8J3・8に位置し、SK577に切られる。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ65cm×幅40cm、深さは16cm。平面形は不整形な楕円形、断面は血形である。土師器、黒色土器等が出土している。

P692 (図版30・45 写真図版61) 11R-5I4に位置する。検出面はIV層上面である。規模は上端で長さ28cm×幅25cm、確認面からの深さは42cm。平面形は円形で、断面はU字形を呈す。形状から柱穴であろう。鉄製品が出土している。



第1図 新潟市周辺地形分類図

国土院発行『2万5千分の1土地条件図 新潟・長野・群馬・山梨』をもとに作成

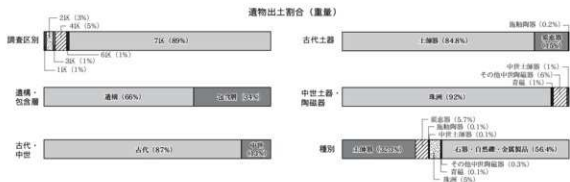
第V章 遺 物

第1節 概 要

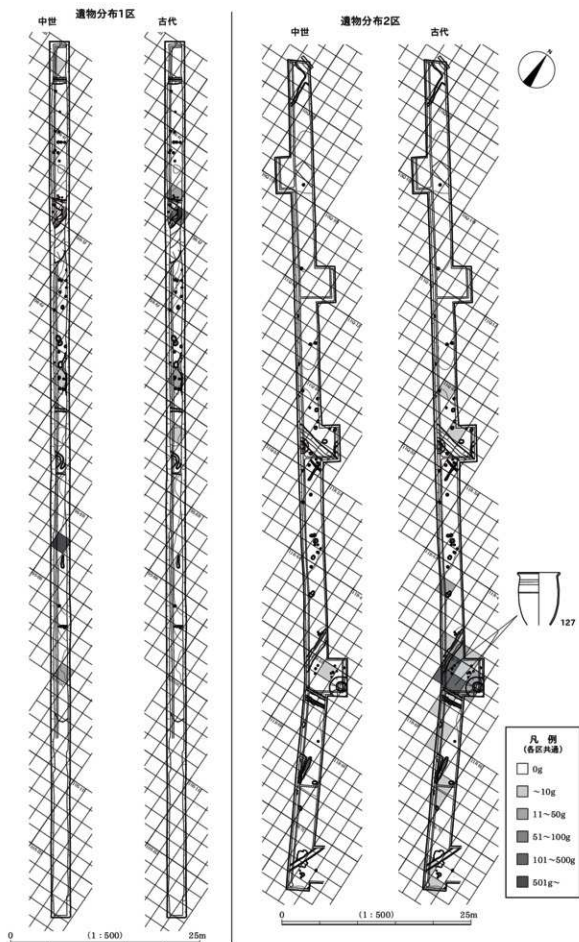
今次調査では、平安時代と鎌倉・室町時代の遺物が出土している。遺物出土総量はコンテナ（内法54.5×33.6×10.0cm）約118箱である。重量別内訳は第8表に示した。遺構出土が77,045.5g（66%）、包含層出土遺物は40,180.7g（34%）である。調査区別の出土量では、7区が104,838.5g（89%）で他区を圧倒する。5区は遺構の検出は無いが、包含層中より土師器32.90gが出土している。小片のため実測図は掲載していない。時期別では古代44,565.8g（87%）に対し中世6,456.1g（13%）、遺物種別では古代の土師器37,781.7g（32.3%）、須恵器6,784.1g（5.7%）、施釉陶器77.5g（0.1%）、中世土師器73.2g（0.1%）、珠洲焼5,962.5g（5%）、青磁44.7g（0.1%）、その他中世陶磁器383.9g（0.3%）、金属製品・石器・搬入鏝等66,118.6g（56.4%）である（第7図）。

第8表 調査区別遺物出土状況（重量別）

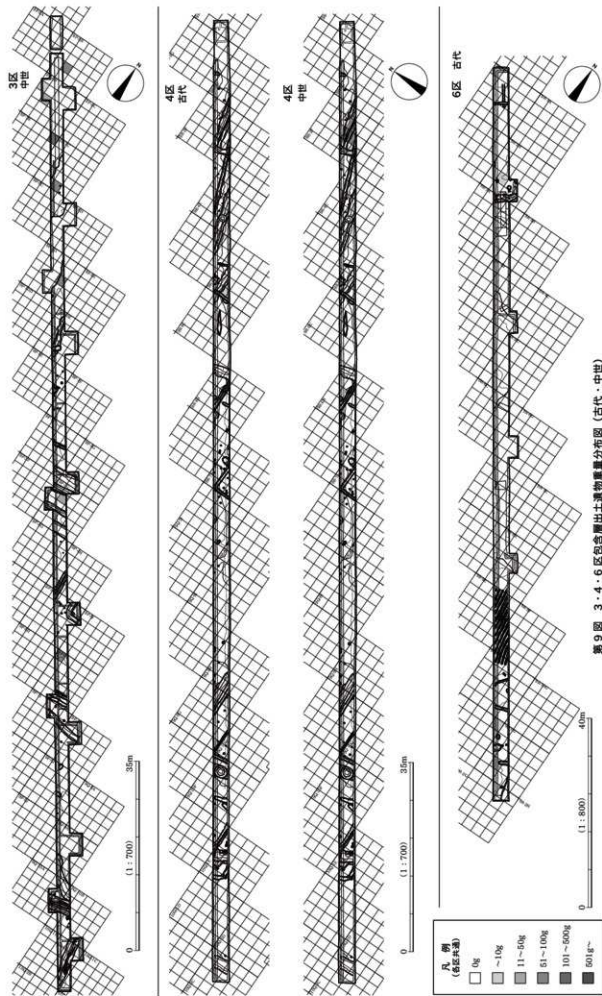
									単位：g	
		土師器	須恵器	施釉陶器	中世土師器	珠洲	青磁	その他中世陶磁器	その他遺物	合計
遺構	1K									
	2K	255.00							9.20	264.20
	3K	0.50				299.50		88.50		388.50
	4K	323.40	487.10		31.80	1,658.00		5.60	3,673.10	6,179.00
	5K									
	6K	30.70							41.50	72.20
	7区	15,733.00	3,280.20	74.50	34.50	2,534.40	4.00	213.00	48,168.00	70,141.60
合計	16,342.60	3,867.30	74.50	66.30	4,491.90	4.00	307.10	51,891.80	77,045.50	
包含層	1K	126.40				584.60	32.50	5.00		748.50
	2K	2,571.70	226.10		6.90					2,804.70
	3K	7.50				419.80		68.80	109.60	605.70
	4K	22.50				63.60			6.00	92.10
	5K	32.90								32.90
	6K	55.10						3.00	728.00	786.10
	7区	18,623.00	2,690.70	3.0		402.60	8.2		13,283.20	35,110.70
合計	21,439.10	2,916.80	3.0	6.90	1,470.60	40.70	76.80	14,226.80	40,180.70	
総計	37,781.70	6,784.10	77.50	73.20	5,962.50	44.70	383.90	66,118.60	117,226.20	
		古代合計 44,565.80			中世合計 6,464.30					



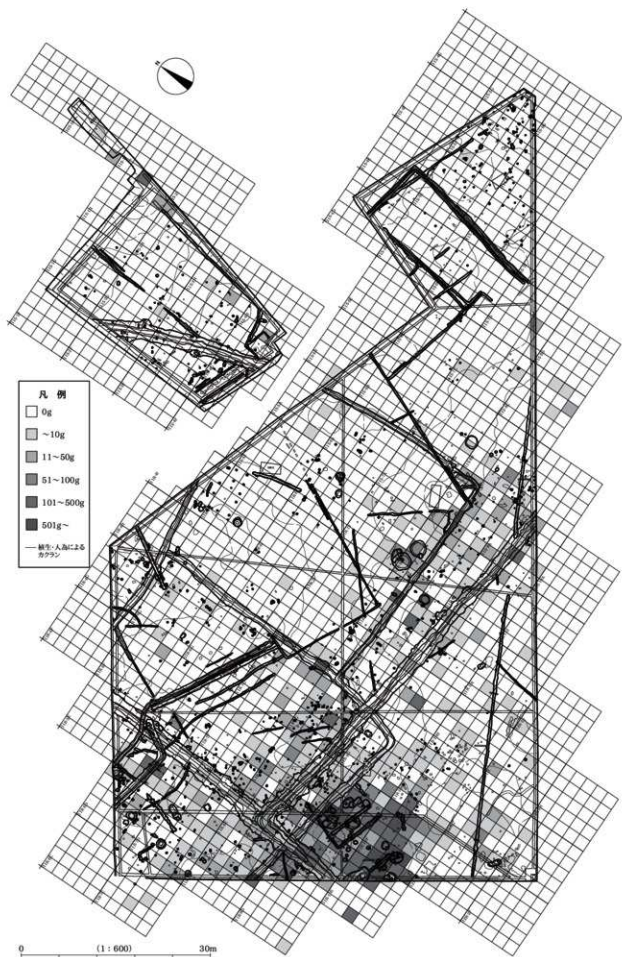
第7図 遺物出土割合



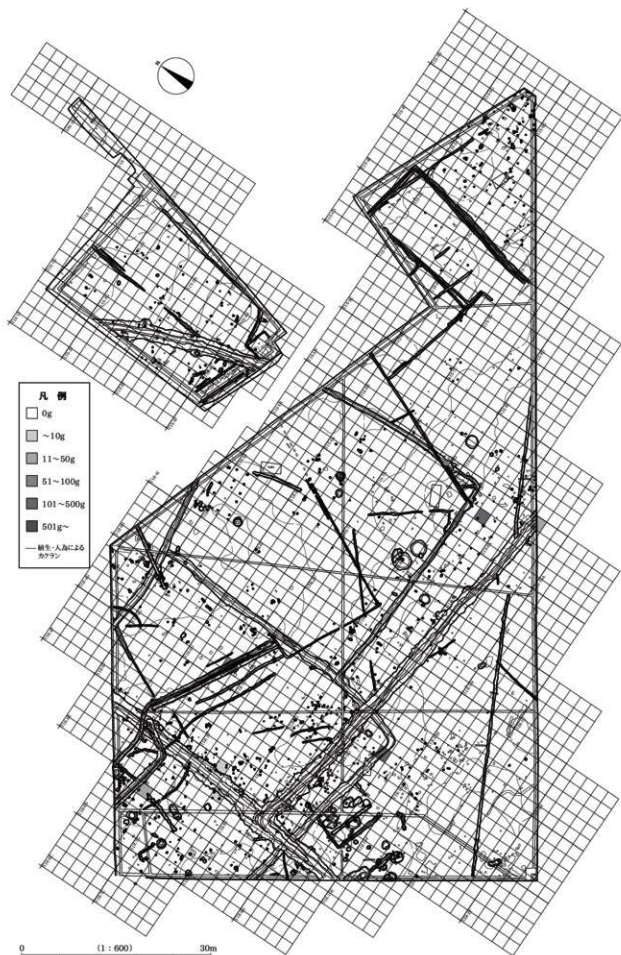
第8图 1・2区包含層出土遺物重量分布图(古代・中世)



第9图 3・4・6区包含層出土遺物量分布图 (古代・中世)



第10図 5・7区包含層出土遺物重量分布図(古代)



第11図 5・7区包含層出土遺物重量分布図(中世)

第2節 土器・陶磁器

A 出土状況 (図版第8～11図)

1) 古代

包含層出土遺物を須恵器・土師器に分け、小グリッド別に重量集計したものを第8～11図に示す。1・3～6区は遺物量が少ないため分布傾向をしえない。2区は大グリッド11R-5Bを中心に遺物が偏在する。7区については、層序の項でも言及したとおり包含層が複雑されているため、本図が必ずしも本来の遺物分布傾向にあるとは限らないが、分布の傾向としては、大グリッド11R-9E、11R-9F、11R-10E、11R-10F周辺に集中する。

接合については、遺構間と遺構・包含層、包含層間での接合を試み、43例の接合関係が確認された。詳細は図版60に示す。

2) 中世

1～7区総計で6,464.3g出土しており、1区、3区、7区での出土が目立つ。器種は珠洲焼が大半を占めている。包含層出土遺物の小グリッド別分布状況は第8～11図に示したが、出土数が少ないため、分布の傾向を見出すことは出来ない。遺構では、7区SD108、SD133、SE704等でまとまった出土がある。

接合については、遺構同士、遺構・包含層間で合計5例の接合関係が確認された。詳細は図版60に示す。

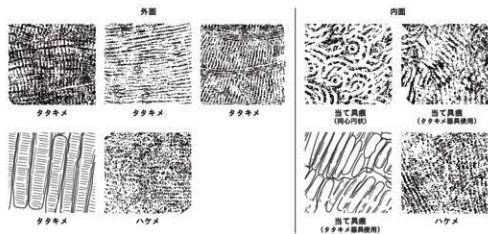
B 古代の土器

記述で使用する主な用語および器種について、以下のとおり規定・分類する。

1) 成形・調整

成形・調整技法は器種を問わず北陸地方の一般的な須恵器製作技法によりなされている。齊一性が高いため、以下に示しておく。なお、貯蔵具に見られるタタキメ、当て具痕は、第12図および写真図版73・74に具体例を示した。呼称については、〔内堀1988〕・〔柿田2001〕に基づく。

- 1: ロクロ・回転台を使った撫でを「ロクロナデ」、ロクロ・回転台を使わない撫でを「ナデ」とする。
- 2: ロクロ・回転台を使った削りを「ロクロケズリ」、ロクロ・回転台を使わない削りを「ケズリ」とする。
- 3: ロクロ・回転台を使ったハケ目を「カキメ」、ロクロ・回転台を使わないハケ目を「ハケメ」とする。
- 4: ロクロ・回転台等を使った磨きを「ロクロミガキ」、ロクロ・回転台を使わず磨いたものを「ミガキ」とする。
- 5: 土器の外面に残る叩きの痕跡を「タタキメ」、内面に残る当て具の痕跡を「当て具痕」とする。
- 6: 底部切離しについて、糸によるものを「糸切り」、ヘラによるものを「ヘラ切り」とした。いずれもロク



第12図 須恵器のタタキメと当て具痕

口の回転を利用したものである。また、切離しの際ロクロ等の回転を伴わない場合は、「静止系切り」とした。

7：指の跡について、指先で押さえて圧をかけたと思われる場合はユビオサエ、それ以外は指頭痕とした。

2) 胎 土

肉眼観察の結果、質・混入物・色調等について共通するものをまとめ、類型化した。食膳具と貯蔵具に質の違いが見られる。須恵器（A・B類）については観察表に産地を記載してある。

a) 須 恵 器

A類：佐渡小泊産須恵器と思われる一群である。胎土の質と混入物の違いにより2分した。

A1：還元炎焼成され、灰色～青灰色を呈する。精良で白色小粒子を多く含み、黒色の斑点、吹き出しが見られる。食膳具に多い傾向がある。

A2：A1類と質を同じくするが、多量の石英・長石により砂質を呈するもの。貯蔵具に多い傾向がある。

B類：新津丘陵産と思われる須恵器群である。胎土は精良で粘土質が強く、石英・長石等の小粒子を含み、焼き上りは硬質感がある。須恵器長頸壺（137・140）2点のみの出土である。

b) 土 師 器

C類：酸化炎焼成で赤褐色系の色調を呈する。胎土はやや砂質であるが精良で、焼き上がりは硬質感がある。極小粒の角閃石を多く含むため、ざらつく触感がある。

D類：明褐色を呈する土師器である。非常に密で粘土質の胎土に特徴がある。混和材の量と大きさで2分した。

D1：酸化炎焼成で明褐色系の色調を呈する。胎土は精良で粒子は非常に細かく、粘性がある。混和材として石英・長石・雲母等を含むが、粒は極小で、量も少ない。強度は弱く、風化により粉っぽくなる。土師器無台碗に多く見られる。

D2：酸化炎焼成で明灰白色系を呈する。胎土・混和材の種類はD1類と同様だが、粒が大きく、量も多いため、ざらついた印象を受ける。比較的強度があり、風化もD1類ほど顕著でない。長甕・小甕等に多い傾向がある。

E類：D類より明るい色調で、焼成は良好、胎土も緻密で・堅緻な仕上げのグループである。胎土に含まれる砂の量で2分した。

E1：酸化炎焼成で灰褐色～明褐色系の色調を呈する。胎土は精良で粒子は細かい。D1類より焼き上がりは堅緻で、硬質感がある。

E2：酸化炎焼成で明褐色系の色調を呈する。E1類と同様の胎土だが、砂の量が多く、触感はざらつく。E1類には劣るが、焼き上がりは堅緻で硬質感がある。

F類：酸化炎焼成で褐色系の色調を呈するが、焼成はかなり不良で胎土も粗く、雲母・角閃石・焼土粒の混入が目立ち、ざらざらした質感で風化が進む。食膳具・煮炊具ともに見られる。

3) 器 種

出土した須恵器と土師器について、以下のとおり分類する。製作技法に斉性が高いため、主な成形・調整技法を一括で記載し、各説では補足を除いて成形・調整に関する記述を省略する。なお、文中で用いられる「成形」は器の形を作る行為を、「調整」は成形後のタタキ・ロクロナデ等を指す。

a) 須 恵 器 (第13図)

還元炎焼成された青灰色を呈する硬質な土器群であるが、一部酸化炎焼成され、土師器に近い質感となるものもある。多くは佐渡小泊窯より供給されるが、わずかに新津丘陵産も認められる。成形・調整技法は前項で述べたとおり北陸地方の技術系譜にある。6,784.1g (古代土器の約15%) 出土している。

食 膳 具

無台杯・有台杯がある。

無台・有台杯 製作技法は〔春日2001〕にもとづき記述する。ロクロ成形で内・外面はロクロナデ（内面底部は静止状態でのナデ）により調整される。底部の切離しはヘラ切りと回転糸切がある。有台杯は杯身の成形・調整後、底部に粘土紐を貼り付け、ケズリ・ナデ等で調整する。

貯蔵具

大甕と長頸甕があるが、破片等により判別しえない場合は、単に甕・甕とした。

甕・大甕 製作技法は〔望月2001〕に基づき記述する。粘土紐の巻き上げとタタキ調整の繰り返しにより成形される。外面は口縁部を除きほぼ全面にタタキメが残る例が多い。(139)のようにタタキメの上からヘラナデを行うものもある。内面は全面に当て具痕（同心円状と平行線状がある）が残る。口縁部はロクロナデのみで仕上げられる。

甕・長頸甕 製作技法の詳細は〔春日2001〕に従う。全てロクロによる成形で、内・外面ともロクロナデで調整される。底部にロクロケズリがなされる例(31・120)がある。高台は本体の調整後に粘土紐を貼り付けたものである。

b) 施釉陶器(第13図)

緑釉陶器と灰軸陶器がある。緑釉陶器は皿、灰軸陶器は皿と長頸瓶があるが、いずれも破片である。77.5g(古代土器の0.2%)出土している。

c) 土師器(第14図)

酸化炎焼成されたやや軟質の土器群で、37,781.7g(古代土器の約8%)出土している。須恵器と同様に北陸地方の須恵器技法を用いて製作されるため、成形・調整技法は共通する。食膳具と煮炊具に大別し、器種で細別される。

食膳具

無台椀・黒色土器無台椀・黒色土器皿がある。

無台椀 ロクロにより成形される。口縁・体部は内外面の調整はロクロナデ（内面底部のみ静止ナデ）によることが多いが、(153)のように体部下半から底部にかけてケズリ調整を行う例もある。底部の切離しはほとんどが回転糸切りである。形状と法量で細分している。

I類 体部が内彎気味に開くもの。法量（推定値含む）で細分される（第15図）。

I a類 口径14cm以上のもの。

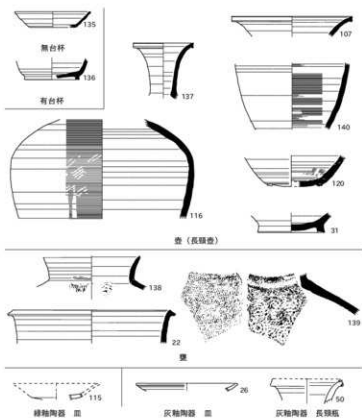
I b類 口径12～13.5cm程度、底径指数37～41、器高指数34～36程度のもの。

I c類 口径12～13.5cm程度で、器高指数が28～30のもの。

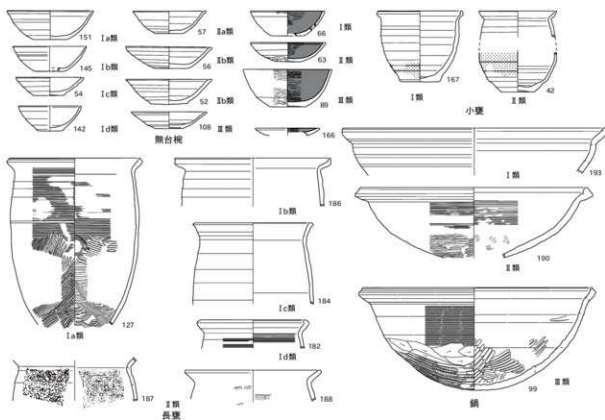
I d類 口径12cm以下で、底径指数45、器高指数40前後のもの。

II類 体部が内彎気味に開き口縁端部で短く外反するもの。法量（推定値含む）で細分される。

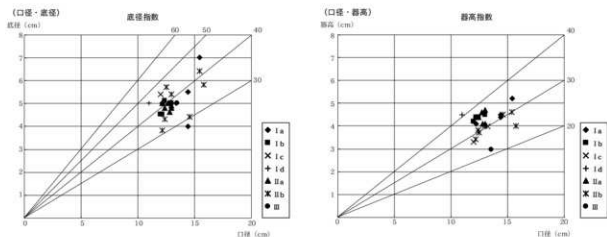
II a類 器高指数がおおむね32～36のもの。多くは口径12～13.5cmにおさまる。



第13図 主要器種分類図 須恵器・施釉陶器



第14図 主要器種分類図 土師器



第15図 土師器無台椀 分類別法量分布

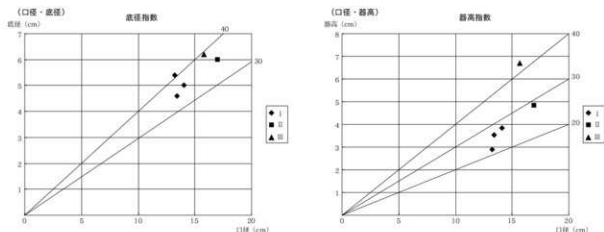
IIb類 器高指数31以下のもの。

III類 体部が直線的に開くもの。

黒色土器 無台椀 通常の成形・調整工程に加え、内面に炭素を吸着させ、ヘラミガキを施している無台椀である。ミガキは内・外面ともに施されるものと内面のみの場合がある。ミガキの方向は体部上半が横、下半および内面底部は横方向のものと、縦・斜め方向になるものがあり、後者は暗文状になる場合がある(64・67)。器壁は通常の無台椀より薄く、胎土もやや硬質なE1類が多い。法量(推定値含む)と形態で3分される(第16図)。

I類 口径12～14cm、推定含め底径指数31～33、器高指数32～34程度のもの。土師器無台椀Ib類に法量が近い。

II類 器高指数30以下の平たいもの。



第16図 黒色土器無台碗 分類別法量分布

Ⅲ類 仏鉢形を呈する深身のもの。

黒色土器皿 内面を黒色土器無台碗と同様な手法で黒色処理した土師器の皿である。口縁の一部が出土するにとどまる。

煮炊具

小甕、長甕、鍋がある。

小甕 ロクロ成形で、ロクロナデ以外に目立った調整は行われぬが、ロクロケズリ(173)、ユビオサエ(177)等の調整が残る例もある。多くは底部外面に回転系切痕が見られる。口径は推定を含むが13・14cmが主体だが、15.6cm(69)、7.8cm(113)等の個体も存在する。口縁部の形態で2分した。

Ⅰ類 受け口のもの。頸部の屈曲は緩い

Ⅱ類 緩く内彎しつつ開くもの

長甕 製作技法の考え方は(坂井1989)にもとづく。大きく須恵器製作技法を用いた北陸型長甕(坂井のいうB系)と、非ロクロ成形で体部がハケ調整されるハケ甕(坂井のいうA系)があり、前者が多数を占める。口径は推定値を含めると17～24cmが主体であるが、(90)のように28cmを超えるものもある。

製作技法および口縁部の形状で5分した。

Ⅰ類 北陸型長甕の技法で製作されるもの。

Ⅰa類 頸部が屈曲し、口縁端部は内彎しつつまみ上げられる

Ⅰb類 頸部の屈曲が強く、口縁端部は内彎しつつまみ上げられる

Ⅰc類 頸部の屈曲が弱く、口縁端部は外部につまみ出される

Ⅰd類 頸部が屈曲し、口縁端部が内彎する

Ⅱ類 非ロクロ成形で、器面をハケにより調整するもの。底部は平底を呈する(189)と思われる。8世紀代に多く、他の遺物と比べ古い遺物である。4固体(96、187～189)出土している。

鍋 長甕と同様に、口縁部にロクロナデ、胴部上半にカキメ、胴部下半から底部にかけてタタキメ、内面に当て具痕等の成形・調整痕が残り、北陸型長甕の製作技法を用いて作られている。7区のSK145から完形個体(99)が出土しており、成形・調整の過程が良くわかる。推定値を含むが、口径は37～40cm前後が標準である。容量は(99)が満杯状態で10.2ℓある。

口縁部の形状で3分した。

Ⅰ類 口縁端部がやや内彎するもの。頸部の屈曲は緩い傾向がある。

Ⅱ類 頸部が屈曲し、口縁端部が上方に伸びるもの。

Ⅲ類 口縁外部につまみ出し成形が見られるもの。頸部は直線的に開くことが多い。

C 中世の土器・陶磁器

1) 成型・調整および胎土

技法の名称は古代のものをそのまま用いるが、珠洲焼等のタタキメ・当て具痕・底部板目痕については、第17図にもとづき記述する。胎土については分類していないが、観察により産地が判明したものは、観察表等に記載した。

2) 器種分類 (第18図)

主な器種を第18図に示す。器種別の詳細は以下に記述する。成形・調整技法の斉一性が高いため、それらの説明は本節で一括して行い、各項目では補足を記述する。

青磁 椀と段皿がある。南宋同安窯と同龍泉窯産がある。蓮弁文・草花文が施される場合が多い。

珠洲焼 3区SD44、7区SD108、133等で多く出土する。甕、壺、播鉢に大別される。器種および成形・調整技法については〔吉岡1994〕にもとづく。

甕 大甕と甕に分かれるが、破片のため判別が困難な場合は単に「甕」とした。成形は粘土紐を巻上げてタタキにより形状を整える。口縁部はロクロナデ、体部外面にタタキメ、内面に当て具痕が残る。底部の外面には板目痕が残ることが多い。

壺 T種とR種に分かれるが、判別が困難な場合は単に「壺」とした。T種は底部と口端部がロクロ成形されるが、胴部は甕と同様粘土紐の巻上げである。調整の部位・手法もロクロ成形部を除き甕と同様である。R種はロクロ成形の甕で、器高は30cm以下の個体が多い。(21)のようにナデ調整を行うものもあるが、基本的には無調整である。

片口鉢・播鉢 注口部の確認できるものを片口鉢、確認できないものを播鉢とする。両者とも内面に鉾目を有する。粘土紐を積上げ成形し、ロクロで調整される。注口部の作出は手づくねにより、鉾目は櫛状の道具を用いて施される。外面底部には板目痕が残る。

珠洲系陶器 北越窯〔鶴巻1997〕等、珠洲焼の系統を汲むもので、成形・調整技法は共通するが、胎土が粗く、黒色を呈することが多い。四耳壺、甕、壺がある。

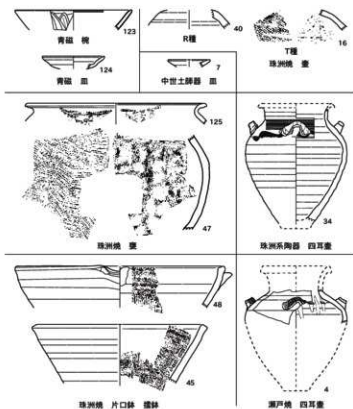
越前焼 甕の胴部破片が1点(133)出土している。

瀬戸焼 四耳壺が1点(4)出土している。

中世土師器 皿がある。



第17図 珠洲焼の調整痕



第18図 中世土器・陶磁器 主要器種分類表

があるが、基本的には無調整である。

D 遺物各説

以下、古代・中世の土器・陶磁器について記述する。掲載した遺物は、完形およびある程度形状が推定・復元できるものを対象とし、微細な破片等は除外したが、遺構の性格を示すような遺物は、破片であっても図示している。また、複数の遺構出土した遺物が接合した場合、最も破片の大きい遺物が出土した遺構を帰属遺構とした。帰属遺構は、図版と観察表で太字で示してある。

遺構出土遺物は、掲載遺物を中心に言及する。個々の遺物の詳細および遺構別の出土状況については、観察表・集計表および図面・写真をあわせて参照していただきたい。

1) 遺構出土遺物

2 区

SD9 (図版 46 写真図版 64) 5層から珠洲系陶器の鉢(1)が出土している。底部の破片で、卸目等は確認できない。外面底部には板目痕が残る。

3 区

SD4 (図版 46 写真図版 64) (3) は1層出土の珠洲焼の片口鉢で、体部の破片である。

SD20 (図版 46 写真図版 64) (2) は珠洲焼の擂鉢で、1層から出土している。口縁から体部上半にかけて残存する。内面に卸目がある。

SD44 (図版 46 写真図版 64) (4) は1層出土の古瀬戸の四耳壺で、肩部の破片である。耳部は帯状の胎土の貼り付け、両端部をへうでナデ付けている。表面は柳描文により加飾される。内・外面には自然釉が附着する。

SD84 (図版 46 写真図版 64) (5) は珠洲焼の甕の胴部破片で、4層から出土している。

4 区

SD5 (図版 46 写真図版 64) (6) は1層出土の青磁碗の破片で、同安窯産と思われる。内面には柳描きによる草花文の一部が見られる。

SD11 (図版 46 写真図版 64) 5層出土の珠洲焼擂鉢の底部破片(8)を図示した。底部の切離しは静止糸切による。

SD22 (図版 46 写真図版 64) (7) は6層出土の中世土師器の皿で、口縁部破片のみの残存である。推定口径は約7cmと小さい。

SD36 (図版 46 写真図版 64) (9) は珠洲焼の甕で、9層の出土である。図示資料は胴部の破片である。

SD74 (図版 46 写真図版 64) (16) は珠洲焼の壺T種の胴部破片で2層出土、(10) は珠洲系陶器の甕の胴部破片で5層出土である。

SD83 (図版 46 写真図版 64) (13) は1層出土の珠洲系陶器甕の頸部破片である。外面にタタキメ、内面には当て具痕が残る。

SD88 (図版 46 写真図版 64) (14) は珠洲焼の擂鉢で、2層の出土である。図示資料は体部の破片である。内面に卸目が残る。

SD91 (図版 46 写真図版 64) (15) は珠洲系陶器の壺T種で、3層の出土である。胴部の破片のみの残存である。

SK7 (図版 46 写真図版 64) (11) は中世土師器の皿の底部破片で、1層から出土している。底径は推定9.6cm、外面には糸切痕が残る。内面は被熱している。

SK68 (図版 46 写真図版 64) (12) は珠洲焼の擂鉢で、2層からの出土である。胴部下半から底部にかけて残存し、底径は13.4cmある。内面には卸目が残るほか、コゲが附着している。底部の切離しは静止糸切による。内面にコゲ、外面にスガが附着する。

7 区

SD2 (図版 46 写真図版 64) (17)・(18) は土師器の鍋で、(17) は2・4層の接合品で口縁の破片、(18) は3層出土で口縁から体部の破片である。器形は両者ともⅢ類、胎土は両者ともE2類である。

SD21 (図版46 写真図版64) (19) は1層出土の須恵器大甕の胴部破片である。外面に格子状タタキ目、内面に同心円の当て具痕が残る。胎土はA2類で、小泊産である。

SD30 (図版46・47 写真図版64) (22) は須恵器大甕の口縁部破片で、1～3層出土品の接合固体である。胎土はA2類で、小泊産と思われる。(20)・(29) は須恵器大甕の胴部破片で、(29) はSD47の4層出土資料と接合する。両者とも胎土はA2類で、産地は小泊である。外面にタタキ目、内面は当て具痕(同心円・平行線状)が残る。(25) は緑軸陶器の皿で、2・3層およびSD47間で接合した口縁部の破片である。釉色は10Y6/2(灰オーリーブ)を呈する。

(21) は珠洲系壺R種の底部破片で、1層と3層間で接合する。外面底部には板目痕が認められる。

SD47 (図版46 写真図版64) (23)・(24) は土師器無台椀である。(23) は1層出土で底部が完存し、外面に右方向の回転糸切痕が残る。胎土はC類である。(24) は口縁部の破片で、2・3層間で接合する。胎土はC類である。(26) は灰軸陶器の皿で、2・3層間で接合する。残存は口縁部のみ、推定口径は16.4cmある。

(27)・(28) は珠洲焼甕の胴部破片である。

SD93 (図版47 写真図版65) (37) は土師器の鍋で、SK140の1層、SX17・26の1層出土資料と接合する。口縁部の1/6程度が残存する破片で、推定口径は約42cmとなる。器形はII類で口縁部外面は肥厚し、口端部は上方につまみ上げられる。E1類の胎土である。

SD108 (図版47 写真図版65) (30) は3層出土の須恵器無台杯である。残存は底部のみで、ヘラ切り痕が残る。胎土はA1類で、産地は小泊である。(31) は5層出土の須恵器長頸壺で、底部のみの残存である。高台は外面端部接地型で、底部にはケズリ痕が残る。胎土はA2類で、小泊産である。(32) は土師器無台椀で、出土層位は1層である。内面と口縁部外面にかけてスガが付着している。器形はIa類、胎土はD1類で、底部外面に糸切痕が残るが、劣化が激しく回転方向は不明である。(33) は3層出土の土師器の小甕で、胴部下半底部のみの残存である。底部に右回転で切離した糸切痕が残る。胎土はD2類である。

(34) は珠洲系陶器の四耳壺の肩から胴部上半にわたる破片で、1層から出土している。胎土から北越窯産と思われる。胴部は上半の1/4程度が残存し、外面には波状の櫛描文が施される。耳は粘土紐の貼り付け、両端をヘラでナデつけて作出される。(35) は珠洲焼の有耳壺で、5層からの出土である。肩部の破片と思われる。(36) は1層出土の珠洲焼甕の胴部破片である。

SD133 (図版47 写真図版65) 珠洲焼甕(39)、壺R種(40)、播鉢(38)が出土している。(40) は肩部、(39) は胴部下半で内面に漆状物質が付着する。(38) は1層出土の口縁～体部上半にかけての破片である。内面にはスガが付着する。

SD363 (図版47 写真図版65) (41) は1層出土の土師器の鍋で、口縁から体部上半の破片である。胎土はD2類、器形はII類で、口縁の外面が肥厚し、口端部は上方につまみ上げられる。

SD775 (図版47 写真図版65) (42) は土師器の小甕で、1層の出土である。口縁部から胴部が部分的に残存、底部は完存する。胎土はE2類である。器形はII類で、口縁部は外面に稜を有するが、おおむね直線的に開く。底部外面には左回転の糸切が残る。外面にスガが付着する。

SE677 (図版48 写真図版65) (43) は青磁の椀で、12層から出土している。口縁部の破片で、口端部は緩い波状を呈し(いわゆる輪花状口縁)、体部には蓮弁文が施される。龍泉窯の製品と思われる。(44) は2層出土の珠洲焼甕の胴部破片である。(45) は13層出土の珠洲焼すり鉢の体部破片で、SE704の1層出土資料と接合する。内面に鉋目が残る。

SE704 (図版48 写真図版65) 珠洲焼が出土している。(46)・(47) は甕で、いずれも胴部破片である。(49) は播鉢で5層から出土し、SD133の4・6層出土破片と接合する。外面底部に板目痕が残る。(48) は4層出土の片口鉢である。両資料とも内面にコゲが付着する。

SK1 (図版48 写真図版66) (50) は1層出土の灰軸陶器の長頸瓶である。口縁部の破片で、口端部を欠損して

いる。欠損部位は剝離痕に近似し、意図的な打ち欠きの可能性がある。軸が外面にかかる。

SK20 (図版 48 写真図版 66) (51) は土師器の無台椀で、底部の破片である。1層から出土している。胎土は E2 類である。底部外面には右方向の回転糸切痕が残る。外面にススが附着する。

SK34 (図版 48 写真図版 66) 土師器の無台椀 (52) が出土している。2～4層出土の破片から接合したものである。器形は II b 類、胎土は C 類である。底部には右方向の回転糸切痕が残り、内・外面に黒斑が附着している。

SK56 (図版 48・49 写真図版 66) 土師器無台椀 (53～62)、黒色土器無台椀 (63～68)、土師器小甕 (69)、鍋 (70、71、72) 等が出土している。土師器無台椀 (53～62) は、それぞれ 1～3 層から出土する。器形は (53) が I a 類、(58)・(60) が I b 類、(54)・(59) が I c 類、(57) が II a 類、(56) が II b 類、(55)・(61)・(62) が II 類 (欠損により細分不可) である。胎土は (54)・(56) が C 類、(57)・(58)・(59)・(60)・(62) が E1 類、(53)・(55)・(56)・(61) が E2 類である。底部の切り離しはいずれも回転糸切である。(55) と (58) の外面にスス、(54) の内面に重ね焼痕が残る。

黒色土器は 6 点掲載した。いずれも無台椀である。出土層位は (65) が 1・2 層の接合、それ以外は 1 層である。成形・調整技法は土師器無台椀と共通する。(64)、(65)、(68) は外面底部付近をヘラケズリしている。内面のミガキはいずれの個体にも見られ、体部の上半は横方向、下半を縦もしくは斜め方向に整然と研磨しているが、暗文のように図案化したものはない。器形は (66)・(67) が I 類、(63)・(65) が II 類である。胎土は (63)～(65)、(67) が C 類、(66)、(68) が D1 類である。(64) の外面にはタール状の物質が附着している。

小甕 (69) は 1 層出土の口縁部の破片で、器形は I 類、胎土は F 類である。

鍋 (70～72) は 1 層出土で、いずれも口縁部破片で外面にススが附着する。器形は (70) が I 類、(71)・(72) が II 類で、胎土は (70)・(71) が C 類、(72) が E2 類である。

SK68 (図版 49 写真図版 66) 土師器無台椀 3 点 (73～75)、鍋 1 点 (76) を図示した。無台椀は 3 点とも 1 層出土で、器形は (73)・(74) が II a 類、胎土は E1 類である。体部内外面がナデ調整、底部は糸切である。(73) の内面にコゲ、外面にススが附着する。(73)・(75) は部分的な残存だが、(74) は略完形である。鍋 (76) は口縁から体部の約 2/3 が残存する。推定口径は 39.2cm で、器形は I 類、胎土は E2 類である。外面にススが附着する。

SK69 (図版 49 写真図版 66) 1 層より出土した土師器無台椀 2 点を図示した。(77) は口縁部が一部残存し、底部が完存する。器形は II a 類、胎土は E1 類である。(78) は口縁部から体部にかけての破片で、器形は II 類、胎土は D1 類である。両者とも体部内外面はロクロナデで調整される。底部には右方向の回転糸切痕が残る。

SK77 (図版 49 写真図版 66) (79) は 2 層出土の土師器無台椀である。底部の破片で、底部には右方向の回転糸切痕が残る。胎土は D1 類である。

SK92 (図版 49 写真図版 66) (80) は須恵器の無台杯、(81) は土師器無台椀である。ともに 1 層出土で、前者は口縁部破片で胎土 A1 (小迫)、後者は底部の破片で、胎土は D1 類である。

SK97 (図版 49 写真図版 66) (82) は須恵器の大甕の口縁部破片で、2 層より出土したものである。胎土は A2 類で、産地は小泊である。口端部が突出し、面をなす。

SK116 (図版 50 写真図版 67) (83)～(87) は土師器無台椀で、いずれも 2 層の出土である。(83) は器形 I a 類で体部がやや内彎気味に立ち上がり、口縁部付近でさらに 1 段外側に開く。器の厚さは薄い。胎土は E1 類で、底部には右方向の回転糸切痕が残る。(85)～(87) は体部下半～底部のみ残存する個体で、いずれも外面に回転糸切痕が観察できる。胎土は (86)・(87) が D1 類、(85) が E1 類である。(84) は口縁から体部にかけての破片で、胎土は E1 類である。(88) は鍋で、2・3 層および包含層で接合する。口縁から体部上半の破片である。胎土は E2 類である。

SK140 (図版 50 写真図版 67) (89) は 1・3 層出土の破片を接合した黒色土器の無台椀であるが、内面への炭素の吸着量は、少ない。器形は III 類、胎土は E1 類で、口縁部が欠損するが、体部下半と底部はほぼ完存している。ミガキ調整は内・外面に施される。方向は横が主体だが、内面底部に限り縦方向のものが見られる。底部は

切離し後、右回転のヘラナデにより、糸切り痕を消しているが、この際、底部周辺にもヘラナデ調整を施している。推定値であるが、口縁径は15.8cm、器高指数は42.4、底径指数が39.2と通常の土師器無台碗より法量大きい。

(90)は長甕の口縁部から胴部の破片である。出土層位は1層、器形はIb類で、胎土はD2類である。頸部は「く」の字状に外反し、口端部は弱いつまみ上げが見られる。

SK141 (図版50 写真図版67) 1層出土の土師器無台碗(91)を図示した。口縁の破片で胎土はD1類である。体部は内彎気味に立ち上がる(器形I類)。

SK145 (図版50・51 写真図版67) (92)～(94)は土師器の無台碗で1層からの出土である。(92)は口縁から底部にかけての破片、(93)・(94)は底部の破片である。(92)・(94)の外底部には右方向の回転糸切痕が見られるが、(93)の底部外面はナデ調整により糸切痕が消失している。器形は(92)がIIb類、胎土はいずれもD1類である。(95)・(99)は土師器の鍋で、器形は両者ともII類に分類される。(95)は1層出土、胎土D2類の口縁部破片、(99)は1層下部から逆位で出土した完存体の接合品で、容量は満杯状態で10.2ℓある。口径が39.6cm、器高は17.3cmある。胎土はE1類である。潰れた状態で検出されたが、土圧で圧壊したものである。口縁から体部上半にかけてはロクロナデとカキメ、外面体部下半から底部にかけてはタタキ調整を施す。底部中位には横方向のケズリ痕が残り、ケズリはタタキの後に行われている。内面は口縁から胴部中位にかけてはナデ、胴部下半から底部にかけては当て具痕が残る。胴部中位のナデは当て具痕を切る。底部はタタキ出しにより作出される。使い込まれた鍋で、外面は体部上半を中心にススが付着し、被熱による赤化と剥落も見られる。外面に部分的に見られるタタキメの磨耗は、五徳等支脚の跡であろうか、内面にはコゲ跡が広がる。

SK202 (図版50 写真図版67) (96)は土師器の長甕で、胴部下半の破片である。出土層位は1層、胎土はC類である。器形はII類、器面調整が内外面ともハケを用いる「ハケ甕」である。内面が縦、外面が横方向にハケ目が残る。

SK442 (図版50 写真図版67) (97)は1層出土の土師器小甕で、口縁部破片である。胎土はC類で、推定口径は12.8cm、弱いロクロナデによる調整が残る。

SK575 (図版50・52 写真図版67) (100)～(104)は土師器無台碗である。無台碗(100)・(101)は口縁の一部の残存だが、底部は完存する。調整は内外面ともナデによる。(100)は器形Ib類、胎土E1類で、内面にススが少量付着し、底部には回転糸切痕が残る。(101)は器形IIb類、胎土はF類、糸切は右回転である。(102)は2層出土で、口縁部から底部にかけての破片である。ロクロの成形痕が顕著で、器厚は比較的厚い(5mm前後)。器形はIIb類、胎土はC類で、推定値であるが器高指数30.6、底径指数34.6と、やや平べったい形状をしている。底部には右方向の回転糸切痕が残る、外面にはススが付着している。無台碗(103)・(104)は共に2層出土の口縁部破片で、後者はSK577出土破片と接合する。(103:器形II類、胎土C類)の調整はナデだが、(104:器形Ia類、胎土E1類)は内面全体に横方向のヘラミガキが施される黒色土器の技法が用いられている。(105)は2層出土の黒色土器無台碗で、口縁から体部下半にかけての破片である。内面を黒色処理後、横方向にミガキを施してある。器形はI類、胎土はC類である。(98)は土師器の鍋で、1層から出土している。口縁から体部にかけての破片で、口縁部が外側に肥厚し、口端部は上方つまみ上げられる。器形はII類、胎土はC類で、体部はケズリにより調整される。

SK577 (図版52 写真図版67) (106)・(107)は須恵器の長頸壺で、(106)は底部の破片で5層出土、(107)は口縁部で2層出土である。胎土は(106)がA1類、(107)がA2類で、両者とも小泊産と思われる。(107)の口縁外面は肥厚し、口端部はつまみ上げられる。(114)は2・3層出土の大甕の胴部破片である。A2類の胎土で、小泊産と思われる。(108)～(111)は土師器の無台碗であるが、(108)以外はいずれも小破片で、それぞれ1～3層から出土した。(108)(2・3層接合)は器形III類で、口径に比し底径が小さく器高が低い、皿に近い形態である。胎土はF類でやや粗い。糸切の回転方向は右である。外面にススの付着が見られる。(109)・(110)は体部が緩やかに内彎する器形II類だが、(110)は立ち上がりがつきつ、やや深身となる。両者とも胎土はC

類である。(111)は底部破片で、回転糸切後、ケズリによる仕上を行っている。胎土はE1類である。(112)は1層出土の黒色土器無台碗の底部破片である。内面にミガキが残る。胎土はC類で、ロクロからの切離しは糸切りによる。回転方向は右である。(113)は1層出土の小甕の口縁部破片である。推定口径が7.8cmと、かなり小さい。器形はII類、胎土はF類である。(115)は緑釉陶器の皿と思われるが、小片のため判然としない。出土層位は3層である。釉の厚さごく薄く、土色は7.5YR7/2(灰白色)を呈すが、目視では薄い緑色である。

SX144(図版52 写真図版68)(120)は1層出土の須恵器の長頸壺である。底部破片で、底部の高台先端部も欠損している。底部内面にはヘラ痕が残る。高台部の欠損は打ち欠きの可能性がある。胎土はA1類で、産地は小泊であろう。

P70(図版52 写真図版68)(116)は小泊産の須恵器壺で胎土はA1類である。2層から出土している。胴部から肩部にかけての破片であるが、おそらく長頸壺であろう。外面に自然釉の付着が見られる。

P581(図版52 写真図版68)(117)は土師器無台碗である。1層出土の口縁部破片で、器形はI類、胎土はC類、推定径は12.8cmである。

P584(図版52 写真図版68)(118)は土師器無台碗で、口縁部のみの破片である。推定口径12cmを測る。器形はI類、胎土はC類である。(119)は2層出土の土師器の長甕で、口縁から頸部の破片である。器形はIa類で、口縁は直線状に開き、口端はややつまみ上げられる。胎土はE2類である。

2) 包含層出土遺物

a) 古代の土器

1 区(図版53 写真図版68)(121)は須恵器の有台杯で、高台部のみの破片であるが、耕作土中(1b層)からの出土であるため、混入の可能性が高い。胎土はA2類で、小泊産と思われる。(122)は土師器の無台碗で、口縁から底部にかけて部分的に残存する。底部の糸切は切離し後にナデ消されており、回転方向は判然としない。器形はIIb類、胎土はE2類である。

2 区(図版53 写真図版68)土師器小甕(126)、長甕(127、128)を図示した。(126)は口縁部破片で外面にスガが付着する。器形はI類、胎土はE1類である。(127)は口縁から胴部下半にかけての残存で、推定口径は21.5cmである。口縁部の形状は外面がやや肥厚し口端は弱くつまみ上げられる。Ia類の特徴を示す。頸部はくの字状を呈すが、屈曲は弱い。体部下半は外面にタタキ、内面に当て具痕が残るが、同じ平行線状の器具を使用している。内面底部付近にはタタキを切るヘラ痕が見られる。胎土はE2類である。(128)は口縁部から体部上半にかけての残存で、内外面ともロクロナデ後、カキメ調整が入る。外面にはスガが付着している。器形はIa類、胎土はE1類である。

4 区(図版53 写真図版68)図示したのは土師器無台碗(134)1点のみである。(134)は口縁部から底部にかけての破片で、内面にコゲ、外面にスガが付着している。器形はIIb類、胎土はE1類である。

7 区

須 恵 器(図版53 写真図版68)

2,690.7g出土しているが、破片が多数を占める。(135)は無台杯である。口縁部から底部にかけての破片で、焼成はやや不良で、焼き上がりは軟質を呈し、土師器に近い。底部の切離しはヘラによる。胎土はA1類で、小泊産と思われる。(136)は有台杯で、体部下半から底部にかけての破片である。底部の切離しは回転糸切による。高台は外面端部が接地する。胎土はA2類で、産地は小泊である。(137)は長頸壺で、口縁から頸部の破片である。口縁は朝顔型に開き、外縁は突帯状を呈する。胎土はB類で、新津丘陵産と思われる。(138)は甕である。口縁から頸部の破片で、胎土はA2類(小泊)、推定口径は16cmである。(140)は長頸壺の胴部破片で、胎土はB類(新津丘陵)である。外面はロクロナデ、内面にカキメが残る。(139)は大甕の胴部破片で、外面はロクロナデ後にタタキ調整される。内面の当て具痕は同心円状である。外面には重ね焼き痕が残る。胎土はA2類で、産地は小泊と思われる。

土師器・黒色土器（図版54～56 写真図版69・70）

18.623g出土しており、量的には須恵器を圧倒する。(141)～(163)は無台碗である。成作技法はほぼ同様で、ロクロ成形→ヨコナデ調整→切離しの工程を経ている。底部が残存しないものも多いが、切離しの手法は回転糸切が主体と思われる。器形による口径は11～13cmが主体であるが、(147)、(151)、(155)のように15cmを超えるものも少数ある。器形は(151)、(155)がIa類、(145)がIb類、(142)がId類、(143)・(144)がIIa類、(150)がIIb類、(147)・(153)がIII類である。胎土は(161)がC類、(146)、(147)、(149)、(150)、(152)、(156)、(157)、(162)がD1類、(142)、(145)、(148)、(151)、(153)、(154)、(155)、(158)、(159)、(163)がE1類、(143)・(144)がE2類、(141)がF類である。(157)、(160)～(163)は底部の破片である。

(164)・(165)は黒色土器の無台碗で、口縁から底部にかけて残存する。(164)は内面底部に放射状のミガキがなされ、暗文状を呈する。器形はIII類、胎土はE1類で、推定口径は15.6cmである。杯身は無台碗と比べて深く、本来の器高は6cm程度と思われる。(165)は器形I類、胎土C類、推定口径14cm、器高指数27.1で、(164)と比べ杯身も浅く、通常の無台碗に黒色処理を施したような印象を受ける。

(166)は黒色土器の皿で、口縁部の破片である。胎土はE1類、推定口径は13.4cmである。

(167)～(178)は小甕である。破片が多く、残存は不良である。いずれもロクロ成形で、調整はナデによるが、行われない個体も多い。底部の切離しは無台碗と同様、回転糸切が主体(167・174)だが、(177)は底部外周に沿って薄い粘土紐を貼り付け、ユビオサエで整形している。胴部はあまり張らず、口縁部が残存するもの(167～172)はいずれもI類の器形に分類される。胎土は(173)がD1類、(167)・(177)がD2類、(169)、(170～172)、(176)がE1類、(168)・(174)がE2類、(175)・(178)がG類である。(167)は外面胴部下半にススが附着している。

(179)～(189)は長甕である。いずれも破片で、残存は不良である。口径は推定で17～26cm前後とばらつきが多い。器形分類別では(180)がIb類、(184)がIc類、(179)、(182)、(183)、(185)がId類、ハケ調整が主体の(187)～(189)はII類で、(189)は底部が平坦な固体である。胎土は(182)、(183)、(187)～(189)がC類、(180)、(185)がD1類、(180)、(181)がD2類、(184)がE1類、(179)がE2類である。(183)は外面の広範囲にススの着が見られる。

(190)～(200)は鍋である。いずれも口縁部の破片であり、残存状況は悪い。推定復元値をもとにするが、口径は40～44cm程度である。胎土は(191)、(194)、(196)～(198)、(199)がD2類、(193)、(200)がE1類、(192)、(195)がE2類、(190)がF類でD2類が多数を占めている。器形は(191)～(194)がI類、(190)、(196)、(198)、(199)がII類、(195)、(197)、(200)がIII類で、おおむね均等に分かれる。(190)、(196)、(198)、(200)の外面にススが附着する。いずれも口縁はロクロナデ、体部上半にカキメが確認できる。体部下半を残す個体は少ないが、(190)、(198)ではタタキメが確認できる。

b) 中世の土器・陶磁器

1区(図版53 写真図版68) (123)は龍泉窯産の青磁碗で、口縁部の破片。外面に蓮弁文が施されている。出土層位はIII層である。(124)は青磁の皿で、体部に段を有する。推定口径は10.2cmで、同窯産と思われる。IV層上面の出土である。(125)はIII層出土の珠洲焼の甕で、口縁部の破片である。

2区(図版53 写真図版68) (129)は中世土師器で、III層出土である。成形は手づくね、推定口径は11.6cmある。

3区(図版53 写真図版68) 珠洲焼・越前焼等が出土しているが、量は少なく、いずれも破片である。状態の良い4点を図示した。珠洲焼は壺R種(130)・甕(131)・播鉢(132)・越前焼(133)である。出土層位は珠洲焼の3点がIII層だが、越前焼の甕はI層で、混入品の可能性がある。

7区(図版56 写真図版70) 比較的状态の良好な2点を図示した。(201)は珠洲焼の甕、(202)は珠洲焼の播鉢である。いずれもIII層の出土で、状態は破片である。

第3節 土製品・石製品・金属製品・搬入礫・鉄滓

A 出土状況

土器以外の出土遺物を記述する。土製品、石器、石製品、搬入礫、鉄製品、銭貨、鉄滓がある。

総計 66,118.6g 出土しており、7区における出土量（遺構 48,168g、包含層 13,383.2g）が最も多い。大多数が遺構出土で、7区の区画溝（SD30、108、775）や同区の遺物集中土坑（SK141、145等）、井戸（2区SE25、4区SE59、7区SE678）などで多く出土している。

B 石器・石製品・搬入礫（図版 57～59 写真図版 71・72）

砥石と石製品、搬入礫がある。砥石は自然礫等の素材を加工せずそのまま使用したもの、使用前に素材を整形したもの、破片等を転用したものに分けられる。搬入礫は、砥石など日常道具としての使用は認められないが、何らかの意図を持って打割・被熱等の加工が加えられた礫である。形状は棒状・円盤型が多く、石材も軽石や流紋岩質凝灰岩等の遺跡周辺で採取できない石材を用い、多くが破砕されている。また、被熱するものと、しないものがある。

1) 遺構

a) 2 区

SE25（図版 57 写真図版 71）(1) は流紋岩質凝灰岩の長円礫を用いた砥石で、両面に広く砥面を形成し、溝状の砥痕も見られる。

SD17（図版 57 写真図版 71）(2) は軽石製の砥石で、表裏両面に部分的な砥面を有する。

SD24（図版 57 写真図版 71）(3) は軽石の円礫を素材とする砥石である。砥面は片方のみだが、平坦に形成されている。裏面は一部打ち欠かされている。

SD34（図版 57 写真図版 71）(4) は流紋岩質凝灰岩の砥石で、事前に素材を敲打により成形したと思われる、全面に平坦な砥面を有している。

SD63（図版 57 写真図版 71）(5) は流紋岩質凝灰岩の破片を利用した砥石で、表面のみに砥面が形成される。

b) 3 区

SD33（図版 57 写真図版 71）(6) は砥石で、軽石の円礫を直接転用したものである。表裏面と側面に砥面を有する。

c) 4 区

SD72（図版 57 写真図版 71）(7) は3層出土の砥石である。軽石の円礫を直接素材としているが、砥面は溝状となる。裏面は自然面のままだが、打欠き痕がある。

SD83（図版 57 写真図版 71）(8) は排土より発見されたもので、層位は不明。緑色凝灰岩の棒状礫を直接転用したもので、正・裏面と両側面に砥面を有する。刀子状の物体の研磨痕が全面に観察される。

SD106（図版 57 写真図版 71）砥石 (9) が3層から出土している。卵形の小礫を素材としたもので、表面に刀子等の刃部の砥痕が残る。下部の平坦面は使用痕ではなく、石の目である。

SE59（図版 57 写真図版 71）搬入礫 (10・11) が出土している。(10) は安山岩であるが、破砕が激しく、原礫の正確な形状は不明である。縁辺に連続剥離痕が残る。表面は被熱により赤化し、全体にススが付着する。被熱行為は破砕後に行っている。(11) はやや扁平な流紋岩の棒状礫を素材とする。最初に短軸方向に打割し、打割面を打面として長軸方向に加撃し、表面を剥離している。全体にススが付着しているが、表の打割面と剥離面には付着せず、段階を経て破砕した可能性がある。

d) 7 区

SE678 (図版 57 写真図版 71) (12)・(13)・(14) は砥石である。いずれも相当使い込んであり、ほぼ全面に砥痕が残っている。(12)と(14)に多く残る細い溝は刀子の刃部の砥痕と思われる。

SD2 (図版 57 写真図版 72) (15) は搬入礫である。流紋岩質凝灰岩の路頭採取礫で、接合後の法量は長さ 20.5cm × 幅 15cm × 高さ 12.8cm、重さは 2,675.8g がある。石材の産地は (27) と同地であろう。使用痕は認められないが、外面は被熱している。

SD30 (図版 58 写真図版 71) (16) は搬入礫である。使用痕・被熱等は認められない花崗岩の棒状礫であるが、(1)、(8)、(25) 等の素材として搬入された可能性を考慮し、掲載した。

SD108 (図版 58 写真図版 71・72) (17)・(18) は搬入礫である。(17) は変成砂岩の転礫で、長さ 29.2cm × 幅 15cm × 高さ 12.2cm、重さは 8,757.5g がある。被熱しないが、裏面に加撃時の打点が残し、意図的な破砕であることが分かる。(18) は扁平な閃緑岩の円礫で、短軸面で半割される。被熱により劣化し、表・裏面にススが付着する。破砕はススの付着後である。

SD267 (図版 58 写真図版 71) (19) は軽石の破片を再利用した砥石である。(20) は扁平な安山岩の搬入礫で、全体にススが付着する。軸に近い部分で打ち割られているが、破断面にススの付着が認められないことから、ススを付着させる行為後に半割されたことがわかる。使用痕は観察できないが、被熱後に打割→廃棄の工程を経ている。

SD718 (図版 58 写真図版 71) (21) は流紋岩質凝灰岩の砥石の破片である。

SD775 (図版 58 写真図版 71) (22) は頁岩製の砥石である。硯の破片からの転用品と思われる。

SK56 (図版 58 写真図版 71) (23) は軽石の全体を敲打により整形した石製品である。下半部が欠損するが、幅中央部が激しい敲打により溝状を呈する。特に正面は激しい敲打によりクレーター状となる。用途は不明だが、溝状の部分に縄を掛け、錘として用いたか。ただし溝に摩擦痕は見られない。

SK92 (図版 58 写真図版 71) (24) は搬入礫である。安山岩の扁平円礫で、破断面にも顕著な被熱痕が残ることから、破砕後にも被熱させたことがわかる。

SK141 (図版 59 写真図版 71) (25) は搬入礫で、安山岩の棒状礫を短軸方向で半割し、その後、長軸に沿って半割されたもの。打割面が強く被熱し、赤化する。

SK145 (図版 59 写真図版 71・72) (26) は軽石製の砥石で、細かく破砕され廃棄されていたものを接合したものの。(27) は搬入礫である。流紋岩質凝灰岩の大型礫で、破片の接合体である。長さ 24.6cm × 幅 21.7cm × 高さ 15.7cm、重さは 5,806g がある。形状から、転礫でなく路頭採取礫と思われる。打割後に被熱している。

SK575 (図版 59 写真図版 71) (28) は搬入礫で、軽石の長円礫を母材とする。外面は比較的平滑であるが、使用痕は確認できない。長さ方向に大きく割れており、上部の打点周囲には顕著な加撃痕が見られる。被熱痕は確認できない。

SK601 (図版 59 写真図版 71) (29) は砥石である。発泡した流紋岩(軽石)を使用している。整った形状であるが、明瞭な使用痕は確認できない。正面中央部に凹痕状の凹面を有するが、使用痕とは判断できない。(30) は扁平な軽石の円礫をそのまま砥石として用いたもので、扁平な面(図での正・裏面)を砥面としている。

2) 包 含 層

2 区 (図版 59 写真図版 71) (31)、(32) は砥石である。どちらも礫の破片の一部を用い、使用の結果砥面が形成された転用砥石である。(31) は流紋岩、(32) は流紋岩質凝灰岩である。

7 区 (図版 59 写真図版 71) (33)・(34)・(35) は砥石である。(33)・(35) は礫破片の転用砥石で、石材は流紋岩質凝灰岩である。(34) は形状を意識しているようであるが、原礫の表面は使用により完全に消失しており、事前に整形したのか、使用の結果であるのかは判断できない。流紋岩質凝灰岩を用いている。

C 土製品 (図版 59 写真図版 71)

(1) は 7 区 SD30 出土の焼成粘土塊である。胎土は土師器無台椀に多い D1 類で、内外面に不定方向のナデが観察される。

D 金属製品・銭貨・鉄滓 (図版 59 写真図版 71)

2・6・7 区で 22 点出土している。いずれも腐食が進み、一部分のみの残存である。図示しえた 7 点を掲載する。

(1) は板状の製品であるが、詳細は不明である。6 区 SD16 からの出土である。半身が欠損している。(2)、(3)、(4)、(7) は釘の一部と思われる。それぞれ 2 区 SE25、7 区包含層 (11R9E5)、7 区包含層 (11R8F10)、7 区 SD775 から出土している。

(5) は腐食が甚だしいが、断面が扁平で、刀子の刃部と思われる。7 区 P692 から出土している。

(6) は鉄鐵で、7 区包含層 (11R8F4) から出土している。

(8) は銭貨で、7 区 SD47 の 2 層下部からまとめて出土した 6 枚のうち 1 点である。他の銭貨は依存状態が極めて悪く、本資料のみ図示した。いわゆる北宋銭で、行書で元豊通宝 (初鑄 1078 年) の銘が見える。

この他、図示していないが、7 区では遺構・包含層から鉄滓が 10 点出土している。残存状況が良好な 4 点 (9～12) を写真図版 71 に掲載した。いずれも褐色～赤褐色を呈し、不純物が多く、磁性は極めて低い。炉材や燃料材が溶融したものであろう。詳細は観察表および写真図版を参照されたい。

第VI章 8区 工事立会

本章では、8区における工事立会で発見された遺構・遺物を解説する。発見の経緯および調査過程については第三章を参照されたい。

A 基本層序

1～7区と共通する。詳細は第四章での記述に従う。Ⅲ層が遺物包含層、Ⅳ層上面が遺構確認面である。Ⅲ層およびⅣ層上部は擾乱により残存不良である。

B 遺 構 (第19図 写真図版61)

調査面積は上端で84.3m²を測る。

溝11条、土坑1基、ピット2基が検出されている。掘削していないため、深度や覆土の堆積状況は不明である。溝は主軸がN-83°-E周辺にあり、3・4区の主な溝と軸が共通する。

C 遺 物

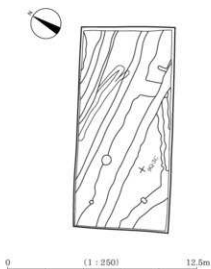
重量分布を第20図に示す。土器・陶磁器類411.1g(土師器34g、珠洲焼329g、青磁8.2g)、石製品1,614.9gが出土している。古代の土器は小破片のため掲載していない。

1) 中世土器・陶器 (図版56 写真図版70)

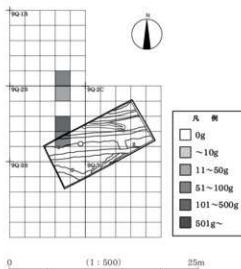
破片資料の2点を掲載した。いずれもⅢ層から出土している。(204)は珠洲系陶器の掻鉢である。焼成は不良で、内面は剥落が激しい。(203)は珠洲焼の壺で、焼成はやや瓦質。底部に静止糸切痕が確認できる。

2) 石 製 品 (図版59 写真図版71)

36は石製品で、五輪塔の一部と思われる。砂岩を加工している。



第19図 8区遺構検出状況



第20図 8区遺物分布状況(古代・中世)

第七章 総 括

第1節 遺 物

A 古代の土器

1) 器 種 構 成

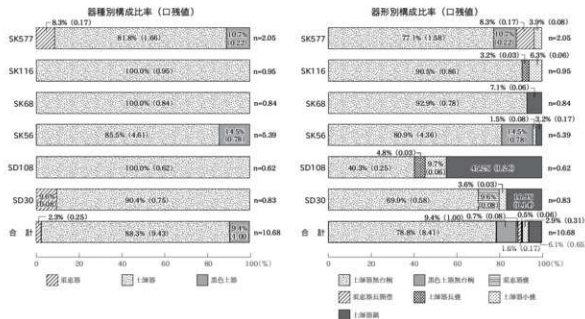
主要遺構における出土土器の機種構成比率については、別表8に口縁部計測法〔宇野1992〕に基づいて算出した遺構別の器種別構成比率を示した。口縁部が残存しない器種も存在するため、破片数と重量も併記している。

別表8にもとづき、主な遺構の出土土器の構成比率をグラフ化したのが第21図である。対象遺構は7区のみである。1～6区は遺構からの遺物の出土量が少なく、まとまったデータが採取できなかった。

器種別では土師器の割合がいずれも80%を超え、須恵器・土師器の量に大きな差がある。

器形別では食膳具の割合が多く、個別で見ると土師器無台碗がそれぞれ40～90%を示す一方、黒色土器無台碗の割合は多くても10%台後半で、出土する遺構も限られる。貯蔵具の割合は低く、全体で9.6%、遺構別でも20%以下がほとんどである。煮炊具も同様の傾向を示すが、SD108のみ土師器鍋のまとまった出土(45.2%)がある。

以上、遺構出土遺物の割合からは、古代の土器は土師器を主体とし、用途別では食膳具の土師器無台碗がほとんどを占め、須恵器が極めて少ないことがわかる。

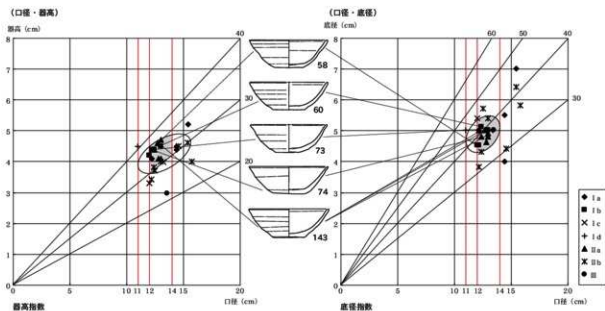


第21図 細池寺道上遺構別器種構成比率 (口縁値)

2) 法 量

土師器無台碗の分類別法量については第V章第15図で示したとおりだが、それにもとづけば、口径については14cm以上(大型)、12～13.5cm(中型)、11cm程度(小型)の3グループに分けられる。分類別ではIa類の多くが大型に、Ib・Ic・IIa類が中型、Id類が小型になる。IIb類は大型と中型がある(第22図)。

次に器高指数に着目すると、腰高なId類(40.9)、低平なIII類(22.2)等の極端な形状を除くと、多くが器高指数30～36以内におさまっている(分類別ではIb類が35前後、IIb類は30前後に多い傾向がある。IIa類は36前



第22図 細池寺道上遺跡主要土師器無台椀法量

後のものと、32前後のものがある)。

底径指数では35～40周辺が最も多い。特にIb、IIa、III類が36～40周辺にまとまって分布している。Ia、Ic、IIb類はばらつきが大きい。Id類(45.5)はやはり特異である。

土師器無台椀の法量からは、細池寺道上遺跡出土の土師器無台椀の法量は、口径12～13.5cm、器高指数30～36、底径指数35～45程度の個体が多数を占め、Ib類・IIa類が標準的な器形であることがわかる(第22図)。

3) 編年の位置付け

細池寺道上遺跡における器種別割合および土師器無台椀の法量解析を踏まえ、遺物の編年の位置付けについて、同時期の遺跡(第9表)と比較しつつ、検討する。使用する編年は、春日真実による編年案(春日2007)、以下春日編年という)を基とし、[春日1999・2000・2005]等を参考とした。年代の標記は、ローマ数字標記による春日編年と世紀と四半期で示す実年代を併記した。

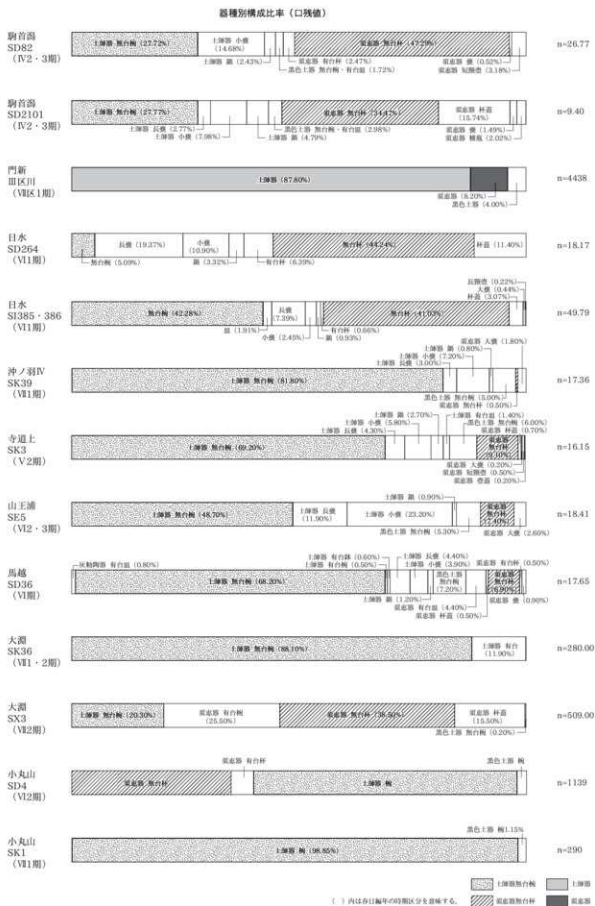
a) 器種の割合から

周辺遺跡における器種別の出土割合をまとめたのが第24図である。この中から今次調査の器種構成の特徴である①土師器無台椀の圧倒、②須恵器が極僅か、と同様の条件を満たすのは器種構成を有する例は、門新遺跡Ⅲ区 川[丸山2005]、沖ノ羽遺跡Ⅳ SK39[立木a2008]、寺道上遺跡 SK3[渡邊明和a2001]、大淵遺跡 SK36[廣野a1999]、小丸山遺跡 SK1[小池a1995]である。寺道上(V2期)以外は、春日編年でVI 2・3～VII 1・2(9世紀後半から10世紀初頭)に位置付けられる。特に数値的に近いのが門新(VI 1・2)、沖ノ羽Ⅳ(VI 1)、大淵(VI 2)、小丸山(VI 1)で、これらの遺跡の出土状

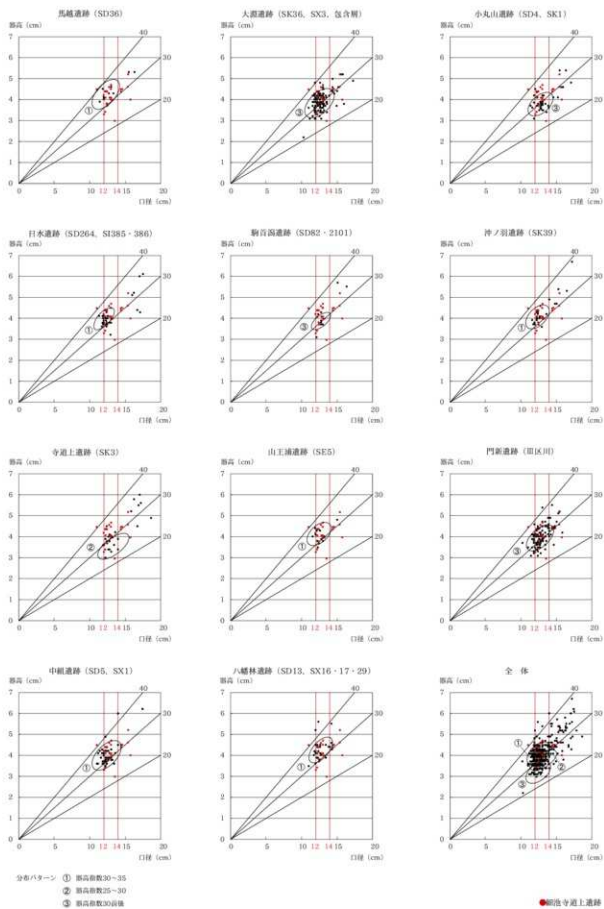
第9表 器種構成・法量比較事例遺跡一覧

第24～26図は本表掲載資料をもとに作成した。

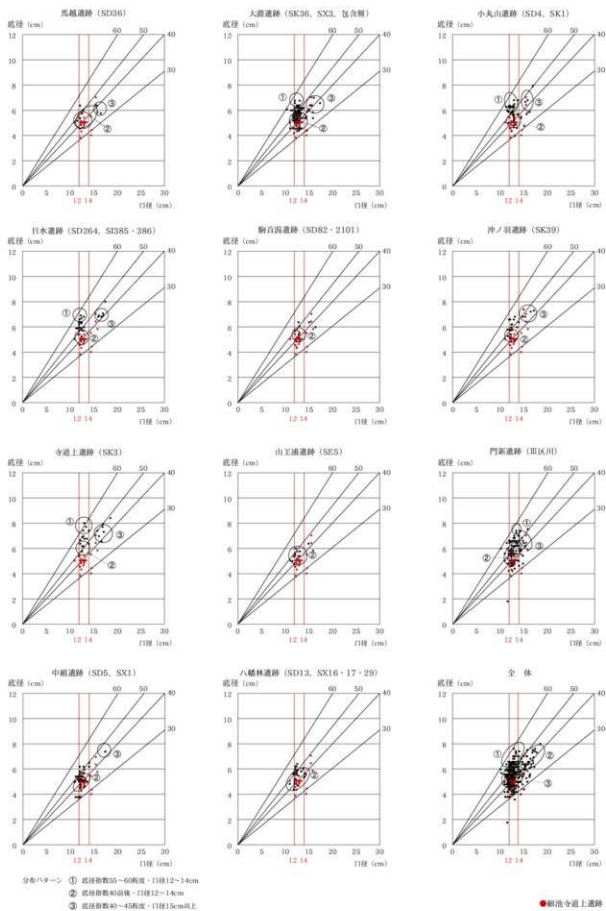
遺跡名	所在	出土遺構	文献	備考
馬越	加茂市	SD36	[伊藤2005]	
		SK36		
		SK3		
大淵	新潟市江南区	SK3	[廣野a1999]	
		包含層		
		SD2		
小丸山	新潟市江南区	SD4		
		SD5	[小池a1995]	
		SK1		
		SK3		
日本	新潟市江南区	SD264		
		SI385	[今井a2007]	
		SI386		
駒吉西	新潟市江南区	SD82		
		SD2101	[渡辺ますみa2009]	
沖ノ羽Ⅳ	新潟市秋葉区	SK39	[立木a2008]	
寺道上	新潟市秋葉区	SK3	[渡辺明和a2001]	尾・細池寺道上遺跡範囲内(II3統合)
山王通	新潟市秋葉区	SE5	[立木a2004]	
門新	長岡市	Ⅲ区川	[丸山2005]	日和島村
		SD5		日和島村
中組	燕市	SK1	[川上1996]	日和島村
		SD13		日和島村
		SK16		日和島村
八幡林	燕市	SK17	[田中2005]	日和島村
		SK29		日和島村



第 23 図 周辺遺跡主要遺構別器種組成図



第24図 周辺遺跡の土師器無台椀法量比較 (器高指数)



第 25 図 周辺道路の土器無台帳法量比較 (底径指数)

況に照らせば、細池寺道上の遺物出土割合は春日編年でVI 2・3～VII 1・2期(おおむね9世紀後半～10世紀初頭)に比定される¹⁾。

b) 器高指数と底径指数から

第24・25図は第9表に挙げた遺跡から作成した土師器無台碗の法量分布図(器高指数・底径指数)に、細池寺道上遺跡の法量(赤)をプロットしたものである。

口径では、全ての遺跡で12～14cmのもの(細池寺道上ではI b, I c, II a類が該当する)が圧倒的に多いが、大淵、小丸山、日水、神ノ羽等では口径14cm以上(同I a類に相当)のものも少数ながら存在する。

器高指数では、各遺跡とも25～35前後に集中するが、詳細に見ると、①器高指数30～35(馬越、日水、神ノ羽、山王浦、中組、八幡林)と、②25～30前後(寺道上)、③30前後(大淵、小丸山、駒首源、門新)に分布の集中が見出せる。細池寺道上遺跡ではいずれのグループも見出せるが、個体数では①と③にあたるもの多く、法量の分布は③の遺跡に近い。

底径指数については、第25図のとおり、いずれの遺跡も底径指数30～60の間に広く分布しているが、①口径12～14cmで、指数55～60程度のグループ、②口径12～14cmで指数40前後のグループ、③口径15cm以上で指数40～45程度のグループに分けられそうである。細池寺道上遺跡では上記①～③いずれの法量も存在するが、比較事例で挙げた遺跡のうち、同様に①～③全ての法量が存在するのは大淵、小丸山、日水、寺道上、門新遺跡である。

周辺事例との検討の結果、細池寺道上遺跡出土の土師器無台碗の法量は、器高指数で大淵、小丸山、門新遺跡と底径指数で大淵、小丸山、日水、寺道上、門新遺跡と同様の分布傾向を示し、細池寺道上、大淵、小丸山、門新遺跡の土師器無台碗の法量は一致することがわかった。

c) 細池寺道上遺跡の古代遺物の編年の位置

前項までの検討の結果判明した事実は、①出土土器は、器種構成では春日編年VI 2・3～VII 1・2期頃の器種構成と同様であること、②土師器無台碗の法量は、大淵遺跡SK36(春日編年VII 1期)、SX3(同VI 2期)、小丸山遺跡SD4(同VI 2期)、SK1(同VII 1期)(同VI 2・3～VII 1期)、門新遺跡Ⅲ区川(同VII 1期)とおおむね一致する、という点である。

以上の事実から、細池寺道上遺跡出土の古代遺物は、大きくは春日編年VI 2・3～VII 1・2期(おおむね9世紀後半～10世紀初頭ごろ)に比定できるが、これに須恵器および土師器煮炊具が極めて少ない点と、SK56、SK575等で見られる土師器の一括廃棄事例を加味し、春日編年VII 1・2期(9世紀末～10世紀初頭)と判断する。

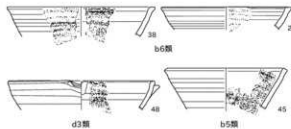
B 中世の土器

1) 資料の検討

中世の遺物はまとまった量が出土しておらず、全て破片資料のため、得られる情報は少ない。最も多く出土しており、編年が確立されている珠洲焼を個別に検討し、遺物の時期を比定する。対象資料は珠洲焼の中で最も時期別の差異が明瞭な楕鉢・片口鉢の口縁部4点(2・38・45・48)である。用いる編年は〔吉岡1994〕(以下吉岡編年という)にもとづく。

口径は、いずれも推定値であるが、35cm前後のもの(38・48)、30cm程度のもの(2)、28cm程度のもの(45)に分かれる。各時期とも定量存在する法量のような〔吉岡前掲〕。

器形は底部から口縁部に向かっておおむね直線的に開き、口端部に水平面が作出される「水平口縁」(2・38・48)と、胴部の伸張方向と口端部が



第26図 珠洲焼 片口鉢・楕鉢 断面形体分類図
〔吉岡1994〕にもとづく

直交する面が作出され、かつその面が外側に向かって傾斜する「外傾口縁」(45)が存在する。吉岡の分類によれば水平口縁は(2)・(38)がb6類、(48)がd3類、外形口縁はb5類に相当する(第26図)。

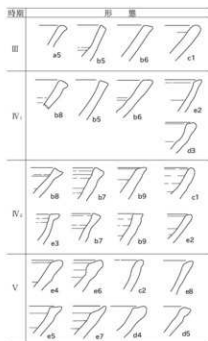
卸目の幅は2～2.5cm前後で、目は深く、はっきりしているが、破片のみであるため、条数は不明である。

2) 編年の位置付け

遺物の残存の問題から、法量と卸目のデータは採れなかったため、口縁部断面形状のみで遺物の帰属時期を検討する。精確さには欠けるので、あくまで目安と捉えていただきたい。

吉岡編年にもとづく口縁型式変遷図(第27図)に、分類した断面形状を当てはめると、片口鉢の水平口縁b6類が存在するのはⅢ期とⅣ₁期、同d3類はⅣ₁期のみにあられる。外傾口縁b5類もⅢ期とⅣ₁期のみであるため、3者が共通して存在するⅣ₁期(1280～1310年代)となる。

以上の結果から、出土した珠洲焼の時期は鎌倉時代後期に位置付けられ、遺構等で供伴するその他の中世遺物も概ね同時期と推定される。



第27図 珠洲焼 片口鉢・撞鉢
口縁型式変遷図
〔吉岡1994を一部抜粋〕

第2節 遺 構

A 帰属時期の決定

1) 7区の遺構

7区の遺構の帰属時期の決定にあたっては、以下の手順に沿った。

① 出土遺物の検討(第28図)

古代・中世いずれかのみを出土するか、もしくは供伴するか、供伴には層位的な偏りがあるか。

② 図版60から遺物の接合関係を抽出(第10表)。異なる遺構覆土から出土した破片が接合した場合、両者は同時代の可能性を有する(確定ではない)。

③ ①・②で時期の確定した遺構と軸が平行・直交もしくはそれに付帯すると思われる帰属時期未定の遺構をリストアップし、仮グループを作成。

④ ②で抽出した同時期の可能性のある遺構と③で作成した仮グループ内で、個別の情報(平面図・写真・土層注記)および隣接調査区の遺構配置を突き合わせ、最終的に選抜する。

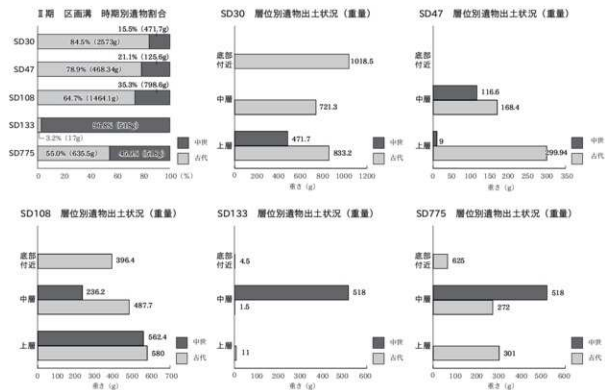
覆土の土質については、調査区間で質にばらつきがあるため、時期判別の要因とはならなかった⁽²⁾。なお、この過程を経て帰属時期が不明な遺構が相当数存在するが、これらは帰属時期不明扱いとした。

以上の作業により決定した7区の時期別の遺構分布が第29図である。以下に詳細を記述する。

細池寺遺上Ⅰ期(9世紀末～10世紀初頭) SB2・10、SD2・17・93・94、SK26・56・116・145・201・202・411・414・575・577・601・878などで構成される。特徴としては、①古代の遺物のみが出土する。②古い様相を示す遺物(ハケ壺95)が出土する。③SD30・108等に切られる。④主軸がN-20°・EもしくはN-110°・E近辺にあることが挙げられる。遺物は春日編年Ⅶ1・2期に相当する土師器無台碗が主体である。遺構間の接合関係はSD17とSK26およびSD93、SK56とSK577、SD2とSK116、SK575とSK577の間

第10表 接合関係にある遺構一覧

遺物No.	器 種	遺 構
25	緑釉陶器皿	SD30, SD47
29	須恵器人型	SD30, SD47
37	土師器鉢	SD17, SK26, SD93, SD140
45	珠洲焼撞鉢	SE677, SE704
49	珠洲焼撞鉢	SD133, SE704
65	黒色土器無台碗	SK56, SK577
88	土師器鉢	SD2, SK116
104	土師器無台碗	SK575, SK577



第28図 Ⅱ期区画溝における古代・中世遺物の供伴状況

で認められる。なお、土師器はSD30をはじめとする大規模な溝の深部でも出土していることから(第28図)、SD30・47・108・133等の溝は、当期のいずれかの段階で構築が開始されたと思われる。

細池寺道上Ⅱ期(13世紀末～14世紀初頭) SB7・8等の掘立柱建物が設置され、中世的集落が完成した時期。SD30・108等は当期において完全な区画・水系として確立する。SB1・3～9、SE677・704、SD30・47・108・133・775等から構成される。遺構の主軸方位はおおむね東南西北を意識し(SD775のように例外もあるが)、区画を形成している。遺物量は非常に少なく、SD30等の区画溝と井戸に偏る。接合関係はSD30と47、SE677とSE704、SD133とSE704の間で認められる(第10表)。溝からは古代と中世の遺物が共伴するが、中世の遺物は覆土の中層以上で出土する傾向があり(第28図)、SD30をはじめとする区画溝がⅠ期から継続利用されていた可能性を示している。遺物の主体となる珠洲焼は吉岡編年Ⅳ₂期(1280～1310年代)に該当する。

近世以降 SD102・190～193・423・607・628・629等、溝のみで構成される。主軸と切り合いから、軸がN-27°-EもしくはN-63°-Wを向く一群(SD102・193等)と、主軸がN-49°-EもしくはN-37°-Eを向く一群(SD103、SD628等)、Ⅱ期の遺構と軸が近い一群(SD193・423)に分けられる。両者の前後関係は、SD193、SD102>SD103であり、前者が新しい。いずれもⅡ期の遺構を切っている。SD193・603等は暗渠の可能性もあるが、位置関係から現場間との関係性はないと思われる。近世陶磁器と古代・中世遺物の同一層内での供伴が見られる。

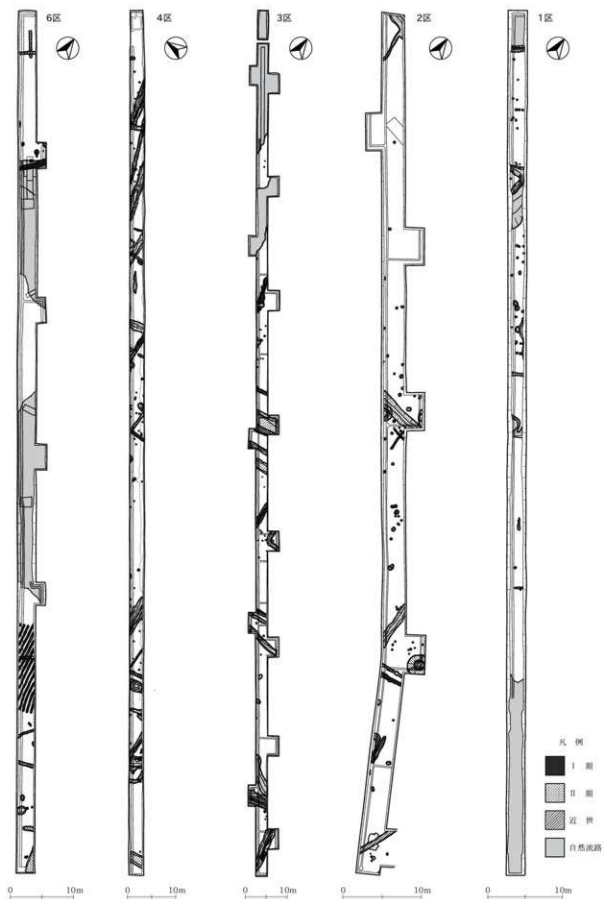
掘立柱建物(SB)・井戸(SE)

掘立柱建物と井戸の時期決定については、以下に詳細を記述する。

SD30、108などの大規模な溝群との関係が帰属時期の判断根拠の一つとなるが、個別に見てみると、軸が共通するもの(SB1・3～9)と、溝(SD108など)に切られているもの(SB2・10)があることがわかる。これらの溝は古代末から中世前期にかけての遺物が多く出土していることから、この溝群と切合い関係の無い前者がⅡ期、後者をⅠ期に位置付けることができよう。掘立柱建物自体の形態には時期差を見出せないが、Ⅱ期の掘立柱建物が周囲に井戸や土坑・雨落溝等、何らかの付帯施設を有するのに対し、Ⅰ期の掘立柱建物は目立った付帯施設を



第29図 時期別の遺構 5・7区



第30図 時期別の遺構 1～4・6区

有しない⁽³⁾点に違いが認められる(第31図)。

井戸については、遺物はSE399・434で古代のみ、SE677・704で古代・中世遺物が併存し、SE678では中世遺物のみ出土している。また、SE677、SE704間で遺物(珠洲焼插鉢)に接合関係があり、両者が同時期の可能性を示唆している。井戸と掘立柱建物との関係に着目すると、SB9に隣接し、かつ切合い関係のないSE704はSB9の付帯施設であり、時期を同じくすると判断できる。SB9はⅡ期に比定されるため、SE704はⅡ期の遺構となる。

SE399・434・677・678はいずれも掘立柱建物と切合い関係が認められる。SE399・677・678は縁辺部が建物のプランと切合っているが、配置的には建物を意識していると思われる。井戸の掘り方は実際の規模より大きくなるため、一部が建物のプランに食い込んでも不思議はない。むしろ先行して井戸を設置し、その後、建物を建てるといった工程を想起しえよう。SE399はSB1に、SE677・678⁽⁴⁾はSB8に伴って構築されたと考えられ、建物の時期に合わせれば、両者ともⅡ期となる。

SE434はSB10(Ⅰ期)と切り合い関係を有するが、SB10のプランはSE434の中心部を通り、同構の柱穴も想定されることから、両者は時期を異にすることがわかる。SE434はSB10より後に構築されたもので、Ⅱ期に比定されよう。

以上のとおり、7区で検出された井戸は、すべてⅡ期に属すると判断する。

2) 1～6区の遺構(第30図)

路線部は出土遺物量が極端に少ないため、前項③の手法により、7区と対比することで決定した。

1区 SE51、SD11・33、SK20・55等主要な遺構はⅡ期。SD3・14・46、SX7等は近世以降と思われる。

2区 SE25、SD16・17・23・24・34・53・89、SK96等はⅡ期、SD53を切るSD9は近世以降とした。

3区 SD57のみⅠ期、それ以外は全てⅡ期にあたる。

4区 SX75(近世)を除いてほぼ全ての遺構がⅡ期と思われる。

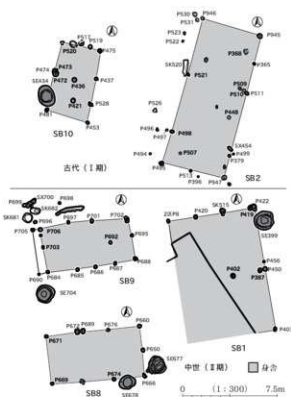
6区 Ⅰ期の遺構群は調査区の北部に(SD18・SK3等)、Ⅱ期の遺構(畝状遺構、SK14等)は河の南側に集中する。SD19・21・24は近世以降と思われる。

第3節 まとめ

第1・2節において、今次調査で発見された遺構は平安時代後半(9世紀末～10世紀初頭)と鎌倉時代後期(13世紀末～14世紀初頭)を主体とすることがわかったが、最後に本節において遺跡の位置付けを行い、まとめとしたい。

1) 遺跡の立地について

第Ⅱ章で述べたとおり遺跡は阿賀野川と早出川によって形成された自然堤防上に位置するが、立地上の宿命として、周辺の地形は常にこの2河川に影響を受けたと思われる。遺跡周辺は旧河道が比較的良好に残存してい



第31図 時期別の掘立柱建物と付帯施設

るため、流路の変遷が把握しやすいことから、河道の変遷と遺跡の消長について、若干考察してみたい。

阿賀野川については、小田由美子氏により、本流が中世末から近世にかけて、東から西に遷移したことがわかっている〔小田²⁰⁰¹〕。それによると江南区沢海付近の現流路はかつて阿賀野市七島（第32図③）付近にあり、同市京ヶ島（第32図②）を経て現沢海飛地（第32図①）に至り、1911年の河川改修を経て現流路となっている。このことから、「河道の側に三日月状の旧河道の痕跡が複数ある場合は、現河道より遠いほど古い〔小田²⁰⁰¹前掲〕」ことになる。

細池寺道上遺跡周辺に目を移すと、遺跡至近の新潟市秋葉区深川（上深川）の対岸である阿賀野市水ヶ曾根・上福岡を囲むように旧河道（以下旧河道①とする）が存在する（第34図）。正保絵図では深川（上深川）と上福岡・水ヶ曾根が陸続きであり（第33図）、本図が作成された17世紀半ばの時点では旧河道①が本流であったことがわかる（第34図）。一方19世紀半ばに作成された天保絵図では深川（上深川）と上福岡（福岡村）・水ヶ曾根が対岸となっており、この間に河道の変化があったようである。なお、阿賀野市堀越・同市福井周辺に旧河道①とほぼ平行する三日月状の旧河道（前者を旧河道②、後者を旧河道③とする）が確認できるが、これらの流路が機能していた時期は不明である。いずれにせよ、細池寺道上遺跡周辺では、近世以前の阿賀野川の本流は現在よりも東にあった可能性が高いといえる。

早出川は、正保絵図では五泉市論瀬付近で阿賀野川と合流しているのが確認できる（第33図）。兩岸には中小の河道跡が多く存在するが、右岸側の河道は阿賀野川からの分派が多いようである（第34図）。一方左岸側は、五泉市矢津付近で東側に分派する旧早出川本流と思われる小川川と自然堤防が確認でき、そのうち1つは五泉市矢津から同市越・太田を抜け、新潟市秋葉区金屋から大安寺まで達し、細池寺道上遺跡の範囲内を貫流している。第34図では金屋付近に旧河川が認められるが、この流路の一部と思われる地形は、大正年間に作成された耕地整理原形図（図版2）でも確認でき、早出川が左岸側を中心に流路を変遷させてきた可能性を指摘しうる。

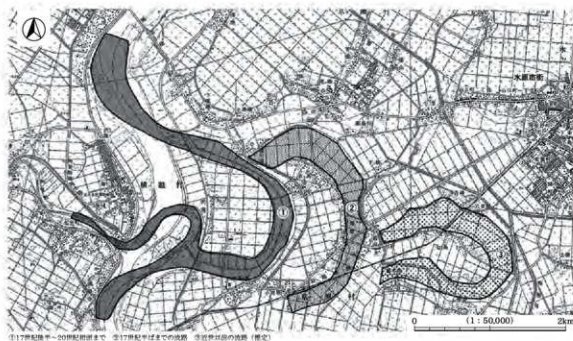
以上を踏まえ、河道の変遷および周辺地形を推定すると、遺跡が機能していた時期には阿賀野川は数km東を流れており、現在は分断されている対岸の集落とも陸続きで、かなり広い土地が存在していたこと⁽⁵⁾、この時期の遺跡周辺の沖積作用の主体は早出川であった可能性が高い。細池寺道上遺跡は主に早出川による沖積地を開発した可能性を指摘し得る。

2) 遺跡の時期別様相

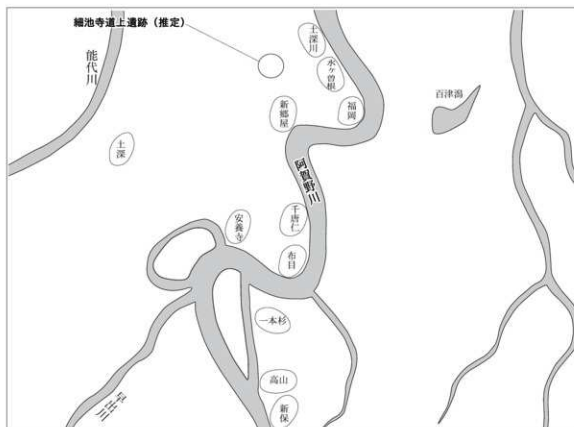
調査によって明らかになった事実を整理すると、細池寺道上遺跡は、主に早出川により供給された土砂により形成された沖積地上に営まれたと思われるが、遺構・遺物から判断するに、この地への居住は平安時代以降に本格化したと考えられる⁽⁶⁾。時期は大きく2期（Ⅰ・Ⅱ期）に分かれ、Ⅰ期の遺跡は平安時代後期（9世紀末～10世紀初頭）に営まれる。当期の遺構は少数の掘立柱建物と土坑および小規模な溝からなる。土師器の一括廃棄等定量の遺物が出土しており、定住生活を送っていたと思われるが、井戸や排水溝等の生活インフラは少なく、居住の初期段階といった様相である。やがて7区ではSD30・47・133等の大規模な溝が開削され、徐々に生活の基盤を整えていったようである。これらの溝の構築はⅠ期のうちに始まったと思われるが、当初の遺構配置をあまり考慮せず構築されており、土地の仕切り直的な意味もあったのかもしれない。溝の完成時期は不明であるが、これらの区画溝の完成およびSB7・8等の掘立柱建物の設置をもって一つの画期（Ⅱ期）と判断する。

Ⅱ期の遺構は掘立柱建物、溝、井戸を主体とし、調査区全域に広がりを見せる。特に1～6区の遺構の多くがⅡ期に属することからわかるように、当期は遺跡周辺のかなり広い範囲が利用されていたようである。遺構の数はⅠ期と比べ爆発的に増加する。掘立柱建物は溝の区画と輪を合わせており、SB7・8のように井戸（SE677・704）を有し、Ⅰ期より生活感が強い。集落の可能性を想定できるが、1区画内の建物は2棟程度にとどまり、集住は見られず、散村的な居住形態である⁽⁷⁾。

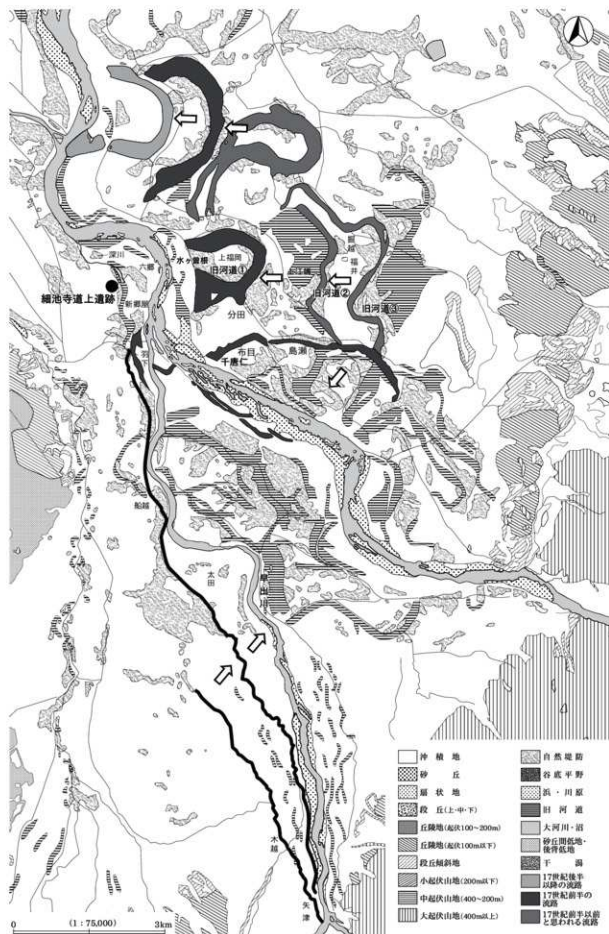
遺物は7区の遺構、特にSD30等の区画溝において古代と中世遺物の併伴が見られる。量的には古代遺物が優勢だが、層別別の出土傾向は古代遺物が中・下層、中世遺物が上・中層に多い傾向があり（第28図）、古代に



第 32 図 阿賀野川流路の変遷図 阿賀野市京ヶ島付近 (小田²⁴⁾・2001、北陸地方整備局阿賀野川河川事務所 1988) より



第 33 図 正保絵図に見える遺跡周辺の地名及び流路
正保二年 (1645) 越後国絵図および (小田²⁴⁾・2001) を元に作成



第34図 阿賀野川・早出川の流路の変遷 (推定)

構築された溝が、中世においても使用されたことを暗示している。

古代と中世の遺物には年代的に相当の隔たりが認められるため、Ⅰ期とⅡ期の間に断絶があるように見えるが、遺構の利用と遺物の出土状況からは、土地利用に継続性を見出せるのもまた事実である。

古代末期から中世初期にかけて遺構・遺物が極端に少なくなり、遺跡の連続性が不明瞭になる問題は東日本に共通するようで、遺構の減少に関して宇野隆夫・坂井秀弥らは、短期で小規模分散型の集落が移動を繰り返した結果〔宇野 1991・坂井 2008〕と解釈している。また、遺物の減少については日常什器が土器から木製品・金属製品へと転換したことにより残存しにくくなった等の見解があるが、あるいはⅠ・Ⅱ期の間に把握できない時期があるのだろうか。

以上、発掘調査の結果得られた情報をもとに遺跡の時期を決定し、時期別の様相を述べたが、つまるところ、農地を開拓し（Ⅰ期）、維持・拡大（Ⅱ期）しつつ古代から中世にかけて営まれた地方農村が細池寺道上遺跡の実態ではないだろうか。溝を多く構築していることから用・排水の必要性、つまりは水田耕作を想起できようし、周辺で検出された圃場と思われる遺構の存在〔小池²⁰ 1994〕も、その事実を示しているといえよう。

そして、その背景には、律令体制の崩壊から王朝国家体制〔春日 1995〕に変質する過程で9世紀後半以降に顕在化した国衙・寺社勢力等による開拓事業に端を発すると思われる遺跡の増加〔荻野 1986a・b〕との関連性も想定される。このような中で成立した「新しい集落」の一つがⅠ期の遺構であり、一時の断絶期（のように見える）を経ながらやがてⅡ期中世型散村を形成したと考えられる。

-
- (1) 本期の特徴としては、小泊産須恵器の量の大幅な減少、土師器の大量廃棄事例の増加、土師器食器具の作りの粗雑化等があり〔春日 1999〕、当遺跡のデータ、比較対象のデータとも同様の状況を示している。
 - (2) 近世以降と古代・中世では違いが分かることがあるが、古代と中世ではあまり変わらない。
 - (3) SB10の北側にある土坑（SK488・499・535等）が同構の付帯施設である可能性はある。なおSK488は一見するとSB10に付帯する井戸ともとれるが、透水層まで掘り込んでおらず全く湧水しないため、井戸とするには躊躇する。
 - (4) SB8はSE677・678の2つの井戸を有することとなるが、いわゆる掘り直し〔加藤 2007〕と考えれば辻褄が合う。両者の新旧は不明だが、出土遺物に基づくならばSE677→SE688である。
 - (5) 1～6区まで、広い範囲にわたって存在するⅡ期の溝は大規模な水利網の存在を想起させる。かなり広い範囲が耕地化されていた、と考えるべきであろう。基本層序には目立った洪水の跡が認められず、暴れ川として知られる早山川の付近にもかかわらず、比較的安定した土地であったと思われる。
 - (6) 周辺の地盤が安定し、居住に堪える状況となったのがこの時代、とも言える。
 - (7) 9世紀後半以後に成立した数棟の建物と井戸・生産施設がセットとなった中世の散村的な居住形態である〔坂井 1999〕。

引用・参考文献

- ア 相田泰臣^{13a} 2012 『林付遺跡 第2次調査-新潟市立潟東南小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 朝岡政康 2004 『5 亀田砂丘周辺の様相』『越後阿賀北地域の古代土器様相』41-58頁 新潟古代土器研究会
- イ 家田順一郎 1981 『井戸の形式と用材の検討』『曽根遺跡Ⅰ』100・101頁 北蒲原郡豊浦町教育委員会
- 石川智紀^{13b} 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第103集 国営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 新保遺跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石崎真紀子 1993 『新潟県の古墳時代』『新潟市史 通史編 上巻』67-81頁 新潟市
- 伊藤秀和 2001 『加茂市文化財調査報告(13) 鬼倉遺跡-国道403号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2005 『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡-国道403号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』加茂市教育委員会
- 井上慶隆^{13c} 2002 『第1章 第2節 古代の五泉郷』『五泉市史 通史編』35-43頁 五泉市
- 今井さやか^{13d} 2007 『日本遺跡 第3次調査-鍋田土地区画整理事業に伴う日本遺跡発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- ウ 上野一久^{13e} 1997 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第87集 横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 内福信雄 1988 『須志器裏に見られる叩き目文について』『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題 報告編』石川県考古学会・北陸古代土器研究会
- 宇野隆夫 1991 『律令社会の考古学的研究 北陸を舞台として』桂書房
- 宇野隆夫 1992 『食器計量の意義と方法』『国立歴史民俗博物館報告』第40集 215-231頁 国立歴史民俗博物館
- オ 荻野正博 1986a 『第5章第6節 初期荘園の成立と推移』『新潟県史 通史編Ⅰ 原始・古代』517-530頁 新潟県
- 荻野正博 1986b 『第6章第2節 荘園と国衙跡』『新潟県史 通史編Ⅰ 原始・古代』564-617頁 新潟県
- 小田由美子^{13f} 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第99集 一般国道49号線福越歩道工事関係発掘調査報告書 福越館跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小山正忠・竹原透雄 1967 『新編 標準土色帖』日本色研事業株式会社
- 折原洋一 2004 『第3章 新保遺跡の調査』『五泉市文化財報告(11) 能代川関係発掘調査報告書Ⅳ 新保・住吉田遺跡』119-75頁 五泉市教育委員会
- カ 柿田祐司 2001 『須志器裏の叩き目から』『北陸古代土器研究』第9号 72-76頁 北陸古代土器研究会
- 能瀬良明 1990 『自然防の諸類型』古今書院
- 春日真実 1991 『古代佐渡小泊室における須志器の生産と流通』『新潟考古学談話会会報』第8号 24-34頁 新潟考古学談話会
- 春日真実 1993 『王朝変遷期の越後』『新潟考古』第4号 1-21頁 新潟県考古学会
- 春日真実 1995 『古代集落の展開』『研究紀要1995』66-104頁 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1997a 『越後・佐渡における9世紀中葉の画期』『北陸古代土器研究』第6号 73-81頁 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997b 『越後における10・11世紀の土器様相』『北陸古代土器研究』第7号 13-21頁 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1999 『第2節 土器編年と地域性』『新潟県の考古学』301-310頁 高志書院
- 春日真実 2000 『第5章 まとめ』『吉田町史 資料編Ⅰ 考古・古代・中世』376-418頁 吉田町
- 春日真実 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第104集 国道116号埋蔵文化財発掘調査報告書 梯子谷跡跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2002 『古代の土器研究会 第6回 シンポジウム須志器の製作技法とその転換』参加記『新潟考古学談話会会報』第27号 新潟考古学談話会
- 春日真実 2003a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第123集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ(C地区)』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2003b 『消費遺跡出土佐渡小泊室須志器のロクロ回転方向』『研究紀要』第4号 13-26頁 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2005 『越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について』『新潟考古』第16号 41-76頁 新潟県考古学会
- 春日真実 2007 『越後における古代の煮炊具について』『新潟考古』第18号 9-54頁 新潟県考古学会
- 春日真実 2009 『越後における古代掘立柱建物』『新潟県の考古学Ⅱ』新潟県考古学会
- 春日真実^{13g} 1999 『越後・佐渡の様相』『北陸古代土器研究』第8号 37-44頁 北陸古代土器研究会

- 加藤 学 2004 『新潟県域におけるほ北方系の土師器費』『越後阿賀北地域の古代土器様相』85-96頁 新潟古代土器研究会
- 加藤 学^{はら} 2006 『B 中世(Ⅲ-Ⅳ期)の遺構』『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第159集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅳ 用言寺遺跡Ⅰ』20-32頁 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学^{はら} 2007 『第Ⅳ章 2-A 井戸(Ⅲ-Ⅳ期)』『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第183集 北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅶ 用言寺遺跡Ⅱ』20-23頁 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鎌方正樹 2003 『ものが語る歴史 8 井戸の考古学』同成社
- 金子祐男 2007 『沼尾郷地『沼尾王瀬』説への疑問』『新潟考古』第18号 55-80頁 新潟県考古学会
- 鴨居幸彦 2002 『2各地の平野地盤』『新潟県地盤図鑑』15-30頁 新潟県地質調査業協会
- 川上貞雄 1981 『五泉市文化財調査報告(2) 山崎須恵器窯址緊急発掘調査報告書』五泉市教育委員会
- 川上貞雄 1989 『第二編 考古』『新潟市史 資料編第1巻 原始・古代・中世』31-236頁 新潟市
- 川上貞雄 1995 『舟戸遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 川上貞雄 1996 『中瀬遺跡』吉田町教育委員会
- 川上貞雄 1997 『上浦入遺跡 新潟市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 川村浩司 2005 『越後の古代集落の素描』『新潟考古談話会会報』第3号 27-40頁 新潟考古学談話会
- キ 北村裕行 2000 『古代における郡城祭祀』『考古学研究』第47巻第1号 53-70頁 考古学研究会
- 北村 淳^{はら} 2004 『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 木下 浩 1993 『第2編 第3章 第1節 水利と新田開発』『新潟市史 通史編 上巻』389-402頁 新潟市
- 木村宗文 1989 『第3章 文献資料解説』『新潟市史 資料編 第1巻 原始・古代・中世』238-411頁 新潟市
- ク 日下 哉 2002 『図解 日本地形用語辞典』東洋書店
- コ 小池邦明・藤塚 明 1993 『新潟市の場遺跡 場的土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間桂吉 1995 『新潟市小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 小池義人^{はら} 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第59集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡・寺道上遺跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小林巖雄 1995 『1巻町周辺の地形・地質』『巻町史 資料編Ⅰ 考古』1-44頁 巻町
- 小林正吾 1998 『第3章 森の生い立ちと行方』『里山の植物』105-119頁 財団法人新潟県都市緑化センター
- 小林昌二 2005 『越の城柵』新大人文選書1 高志書院
- 駒見和夫 1992 『井戸をめぐる祭祀』『考古学雑誌』第77巻4号 78-109頁 日本考古学協会
- サ 坂井秀弥 1989 『北陸型長巻の製作技法』『新潟考古学談話会会報』第3号 20-26頁 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1999 『第1節 総論』『新潟県の考古学』293-300頁 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 2008 『古代地域社会の考古学』同成社
- 坂井秀弥^{はら} 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第35集 上新バイパス関係遺跡発掘調査報告Ⅰ 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 坂井秀弥^{はら} 1989 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第53集 新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 『佐渡の須恵器』『新潟考古』第2号 26-67頁 新潟県考古学会
- 坂上有紀 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第118集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 笹沢正史 1999 『第2項 窯業』『新潟県の考古学』331-338頁 高志書院
- 笹沢正史 2003 『第5章第1節 時代概説』『上越市史 資料編2 考古』429-441頁 上越市
- ス 鈴木邦夫 1989 『第1編 自然』『新潟市史 資料編第1巻 原始・古代・中世』1-17頁 新潟市
- 鈴木浩平 1989 『第5編 地名』『新潟市史 資料編第1巻 原始・古代・中世』455-461頁 新潟市
- 鈴木浩平 1994 『第1節 地形の概観』『新潟市史 通史編 上巻』1-6頁 新潟市
- 鈴木俊成 1994 『第Ⅳ章 4B 井戸の祭祀行為について』『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第60集 一之口遺跡東地区北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書』227・228頁 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木隆介 1998 『建設技術者のための地形図説入門2 紙地』古今書院
- タ 平 慎三 1998 『第5章 植生』『里山の植物』159-206頁 財団法人新潟県都市緑化センター
- 高橋 学 2003 『平野の環境考古学』古今書院
- 田中 靖 1995 『和島村文化財調査報告書 第4集 門前遺跡』和島村教育委員会
- 田中 靖 1999 『和島村文化財調査報告書 第8集 下ノ西遺跡Ⅱ』和島村教育委員会
- 田中 靖 2003 『和島村文化財調査報告書 第14集 下ノ西遺跡Ⅳ』和島村教育委員会
- 田中 靖 2005 『和島村文化財調査報告書 第16集 八幡林遺跡Ⅳ』和島村教育委員会
- ツ 立木宏明^{はら} 1998 『細池遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会

- 立本宏明^{はら} 2004 『山王浦遺跡発掘調査報告書—県営圃場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書—』新津市教育委員会
- 立本宏明^{はら} 2008 『沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査』新潟市教育委員会
- 立木（土橋）由理子^{ゆりこ} 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第91集 国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書 牛道遺跡』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田村 裕 1993 「第3章 荘・保と武士の世」『新潟市史 通史編 上巻』129-214頁 新潟市
- 鶴巻康志 1997 「北越室の年代と技術系譜」『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』杜書房
- ナ 長澤典生^{のりお} 2002 『無頭遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 長澤典生^{のりお} 2004 『五泉市文化財報告（13）能代川関係発掘調査報告Ⅵ 中田遺跡』五泉市教育委員会
- 永井久美男 2002 『新版 中世出土銭の分類図説』高志書院
- 永井久美男（編）1996 『日本出土銭総覧 1996年版』兵庫埋蔵財調査会
- 奈良文化財研究所 編 2010 『発掘調査の手引き—集落遺跡発掘編—』文化庁文化財部記念物課
- ニ 新潟古砂丘グループ 1979 「新潟平野をめぐる地形と特異-5 砂丘と平野」『アーバンクボタ』172-12頁 株式会社クボタ
- 新潟市編 2007 『新潟市の遺跡 新・新潟歴史双書 2 新潟市
- ノ 能代川改修史編集委員（編）1985 『新しい流れをひらく—能代川改修史—』新津市役所
- ヒ 廣野耕造^{こうぞう} 1999 『大瀧遺跡 宅地開発事業に伴う発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- ホ 北陸地方整備局 阿賀野川工事事務所（編）1988 『阿賀野川史』阿賀野川工事事務所
- 星野信明^{のぶあき} 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第80集 勢越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ(B地区)』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細野高伯^{たかお} 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- マ 前山精明・（株）火山考古学研究所 2012 『大沢谷内遺跡Ⅲ 第18次調査—市道鎌倉横川線改良工事に伴う大沢谷内遺跡第2次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会
- 丸山一昭 2005 『和島村文化財調査報告書 第17集 門新遺跡 谷地区Ⅱ—国道116号線と島バイパス建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—』和島村教育委員会
- ム 向井裕知 1999 「井戸における貯蔵具の使用」『北陸古代土器研究 第8号』93-102頁 北陸古代土器研究会
- モ 望月精司 1997 「第2章第4節 北陸」『古代の土器生産と焼成遺跡』111-138頁 真興社
- 望月精司 1999 「第5章 須志器生産関連遺物」『林タカヤマ窯跡』小松市教育委員会
- 望月精司 2001 「須志器甕の製作痕跡と成形技法」『北陸古代土器研究 第9号 須志器貯蔵具を考えるⅡ つばとのかめのつくり方』27-52頁 北陸古代土器研究会
- 望月精司 2002 『ニツ賢一貫山窯跡』小松市教育委員会
- 森田信博^{のぶひろ} 2003 「第3章 十二田遺跡」『十二田・江添E遺跡—吉田町米納津内県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書—』吉田町文化財調査報告書 第11集 11-17頁 吉田町教育委員会
- ヤ 山崎 天^{あま} 1999 『五泉市文化財報告（4）小天山遺跡 工業用地造成工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』五泉市教育委員会
- 山崎 天^{あま} 2004a 『五泉市文化財報告（10）能代川関係発掘調査報告書Ⅲ 新田遺跡』五泉市教育委員会
- 山崎 天^{あま} 2004b 『五泉市文化財報告（12）能代川関係発掘調査報告書Ⅴ 寛下遺跡』五泉市教育委員会
- 山崎 天^{あま} 2004c 『五泉市文化財報告（14）能代川関係発掘調査報告書Ⅵ 巳ノ明遺跡』五泉市教育委員会
- 山崎 天^{あま} 2004d 『五泉市文化財報告（15）能代川関係発掘調査報告書Ⅶ 住吉田遺跡・住吉田南遺跡』五泉市教育委員会
- 山田昌久^{まさひさ} 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集—用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究』特別1号 植生史研究会
- ヨ 吉岡康暢 1994 『中世須志器の研究』吉川弘文館
- ワ 渡邊明和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊明和 1992 『上浦遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊明和^{あきわ} 1997 『金津丘陵製鉄遺跡発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡E・A・C地点、大入遺跡A地点』新津市教育委員会
- 渡邊明和^{あきわ} 1998 『金津丘陵製鉄遺跡発掘調査報告書Ⅲ（分析・考案編）』新津市教育委員会
- 渡邊明和^{あきわ} 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊明和^{あきわ} 2002 『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』新津市教育委員会
- 渡邊ますみ 1990 「新潟県における古代・中世の井戸」『新潟考古学談話会会報』第6号 13・14頁 新潟考古学談話会
- 渡邊ますみ 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』黒崎町教育委員会
- 渡邊ますみ^{ますみ} 2009 「駒首湯遺跡 第3・4次調査—大型小売店舗建設に伴う駒首湯遺跡第3・4次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会
- 渡邊ますみ^{ますみ} 2012 『四十石遺跡 第2次調査—(仮称)新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会

別表1 細池寺道上遺跡遺構計測表(柱六列)

図面No.	区	遺構名	グリッド	時期	構造面	主軸方位	規模(m)	構成遺構		切合関係
								上	下	
33	7	SA1	118-6R24-25, 118-6R16-17-21, 118-7D13-18-21, 118-7E2-4-6-7	不明	Ⅱ	N-63°-E	24.0	P379, P396, P456, P458, P459, P460, P461, P462, P463, P464, P465, P466, P467, P468, P471, P490, P500, P501, P502, P503, P504, P524, P525, P527	>SR2, SD108	
33	7	SA2	118-5D10-15-20, 24-25, 118-6D4-9	不明	Ⅱ	N-18°-E	14.9	P722, P723, P725, P726		

別表2 細池寺道上遺跡遺構計測表(掘立柱建物)

図面No.	区	遺構名	グリッド	時期	構造面	主軸方位	規模(m)						構成遺構	形数	切合関係	備考			
							掘			築							身舎面積(m ²)		
							尺	(cm)	間	尺	(cm)	間							
33	2-7	SB1	118-7C0-10, 118-7D6-7, 11-12-16-17, 20-23, 118-9D1-3, 7-8	Ⅱ	Ⅱ	N-78°-E	21.0	6.3	3	16.0	4.8	2	30.2	PG(2区), P3R7, P402, P407, P420, P422, P450, P515	築期2期型	底	<SA1, SK399	表P430・P432	
34	7	SB2	118-5F19-24-25, 118-6R3-5-8-10, 13-15, 17-20, 22-25, 118-6R1-6-11, 118-7E3-4-5	Ⅰ	Ⅱ	N-19°-E	29.3	11.8	3	17.0	5.1	2	56.7	P905, P454, P465, P468, P511, P513, P521, P495~P497	築期2期型	底	<SD108, SD423, SD393		
35	7	SB3	118-8G1-3-6-8	Ⅱ	Ⅱ	N-72°-E	13.3	4.0	1	8.3	2.5	1	10.52	P155, P188, P227, P254	築期1期型 (掘立柱)	底	SB4, 5, 6		
35	7	SB4	118-8G2-4-7-8-12-13	Ⅱ	Ⅱ	N-76°-E	11.3	3.4	1	8.3	2.5	1	7.88	P136, P164, P255, P542	築期1期型 (掘立柱)	底	SB3, 5, 6		
35	7	SB5	118-8G1-4-6-9-11~13	Ⅱ	Ⅱ	N-80°-E	13.3	4.0	1	9.7	2.9	1	11.46	P129, P159, P163, P227	築期1期型 (掘立柱)	底	SB3, 4, 6		
35	7	SB6	118-8G3-7-9, 12~14	Ⅱ	Ⅱ	N-35°-W	15.7	4.7	1	8.3	2.5	1	9.28	P122, P136, P230, P484	築期1期型 (掘立柱)	底	SB3, 4, 5		
34	7	SB7	118-4I21-25, 118-5I1-10	Ⅱ	Ⅱ	N-81°-E	(23.0)	(6.0)	3	11.0	3.3	2	23.01	P684-688, P690, P695, P697, P911, P912, P933, P955, P966	築期2期型	底	表P900・P910		
34	7	SB8	118-6I10-15-20, 118-6I1-4-6-9-11-15	Ⅱ	Ⅱ	N-84°-E	24.7	7.4	3	13.0	3.9	2	28.81	P650, P660, P665, P669, P671, P672, P674, P678	築期2期型	底	<SD102, SD648, SK378		
35	7	SB9	118-8J24-25	Ⅱ	Ⅱ	N-88°-E	9.2	2.8	1	5.0	1.5	1	4.24	P548, P591, P595, P610	築期1期型 (掘立柱)	底			
34	7	SB10	118-6D8-10-18-20-22-25	Ⅰ	Ⅱ	N-12°-E	19.3	5.8	3以上	7	11.3	3.4	1	18.59	P437, P453, P472~P475, P481, P528	築期1期型 (掘立柱)	底	<SD423, SK434	

別表3 細池寺道上遺跡遺構計測表

図面No.	区	遺構名	グリッド	時期	構造面	主軸方位	規模(cm)				経度	底面面積(m ²)	平面形数	断面形数	柱土	遺物の数	遺物種別	切合関係	備考
							上		下										
							長	幅	長	幅									
9	1区	SK33	98-9B9-14	Ⅱ	Ⅱ	N-55°-E	(125.00)	36.00	(125.00)	14.00	9.00	8.00	-	竪形	2	-	SK32		
9	1区	SD11	98-7A12-13-18-19	Ⅱ	Ⅱ	N-69°-E	-	78.00	-	44.00	16.00	7.84	-	竪形	3	-			
9	1区	SD14	98-6A21, 98-7A1	Ⅱ	Ⅱ	N-59°-E	-	54.00	-	38.00	37.00	7.83	-	平形型	2	-			
9	1区	SK33	98-4E18-19-23-24, 98-5A4	Ⅱ	Ⅱ	N-82°-E N-14°-E	-	173.00	-	82.00	30.00	7.83	-	竪形	5	-			
9	1区	SK46	98-3B13-14	Ⅱ	Ⅱ	N-58°-E	-	82.00	-	15.00	17.00	7.08	-	竪形	3	-			
9	1区	SD33	98-6D9-14-15-20	Ⅱ	Ⅱ	N-35°-W	(255.00)	(45.00)	(295.00)	(28.00)	46.00	7.61	(円形)	竪形	6	-	SK58		
9	1区	SK2	98-8B9-14	Ⅱ	Ⅱ	N-36°-W	32.00	18.00	26.00	15.00	3.00	8.07	横内形	竪形	1	-	SD3		
9	1区	SK20	98-6E8-9	Ⅱ	Ⅱ	N-21°-E	65.00	57.00	30.00	29.00	14.00	7.50	円形	竪形	3	-			
9	1区	SK22	98-5A22	Ⅱ	Ⅱ	N-25°-E	50.00	32.00	33.00	15.00	12.00	7.90	横内形	竪形	2	-			
9	1区	SK54	98-6Z20	Ⅱ	Ⅱ	N-21°-W	50.00	28.00	12.00	12.00	14.00	7.90	不整形	竪形	2	-			
9	1区	SK55	98-6Z8	Ⅱ	Ⅱ	N-49°-W	(80.00)	(62.00)	(56.00)	(40.00)	17.00	7.90	方形	竪形	3	-			
9	1区	SK68	98-6I14-15	Ⅱ	Ⅱ	(N-68°-W)	85.00	(70.00)	65.00	60.00	14.00	7.94	方形	竪形	2	-	<SK51		
9	1区	SK57	98-8B17	Ⅱ	Ⅱ	N-33°-W	163.00	32.00	152.00	21.00	4.00	8.08	不整形	竪形	1	-			
9	1区	SK15	98-6Z20, 98-6A16-21	Ⅱ	Ⅱ	N-34°-W	(199.00)	(14.00)	(176.00)	(8.00)	18.00	7.88	-	竪形	1	-			
11	2区	SD9	118-7C2-7-8-12	Ⅱ	Ⅱ	N-19°-E	-	(70.00)	-	(40.00)	66.00	8.14	-	竪形型	5	○	46		
11	2区	SD15	118-6B4-8-9-14	Ⅱ	Ⅱ	N-27°-W	-	(88.00)	-	(26.00)	44.00	8.31	-	平内形-U字型	4	○			
11	2区	SD17	118-6B4-9-14	Ⅱ	Ⅱ	N-8°-W	375.00	48.00	350.00	25.00	34.00	8.38	-	台形	4	○			
11	2区	SD23	118-6B12-13	Ⅱ	Ⅱ	N-85°-E	-	(61.00)	-	(15.00)	24.00	8.50	-	階段形	3	-			
11	2区	SD24	118-5B11-13	Ⅱ	Ⅱ	N-87°-E	-	(53.00)	-	(45.00)	10.00	8.61	-	竪形	2	○			
11	2区	SK34	118-4A20-25, 118-4B16-21, 118-5A5, 118-5B1-6	Ⅱ	Ⅱ	N-3°-E	-	(70.00)	-	(45.00)	33.00	8.28	-	平内形	5	○			

建設年度 No.	区	通称	グリッド	時期	構造	主軸方位	層高 (cm)				床高	延床面積 (㎡)	平面形態	断面形態	地上	建物の 有無	建物 種別	切合関係	備考
							上 階		下 階										
							長 幅	短 幅	長 幅	短 幅									
11	2R	SD55	11Q-224, 11Q-314	II	IV	N-3-E	-	(30.00)	-	(16.00)	5.00	8.50	-	矩形	1		-SD56		
11	2R	SD56	11Q-224	II	IV	N-79-W	-	(20.00)	-	(11.00)	4.00	8.51	-	矩形	1		-SD55		
11	2R	SD63	11Q-212-13-17-20	II	IV	N-84-W	-	(56.00)	-	(43.00)	73.00	7.82	-	平面形	6	○	-SD97		
11	2R	SD69	10Q-8013-15-19-20-25, 10Q-9G5	II	IV	(東西) N-50-W (南北) N-4-W	-	-	-	-	36.00	8.30	-	矩形-階段形	1		-		
12	2R	SK25	11R-5R3-4-8-9	II	IV	N-8-E	-	(280.00)	-	(60.00)	110.00	7.49	(内形)	凸形	15	○	-	-SD63	
12	2R	SK97	11Q-217-18-23	II	IV	N-35-W (200.00)	-	(60.00)	-	83.00	7.72	(内形)	階段形	5		-	-SD63		
12	2R	SK10	11R-6R20-25, 11R-6C21	II	IV	N-60-W	60.00	41.00	41.00	20.00	10.00	8.73	不整形	凸形	2		-		
12	2R	SK16	11R-6R15	II	IV	N-55-E	63.00	44.00	45.00	28.00	13.00	8.63	橋内形	矩形	3		-		
12	2R	SK27	11R-5A5-9	II	IV	N-2-E	86.00	61.80	75.00	37.00	35.00	8.33	不整形	矩形-平面形	5		-		
12	2R	SK41	11Q-211-23	II	IV	N-60-E	34.00	33.00	18.00	18.00	30.00	7.90	円形	凸形	3		-		
12	2R	SK57	11Q-214	II	IV	N-61-E	58.00	45.00	54.00	30.00	12.00	8.45	橋内形	矩形	2		-		
12	2R	SK96	11Q-214-15-20	II	IV	N-33-W	-	(45.00)	-	(35.00)	83.00	7.80	-	階段形	5		-		
15	2R	SD4	9Q-10R23-25, 10Q-1R3-5-9-10-14-15-19-20-25	II	IV	N-13-W	-	(235.00)	-	(88.00)	40.00	7.80	-	矩形	6	○	46		
15	2R	SD7	9Q-10A15-20, 9Q-10R11-12-16	II	IV	N-77-E	-	(97.00)	-	(80.00)	55.00	7.52	-	逆台形	7		-		
15	2R	SD10	9Q-10A9-10-14-15, 9Q-10R6-11-12	II	IV	N-79-E	-	(173.00)	-	(30.00)	38.00	7.67	-	矩形	4		-		
15	2R	SD16	9P-7D-4-8-10, 9P-7E-8-11-13	II	IV	N-104-E	-	(130.00)	-	(60.00)	45.00	7.63	-	矩形-平面形	5		-		
15	2R	SD19	9P-6D2-25	II	IV	N-84-E	-	85.00	-	53.00	20.00	7.87	-	矩形	3		-		
15	2R	SD20	9P-6D8-19-23-24	II	IV	N-85-E	-	51.00	-	20.00	36.00	7.66	-	V字形	5	○	46		
15	2R	SD23	9P-4R24, 9P-5H4-9-10, 9P-5H6	II	IV	(東西) N-95-E (南北) N-10-W	-	46.00	-	-	29.00	7.91	-	矩形	4		-		
15	2R	SD33	9P-4R11-12-16-17-21-22, 9P-5H2	II	IV	N-7-W	-	(73.00)	-	(25.00)	38.00	7.75	-	不整形	3	○	-		
15	2R	SD39	9P-3G18-19-23-25, 9P-4G3-4	II	IV	N-87-E	-	220.00	-	145.00	45.00	7.65	-	矩形	4		-		
15	2R	SD40	9P-3G11-13-16-18	II	IV	N-82-E	-	130.00	-	45.00	40.00	7.70	-	平面形	4		-		
15	2R	SD44	9P-2F4-25, 9P-2G16-17-21-23, 9P-3F5-10, 9P-3G1-3-6-7	II	IV	N-92-E	-	330.00	-	170.00	86.00	7.18	-	凸形	8	○	46	-SD84	
15	2R	SD45	9P-2F8-9-13-14	II	IV	N-83-E	-	45.00	-	85.00	17.00	7.84	-	矩形	2		-		
15	2R	SD57	9P-10K1-2-6-7-12-13-17-18-22-23	I	IV	N-15-W	-	(145.00)	-	(130.00)	28.00	7.70	-	凸形-階段形	5		-	-SX81	
15	2R	SD84	9P-3F5-10, 9P-3G1-2-6-7	II	IV	N-84-E	-	(168.00)	-	(41.00)	62.00	7.50	-	平面形	4	○	46	-SD44	
16	2R	SK15	9P-7D2-23, 9P-8D2-3	II	IV	N-25-E	140.00	75.00	115.00	65.00	21.00	7.96	(橋内形)	(矩形)	3		-		
16	2R	SK24	9P-5R5-10	II	IV	N-67-W	56.00	50.00	40.00	38.00	12.00	8.00	円形	矩形	3		-		
16	2R	SK47	9P-7D5-10	II	IV	N-67-E	36.00	35.00	13.00	14.00	16.00	7.78	円形	平面形	3		-		
16	2R	SK50	9P-1R15	II	IV	N-2-E	-	(100.00)	-	(100.00)	26.00	7.71	-	矩形	4		-		
16	2R	SK70	9P-1R15-20	II	IV	N-25-W	-	(21.00)	-	(10.00)	19.00	7.88	-	矩形	2		-		
16	2R	SK71	9P-9D28	II	IV	N-80-E	-	(35.00)	-	(16.00)	20.00	7.80	-	矩形	2		-		
16	2R	SX81	9P-10E17-18-22-23	II	IV	N-61-W	-	(105.00)	-	(66.00)	27.00	7.74	-	凸形	2		-	-SD97	
18	4R	SD1	10Q-2C4-5-9-10-14-15	II	IV	N-78-E	-	(225.00)	-	(149.00)	38.00	7.73	-	不整形	凸形	3		-	
18	4R	SD3	10Q-1R6-7-11-12	II	IV	(南-2-E)	-	-	-	-	15.00	8.03	-	凸形	3		-	-SK14	
18	4R	SD5	10Q-1R2-3-7-8	II	IV	N-67-E	-	(225.00)	-	(105.00)	37.00	7.78	-	凸形	8	○	46	-SD18, -SD11, SK6	
18	4R	SD11	10Q-1R23-25, 10Q-1R3-5	II	IIIb	N-2-E	-	(93.00)	-	(20.00)	54.00	7.76	-	矩形	6	○	46	-SD5	
18	4R	SD18	10Q-1R2-7-8	II	IV	N-94-E	-	(113.00)	-	(89.00)	32.00	7.81	-	平面形	3		-	-SD9	
18	4R	SD21	10Q-10R13-17	II	IV	N-20-E	-	(65.00)	-	-	16.00	-	-	凸形	3		-	-	
18	4R	SD22	10Q-10F4-5-9-10-14-15	II	IV	N-71-E	-	215.00	-	89.00	49.00	7.69	-	凸形	8	○	46	-SD117	
18	4R	SD23	10Q-10F5-10	II	IV	N-82-E	-	(70.00)	-	(30.00)	29.00	7.88	-	平面形	4		-		
18	4R	SD30	10Q-9G21-23	II	IV	N-2-E	-	34.00	-	15.00	10.00	8.02	-	平面形	1		-		
18	4R	SD34	10Q-9G13-15-18-19, 9Q-9R11	II	IV	N-5-W	-	(66.00)	-	(40.00)	7.00	-	-	矩形	1		-		
18	4R	SD36	10Q-9G10-14-15, 9Q-9R10-7-11-12	II	IV	N-6-W	-	(170.00)	-	(75.00)	42.00	7.73	-	矩形	9	○	46		
18	4R	SD50	9Q-7D10-15, 9R-7A6-8-11	II	IV	(東西) N-84-W (南北) N-2-E	-	57.00	-	40.00	57.00	7.69	-	凸形	9		-		
18	4R	SD71	9R-6R12-13-18	II	IV	N-86-E	-	(48.00)	-	(17.00)	27.00	8.21	-	平面形	4		-		
18	4R	SD72	9R-6R7-10, 11-14	II	IV	N-2-W	-	(92.00)	-	(50.00)	26.00	8.06	-	凸形	4	○	46		
18	4R	SD74	9R-5R25, 9R-6R4-5-10	II	IV	N-77-E	-	(200.00)	-	(60.00)	(61.00)	7.75	-	矩形	5	○	46		
19	4R	SD77	9R-5C5-10, 9R-5D1-3, 6-8	II	IV	N-1-E	-	(147.00)	-	(68.00)	70.00	7.78	-	矩形	12		-	-SD94, -P97	
19	4R	SD78	9R-4D23, 9R-5D3	II	IV	N-72-E	-	(35.00)	-	(20.00)	24.00	8.20	-	矩形	2		-		
19	4R	SD83	9R-4D15-18-20, 9R-4E8-9-11-14-16-17	II	IV	N-17-W	-	(158.00)	-	(70.00)	53.00	7.80	-	凸形	6	○	-	-SD112	
19	4R	SD88	9R-4E3-5-7-9, 9R-2F21-23, 9R-4F3	II	IIIb	N-23-W	-	80.00	-	34.00	54.00	8.10	-	凸形-平面形	4	○	46	-SD113	

観測所 No.	区	通称	グリッド	時期	観測点	主観方位	観測 (cm)				精度	既設距離 (m)	平面形態	断面形態	埋土	遺物の 有無	遺物 種類	切合関係	備考
							上端		下端										
							長	幅	長	幅									
19	4区	SD91	9R2F16~19	II	IV	N-8-W	-	(85.00)	-	(40.00)	23.00	8.18	-	掘削	3	○	46	<SD106, SD113	
19	4区	SD94	9R5D1-6-11	II	IV	N-8-W	-	(65.00)	-	(33.00)	17.00	8.13	-	掘削	2			<SD77, SX76	
19	4区	SD106	9R2F12~15~17~19, 9R3C6~11	II	IV	N-14-W	-	(140.00)	-	(32.00)	52.00	7.78	-	掘削	8	○		<SD91, <SD113	
19	4区	SD113	9R2F16~17~21~22	II	IV	N-55-E	-	(145.00)	-	(65.00)	56.00	7.87	-	掘削+白粉	6			<SD88, SD91, SD106	
20	4区	SK20	9R7A3-4	II	IV	N-47-W	130.00	120.00	97.00	80.00	67.00	7.72	橋内形	白粉	10	○			
20	4区	SK70	9R6B11~12	II	IV	N-54-E	(180.00)	(130.00)	(100.00)	(79.00)	113.00	7.26	(内形)	掘削	7				
20	4区	SK103	9R5D1-2	II	IV	N-32-W	-	(65.00)	-	(56.00)	64.00	7.67	円形	掘削	5				
20	4区	SK112	9R4E11~12~16~17	II	SD83 既設	N-79-E	140.00	135.00	70.00	65.00	110.00	7.30	橋内形	白粉	9			<SD83	
20	4区	SK117	9Q10F4-5-9-10-14	II	SD22 既設	N-74-E	235.00	220.00	81.00	70.00	(103.00)	7.12	円形	白粉	9			<SD22	
21	4区	SK6	10Q1E3	II	IV	N-64-E	70.00	68.00	40.00	36.00	53.00	7.54	本形形	円形	4			<SD5	
21	4区	SK7	10Q1E3-4-8-9	II	IV	N-34-W	50.00	40.00	104.00	8.00	22.00	2.88	円形	円形	3	○	46	<P118	
21	4区	SK14	10Q1E3-7-11-12	II	IV	N-84-W	104.00	45.00	81.00	22.00	22.00	7.96	橋内形	掘削	4			<SD3	
21	4区	SK40	9Q4E23	II	IV	N-38-W	-	(95.00)	-	(73.00)	27.00	8.14	-	白粉	4				
21	4区	SK41	9Q4E24, 9Q4E4	II	IV	N-37-W	40.00	45.00	30.00	29.00	16.00	8.13	円形	掘削	2				
21	4区	SK44	9Q721~22	II	IV	N-7-E	90.00	53.00	49.00	20.00	30.00	7.96	橋内形	白粉	5				
21	4区	SK46	9Q713~14	II	IV	N-35-W	-	(55.00)	-	(55.00)	52.00	7.94	円形	掘削	8				
21	4区	SK58	9R4E21	II	IV	N-2-E	40.00	38.00	31.00	22.00	21.00	8.14	本形形	白粉	1	○	46		
21	4区	SK59	9R4E11	II	IV	N-58-E	40.00	40.00	29.00	22.00	10.00	8.30	-	掘削	1				
21	4区	SK73	9R6B7-8	II	IV	N-36-E	(113.00)	(85.00)	(65.00)	(7.00)	23.00	8.19	-	掘削	5				
21	4区	SK19	10Q10F17	II	IV	N-84-W	(180.00)	(120.00)	(80.00)	(60.00)	16.00	7.89	(橋内形)	掘削	2				
21	4区	SK76	9R5C10~15, 9R5D6~11	II	IV	N-79-W	(120.00)	(63.00)	(96.00)	(23.00)	17.00	8.19	橋内形	掘削	2			<SD94	
21	4区	SK109	9R3C22~23	II	IV	N-87-E	(113.00)	(60.00)	(40.00)	(30.00)	31.00	8.04	橋内形	掘削	4				
23	6区	SK8	8R9E22, 8R10F2-3	II	IV	N-19-W	-	(28.00)	-	(19.00)	5.00	6.28	-	掘削	1			鉄柱遺構	
23	6区	SK10	8R10F8-9-13	II	IV	N-22-E	-	(2.00)	-	(25.00)	9.00	8.42	-	掘削	2				
23	6区	SK11	8R10F19~20~24~25	II	IV	N-73-E	-	(5.00)	-	(32.00)	13.00	8.38	-	掘削	2				
23	6区	SK16	9R1G12~13~17~18	II	IV	N-60-E	-	(75.00)	-	(38.00)	37.00	8.01	-	白粉	2	○			
23	6区	SK18	8R2A19~22~24, 8R3A2-3	I	IV	N-43-E	-	(90.00)	-	(35.00)	37.00	7.70	-	掘削+白粉	8			<SK26	
23	6区	SK19	8R9E10~14~15	II	IV	N-58-E	-	(55.00)	-	(27.00)	41.00	8.21	-	白粉	3				
23	6区	SK21	9Q127-8-13	II	IV	N-37-W	40.00	40.00	20.00	12.00	8.23	-	掘削	2			<SD24		
23	6区	SK24	9Q123~14~17~18	II	IV	N-66-E	-	(45.00)	-	(25.00)	17.00	8.28	-	掘削	2			<SD21	
23	6区	SK27	8R9F17~22, 8R10F2	II	IV	N-16-W	-	(35.00)	-	(16.00)	8.00	6.36	-	掘削	1			鉄柱遺構	
23	6区	SK28	8R9F16~17~21~22, 8R10F2	II	IV	N-13-W	-	(30.00)	-	(15.00)	9.00	8.27	-	掘削	1			鉄柱遺構	
23	6区	SK29	8R9F11~16~21, 8R10F1-2	II	IV	N-17-W	-	(23.00)	-	(15.00)	7.00	8.30	-	掘削	1			鉄柱遺構	
23	6区	SK30	8R9F11~16~21, 8R10F1	II	IV	N-12-W	-	(30.00)	-	(16.00)	6.00	8.31	-	掘削	1			鉄柱遺構	
23	6区	SK31	8R9E10~15~20, 8R10F16~21	II	IV	N-12-W	-	(40.00)	-	(15.00)	11.00	8.26	-	掘削	1			鉄柱遺構	
23	6区	SK32	8R9E10~15~20	II	IV	N-12-W	-	(33.00)	-	(11.00)	8.00	8.24	-	掘削	2			鉄柱遺構	
23	6区	SK33	8R9E4-5~9~10~15~20	II	IV	N-6-W	-	(31.00)	-	(18.00)	9.00	8.24	-	掘削	1			鉄柱遺構	
23	6区	SK34	8R9E4-9-14	II	IV	N-6-W	-	(30.00)	-	(23.00)	7.00	8.22	-	掘削	1			鉄柱遺構	
23	6区	SK35	8R9E24, 8R9F4-9-14	II	IV	N-8-W	-	(30.00)	-	(15.00)	8.00	8.22	-	掘削	1			鉄柱遺構	
23	6区	SK36	8R9E23~24, 8R9E3-4-9	II	IV	N-10-W	-	(26.00)	-	(14.00)	8.00	8.22	-	掘削	1			鉄柱遺構	
23	6区	SK37	8R9E3-8	II	IV	N-10-W	-	(29.00)	-	(14.00)	6.00	-	-	掘削	1			鉄柱遺構	
23	6区	SK38	8R9E3	II	IV	N-5-W	45.00	20.00	33.00	9.00	4.00	8.16	-	掘削	1			鉄柱遺構	
23	6区	SK1	9Q21F5, 8R2A11	I	IV	(N-35-W)	-	-	-	-	20.00	8.26	-	掘削	2				
23	6区	SK3	8R2A13~15	I	IV	N-38-W	80.00	60.00	50.00	45.00	16.00	8.22	円形	掘削	2				
23	6区	SK4	8R2A13~18	II	IV	N-12-W	-	(33.00)	-	(11.00)	8.00	8.21	-	掘削	2				
23	6区	SK12	9R1G6	II	IV	N-43-W	94.00	70.00	60.00	35.00	22.00	8.20	橋内形	掘削	3				
23	6区	SK13	9R1G6~11~12	II	IV	N-34-E	170.00	130.00	123.00	82.00	32.00	8.14	橋内形	白粉	5				
23	6区	SK26	8R3A2-3	II	III*	(N-37-W)	-	-	-	-	50.00	7.88	(円形)	円形	3			<SD18	
23	6区	SK20	9R1G24, 9R2G4~5-9	II	IV	(N-34-W)	-	-	-	-	24.00	8.14	-	掘削	5				
36	7区	SD7	11R8F21, 11R9E10~15~20~25, 11R9F1-2~11~16~21~22~24, 11R10F3-4	I	IV	(東西 N:74-W (南北) N:21-E)	1,758.00	46.00	-	17.00	44.00	8.52	-	掘削+白粉	6	○	46	<SD47, SK37, SK200, SK337	
36	7区	SD17	11R10F9~10~14	I	IV	N-41-E	-	(46.00)	-	-	30.00	8.68	-	円形	2	○			
36	7区	SD21	11R10E10~15, 11R10F6~11~12	I	IV	N-75-W	423.00	44.00	344.00	22.00	44.00	8.64	-	円形	3	○	46	<SK20, SK26	

群集別 No.	区	通称	グリッド	時期	標高	主観方位	周 長 (cm)				深 度	底辺距離 (m)	平面形	断面形	土 上	遺物の 有無	遺物 種類	切合関係	備 考
							上 端		下 端										
							長 幅	短 幅	長 幅	短 幅									
36・27	7	SD30	11R8E14-15-19-20, 11R8F11-14-16-20-22-25, 11R8G16-25, 11R8H21-25, 11R8J21-22, 11R9M1-5-10, 11R9N10-10, 11R9J1-5-6-10-14-15, 11S9A9-15, 11S9B6	II	IV	N-82°-W	-	21400	-	3000	8100	7.90	-	扇形～台形	15	○	46・47	-SX49, SX58, P208, SX588 -P182, SX183, SX234, SK273, SX545, P546, P582, P596	
			11R8D24-25, 11R8E21-22, 11R8G10-15-20-25, 11R8H1-2-6-10-11-15-21, 11R8H8-12, 11R8J6-15, 11R8F1-5, 11R8F7-4-6-10-15, 11R9G5-7-9-11, 11S5A14-15-19-20-24-25, 11S5A5-10-15-20-25, 11S7A5-10-14-20-25, 11S8A5-15	II	IV	(東西) N-78°-W (南北) N-20°-E	-	8500	-	3200	7200	8.48	-	扇形～台形	9	○	46	-SD96, SX372, P430, SK327, P616, SD643, P871, SD872 -SX2, SD102, SD607, SD609, SX540	
37	7	SD93	11R9F15, 11R9F11-12-16-19-24	I	V	N-72°-W	76400	5100	72700	2000	2900	8.74	-	台形	2	○	47	-SX38, SK141	
			11R9F10-15-19-20	I	IV	N-18°-E	-	8700	-	3400	400	8.90	-	扇形	1	○		-SD47	
37	7	SD102	11R6H21, 11R6E25, 11R6J7-11-12-16-17-21, 11R7G5-10-15, 11R7H11-12-17-19-24-25, 11R7D-9-10-14-18-19-21-25, 11R8E1-2	III	IV	(東西) N-83°-W (南北) N-20°-E	-	2900	-	1700	6.00	8.87	-	扇形	1	○		-SR10, SD47, SD133, SD191, SD192, SD193 -P104, P107, P198	
			11R5E10-14-15-19-20-24-25, 11R6E4-5-9-10-14-15-16-18-20-23-25, 11R7E3-5-8-10-13-15-18-20-23-24, 11R8E2-4-7-9-12-14-17-18-22-24, 11R9E2-4-7-9-12-14-17-19-22-24, 11R9E2-4-7-9-12-14-17-18-22-25, 11R10E3	II	IV	N-5°-E	-	27600	-	6600	8800	7.88	-	扇形～台形	17	○	47	-SR3, SD190, SK206, SK206, P299, P300, SD332, P333 -S41, SD193, P149, SK354, P362, P380, SD383, P508, P530, P531, P534	
37・38	7	SD133	11R4H21-22, 11R5D2-6-7-11-12-16-17-21-22, 11R6H1-2-6-7-11-12-16-17-21, 11R7H1-6-11-16-21-22, 11R8H1-6, 11R8J6-12, 11R8J6-15, 11R9E1-5, 11R9F1-4-6-10-15, 11R9G5-7-9-15, 11S5A14-15-19-20-24-25, 11S5A5-10-15-20-25, 11S7A5-10-15-20-25, 11S8A5-15	II	IV	(東西) N-88°-W (南北) N-3°-E	-	10800	-	3800	4000	8.34	-	扇形～台形	8	○	47	-SD303 (SK202) -SD102, SK207, SD607, SD609, SD624	
			11R6E14-19-20, 11R6F16-18, 23-25, 11R7F5, 11R7G1-2-6-9	III	IV	N-68°-W	-	2600	-	1700	1200	8.74	-	円形	2	○		-SD382, P398 -SD108, P189	
37	7	SD191	11R6F15-18-20-25, 11R6G21-22, 11R7G2-4-9-10	III	IV	N-63°-W	-	3400	-	1800	2000	8.64	-	円形	2	○		-SD102, P189	
			11R6F1-2-7-9, 13-15-20, 11R6G11-16-17-22-24, 11R7G4-5	III	IV	N-61°-W	-	4900	-	3000	4300	8.44	-	台形	4	○		-SD224 -SD102, P368	
37	7	SD193	11R5E25, 11R5D21, 11R6G5, 11R6E1-5, 11R6F1-3-7-10-14-15, 11R6G11-12-16-18-23-25, 11R7G5, 11R7H1	III	IV	N-61°-W	-	6700	-	2500	9300	8.40	-	台形	8	○		-SR3, SD106, P225, (SD224) -SD102, SK430	
			11R6G11-13-18	III	IV	N-61°-W	47000	2000	-	1100	400	7.90	-	扇形	1	○		-SD192, SD193	
37	7	SD224	11R6F1-2-7-9-14-15, 11R6G11-16-18-23-24	III	IV	(N-61°-W)	-	-	-	-	1400	8.64	-	扇形	1	○		-SD208, P322, P323, SK394, SD432	
			11R4F20-24-25, 11R4G16-17-21-25, 11R4H16-23, 11R4H16-18	II	IV	N-82°-E	-	11900	-	4100	6000	8.10	-	扇形～台形	7	○		-SD207, P275, SK317, SK319, SK394, P225	
38	7	SD208	11R4G20-25, 11R4H7-11-12-16, 11R5G4-5	III	IV	N-32°-E	-	5600	-	2500	2000	8.60	-	台形	3	○		-SD190	
			11R9E12-67	III	IV	N-44°-E	-	2390	-	1000	-	8.76	-	台形	1	○	47	-SD190	
38	7	SD382	11R6E20, 11R6F8-11-16	III	IV	N-25°-E	43000	2000	42000	1500	400	8.76	-	扇形	2	○		-SD133, SK316, SD387 -SD208, P322, P323, SK394, SD432	
			11R6F8-12-13-17-18-22	III	IV	N-27°-E	-	2100	-	1500	2200	8.00	-	U字形	2	○		-SD470	
38	7	SD413	11R6D20-24-25, 11R7D4-5-9-14	I	IV	N-18°-E	74000	5500	72000	3000	9.00	8.72	-	扇形	2	○		-SR3, SR18 -SD427, SD487, P526	
			11R6D8-9-13-15-20, 11R6D4-5-9-10-14-16-19	III	IV	N-79°-W	-	10000	-	2200	6600	8.45	-	扇形	7	○		-SD108, SK423	
38	7	SD428	11R6E4-9	III	IV	N-10°-E	-	2400	-	2500	-	-	-	台形	1	○		-SD108, SK423	
			11R6D5-10-15, 11R6E1-6	I	IV	N-7°-E	-	3200	-	1500	1200	8.00	-	扇形	2	○		-SD423	
38	7	SD607	11S5H10-23-24, 11S6H3-7-8-12-13-17-21-23, 11S7A10-15-19-20-24-25, 11S7H1-6, 11S8A4-8-9	III	IV	N-23°-E	-	2800	-	1700	1800	8.78	-	U字形	2	○		-SD47, SD133, SD635, SD672 -P641	
			11S6H8-10-15, 11S6C8-11-15-19-20, 11S6D16-18-23	III	IV	N-75°-W	-	3200	-	1800	1000	8.80	-	扇形	1	○		-SD628 -SD607, P638	
38	7	SD636	11S6C14-15, 11S6D11-16	III	IV	N-79°-W	-	1800	-	600	-	-	-	台形	1	○		-SD653, SD712, SD714	
			11S6J6-11-16-17-21-22, 11R6D1-2	II	IV	N-13°-W	81500	5300	80000	2000	2300	8.62	-	扇形	2	○		-SD628	
38	7	SD712	11S5D2-7-12-17-22, 11S6D2-7-11-12-16-17	III	IV	(東西) N-79°-W (南北) N-8°-E	-	3200	-	1600	1600	8.76	-	扇形	2	○		-SD715	
			11S6D17-18	III	IV	N-80°-W	-	3000	-	3000	-	1700	-	-	円形	2	○		-SD715
38	7	SD714	11S5D2-7-12-17-22, 11S6D1-2-6-11-16, 11S4B22-23	III	IV	N-13°-E	-	3200	-	1800	2800	8.62	-	U字形	2	○		-SD715, SX720 -SD636	
			11S6D5, 11S6D1-6-9	III	IV	N-72°-W	76100	3000	75300	1600	1300	8.84	-	扇形	1	○		-SD712, SD714	
38	7	SD716	11S5D7-12-16-17	III	IV	N-83°-W	-	3000	-	800	5000	8.85	-	扇形	3	○		-SX720	
			11S4D13-15-19-20, 11S4E16-18-23, 11S4E2-3-7-8-12-17-21-22, 11S4D20-25, 11S4E1-2-6-11-16-21, 11S7D0	III	IV	N-13°-E	-	3600	-	1200	5100	8.30	-	U字形	3	○		-SD770, SD773	

新設路線 No.	区	道路	グリッド	時期	構造	主軸方位	幅員 (m)				標準 幅員	道路幅員 (m)	平面形態	断面形態	地上	遮物の 有無	遮物 高さ	切合関係	備考		
							上端		下端												
							左側	右側	左側	右側											
38	7区	SD719	115-4D13-15-20, 115-4E11-16-18-23, 115-5E3-7-8-12-13-17-22, 115-6E1-2-6-7-11-16-21, 115-7D5-10, 115-7E3-6	近	IV	N-13°E	-	35.00	-	14.00	36.00	8.40	-	断面-凸形	2	○		-SD770			
38	7区	SD723	115-4D14-19-20	近	IV	N-69°E	-	20.00	-	12.00	6.00	8.68	-	断面	1			-SD718			
39	7区	SD725	115-2F4-5-9-10-14-15-20-25, 115-2G11-16-17-21-22, 115-3F5, 115-3G1-2-6-7-11-13-16-18-22-23, 115-4G2-4-8-9-13-14-18-20	中	IV	N-20°W	-	253.00	-	58.00	87.00	8.04	-	V字路	15	○	47	-SK777, SD808, SK841, SD856, P867, P874, SK932			
39	7区	SD808	115-2G23, 115-3G3-8-13-18-23	近	IV	N-13°E (986.00)	45.00	(968.00)	18.00	14.00	8.87	-	断面	1			-SD775				
39	7区	SD837	115-4F4-5, 115-4G1	近	IV	N-70°W	289.00	29.00	300.00	9.00	8.00	8.84	-	断面	1						
39	7区	SD878	115-3F25, 115-3G21	I	IV	N-47°W	-	32.00	-	14.00	8.00	8.89	-	断面	1			-P852			
39	7区	SD918	115-1G14-19-24, 115-2G4	近	IV	N-7°E	528.00	21.00	518.00	10.00	4.00	8.90	-	断面	1						
40	7区	SK209	118-7F7-8-12-13	中	IV	N-43°E	184.00	148.00	72.00	68.00	110.00	7.72	内形	凸形	13			-SB2			
40	7区	SK424	118-4D18-23	中	IV	N-32°W	177.00	125.00	81.00	74.00	92.00	7.13	断面	凸形	12	○		-SB18			
40	7区	SK577	118-6J14-15	中	IV	N-30°E	149.00	143.00	(107.00)	70.00	127.00	7.08	不整形	凸形	8	○	48	-P847			
40	7区	SK678	118-6J13-14-18-19	中	IV	N-68°E	133.00	106.00	78.00	69.00	120.00	7.68	不整形	凸形	8	○		-SB10			
40	7区	SK704	118-6J11-12-17	中	IV	N-65°E	178.00	167.00	84.00	77.00	93.00	7.62	内形	凸形	9	○	48				
41	7区	SK1	118-10E9-4-8-9-10-14	I	IV	-	-	-	-	28.00	8.72	-	断面	2	○	48					
36	7区	SK20	118-10E15, 118-10F6-11	I	IV	-	-	-	-	16.00	-	-	断面	1	○	48	-SD21 -SK24				
41	7区	SK18	118-10F7-12	I	IV	N-45°E	137.00	118.00	44.00	29.00	10.00	8.85	内形	断面	1						
41	7区	SK22	118-10F20, 118-10F16	I	IV	-	-	-	-	13.00	8.88	-	断面	1							
41	7区	SK23	118-10F20	I	IV	-	-	-	-	60.00	8.28	-	断面-凸形	7							
41	7区	SK28	118-10F1	I	IV	N-60°W	63.00	56.00	10.00	9.00	24.00	8.67	方面	V字路	4						
41	7区	SK34	120-1F25, 120-1G21, 120-2G1	I	IV	(N-41°W) (212.00)	86.00	(170.00)	53.00	22.00	8.86	不整形	断面-V字路	3	○	48					
41	7区	SK50	118-10F7	I	IV	N-60°W	74.00	46.00	27.00	19.00	9.00	8.92	橋内形	断面	1			-SK53			
41	7区	SK53	118-9F7-8	I	IV	N-20°E	63.00	36.00	14.00	8.00	56.00	8.42	橋内形	V字路	2			-SK51 -SK50			
41	7区	SK56	118-6H15-20	I	IV	N-12°E	166.00	142.00	122.00	109.00	32.00	6.72	内形	断面	2	○	48-49	-P87			
41	7区	SK68	118-10F10	I	IV	-	-	-	-	29.00	9.80	-	断面	1	○	48	-SK69				
41	7区	SK69	118-10F10	I	IV	-	-	-	-	30.00	20.00	8.82	-	断面	1	○	49	-SK68			
41	7区	SK76	118-9G24-25	I	IV	N-35°W	71.00	60.00	52.00	38.00	15.00	8.80	内形	断面	2						
41	7区	SK77	118-9G25	I	IV	N-40°W	72.00	64.00	48.00	38.00	18.00	8.78	内形	断面	3	○	49				
41	7区	SK86	118-9F21	I	IV	N-35°W	70.00	62.00	57.00	47.00	20.00	8.74	内形	凸形	2						
42	7区	SK90	118-9F16-17	I	IV	N-65°W	54.00	32.00	42.00	21.00	8.00	8.85	橋内形	断面	1						
42	7区	SK92	118-9F13-14-19	I	IV	N-78°W	170.00	99.00	149.00	74.00	16.00	8.75	橋内形	断面	3	○	49	-SK116, SK143			
42	7区	SK97	118-9F16-21	I	IV	-	-	-	-	71.00	-	45.00	20.00	6.72	-	断面	3	○	49	-SD2	
42	7区	SK98	118-9F17-18-22-23	I	IV	-	-	-	-	(58.00)	-	34.00	19.00	8.68	不整形	断面	2			-SK99 -SK93	
42	7区	SK99	118-9F17-18	I	IV	-	-	-	-	34.00	22.00	8.60	不整形橋内形	断面	2				-SK98, SK93		
42	7区	SK116	118-9F13-14	I	IV	N-70°W	203.00	124.00	179.00	98.00	15.00	8.76	橋内形	断面	3	○	50	-SK92, SK143			
42	7区	SK140	118-9F17	I	IV	-	-	-	-	25.00	8.67	-	断面	3	○	50	-SK99				
42	7区	SK141	118-9F19	I	IV	-	-	-	-	112.00	-	80.00	7.00	8.83	-	断面	2	○	50	-SK99	
42	7区	SK145	118-9F11-12	I	IV	N-50°W	267.00	213.00	346.00	168.00	16.00	8.80	不整形断面	断面	2	○	50-51				
42	7区	SK161	118-9G1-25	中	IV	N-6°E	36.00	33.00	5.00	5.00	60.00	8.50	方面	凸形	2						
42	7区	SK195	118-9G23-24	中	IV	N-60°W	42.00	35.00	26.00	18.00	18.00	8.76	橋内形	凸形	2						
42	7区	SK200	118-8F21-22, 118-9F1	I	IV	N-75°E	(86.00)	(80.00)	(58.00)	(56.00)	12.00	8.78	不整形	断面	3				-SD2		
42	7区	SK201	118-9G2-4	I	IV	N-22°E	112.00	88.00	66.00	50.00	22.00	8.72	不整形	断面	4						
42	7区	SK202	118-7G20-25, 118-7H16-21	I	IV	-	-	-	-	61.00	-	20.00	24.00	6.58	不整形	断面	2	○	50	-SD133	
43	7区	SK250	118-5G17-22	中	IV	N-80°W	96.00	60.00	74.00	45.00	24.00	8.60	不整形	断面	2						
43	7区	SK273	118-8E20, 118-8F16	中	IV	(N-80°E) (67.00)	(37.00)	(14.00)	(12.00)	24.00	8.62	不整形	凸形	3					-SD30		
43	7区	SK292	118-7F23, 118-8F3	中	IV	N-70°E	81.00	54.00	28.00	8.00	3.00	8.56	不整形	凸形	3						
43	7区	SK317	118-4G24-25, 118-5G4-5	中	IV	-	-	-	-	95.00	-	22.00	8.54	-	断面	2				-SD268	
43	7区	SK324	118-9F6-11	中	IV	N-40°W	95.00	90.00	70.00	65.00	16.00	8.76	内形	断面	1						
43	7区	SK409	118-7D21-22, 118-8D1-2	I	IV	(N-109°W) (103.00)	85.00	54.00	50.00	29.00	8.64	-	凸形	1							
43	7区	SK411	118-7H16-17	I	IV	N-15°W	116.00	112.00	88.00	78.00	29.00	8.54	方面	断面	4						
43	7区	SK414	118-7D5-10-15	I	IV	N-24°E	271.00	(104.00)	228.00	50.00	26.00	8.60	不整形	凸形	3						
43	7区	SK442	118-9F7	I	IV	N-60°W	96.00	84.00	56.00	42.00	17.00	8.72	内形	断面	2	○	50				
43	7区	SK488	118-6D4-5-9-10	I	IV	-	-	-	-	(183.00)	-	77.00	62.00	8.14	不整形	断面	7				-SK535

調査箇所 No.	区	遺跡	グリッド	時期	構造部	主軸方位	規模 (cm)				深さ	底辺面積 (㎡)	平面形態	断面形態	埋土	遺物の有無	遺物 関係	切合関係	備考
							上端		下端										
							長	幅	長	幅									
44	7K	SK575	11R-721-22, 11R-831-2	I	IV	N-26°E	357.00	280.00	256.00	214.00	30.00	8.70	不整形	扇形	4	○	S0-52	-SK576 -P590	
43	7K	SK378	11R-722	I	IV	N-32°E	136.00	80.00	53.00	27.00	33.00	8.62	不整形	扇形	3			-SK575	
42	7K	SK577	11R-822-4-8-9	I	IV	N-56°E	287.00	250.00	192.00	185.00	29.00	8.72	不整形	扇形	6	○	S2	-P584	
43	7K	SK397	115-607-8	II	IV	N-90°E	55.00	48.00	47.00	35.00	13.00	8.90	円形	扇形	1				
43	7K	SK601	115-7822-23, 115-882-3	I	IV	N-47°E	210.00	194.00	163.00	155.00	25.00	8.72	円形	扇形	5	○			
43	7K	SK681	118-4121	II	IV	N-75°E	78.00	76.00	53.00	51.00	24.00	8.48	円形	台形	5				
43	7K	SK682	118-4121-22	II	IV	N-53°W	80.00	52.00	66.00	28.00	36.00	8.37	不整形	扇形	4				
43	7K	SK799	115-694	II	IV	N-67°E	49.00	33.00	30.00	12.00	22.00	8.70	楕円形	階段状	3				
44	7K	SK899	115-297	II	IV	N-60°W	46.00	32.00	20.00	15.00	20.00	8.58	楕円形	不整形円形	3				
45	7K	SK26	118-10F12	I	IV	-	(96.00)	(74.00)	(60.00)	(50.00)	12.00	8.86	-	扇形	1	○		-SK144 -SD121	
45	7K	SK28	118-8124-25, 118-944-5	I	IV	-	200.00	-	180.00	-	13.00	8.85	-	扇形	2			-SK300	
45	7K	SK106	118-814-9	II	IV	N-0°	94.00	39.00	87.00	25.00	12.00	8.86	不整形	扇形	1				
45	7K	SK118	118-78D4-25, 118-895	II	IV	N-53°W	90.00	69.00	58.00	-	49.00	8.42	不整形	台形	4			-SK119	
45	7K	SK119	118-78D5	II	IV	N-42°E	-	36.00	-	24.00	10.00	8.73	-	扇形	1			-SK118	
45	7K	SK144	118-109F11-12-16-17	I	IV	N-44°W	210.00	176.00	190.00	147.00	20.00	8.80	円形	扇形	1	○	S2	-SK26, P27, P60, P61	
45	7K	SK237	118-4017-18	II	IV	N-35°E	63.00	32.00	54.00	26.00	6.00	8.68	不整形	扇形	1				
45	7K	SK328	118-4G20	II	IV	N-15°E	108.00	102.00	97.00	82.00	14.00	8.60	不整形	扇形	1				
45	7K	SK550	118-6218	II	IV	N-50°W	79.00	30.00	12.00	6.00	11.00	8.94	不整形	V字形	3				
45	7K	SK683	118-4H22-23, 118-5G2-3	II	IV	N-67°E	-	69.00	-	30.00	30.00	8.44	-	V字形	2			-SD133	
38	7K	SK094	118-4H11-16	II	IV	N-54°E	-	84.00	-	62.00	4.00	8.68	-	扇形	1			-SD268	
45	7K	SK743	115-5F19-24	II	IV	N-28°E	90.00	43.00	77.00	27.00	11.00	8.80	長円形	不整形円形	1			-SK742 -P744	
39	7K	SK807	115-3G16-17	II	IV	N-20°W	81.00	55.00	45.00	30.00	23.00	8.74	楕円形	扇形	2				
45	7K	P70	118-819-20	I	IV	N-40°W	32.00	40.00	8.00	7.00	23.00	8.84	不整形	台形	2	○	S2		
45	7K	P229	118-6F5	II	IV	N-70°W	48.00	34.00	36.00	22.00	31.00	8.54	不整形	台形	2				
45	7K	P423	118-6D19	II	IV	N-11°E	37.00	31.00	23.00	21.00	44.00	8.30	円形	U字形					
45	7K	P581	115-8A17	I	IV	N-18°E	24.00	18.00	14.00	11.00	6.00	8.82	円形	U字形		○	S2	-P672	
44	7K	P584	118-823-8	I	IV	-	65.00	40.00	50.00	30.00	16.00	8.60	楕円形	扇形		○	S2	-SK577	
45	7K	P692	118-5H4	II	IV	N-25°W	26.00	25.00	17.00	13.00	42.00	8.44	円形	U字形		○			

別表4 細池寺道上遺跡 土器・陶磁器観察表

凡例 数値の欄から出した遺物が組合した場合、最も観片の大きい遺物を種類欄(土器)とした。

実測 No.	関係 No.	報告 No.	区	位置 遺跡名	グリッド	層位	器種	形状	分製	径長 (cm)				器底 形状	器底 直径	胎土 含有物	胎土 色調	焼成	成形・造形				備考	
										口径	底径	高さ	器底 径						外面	内面	底面	口縁部		造形 特徴
127	46	1	2	S09	11R-7C8	5層	珠洲系	鉢	-	(10.0)	-	-	-	-	長	10Y7/1灰白	硬丸 焼成	ナデ	ナデ	縦目肌	-	4/36	珠洲磁片	
172	46	2	3	SD20	9P-6G19	1層	珠洲系	鉢鉢	(30.2)	-	-	-	-	長	2.5GY6/1オリーブ灰	硬丸 焼成	口クロナデ	口クロナデ	口縁目肌		1/36	-	口縁-体部交互 焼片	
174	46	3	3	SD4	10Q-1B4	1層	珠洲系	片口鉢	-	-	-	-	-	長	5Y7/1灰白	硬丸 焼成	口クロナデ	口クロナデ	-	-	-	-	-	体部磁片
155	46	4	3	SD44	9R-2G21	1層	古瀬戸	西耳壺	-	-	-	-	-	長	胎土不明	硬丸 焼成	口クロナデ	口クロナデ	口縁部	口縁部	-	-	体部磁片	外面自然剥片着
173	46	5	3	SD84	9P-3G2	4層	珠洲系	西耳壺	-	-	-	-	-	長	N5/0灰	硬丸 焼成	タタキ目	口クロナデ	口縁部	口縁部	-	-	-	体部磁片
157	46	6	4	SD5	10Q-1B3	1層	古瀬戸	碗	-	-	-	-	-	長	N8/0灰白(本地 胎)	硬丸 焼成	口クロナデ	口クロナデ	口縁部	口縁部	-	-	-	体部磁片
158	46	7	4	SD22	9Q-10F9	6層	中野土層部	皿	(7.0)	-	-	-	-	長	胎土不明	硬丸 焼成	口クロナデ	口クロナデ	口縁部	口縁部	3/36	-	口縁部磁片	
126	46	8	4	SD11	10Q-1B3	5層	珠洲系	鉢鉢	-	(10.0)	-	-	-	長	骨	N5/0灰白	硬丸 焼成	口クロナデ	口クロナデ	静土剥片	-	4/36	珠洲磁片	
182	46	9	4	SD36	9Q-10G15	9層	珠洲系	壺	-	-	-	-	-	長	骨	N4/0灰	硬丸 焼成	タタキ目	ナデ	当て目肌	-	-	体部磁片	
178	46	10	4	SD74	9R-6B5	5層	珠洲系	壺	-	-	-	-	-	長	骨	7.5Y4/2灰オリーブ	硬丸 焼成	タタキ目	当て目肌	-	-	-	体部磁片	

実測 No.	計画 No.	地区	所在地 区	区画 No.	用途 区分	種別	形状	面積 (㎡)	容積 率	高さ (m)	用途 種別	用途 種別	地上		地味	成形・造形				備考						
													色	調		表面	内部	底部	開口部		庇部	状態				
159	46	11	4	SK7	10Q-118	1層	中世土蔵跡	跡	-	(9.6)	-	-	-	長・横・骨 筋跡	7.537/2.2(築)	遺石 柱石	ロクロナデ	ロクロナデ	廻転廻り	-	4/36	底葺瓦片	内面コブ、表面ス ス			
128	46	12	4	SK08	9R-GR21	2層	真流院	経路	-	13.4	-	-	-	長・石・積物跡	N4/0(瓦)	遺石 礎石	ロクロナデ	ロクロナデ置し目	静止表示	-	36/36	底葺	内面コブ表面コブ			
180	46	13	4	SK03	9R-4E12	1層	真流院	倉	-	-	-	-	-	長・石	N7/0(瓦白)	遺石 礎石	羅漢ロクロナデ 斜部タタキ目	羅漢ロクロナデ 瓦筋ナデ 当て瓦筋	-	-	-	裏葺瓦片	-			
181	46	14	4	SK08	9R-4E5	2層	真流院	経路	-	-	-	-	-	長 礎石	N7/0(瓦白)	遺石 礎石	ロクロナデ	ロクロナデ置し目	-	-	-	表葺瓦片	-			
179	46	15	4	SK01	9R-3F18	3層	真流院	倉・庫	-	-	-	-	-	長	7.537/1(瓦白)	遺石 礎石	タタキ目	当て瓦筋	-	-	-	裏葺瓦片	-			
177	46	16	4	SK74	9R-6R5	2層	真流院	倉・庫	-	-	-	-	-	長	7.536/3(オリーブ瓦)	遺石 礎石	タタキ目	当て瓦筋	-	-	-	裏葺瓦片	-			
200	46	17	7	SD2	11R-9F23 11R-10F3	2・4層	1層跡	跡	跡	-	-	-	E2	長・石・角・白 土	5YR7/0(遺)	陶石	ロクロナデ→カキ目	ロクロナデ→カキ目	-	1/36	-	白線葺瓦片	-			
103	46	18	7	SD2 池内群 池内群	11R-9F23 11R-10F3	3層跡	土庫跡	跡	跡	-	-	-	E2	長・石・角	5YR7/6(遺)	陶石 柱石	ロクロナデ	カキ目	カキ目	1/36	1/36	白線→底葺瓦片	-			
192	46	19	7	SD21 池内群	11R-10F15 11R-10F12	1層跡	土庫跡	大塹	-	-	-	-	A3	長・骨 礎石	小筋	10YR5/1(陶瓦)	遺石 礎石	格子状タタキ目	当て瓦筋	-	-	-	裏葺瓦片	-		
185	46	20	7	SD30 池内群	11R-8G25	1層	裏土庫	大塹	-	-	-	-	A2	長・石・雲	小筋	N6/0(瓦)	遺石 礎石	タタキ目	当て瓦筋	-	-	-	裏葺瓦片	-		
131	46	21	7	SD30 池内群	11R-929 11S-9A15	1・3層 跡	真流院	倉・庫	-	(13.6)	-	-	-	長・瓦	N6/0(瓦)	遺石 礎石	ロクロナデ	ロクロナデ→ナデ	敷目瓦	-	4/36	底葺瓦片	-			
117	46	22	7	SD30	11R-926	1・3層跡	裏土庫	大塹	(26.0)	-	-	-	A2	長・石	小筋	N6/0(瓦)	遺石 礎石	ロクロナデ	ロクロナデ	-	4/36	-	白線葺瓦片	-		
10	46	23	7	SD47	11S-8A11	1層	土庫跡	無内容	-	6.0	-	-	C	長・石・角・瓦・角 ・石	10YR7/3(にがい貝類)	陶石	ロクロナデ	ロクロナデ	表示	右	-	36/36	底葺	-		
14	46	24	7	SD47	11S-8A13	2・3層跡	土庫跡	無内容	(13.3)	-	-	-	C	長・角・角・長 ・石	7.537/7/4(にがい貝)	陶石	ロクロナデ	ロクロナデ→仕上げ ナデ	-	-	-	5/36	-	白線葺瓦片	-	
144	46	25	7	SD30 SD47	11S-9A8 11S-8A13	1層 2・3層跡	解助内蔵	瓦	(16.2)	-	-	-	-	横 白土	10YR7/1(陶瓦) 10Y6/2(オリーブ(赤))	やや 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	-	3/36	-	白線葺瓦片	-	
143	46	26	7	SD47	11S-8A11	2・3層跡	灰蔵内蔵	瓦	(16.4)	-	-	-	-	横 白土	7.537/8/1(瓦白(骨地))	陶石	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	-	1/36	-	白線葺瓦片	-	
168	46	27	7	SD47	11R-836	4層	真流院	倉	-	-	-	-	-	長・石・横・骨	N4/0(瓦)	遺石 礎石	タタキ目	当て瓦筋	-	-	-	裏葺瓦片	-			
170	46	28	7	SD47	11S-6A25	1層	真流院	倉	-	-	-	-	-	横・石	10Y5/1(瓦)	遺石 礎石	タタキ目	-	-	-	-	裏葺瓦片	-			
183	47	29	7	SD30 池内群 池内群 池内群	11R-8G24 11R-926 11R-9F1 11R-9F19 11R-10R10	5層 4層 跡 跡 跡	裏土庫	大塹	-	-	-	-	A3	横・長・石・雲・骨	小筋	N6/0(瓦)	遺石 礎石	タタキ目	当て瓦筋 自然剥き	-	-	-	裏葺瓦片	-		
123	47	30	7	SD108	11R-9R17	3層	裏土庫	無内容	(3.0)	-	-	-	A1	長・骨	小筋	N6/0(瓦)	遺石 礎石	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切り	-	8/36	底葺瓦片	-		
119	47	31	7	SD108	11R-7R24	5層	裏土庫	長塹	(11.6)	-	-	-	A3	長・瓦	6/0	N4/0(瓦)	遺石 礎石	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ、回 転式	-	9/36	底葺瓦片	-		
15	47	32	7	SD108 池内群	11R-8G23 11R-9E2	1層 跡	土庫跡	無内容	14	(14.4)	4.0	(4.5)	(27.8)	(33.3)	D1	長・石・横・内蔵	7.537/7/3(にがい貝)	陶石	ロクロナデ	ロクロナデ→仕上げ ナデ	表示	右	1/36	36/36	白線→底葺	内面スス 表面劣化はげしい
66	47	33	7	SD108	11R-9E18	3層	土庫跡	小塹	-	6.2	-	-	-	D3	長・石・横・骨 筋跡	10YR6/6(赤地)	陶石 柱石	ロクロナデ	ロクロナデ	表示	右	-	36/36	裏葺下→底葺	-	
160	47	34	7	SD108	11R-7R23	1層	北護国寺	西瓦	-	-	-	-	-	長・石	N5/0(瓦)	遺石 礎石	ロクロナデ→築部にか き目	ロクロナデ	-	-	-	-	-	斜→裏葺上平 葺	-	
160	47	35	7	SD108	11R-7R4	5層	真流院	瓦	-	-	-	-	-	長・石・骨	N6/0(瓦)	遺石 礎石	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	-	-	裏葺瓦片	-		
169	47	36	7	SD108	11R-8R13	1層	真流院	瓦	-	-	-	-	-	長・骨 礎石	N4/0(瓦)	遺石 礎石	タタキ目	当て瓦筋	-	-	-	-	裏葺瓦片	-		
97	47	37	7	SD93 SK140 SK17 SK26	11R-9F17 11R-10F10 11R-10F12 11R-10R6	1層	土庫跡	跡	(42.0)	-	-	-	E1	横・長・石・雲	7.537/7/2(陶瓦)	陶石 柱石	カキ目×ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	-	6/36	-	白線葺瓦片	-	
136	47	38	7	SD133	11R-6R6	1層	真流院	経路	(34.8)	-	-	-	-	長・石	5YR5/2(オリーブ)	遺石 やや 軟質	ロクロナデ	ロクロナデ置し目	-	-	-	3/36	-	白線葺瓦片	内面スス	
167	47	39	7	SD133	11R-8R21 11R-6R6	2・3層 2・3層跡	真流院	倉	-	-	-	-	-	長・石・骨	6YR5/1(オリーブ)	遺石 やや 軟質	タタキ目	当て瓦筋	-	-	-	-	裏葺瓦片	内外面葺物敷付 有		

実測 No.	計画 No.	区	所在地 グッド	階位	種類	形状	分類	法 定 (cm)				色 調	機 材	成 形・調 整				建 存 率		備 考						
								色 目	色 目	色 目	色 目			外 面	内 面	底 部	傾 斜	日 照	庇 遮		状態					
164	47	40	SR133	11R-081	2・3 階	瓦葺	窓枠	-	-	-	-	長・石	NS/0床	褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	新築	瓦						
98	47	41	SR393	11R-095	1 階	土葺	塀	II	-	-	-	D2	長・石・壁 10YR7/3 に近い黄褐色 長尺	褐色 縦目	ロクロナデ 手付メ 手付メ	カキメ	左	-	-	白壁	瓦葺					
63	47	42	SR775	11S-4G15	1 階	土葺	小塀	II	(12.8)	5.7	(13.8)	(14.5)	E2	長・石・角 機材 機材	7.5YR6/3 に近い褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面	左	12/36	36/36	白壁	瓦葺			
147	48	43	SR877	11R-0215	12 階	瓦葺	塀	II	(18.4)	-	-	-	-	南東	NS/0床白(角) 7.5YR7/1 に近い(機材)	褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	-	-	白壁	瓦葺			
161	48	44	SR777	11R-0215	2 階	瓦葺	塀	-	-	-	-	-	-	-	長・石	SR/1 縦目	褐色 縦目	タタキ	タテ瓦	-	-	-	新築	瓦		
134	48	45	SR677 SR704	11R-0215 11R-0212	13 階 2 階	瓦葺	塀	(27.6)	-	-	-	-	-	-	長・石・壁	6YR7/1 オリーブ	褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	-	-	白壁	瓦葺		
162	48	46	SR704	11R-0212	5 階	瓦葺	塀	-	-	-	-	-	-	-	長	NS/0床	褐色 縦目	タタキ	タテ瓦	-	-	-	新築	瓦		
165	48	47	SR704	11R-0212	7 階	瓦葺	塀	-	-	-	-	-	-	-	長・石	SR/1 縦目	褐色 縦目	タタキ	タテ瓦	-	-	-	新築	瓦		
135	48	48	SR704	11R-0212	4 階	瓦葺	瓦	(14.6)	-	-	-	-	-	-	長・石・壁	NS/0床	褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	-	-	白壁	瓦葺		
333	48	49	SR704 SR133	11R-0222 11R-0222	9 階 4・6 階	瓦葺	塀	-	(14.8)	-	-	-	-	-	長・石	DY/1 床	褐色 縦目	ロクロナデ	縦目	-	6/36	-	-	白壁	瓦葺	
148	48	50	SR1	11R-1009	1 階	瓦葺	塀	-	-	-	-	-	-	-	長	SR/1 縦目	褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	-	白壁	瓦葺		
17	48	51	SR20	11R-10P11	1 階	土葺	塀	-	4.2	-	-	-	-	-	E2 内・石	5YR7/0 褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	右	-	36/36	-	-	新築	瓦	
18	48	52	SR34	12R-1G21	2・4 階	土葺	塀	III	15.4	6.4	4.6	29.9	41.6	-	C 長・石・壁 長・石	10YR8/4 浅黄褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	右	29/36	20/36	-	-	白壁	瓦葺	
11	48	53	SR56	11R-8120	2 階	土葺	塀	I a	(14.4)	5.5	(4.4)	(36.0)	(38.2)	E2	長・石	DY/0/0 褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面	右	9/36	36/36	-	-	白壁	瓦葺
19	48	54	SR56 SR56	11R-8120 11R-8120	1 階 2 階	土葺	塀	I a	12.0	5.4	3.3	27.5	45.0	-	C 長・石・壁 長・石	7.5YR8/4 浅黄褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面	右	22/36	36/36	-	-	白壁	瓦葺
21	48	55	SR56	11R-8120	2 階	土葺	塀	II	(16.2)	-	-	-	-	E2	長・石・壁・角 長・石	7.5YR8/3 に近い褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	右	5/36	-	-	-	白壁	瓦葺	
3	48	56	SR56	11R-8120	2 階	土葺	塀	III	15.8	5.8	4.0	25.3	36.7	-	C 長・石・壁・角 長・石	7.5YR8/4 浅黄褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面	右	21/36	36/36	-	-	白壁	瓦葺
2	48	57	SR56	11R-8120	1・2 階	土葺	塀	III a	13.0	4.9	4.1	31.5	37.7	E1	長・石・壁 長・石	7.5YR8/4 浅黄褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	右	26/36	36/36	-	-	白壁	瓦葺	
7	48	58	SR56	11R-8120	1 階	土葺	塀	I b	(12.2)	4.5	4.4	(36.1)	(36.9)	E2	長・石・壁・角 長・石	5YR7/0 褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面	右	9/36	36/36	-	-	白壁	瓦葺
22	48	59	SR56	11R-8120	1 階	土葺	塀	I c	(13.2)	(5.0)	(4.0)	(30.3)	(37.9)	E1	長・石・壁・角 長・石	10YR8/4 浅黄褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面	右	4/36	11/36	-	-	白壁	瓦葺
9	48	60	SR56	11R-8120	1 階	土葺	塀	I b	(12.4)	5.1	(4.4)	(35.0)	(41.1)	E1	長・石・壁・角 長・石	10YR8/6 黄褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面	右	3/36	19/36	-	-	白壁	瓦葺
198	48	61	SR56	11R-8120	1 階	土葺	塀	II	(14.0)	-	-	-	-	E2	長・石・壁 長・石	7.5YR8/0 褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	4/36	-	-	-	-	白壁	瓦葺	
20	48	62	SR56	11R-8120	2・3 階	土葺	塀	II	(12.0)	-	-	-	-	E1	長・石・壁 長・石	6YR8/4 黄褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面	右	13/36	-	-	-	白壁	瓦葺
108	49	63	SR56 SR56	11R-8120 11R-8120	1 階 1 階	土葺	塀	II	13.4	4.6	3.5	26.1	34.3	-	C 長・石・壁・角 機材	10YR7/3 に近い黄褐色 縦目	ロクロナデ 手付メ 手付メ	ロクロナデ	ロクロナデ	右	20/36	36/36	-	-	白壁	瓦葺
109	49	64	SR56	11R-8120	1 階	土葺	塀	-	5.0	-	-	-	-	-	C 長・石・壁・角 機材	10YR7/3 に近い黄褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面	左	-	36/36	-	-	白壁	瓦葺
105	49	65	SR56 SR57	11R-8120 11R-823	1 階	土葺	塀	II	(17.0)	6.0	(4.8)	(26.5)	(25.9)	-	C 長・石・壁・角 機材	7.5YR7/3 に近い褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面	左	-	36/36	-	-	白壁	瓦葺
107	49	66	SR56 SR56	11R-8120 11R-829	1 階	土葺	塀	I	(13.2)	(5.4)	(2.5)	(34.1)	(33.3)	D1	長・石・壁・角 機材	7.5YR7/6 褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面	右	6/36	7/36	-	-	白壁	瓦葺
104	49	67	SR56	11R-8120	1 階	土葺	塀	I	(12.4)	-	-	-	-	-	C	長・石・壁・角 機材	10YR8/2 黄褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	9/36	-	-	-	-	白壁	瓦葺
106	49	68	SR56 SR56	11R-8120 11R-8120	1 階	土葺	塀	II	-	5.2	-	-	-	-	D1	長・石・壁・角 機材	10YR8/2 黄褐色 縦目	ロクロナデ 手付メ	ロクロナデ	-	18/36	-	-	-	白壁	瓦葺
67	49	69	SR56	11R-8120	1 階	土葺	小塀	I	(15.6)	-	-	-	-	F	長・石・壁・角 機材	2.5YR6/6 褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	3/36	-	-	-	-	白壁	瓦葺	
193	49	70	SR56	11R-8120	1 階	土葺	塀	I	(27.6)	-	-	-	-	-	C	長・石・壁・角 機材	10YR7/4 に近い黄褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	1/36	-	-	-	-	白壁	瓦葺
195	49	71	SR56	11R-8120	1 階	土葺	塀	II	(26.8)	-	-	-	-	-	C	長・石・壁・角 機材	10YR6/4 に近い黄褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	1/36	-	-	-	-	白壁	瓦葺
99	49	72	SR56	11R-8120	1 階	土葺	塀	II	-	-	-	-	-	-	E2	長・石・壁・角 機材	5YR8/4 黄褐色 縦目	ロクロナデ	ロクロナデ	1/36	-	-	-	-	白壁	瓦葺

実測 No.	計画 No.	地区	区	区名	区画 No.	用途 種別	種別	用途 種別	区分	法 量 (cm)				第1 種別	第2 種別	第3 種別	色 調	機材	成 形・調 整				備 考			
										口径	底径	高さ	容積 数値						表面	内面	底面	傾斜角		口縁部	底面	状態
24	49	72	7	SK08	11R-10P10	1層	1階部	無白粉	Ⅱ a	(12.2)	5.0	(4.4)	(36.1)	(41.0)	E1	長・石	5YR7/3 浅黄	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	1/36	36/36	口縁・底面	内面コブ、表面 入土層
5	49	74	7	SK08	11R-10P10	1層	1階部	無白粉	Ⅱ a	12.4	4.8	4.35	35.5	38.7	E1	長・石・塊	10YR8/4 浅黄褐色	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	27/36	36/36	傾定形	
23	49	75	7	SK08 包含層	11R-10P10 11R-10P10	1層	1階部	無白粉	Ⅱ	-	5.0	-	-	-	E1	長・石・瓦・塊	5YR6/6 黄	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	左	-	36/36	底面	
100	49	76	7	SK08	11R-10P10	1層	1階部	無	Ⅰ	39.2	-	-	-	-	E2	長・瓦・瓦	10YR7/4 濃い黄褐色	無白 粉	口縁・口コロナデ 体上・体中	口縁・口コロナデ 体上・体中	表層部	右	24/36	-	口縁・体面上下 破片	表面入土
1	49	77	7	SK09	11R-10P10	1層	1階部	無白粉	Ⅱ a	(12.8)	4.6	4.1	(32.0)	35.9	E3	長・石・塊	10YR7/4 濃い黄褐色	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	11/36	36/36	口縁・底面	
25	49	78	7	SK09	11R-10P10	1層	1階部	無白粉	Ⅱ	(13.0)	-	-	-	-	D1	長・石	7.5YR8/6 浅黄褐色	無白 粉	口コロナデ	平面に口コロナデ	表層部	右	3/36	-	口縁破片	
26	49	79	7	SK77	11R-9P25	2層	1階部	無白粉	-	(5.0)	-	-	-	D1	長・石・瓦・瓦	7.5YR8/3 浅黄褐色	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	-	14/36	底面破片		
124	49	80	7	SK92	11R-9P14	1層	底面部	無白粉	Ⅱ	(13.4)	-	-	-	-	A1	長	2.5YR6/1 青灰	黒 灰	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	2/36	-	口縁破片	
27	49	81	7	SK92	11R-9P14	1層	1階部	無白粉	-	(5.6)	-	-	-	-	D1	長・石・塊	7.5YR8/6 黄	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	-	16/36	底面破片		
118	49	82	7	SK97 包含層	11R-9P21 11R-9P14	2層	底面部	灰黄	Ⅱ a	(22.4)	-	-	-	-	A2	長	N6/0 灰	黒 灰	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	5/36	-	口縁破片	
6	50	83	7	SK116	11R-9P13	2層	1階部	無白粉	Ⅰ a	(12.2)	5.0	(5.0)	41.0	41.0	E1	長・石・瓦・塊	7.5YR8/6 浅黄褐色	無白 粉	口コロナデ	平面に口コロナデ	表層部	右	15/36	36/36	口縁・底面	
31	50	84	7	SK116	11R-9P13	2層	1階部	無白粉	Ⅰ	(13.0)	-	-	-	-	E1	長・石・瓦	10YR6/2 灰黄褐色	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	13/36	-	口縁・体面破片	
29	50	85	7	SK116	11R-9P13	2層	1階部	無白粉	-	4.7	-	-	-	-	E1	長・石・瓦・塊	10YR7/6 暗黄褐色	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	-	22/36	底面		
28	50	86	7	SK116	11R-9P13	2層	1階部	無白粉	-	5.0	-	-	-	-	D1	長・石・瓦・角・塊	5YR8/3 黄褐色	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	-	30/36	底面	
30	50	87	7	SK116 包含層	11R-9P13 11R-9P13	2層	1階部	無白粉	-	(5.2)	-	-	-	-	D1	長・石・瓦・塊	7.5YR8/1 濃白	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	-	17/36	底面破片		
95	50	88	7	SK116 包含層	11R-9P13 11R-9P22 11R-10P11	3層	1階部	無	Ⅱ	-	-	-	-	-	E2	長・石・瓦・塊	5YR7/6 黄	無白 粉	口コロナデ	口縁・口コロナデ 体上・体中	表層部	右	4/36	-	口縁・体面上下 破片	
16	50	89	7	SK140	11R-10R11 11R-9P16	3層	底面	無白粉	Ⅱ	(15.8)	6.2	(6.7)	42.4	39.2	E1	塊・石・瓦・瓦	5YR7/6 黄	無白 粉	口コロナデ ヨコエガ 底面経路ヘラナデ	口コロナデ・ヨコエガ 底面経路ヘラナデ	表層部・内面コ ロナデ	左 (ヘラ ナデ)	11/36	36/36	口縁・底面	赤色粉多し 内面 コブ
82	50	90	7	SK140	11R-9P17	1層	1階部	長黄	Ⅰ b	(27.8)	-	-	-	-	D2	長・塊・塊	5YR7/6 黄	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	1/36	-	口縁・体面上下 破片	
32	50	91	7	SK141 包含層	11R-9P19 11R-9P19	1層	1階部	無白粉	Ⅰ	(13.5)	-	-	-	-	D1	長・石・塊	7.5YR7/6 黄	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部・ナデ	右	6/36	-	口縁・体面破片	
10	50	92	7	SK145	11R-9P11	1層	1階部	無白粉	Ⅱ b	(14.6)	4.4	4.5	(30.8)	(30.1)	D1	長・石・塊・白	5YR7/6 黄	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	6/36	26/36	口縁・底面	
33	50	93	7	SK145	11R-9P11	1層	1階部	無白粉	-	5.2	-	-	-	-	D1	長・瓦・石・塊	5YR7/6 黄	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部 表面コブ	-	18/36	底面		
34	50	94	7	SK145	11R-9P11 11R-9P6	1層	1階部	無白粉	-	5.0	-	-	-	-	D1	長・瓦・石・塊	7.5YR8/6 浅黄褐色	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	-	36/36	底面	
201	50	95	7	SK145 包含層	11R-9P8 11R-9P12	1層	1階部	無	Ⅱ	(41.6)	-	-	-	-	-	-	-	無白 粉	口コロナデ・タタキ タタキ・ヘラナデ	口コロナデ・タタキ タタキ・ヘラナデ	表層部	右	1/36	-	口縁破片	
88	50	96	7	SK202	11R-7P16	1層	1階部	長黄	Ⅱ	-	-	-	-	-	C	長・瓦・瓦・角・石 塊少肉多量	2.5YR8/4 黄褐色	無白 粉	タタキ付	タタキ付	表層部	-	-	傾定形	ハケ塗土跡あり	
68	50	97	7	SK442	11R-9P7	1層	1階部	小黒	Ⅱ	(12.8)	-	-	-	-	C	長・石	5YR7/6 黄	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	3/36	-	口縁破片	
92	50	98	7	SK575 包含層	11R-7222 11R-7222	1層	1階部	無	Ⅱ	(40.0)	-	-	-	-	C	濃・長・石・瓦・塊	5YR7/6 黄	無白 粉	口コロナデ、タタキ	口コロナデ	表層部	右	6/36	-	口縁・体面上下 破片	
209	51	99	7	SK145	11R-9P11	1層	1階部	無	Ⅱ	39.6	-	17.3	-	-	E1	長・石・塊	10YR8/3 浅黄褐色	無白 粉	口コロナデ 体中・体下	口コロナデ 体中・体下	表層部	右	36/36	36/36	立方	表面入土、底面による 赤化現象、口縁コ ブ 程度 10.2 等
36	52	100	7	SK575 包含層	11R-821 11R-821	1-2層	1階部	無白粉	Ⅰ b	(12.0)	4.5	(4.2)	(35.0)	(37.5)	E1	長・石・塊	5YR7/6 黄	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	3/36	36/36	口縁・底面	内面入土少量
38	52	101	7	SK575	11R-822	2層	1階部	無白粉	Ⅱ b	(12.5)	5.7	(3.7)	(29.6)	(45.6)	F	長・石・瓦・塊	7.5YR8/4 浅黄褐色	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	3/36	36/36	口縁・底面	
8	52	102	7	SK575	11R-822	2層	1階部	無白粉	Ⅱ b	(12.4)	(4.3)	(3.8)	(30.6)	(34.7)	C	長・瓦・石	10YR6/4 濃い黄褐色	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	6/36	36/36	口縁・底面破片	表面入土付
35	52	103	7	SK575	11R-7222	2層	1階部	無白粉	Ⅱ	33.2	-	-	-	-	C	長・石・角	10YR8/6 黄褐色	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	30/36	-	口縁部	
41	52	104	7	SK576 包含層	11R-721 11R-823	2層	1階部	無白粉	Ⅰ a	(14.0)	-	-	-	-	E1	長・石・瓦・塊	5YR6/6 黄	無白 粉	口コロナデ	口コロナデ	表層部	右	6/36	-	口縁破片	

実測 No.	観測 No.	毎向 No.	区	測点 名	グッド	階位	種類	形状	分類	法 量 (cm)				傾斜 角度	傾斜 方位	動 土		地 質	成 形・造 形				遺 存 率	備 考					
										口径	底径	高さ	傾斜 角度			第1 含有物	第2		色 調	形状	外 面	内 面			底 部	傾斜角	口縁部	底 部	状態
110	52	105	7	SK575	11R-822	2階	黒色土層	無白粉 I	(13.2)	-	-	-	C	長・石・角・雲 薄少な雲内角多雲	10YR8/2 灰白	無 白粉	ロクロナデ	コゴミ等				4/36	-	白粉→鉄屑混	特殊調査あり				
115	52	106	7	SK577	11R-823	5階	黒色土層	長条物	-	11.6	-	-	A1	長・石	小粒	N7.0灰白	無 白粉	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ		-	36/36		高台は磁りけけ後 ナデ				
120	52	107	7	SK577	11R-823	2階	黒色土層	長条物	(19.9)	-	-	-	A2	長・石・角	小粒	10YR4/1 灰	無 白粉	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36	-	白粉混				
12	52	108	7	SK577 瓦片群	11R-823 11R-823	1・2階 瓦片群	土層	無白粉 III	(13.5)	5.0	(3.0)	(22.2)	(37.0)	F	石・角・雲・塊		7.5YR8/8 濃黄	無 白粉	ロクロナデ	観いロクロナデ	赤切り	右	5/36	35/36		赤面入付			
37	52	109	7	SK577	11R-823 11R-823・8	2階 2階	土層	無白粉 II	(17.0)	-	-	-	C	長・石・塊		2.5Y7/3 淡黄	無 白粉	ロクロナデ	ロクロナデ→丁寧ナデ				3/36	-	白粉混				
39	52	110	7	SK577	11R-823 11R-823・8	2階 2階	土層	無白粉 II	(16.6)	-	-	-	C	石・角・角		2.5YR4/1 濃黄	無 白粉	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36	-	白粉混				
40	52	111	7	SK577	11R-823	1階 2階	土層	無白粉	-	(5.4)	-	-	E3	長・石・角		5YR5/6 明赤	無 白粉	ロクロナデ→ミガキ	ミガキ	赤切り→ 磁器ナデ			-	10/36		底面			
111	52	112	7	SK577	11R-823	1階	黒色土層	C 白	-	5.4	-	-	C	F		2.5Y7/2 灰	無 白粉	ロクロナデ→ミガキ	ヘラミガキ	赤切り→ミガキ	右	-	36/36		底面				
69	52	113	7	SK577	11R-823	1階	土層	小塊 II	(7.8)	-	-	-	F	長・石 塊砂		7.5YR7/6 橙	無 白粉	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36	-	白粉混	赤面入			
389	52	114	7	SK577 瓦片群	11R-823 11R-822	2・3階 瓦片群	瓦片群	大塊	-	-	-	-	A2	石・長・雲・雲	小粒	5YR5/3 オリーブ黄	磁 器	タタキメ	当て瓦				-	-	鉄屑混				
149	52	115	7	SK577	11R-823・8	1階	緑褐色層	瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	磁器	10YR7/1 灰白 (5地)	0や 7.5YR7/2 灰白 (磁)	磁器ナデ	ロクロナデ→ミガキ?			-	鉄屑混			
387	52	116	7	P70 瓦片群	11R-818 11R-819	2階 瓦片群	瓦片群	大塊	-	-	-	-	A1	長・石・角・雲	小粒	N4.0 灰	無 白粉	ロクロナデ 自然剥離付着	ロクロナデ				-	-	鉄屑混				
42	52	117	7	P581	11S-8A17	1階	土層	無白粉 I	(12.8)	-	-	-	C	長・石・雲・角・塊		10YR8/4 淡黄橙	無 白粉	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36	-	白粉混				
43	52	118	7	P584	11R-826	4階	土層	無白粉 I	(12.0)	-	-	-	C	長・石・角・角		2.5YR5/6 明赤	無 白粉	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36	-	白粉混				
83	52	119	7	P584	11R-826	2階	土層	長条 I a	(20.0)	-	-	-	E2	角・長 塊砂多い		7.5YR7/6 橙	無 白粉	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36	-	白粉混				
197	52	120	7	SK144 瓦片群	11R-10P17 11R-999 11R-10P12	1階 1階 1階	瓦片群	長条物	-	-	-	-	A1	長・石	小粒	N5.0 灰	無 白粉	還元 ロクロナデ	ロクロナデ→ロク ナデ	ロクロナデ→ ロクロナデ			1/36	-	白粉混				
152	53	121	1	9R-6230	I b 群	瓦片群	有白粉	-	(6.6)	-	-	-	A2	長・石 塊砂	小粒	N7.0 灰白	無 白粉	ロクロナデ	ロクロナデ				-	4/36		底面			
254	53	122	1	9R-4118 9R-4124	5群	土層	無白粉 II b	(13.0)	5.4	(4.0)	(30.7)	(41.3)	E2	長・石・塊		10YR8/4 淡黄橙	無 白粉	ロクロナデ	ロクロナデ	赤切り→ロク ナデ			7/36	25/36		白粉→底面	内面コブ		
161	53	123	1	9S-9C21	III a 群	瓦片群	青磁	(19.4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	陶器	5G7/1 濃青(7地)	陶器	ロクロナデ・濃青瓦	ロクロナデ			3/36	-	白粉混		
150	53	124	1	9R-3H3	5群	瓦片群	青磁	瓦	(10.2)	-	-	-	-	-	-	-	-	陶器	N7.0 灰白 (5地)	7.5Y 灰オリーブ (磁)	磁器	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	-	白粉混	
171	53	125	1	9S-8B16	III b 群	瓦片群	青磁	瓦	(40.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	磁器	N4.0 灰	磁器	口・ロクロナデ 体上:タタキメ、ロク ロナデ	体上: 当て瓦			4/36	-	白粉混		
65	53	126	2	11R-6B1	III a 群	土層	小塊 I	(13.4)	-	-	-	-	E3	長・石・角・塊		10YR8/4 淡黄橙	無 白粉	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36	-	白粉→鉄屑混	赤面入			
78	53	127	2	11R-5B6 11R-5B7	III a 群	土層	長条 I a	21.5	-	-	-	-	E2	石・長・角・塊		10YR8/3 淡黄橙	無 白粉	口・ロクロナデ 体上:タタキメ 体下:タタキメ・ヘラ ナデ	口・ロクロナデ 体上:タタキメ 体下:タタキメ・ヘラ ナデ			36/36	3/30		白粉→鉄屑	赤面入、内面コ ブ			
80	53	128	2	11R-5B7 11R-5B8	III a 群 III a 群	土層	長条 I a	(22.7)	-	-	-	-	E1	雲・角・塊		10YR8/3 淡黄橙	無 白粉	ロクロナデ→赤瓦打	ロクロナデ→赤瓦打				6/36	-	白粉→鉄屑混	赤面入			
164	53	129	2	11R-5B2	III a 群	中層土層	瓦	(11.6)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	磁 器	7.5YR8/3 淡黄橙	磁器	つづく或成形コブナ デ	コブナデ			4/36	-	白粉混	内面タタキ等、 打明	
175	53	130	3	9P-3G7	III 群	瓦片群	赤瓦	瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	磁器	N6.0 灰	磁器	ロクロナデ	ロクロナデ			-	-	鉄屑混	内面入	
176	53	131	3	9P-7B5	III 群	瓦片群	赤瓦	瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	磁器	N5.0 灰	磁器	長・石・角	当て瓦混→ロクロナデ			-	-	鉄屑混		
125	53	132	3	9P-6H1	III 群	瓦片群	赤瓦	瓦	(24.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	磁器	10YR7/1 灰	磁器	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	-	白粉混	口縁コブ 白粉混コブ	
156	53	133	3	9P-7C23	I 群	越前瓦	瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	磁器	長・石 10mm 前後の角 形多い	7.5YR7/2 明黄	磁器	ナデ	ナデ			-	-	白粉混	
62	53	134	4	9R-4E20	5群	土層	無白粉 II b	(13.8)	6.0	4.1	(29.7)	(43.5)	E3	塊		10YR8/4 淡黄橙	無 白粉	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36	-	白粉→底面	内面コブ、赤面入 スル			

実測 No.	計画 No.	毎向 No.	区分	所在地 グッド	階位	種類	形状	分室	法 定 (cm)				建築 階数	建築 敷数	敷 土		状況	成 形・造 形				違 存 率	備 考			
									1層	2層	高さ	高さ			第1	第2		外 面	内 面	底 部	傾斜角			口縁部	底 部	状態
205	54	171	7	11R-0615	原則	1階建	小棟	I	(17.2)	-	-	-	-	E1	長・石・角・角・角	2.5VX7/4 透赤煉	焼色	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	-	1階→1階建土半 破片	内面スス	
64	54	172	7	11R-0911 11R-0912	原則	1階建	小棟	I	(12.7)	-	-	-	-	E1	長・石・角 隅砂多量	2.5VX7/4 透赤煉	焼色 やや多量	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36	-	1階→1階建土半 破片		
76	54	173	7	11R-1006 11R-1007	原則	1階建	小棟	-	(7.4)	-	-	-	-	D1	長・石・角・角・角 0.5~3mmの目隠	7.5VX7/6 焼煉	焼色 目隠	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面中→ 外壁から目隠		5/37	底面破片	内面スス+付帯		
74	54	174	7	11R-10010 11R-10010	原則	1階建	小棟	-	7.0	-	-	-	-	E2	長・石・角・角	2.5VX6/4 2に6い焼	焼色	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面中	右	36/36	底面破片	内面破片コデ		
231	54	175	7	11R-887	原則	1階建	小棟	-	-	-	-	-	-	F	長・石・角	7.5VX7/4 2に6い焼	焼色	ロクロナデ	ロクロナデ			-	-	1階→土半破片		
255	54	176	7	11R-992	原則	1階建	小棟	-	-	-	-	-	-	E1	長・石・角	2.5VX7/6 焼煉	焼色	ロクロナデ	ロクロナデ			-	-	1階→土半破片	内面スス	
76	54	177	7	11R-10P10	原則	1階建	小棟	-	6.0	-	-	-	-	D3	長・石・角・角	7.5VX8/6 焼煉	焼色	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面中→ ユビナデ・ユビオサエ		36/36	底面	スス		
72	54	178	7	11R-10R15	原則	1階建	小棟	-	5.3	-	-	-	-	F	長・石・角 隅砂	2.5VX7/6 焼煉	焼色	ロクロナデ	ロクロナデ	裏面中		26/36	底面			
199	55	179	7	11R-0919	原則	1階建	長屋	I d	(17.0)	-	-	-	-	E2	長・石・角・角	5VX7/6 焼煉	焼色	ロクロナデ→方キ目	ロクロナデ→方キ目			6/36	-	1階→1階建土半 破片		
230	55	180	7	11R-10P17	原則	1階建	長屋	I a	(24.0)	-	-	-	-	D2	長・石・角・角・角	5VX6/6 焼煉	焼色	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36	-	1階→破片		
229	55	181	7	11R-996	原則	1階建	長屋	I a	(20.0)	-	-	-	-	D2	長・石・角	10VX8/4 浅黄煉	焼色	方キ目	方キ目			1/36	-	1階→破片		
87	55	182	7	11R-0919	原・原 原則	1階建	長屋	I d	(17.0)	-	-	-	-	C	長・石・角・角・角 0.5mm~5mm の底角砂多量	5VX7/6 焼煉	焼色 目隠	ロクロナデ→方キ目	ロクロナデ→方キ目			15/36	-	1階→破片		
79	55	183	7	11R-1006 11R-10010	原則 原則	1階建	長屋	I d	(20.0)	-	-	-	-	C	長・角・角・角・角	7.5VX8/6 浅黄煉	焼色 やや軟質	ロクロナデ	ロクロナデ			10/36	-	1階→1階建土半 破片	内面スス	
84	55	184	7	11R-10P18 11R-10P11	原則	1階建	長屋	I c	19.2	-	-	-	-	E1	長・石・角・角	7.5VX7/4 2に6い焼	焼色 やや軟質	ロクロナデ	ロクロナデ			29/36	-	1階→1階建土半		
85	55	185	7	11R-0912 11R-0917 11R-10P11	原則	1階建	長屋	I d	(22.0)	-	-	-	-	D1	長・石・角・角	5VX6/6 焼煉	焼色 目隠	ロクロナデ	方キ目			8/36	-	1階→破片		
86	55	186	7	11R-10P12 11R-10P17	原則	1階建	長屋	I b	(25.8)	-	-	-	-	D1	長・石・角	7.5VX8/6 浅黄煉	焼色 目隠	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	-	1階→1階建土半 破片		
89	55	187	7	11R-7921	原則	1階建	長屋	II	-	-	-	-	-	C	長・角・角・角	10VX7/3 2に6い黄煉	焼色	タテハケ目	ヨコハケ目			-	-	1階→1階建土半 破片	ハケ目	
90	55	188	7	11R-8016	原則	1階建	長屋	II	(22.4)	-	-	-	-	C	長・石・角・角	10VX7/3 2に6い黄煉	焼色 目隠	タテハケ目	ヨコハケ目			3/36	-	1階→破片	ハケ目	
91	55	189	7	11R-10P16	原則	1階建	長屋	II	(7.8)	-	-	-	-	C	長・石・角・角	10VX8/4 浅黄煉	焼色 目隠	ヨコハケ目→ナデ目	ヨコハケ目			4/36	-	1階→破片	ハケ目	
94	55	190	7	11R-096 11R-097	原則	1階建	廊	II	(40.0)	-	-	-	-	F	壁・白・角・角	2.5VX3 透黄煉	焼色 目隠	白・ロクロナデ 体上・タキメ 体下・タキメ	白・ロクロナデ 体上・タキメ 体下・タキメ			11/36	-	1階→1階破片	内面スス	
101	55	191	7	11R-10P10	原則	1階建	廊	I	(40.0)	-	-	-	-	D2	石・角・角	7.5VX7/6 焼煉	焼色 目隠	ロクロナデ	ロクロナデ	タキメ		3/36	-	1階→破片	内面 壁際にヨリ赤 化	
196	55	192	7	11R-0914 11R-10R15	原則	1階建	廊	I	(44.0)	-	-	-	-	E2	長・石・角・角	7.5VX7/6 焼煉	焼色	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	-	1階→破片		
250	55	193	7	11R-0919 11R-10P11	原則	1階建	廊	I	(44.0)	-	-	-	-	E1	長・石・角・角	7.3VX6/4 2に6い焼	焼色	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	-	1階→破片		
207	56	194	7	11R-10P21	原則	1階建	廊	II	(40.0)	-	-	-	-	D2	長・石・角・角	10VX6/3 2に6い黄煉	焼色	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36	-	1階→1階建土半 破片		
252	56	195	7	11R-0913	原則	1階建	廊	II	(40.0)	-	-	-	-	E2	長・石・角	7.5VX6/6 焼煉	焼色	ロクロナデ→方キ目	ロクロナデ→方キ目			2/36	-	1階→破片		
202	56	196	7	11R-099	原則	1階建	廊	II	(40.0)	-	-	-	-	D2	長・石・角・角・角	7.5VX7/4 2に6い焼	焼色	ロクロナデ→方キ目	ロクロナデ→方キ目			1/36	-	1階→破片	内面スス	
251	56	197	7	11R-0923	原則	1階建	廊	II	(41.0)	-	-	-	-	D2	長・石・角	7.5VX7/4 2に6い焼	焼色	ロクロナデ→方キ目	ロクロナデ→方キ目			1/36	-	1階→破片		
204	56	198	7	11R-096 11R-097	原則	1階建	廊	II	(40.0)	-	-	-	-	D2	長・石・角	7.5VX7/6 焼煉	焼色	ロクロナデ→方キ目 体部タキメ目	ロクロナデ→方キ目			1/36	-	1階→破片	内面スス	
204	56	199	7	11R-8812	原則	1階建	廊	II	(40.0)	-	-	-	-	D2	長・石・角・角	10VX7/3 2に6い黄煉	焼色 目隠	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36	-	1階→破片		
194	56	200	7	11R-9913	原則	1階建	廊	II	(40.0)	-	-	-	-	E1	石・角	10VX7/2 2に6い黄煉	焼色	ロクロナデ→体部タキ メ目	ロクロナデ→方キ目			3/36	-	1階→破片	内面スス	
163	56	201	7	11R-9612	原則	1階建	廊	II	-	-	-	-	-	長	7.6VX/1 黄煉	焼色	タキ目	タテ目			-	-	1階→破片			
132	56	202	7	11R-8418	原則	1階建	廊	II	(15.8)	-	-	-	-	長・角	6GVS/1 オリーブ黄煉	焼色	ロクロナデ部し目	ロクロナデ			-	-	3/36	底面破片		
130	56	203	8	9Q-1824	原・原 原則	1階建	廊	II	(9.0)	-	-	-	-	長・角	N5/O黄煉	焼色	ロクロナデ	ロクロナデ	壁止裏面目			-	-	7/36	底面破片	
129	56	204	8	9Q-2814	原・原 原則	1階建	廊	II	(11.2)	-	-	-	-	長・角	2.5VX7 浅黄煉	焼色	ロクロナデ	ロクロナデ			-	-	5/36	底面破片	内面破片滑り	

別表5 細池寺道上遺跡 土製品観察表

図版No.	発出No.	出土位置		層位	種類	器種	度量				表1	含有物	用途	色調	胎土	手出		通行年		備考	
		区	通称名				グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)						底径(cm)	重量(g)	外面	内面		1層位
59	1	7	SD30	11R-0J8	1層	土製品	-	-	-	-	61.5	D1	砂・G	SVH7/6様	糖化 の程度	ナシ	ナシ	-	-	-	

別表6 細池寺道上遺跡 石器・石製品・搬入碑観察表

凡例 表頭の通称名から出した遺物が該当した場合、最も縦片の大きい遺物を縦横通称(文字)とした。

図版No.	発出No.	出土位置		層位	器種	G材	度量				縦横	備考	
		区	通称名				グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			重量(g)
57	1	2	SK25	11R-0H3	1層	磁石	浅紅岩質燧灰岩	18.9	5.5	5.2	662.8		
57	2	2	SD17	11R-0B9	1層	磁石	砂石	5.2	5.2	2.2	14.7		
57	3	2	SD24	11R-5H2	1層	磁石	砂石	7.3	5.6	2.9	48.2		
57	4	2	SD34	11R-5H1	2層	磁石	浅紅岩質燧灰岩	6.7	3.9	2.1	43.4		
57	5	2	SD63	11Q-21R	2層	磁石	浅紅岩質燧灰岩	4.8	4.8	4.1	110.0		
57	6	3	SD33	9R-4H2	2層	磁石	砂石	5.9	5.0	3.0	39.6		
57	7	4	SD72	9R-4H8	3層	磁石	砂石	6.8	5.7	2.8	62.62		
57	8	4	SD83		埴土	磁石	緑色燧灰岩	14.6	5.8	4.0	345.53		
57	9	4	SD106	9R-3F13	3層	磁石	砂石	4.4	3.0	3.0	35.17		胎土を判別した際磁石と思われる
57	10	4	SK39	9R-7A2	9層	搬入碑	安山岩	17.0	8.4	8.0	1115.0	○	全体観察によりスチラス
57	11	4	SK59	9R-7A2	9層	搬入碑	浅紅岩	17.9	9.1	8.1	1700.0		手出し付着
57	12	7	SK67R	11R-6J16	7層	磁石	浅紅岩質燧灰岩	3.8	4.1	1.3	28.4		縦断面以外全面に磁化 磁物により形状を判別
57	13	7	SK67R	11R-6J16	8層	磁石	浅紅岩質燧灰岩	4.5	2.0	1.3	9.7		
57	14	7	SK67R	11R-6J13	7層	磁石	浅紅岩質燧灰岩	9.3	6.6	3.5	207.6		
57	15	7	SD2	11R-9P21	3層	搬入碑	浅紅岩質燧灰岩	20.5	15.0	12.8	2075.8		意図的に磁石される。図説は写真を示したものを 磁物
58	16	7	SD39	11S-9A6	7層	搬入碑	花崗岩	13.6	5.0	4.6	454.3		
58	17	7	SD108	11R-9E17	17層 加層	搬入碑	安山岩	29.2	15.0	12.2	8767.5		
58	18	7	SD198	11R-6E10 11R-6E14	1層 5層	搬入碑	四脚岩	13.0	10.6	4.7	977.5		スチラス・磁石
58	19	7	SD267	11R-4H21	2層	磁石	砂石	6.40	3.60	3.40	21.00	○	
58	20	7	SK67	11R-4H18 11R-4H17	1層 1層	搬入碑	安山岩	14.20	13.50	4	973.00		スチラス付着
58	21	7	SD718	11S-7D6	3層	磁石	浅紅岩質燧灰岩	4.9	3.1	1.7	29.6		
58	22	7	SD775	11S-3G13	1層	磁石	頁岩	6.1	3.5	0.4	13.3		左側面に磁化 腕の付用品
58	23	7	SK56	11R-8J20	1層	石製品	砂石	14.9	10.8	9.1	805.1	○	磁打・磁物により磁物 下部磁打により磁物
58	24	7	SK62 SD108	11R-9F14 11R-8D9	1層 5層	搬入碑	安山岩	13.8	8.2	6.7	817.0	○	手面(縦断面) 含む磁物あり
59	25	7	SK141	11R-9P19	1層	搬入碑	安山岩	10.0	6.8	6.6	663.3		打痕面が磁物
59	26	7	SK145 11R-9P6	11R-9P1 11R-9P6	1層 1層	磁石	砂石	14.9	10.9	7.9	275.0	○	
59	27	7	SK145	11R-9P1	1層	搬入碑	浅紅岩質燧灰岩	24.6	21.7	15.7	5806.3		打痕→磁物 露頭採取物
59	28	7	SK575	11R-7J21	4層	磁石	砂石	13.50	7.60	7.6	267.6	○	
59	29	7	SK601	11S-7K23	3層	搬入碑	砂石	7.8	7.2	5.0	139.3		
59	30	7	SK601	11S-7K23	3層	磁石	砂石	6.80	6.20	2.80	66.8		
59	31	2		11R-7C15	1層	磁石	浅紅岩	3.5	2.4	0.7	7.1		
59	32	2		11R-5H1	2層	磁石	浅紅岩質燧灰岩	9.9	8.0	6.5	967.9		
59	33	7		11R-9P17	2層	磁石	浅紅岩質燧灰岩	6.9	3.8	2.9	85.9		
59	34	7		11R-9P22	2層	磁石	浅紅岩質燧灰岩	5.2	3.0	1.4	26.3		
59	35	7		11R-9C18	2層	磁石	浅紅岩質燧灰岩	7.3	5.0	1.7	72.6		
59	36	8		9Q-2C12	2層	瓦製品	緑色燧灰岩	15.6	11.8	9.3	1614.9		

別表7 細池寺道上遺跡 金属製品・銭貨・鉄片観察表

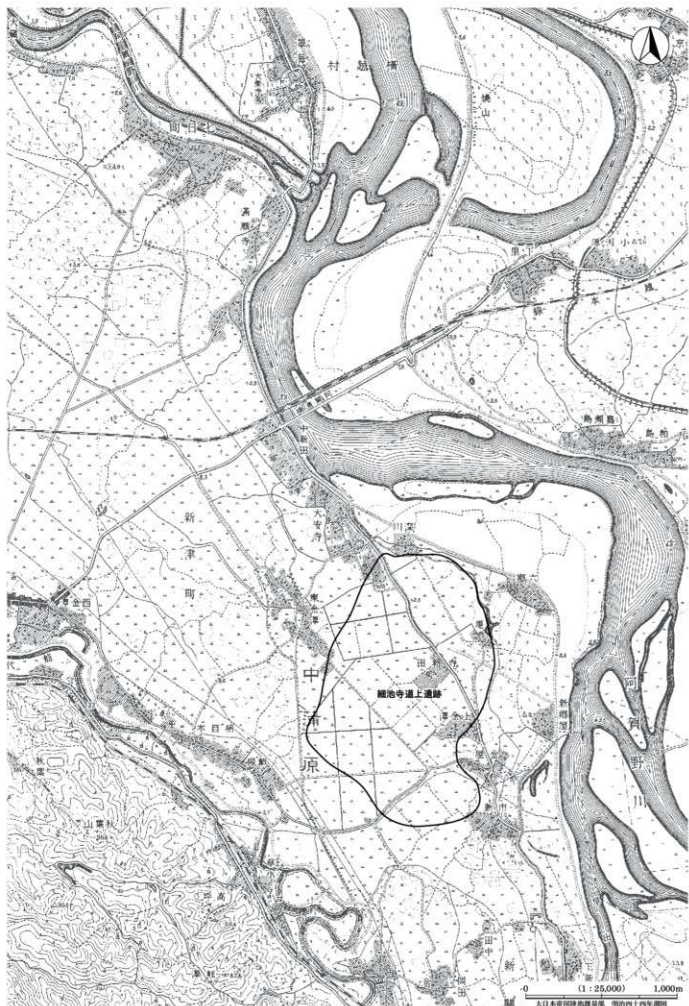
図版No.	発出No.	出土位置		層位	種類	器種	度量				備考	
		区	通称名				グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		重量(g)
59	1	6	SD16	9R-1G17	1層	鉄製品	不明鉄物品	7.8	4.2	0.7	31.2	
59	2	2	SK25	11R-5B8	10層	鉄製品	釘	3.1	1.1	0.6	3.4	
59	3	7		11R-9P25	2層	鉄製品	釘	1.9	0.6	0.7	1.3	
59	4	7		11R-8P10	2層	鉄製品	釘	3.4	1.2	0.8	5.4	
59	5	7	PD92	11R-5H4	2層	鉄製品	刀子	3.2	1.2	0.5	2.4	
59	6	7		11R-8P4	2層	鉄製品	鉄錐	5.2	3.8	0.5	8.5	
59	7	7	SK775	11S-2G21	1層	鉄製品	釘	5.9	30.0	2.0	16.2	
59	8	7	SD47	11S-8A11	2層	銭貨	元背通宝	2.2	2.2	0.1	3.46	
写	71	9	SD133	11R-6H16	2層	鉄片					61.3	
写	71	10	7	11R-10P16	2層	鉄片					4.64	
写	71	11	7	11R-10P16	2層	鉄片					4.12	
写	71	12	7	11R-10P16	2層	鉄片					4.5	

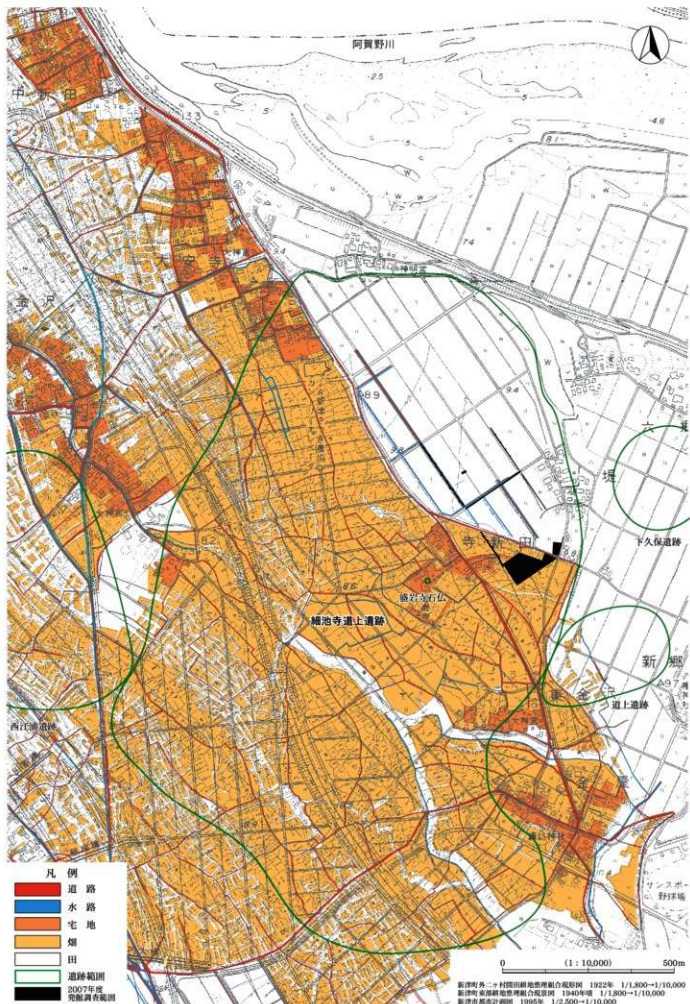
別表9 細池寺道上通跡遺構出土中世土器器種構成率

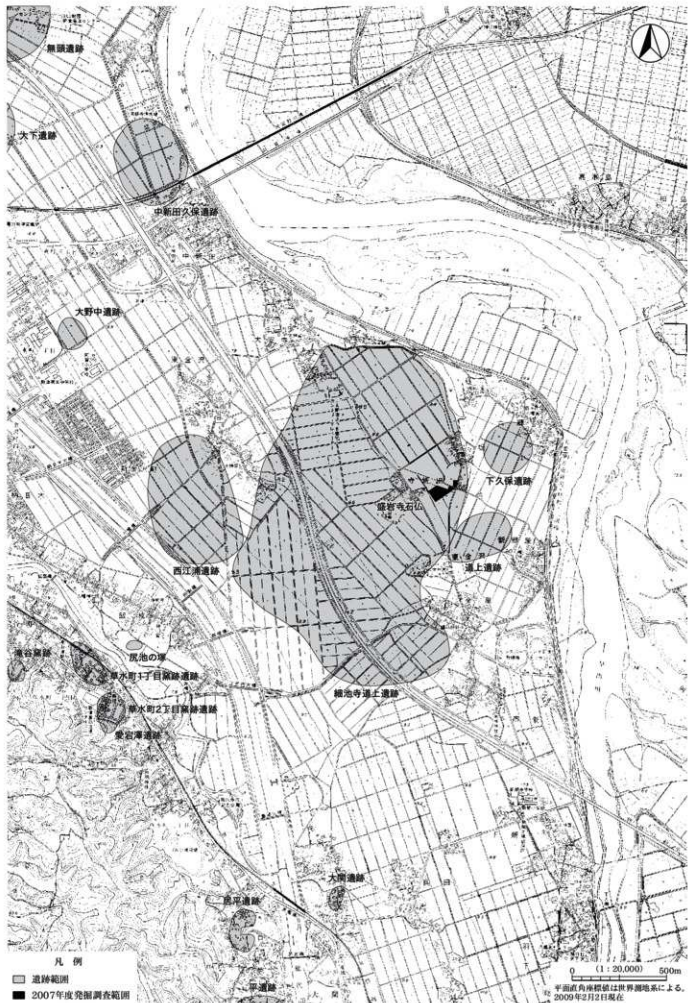
凡例 1 中央の塗痕から出した土器・陶磁器の構成比率を示した表である。
 2 土器の分類法は口縁部構成率法(宇野1992・春日1994)とそれを応用した底面構成率法により分類した。また、併せて口縁部・底面構成率を示した。
 3 口縁部・底面構成率によって得られた数値は「/36」をなし、それぞれ口縁部・底面構成と表記した。

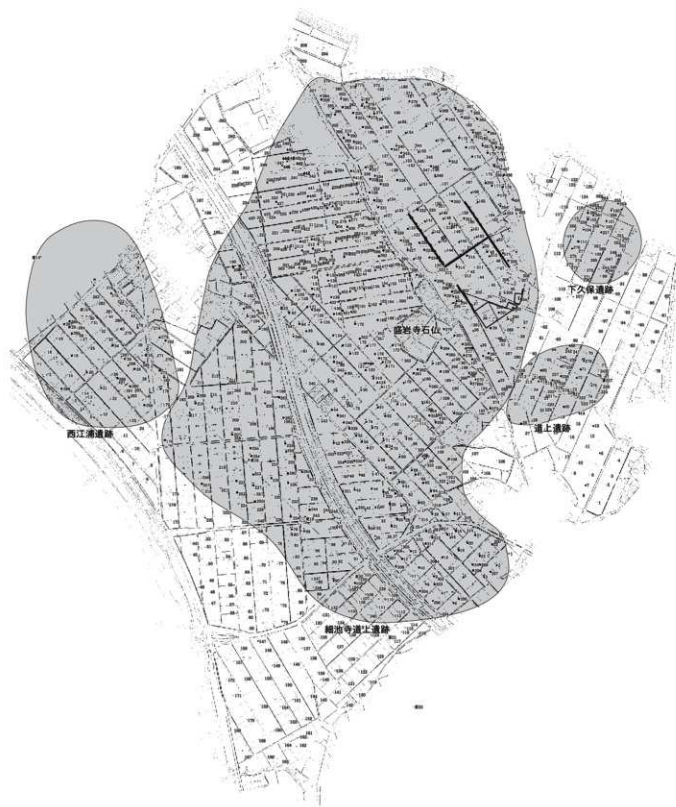
遺構名	遺構ID	器種	口縁部		底面		口縁部・底面		口縁部		底面		口縁部・底面		合計				
			構成率(%)	数量	構成率(%)	数量	構成率(%)	数量	構成率(%)	数量	構成率(%)	数量	構成率(%)	数量	構成率(%)	数量	構成率(%)	数量	
20k	S100	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
30k	S104	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	0.00%	0.00%	1	50.00%	1	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
30k	S114	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	0.00%	0.00%	1	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
30k	S106	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	11.00%	1	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	1/3	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
40k	S105	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
40k	S111	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
40k	S122	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
40k	S130	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	1	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
		土器類(底)	0.00%	1/3	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
40k	S174	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	1	50.00%	1	50.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	1/3	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
40k	S183	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	0	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	0/10	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
40k	S188	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	0	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
40k	S191	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	0.00%	0.00%	0	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	0.00%	0.00%	0/10	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
40k	SK7	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
40k	F68	土器類																	
		土器類(口)																	
		土器類(底)																	
		土器類(口)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	
		土器類(底)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	

圖 版







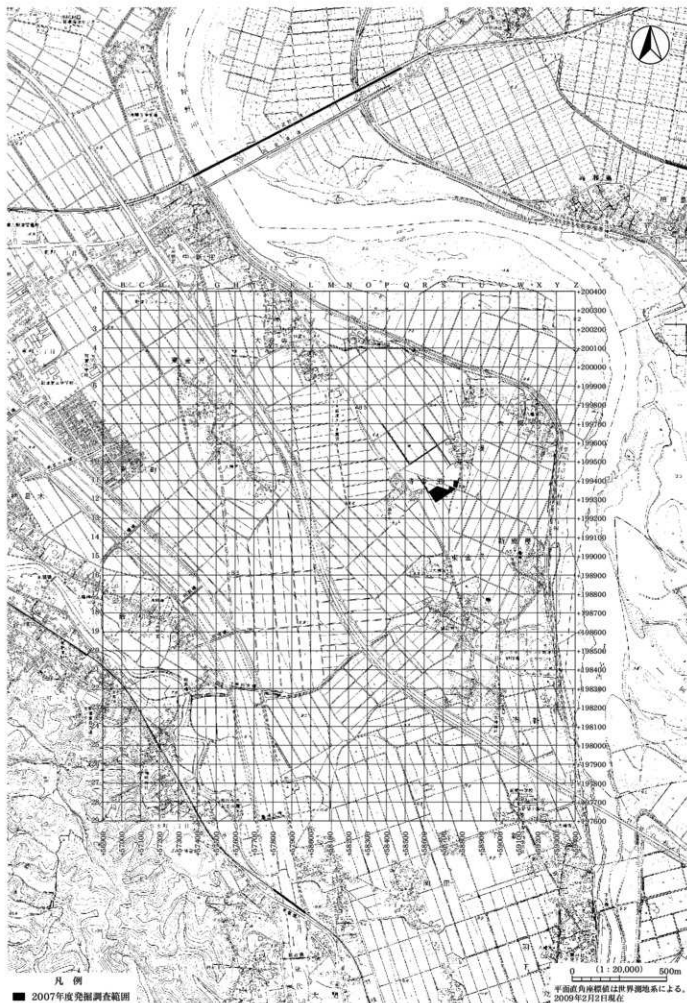


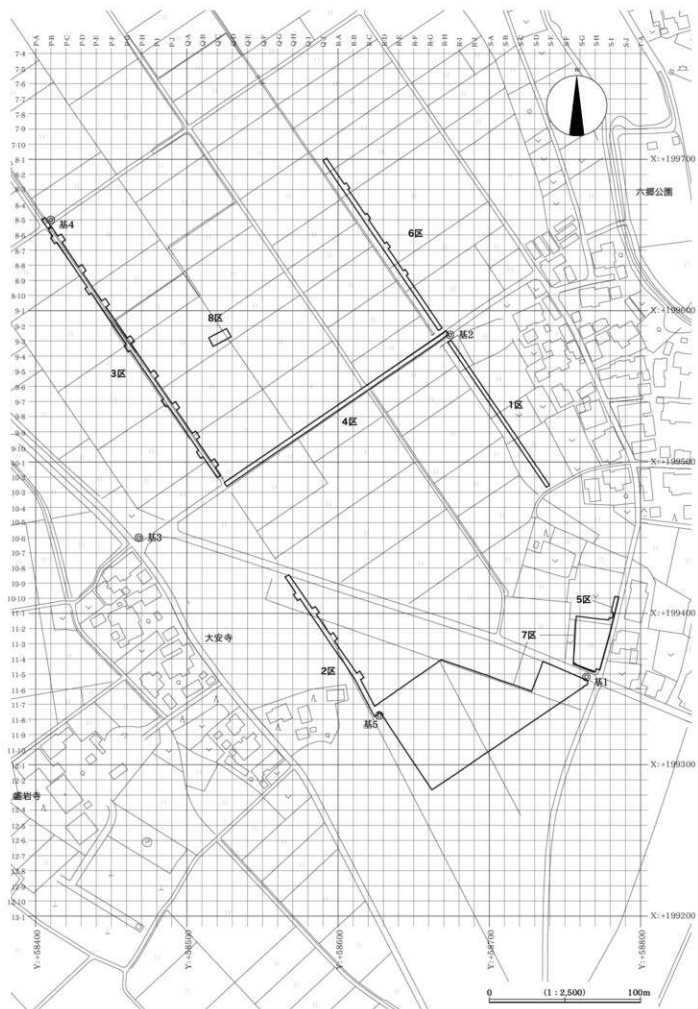
凡 例

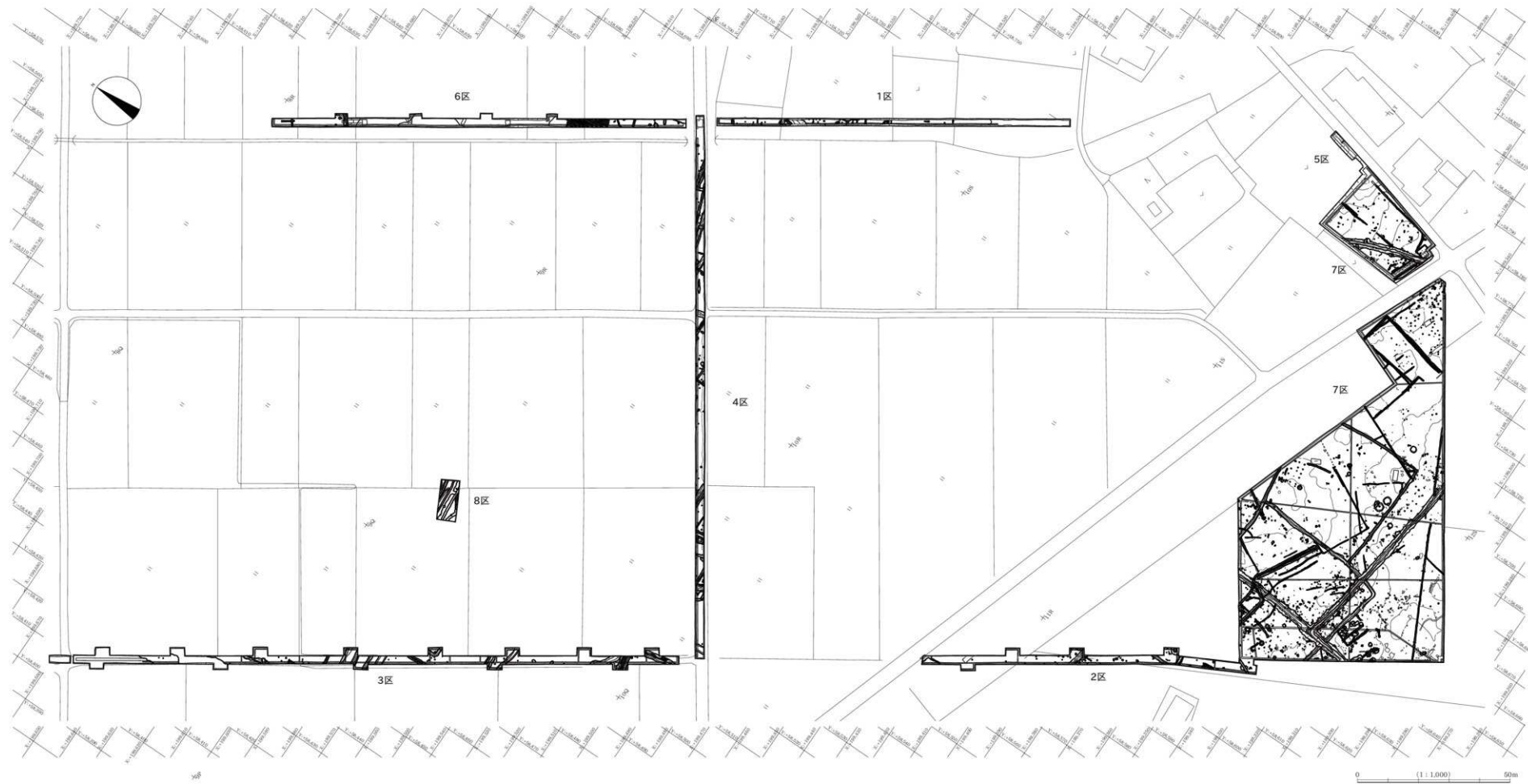
- 包含層出土の遺物、遺構が検出されたトレンチ
- 包含層出土の遺物、遺構が検出されなかったトレンチ

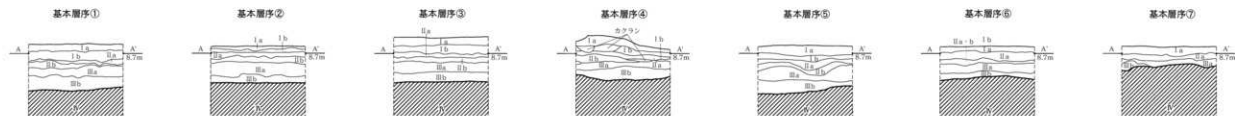
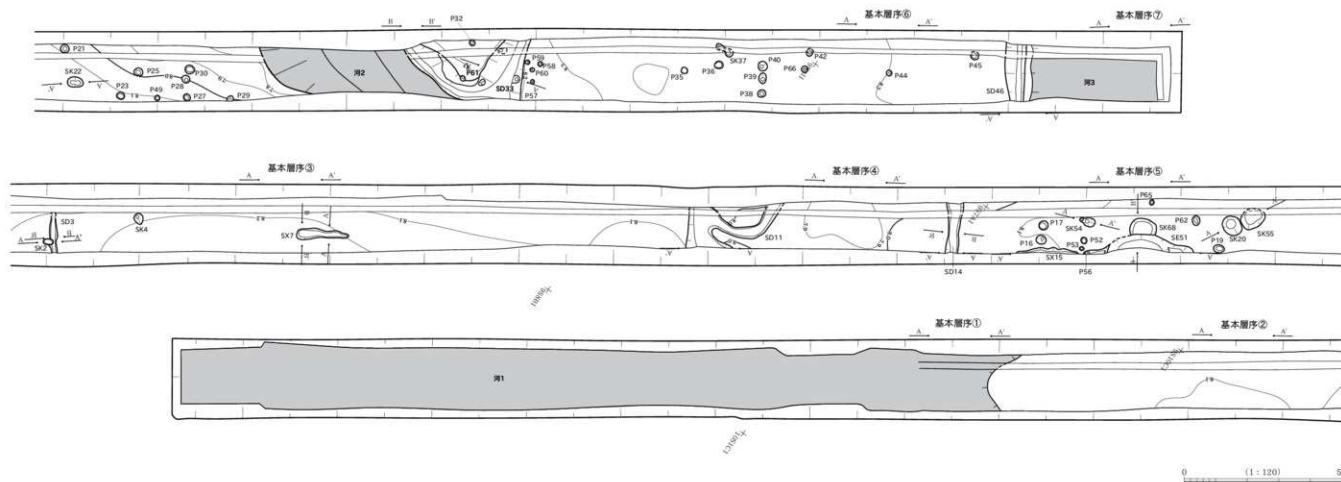
0 (1 : 12,500) 500m

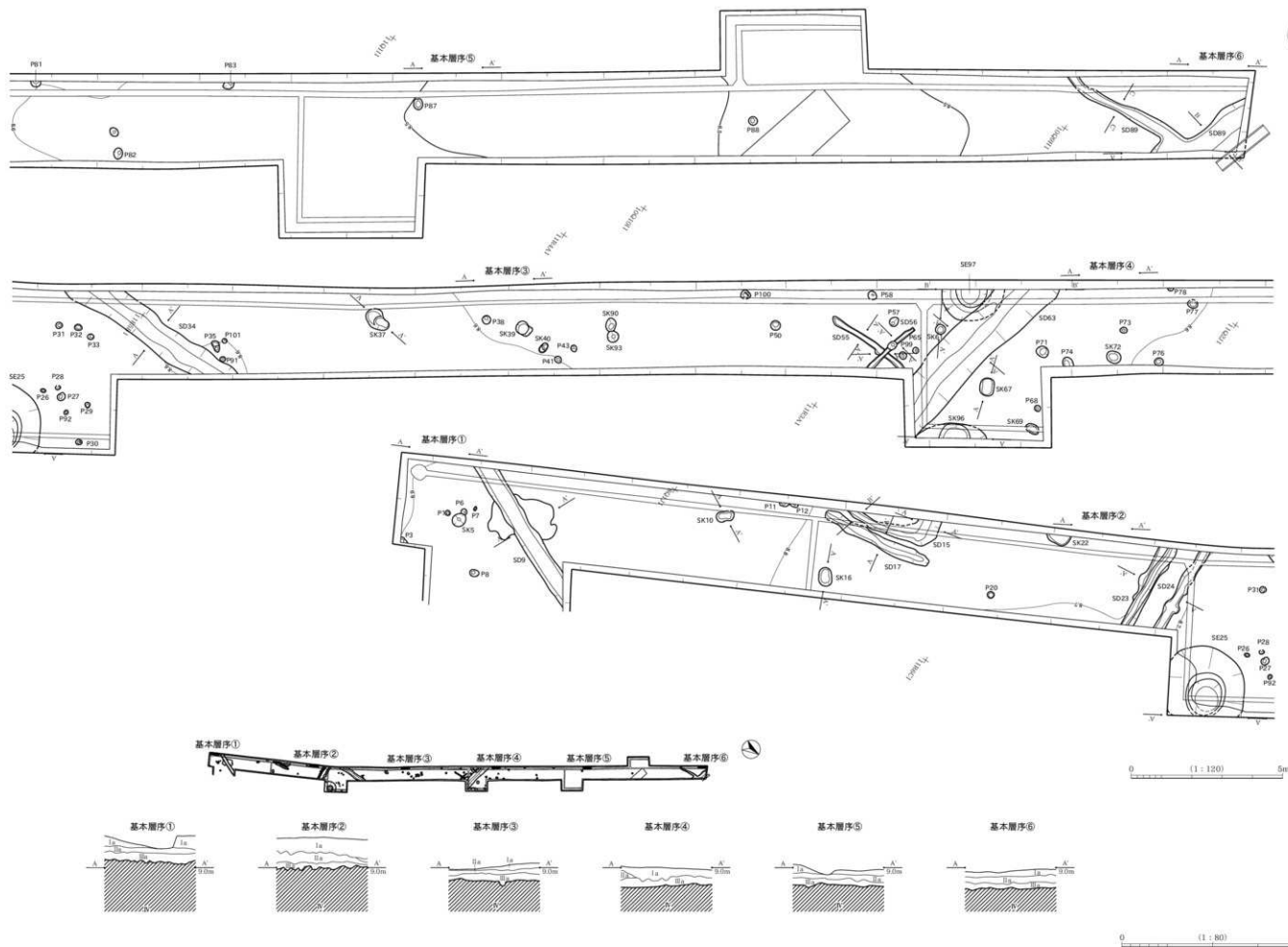
両新ほ場は昭和三十八年に伴う試掘調査データをもとに作成

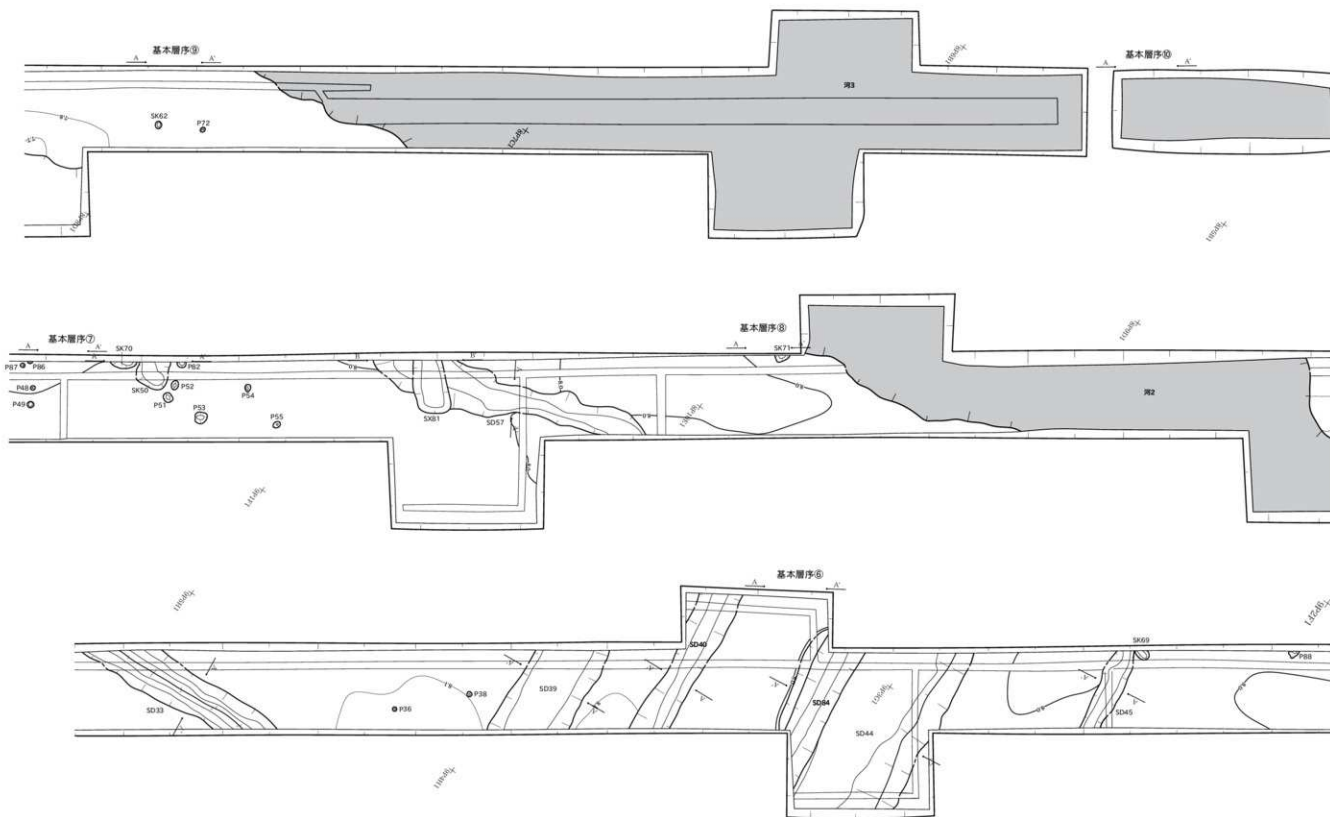


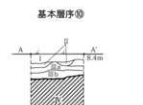
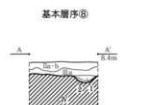
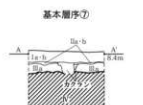
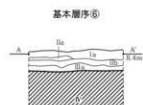
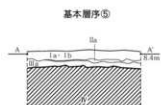
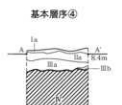
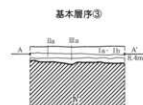
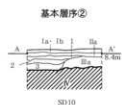
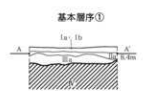
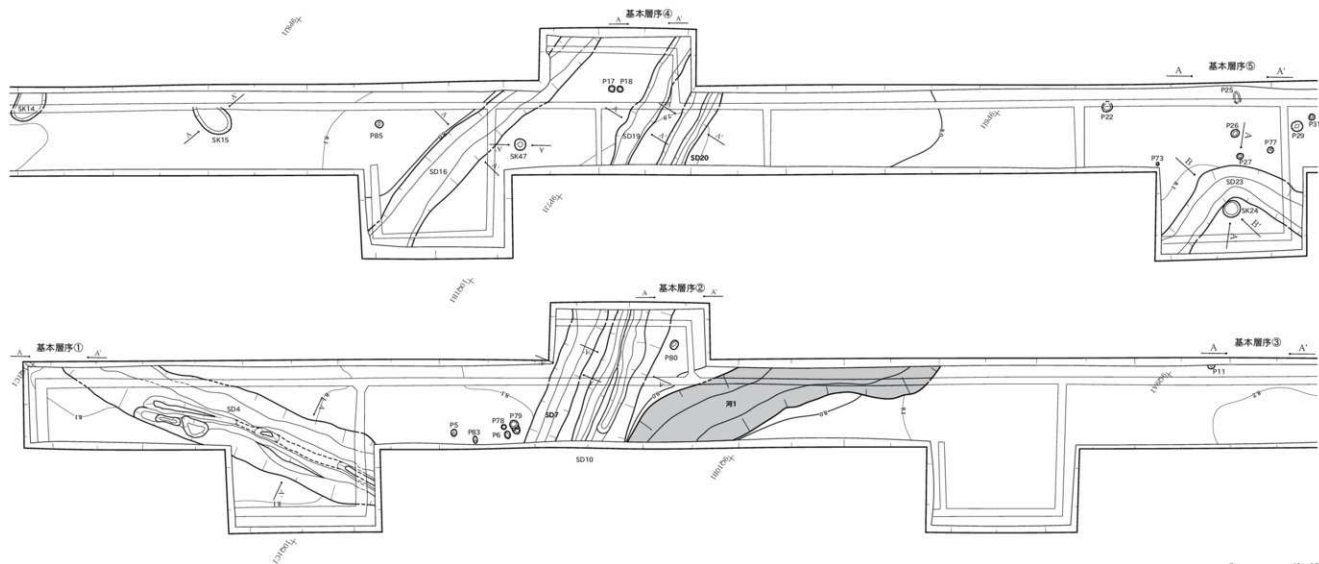


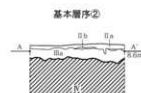
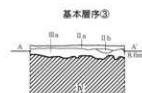
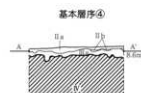
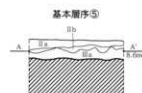
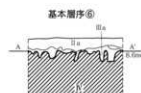
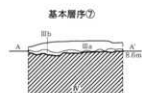
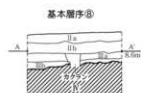
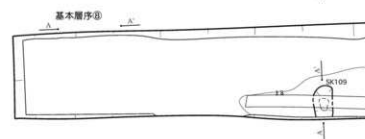
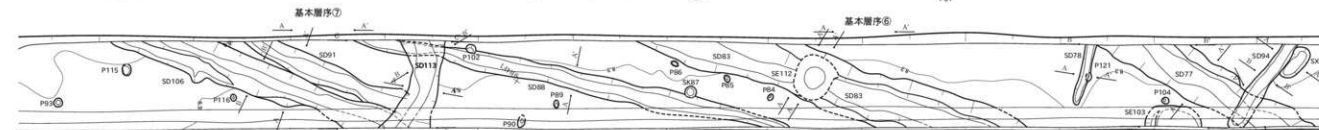
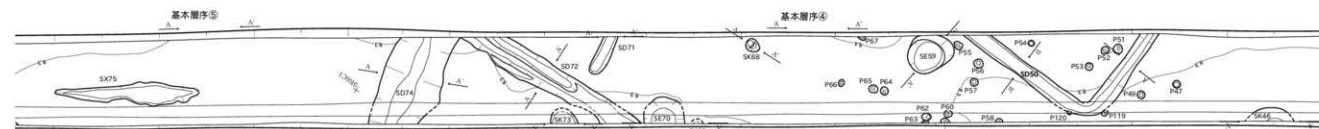
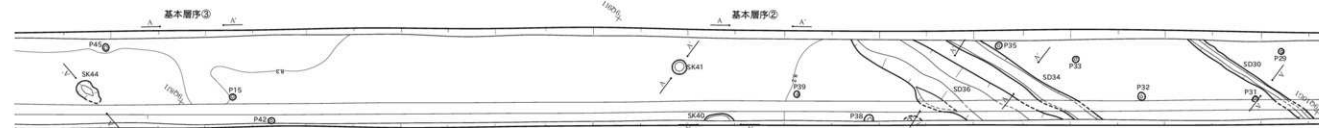
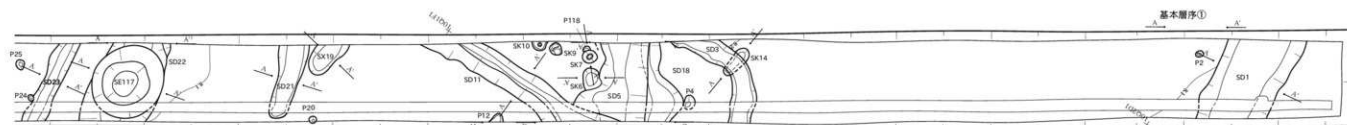


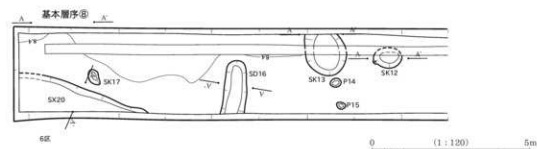
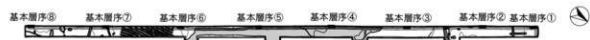
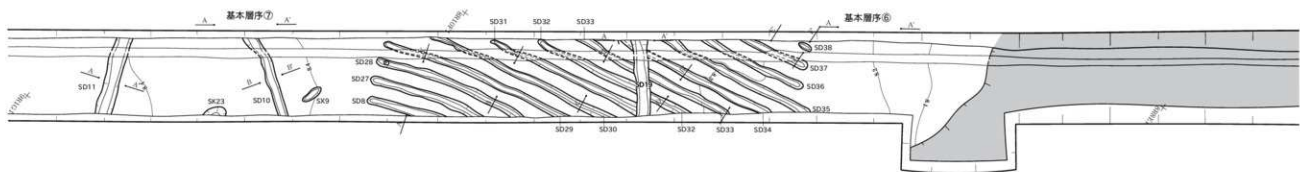
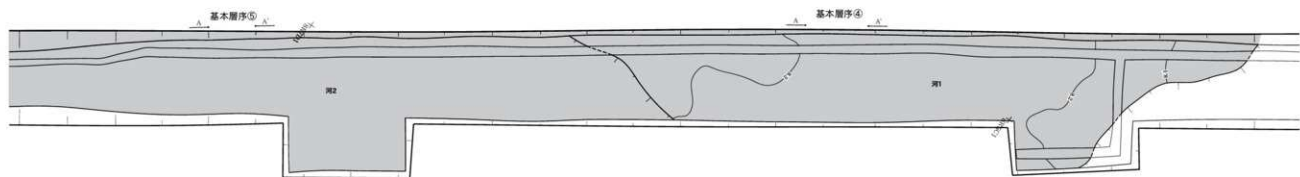
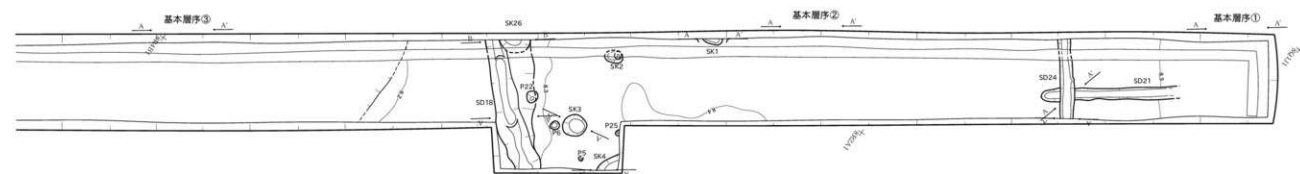




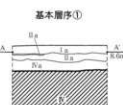
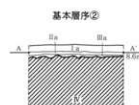
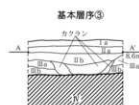
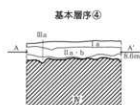
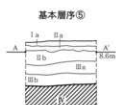
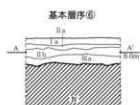
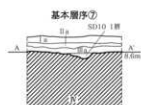
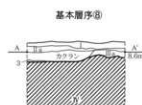




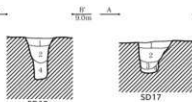
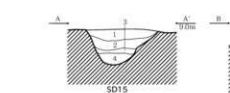
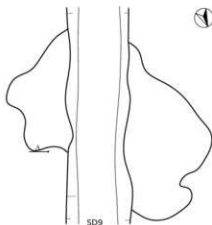




0 (1:120) 5m

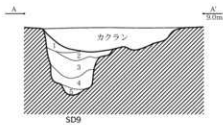


0 (1:80) 4m

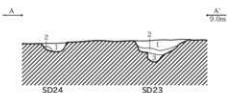
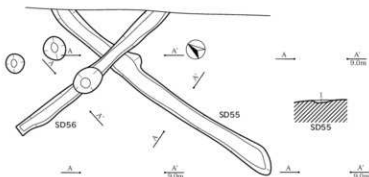


- SD15**
- 1 黒色粘質シルト (2.5V4/1) 粘り・しまり共に中強い。
 - 2 黒色粘質シルト (2.5V4/1) 粘り・しまり共に中強い。
 - 3 黒色粘土 (2.5V4/1) 粘り強い、しまり中強い。
 - 4 黒色粘砂(子)に混在。
 - 5 灰白色粘質シルト (2.5V7/1) 粘り中強い、しまり中強い。

- SD17**
- 1 黒色粘質シルト (10G6/1) 粘り・しまり共に中強い。
 - 2 黒色粘質シルト (7.2V6/1) 粘り・しまり共に中強い、層上して中強い。
 - 3 黒色粘質シルト (7.2V6/1) 粘り・しまり共に中強い。
 - 4 黒色粘質シルト (2.5V4/1) 粘り・しまり共に中強い、中強い程度。

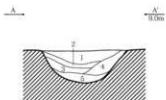


- SD9**
- 1 黒色粘質シルト (2.5V2/1) 粘り・しまり共に強い、中砂混。
 - 2 黒色粘粘土 (2.5V4/1) 粘り強い、しまり中強い、右壁砂混ながらブロック状に混入。
 - 3 黒色粘質シルト (7.2V4/1) 粘り強い、しまり中強い、右壁粘砂(子)ブロック状に混入。
 - 4 黒色粘土 (10V2/1) 粘り強い、しまり中強い、やや硬直状存在。
 - 5 黒色細砂 (10V2/1) 粘り・しまり共に中強い。

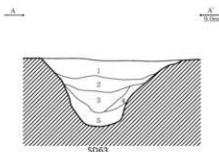
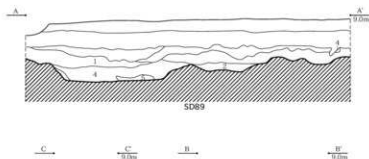


- SD23**
- 1 黒色粘質シルト (10V6/1) 粘り・しまり共に中強い。
 - 2 黒色粘質シルト (10V6/1) 粘り・しまり共に中強い、右壁細砂に混入。
 - 3 黒色粘砂 (2.5V2/1) 粘り・しまり共に中強い。
- SD24**
- 1 黒色粘質シルト (10V6/1) 粘り・しまり共に中強い。
 - 2 黒色粘質シルト (10V6/1) 粘り・しまり共に中強い、右壁土塊状に混入。

- SD55**
- 1 黒色粘質シルト (黒色土) (N2/0) 粘り・しまり共に中強い、右壁ブロック状に混入。
- SD56**
- 1 灰白色粘質シルト (黒色土) (2V4/1) 粘り・しまり共に中強い、3層状の黒色土塊。



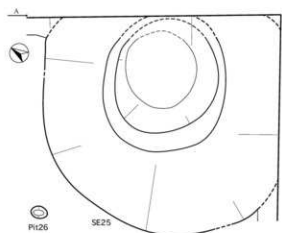
- SD34**
- 1 マンゴー型黒色粘質シルト (10V2/2) 粘り・しまり共に中強い、遺物混、3層混。
 - 2 灰白色シルト (2.5V6/1) 粘り・しまり共に中強い、右壁砂ブロック状に混入。
 - 3 黒色粘質シルト (2.5V6/1) 粘り・しまり共に中強い、右壁粘砂(子)混入。
 - 4 黒色粘質シルト (7.2V6A/1) 粘り・しまり共に中強い、混り込みの層と認められる。
 - 5 灰白色シルト (7.2V6B/2) 粘り中強い、しまり中強い、マンゴ形状少量混在。



- SD63**
- 1 灰白色粘質シルト (10V4/1) 粘り・しまり共に中強い。
 - 2 灰白色粘質シルト (10G4/1) 粘り中強い、しまり中強い。
 - 3 黒色粘質シルト (1G2/1) 粘り・しまり共に中強い。
 - 4 灰白色細砂 (2.5V7/2) 粘り強い、しまり中強い。
 - 5 黒色粘質シルト (1G2/1) 粘り・しまり共に中強い、粘性粘土、右壁粘砂状に混入。

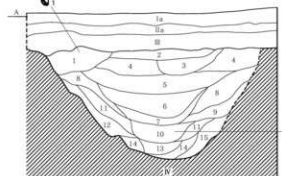


- SD89**
- 1 黒色粘土 (10V6/3/2) 粘り・しまり共に中強い。
 - 2 灰白色(多)土混在 (10V5/1) 粘り・しまり共に中強い。
 - 3 灰白色土 (10G6/1) 粘り・しまり共に中強い、若干深直心、2・3層の混層と認められる。
 - 4 黒色粘土 (10V6/1) 粘り中強い、しまり中強い。
 - 5 灰白色(多)土混在 (10V5/1) 粘り中強い、しまり中強い。



A' SE25

- 1 灰白色土 (2.577/2) 粘質・しまり共に中強い。右側壁部ブロッコ状。4層と10層。
- 2 灰白色粘り少土 (2.577/1) 粘質中強い。しまり中強い。右側壁部ブロッコ状。1層と20層。
- 3 灰白色粘り少土 (2.577/2) 粘質中強い。しまり中強い。右側壁部ブロッコ状。1層と20層。
- 4 灰白色粘り少土 (2.577/1) 粘質・しまり共に中強い。壁部中一。
- 5 灰白色粘り少土 (2.577/1) 粘質・しまり共に中強い。壁部粘り中強い。壁部も高さ中一。
- 6 灰白色土 (2.577/1) 粘質・しまり共に中強い。壁部粘り中強い。
- 7 灰白色粘り少土 (2.577/2) 粘質・しまり共に中強い。壁部粘質。壁部粘り中一。
- 8 浅黄褐色粘り少土 (2.577/2) 粘質・しまり共に中強い。壁・右側壁部粘質(ブロッコ状)。壁入層部。
- 9 灰白色土 (2.577/1) 粘質・しまり共に中強い。壁部中一。
- 10 オリーブ灰色粘り少土 (2.577/1) 粘質・しまり共に中強い。壁部粘り中強い。壁部粘質。壁部粘り中一。
- 11 浅黄褐色粘り少土 (2.577/2) 粘質・しまり共に中強い。10層と17層(10層)に混入。右壁+13層。浅入層部。
- 12 灰白色粘り少土 (2.577/1) 粘質中強い。しまり中強い。
- 13 灰白色粘り少土 (2.577/1) 粘質中強い。しまり中強い。
- 14 オリーブ灰色粘り少土 (2.577/2) 粘質・しまり共に中強い。12層と10層。粘りしまり。粘質粘り。壁部粘り中一。

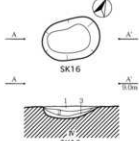


A' 0.10m



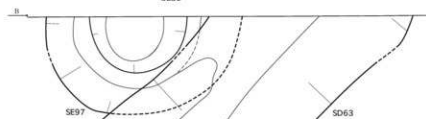
SK10

- 1 灰白色粘り少土 (10192/1) 粘質中強い。しまり中強い。
- 2 オリーブ灰色粘り少土 (10198/4) 粘質中強い。しまり中強い。

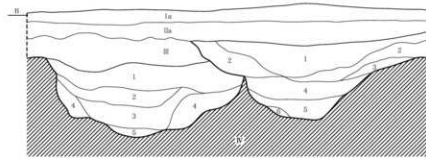


SK16

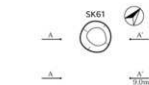
- 1 灰白色土 (10172/1) 粘質・しまり共に中強い。
- 2 灰白色粘り少土 (7.022/1) 粘質中強い。しまり中強い。
- 3 オリーブ灰色粘り少土 (10197/1) 粘質中強い。しまり中強い。



B' SE97

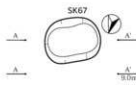


B' 0.10m



SK61

- 1 灰白色粘り少土 (2.574/1) 粘質・しまり共に中強い。
- 2 灰白色粘り少土 (2.574/1) 粘質・しまり共に中強い。8%層部粘りに混入。
- 3 灰白色粘り少土 (2.577/1) 粘質・しまり共に中強い。10%層部粘りに混入。



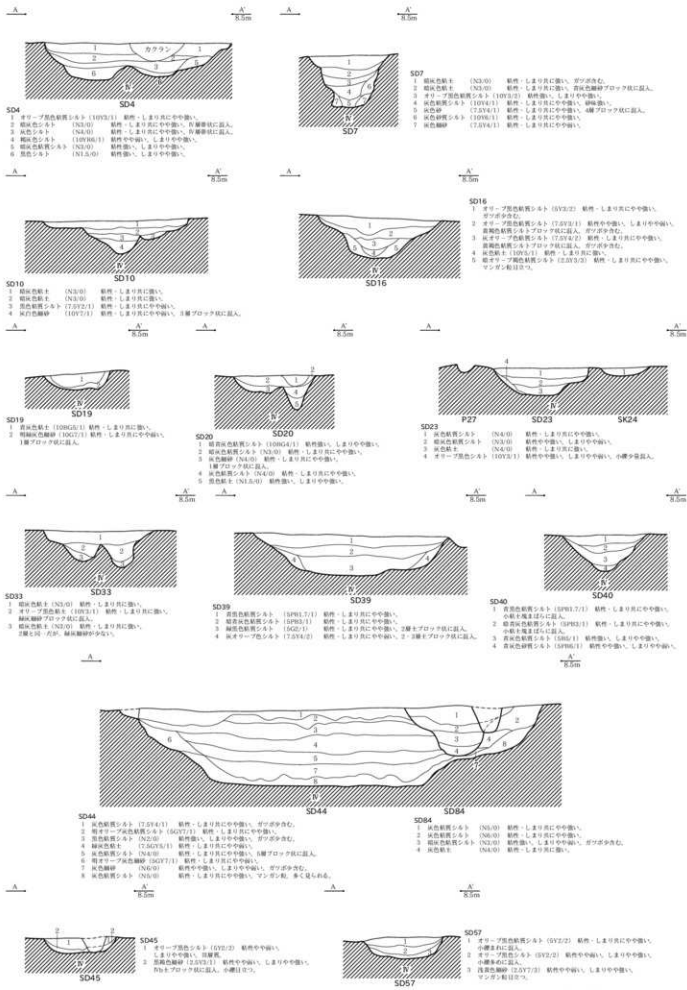
SK67

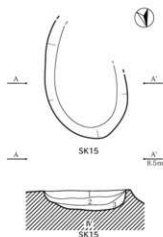
- 1 磁白色粘り少土 (10193/2) 粘質・しまり共に中強い。
- 2 浅黄褐色土 (2.577/4) 粘質中強い。しまり中強い。1層ブロッコ状に混入。



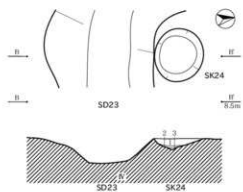
SK96

- 1 オリーブ灰色粘り少土 (10172/2) 粘質・しまり共に中強い。右側壁部に混入。
- 2 オリーブ灰色粘り少土 (10172/2) 粘質・しまり共に中強い。
- 3 灰白色粘り少土 (10172/1) 粘質中強い。しまり中強い。右壁。4層と10層。
- 4 灰白色粘り少土 (10172/1) 粘質・しまり共に中強い。浅黄褐色。
- 5 灰白色粘り少土 (10172/1) 粘質中強い。しまり中強い。浅黄褐色。
- 6 オリーブ灰色粘り少土 (10172/1) 粘質・しまり共に中強い。浅黄褐色ブロッコ状に混入。

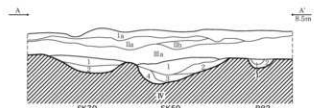
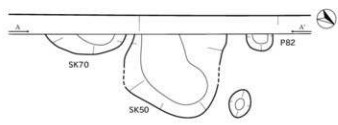




SK15
 1 褐色粘質シルト (N3/G) 粘性・しまり共に中強い、白色細砂層状に混入。
 2 褐色粘質シルト (N3/G) 粘性・しまり共に中強い、白色細砂層状に混入。
 3 褐色粘質シルト (N3/G) 粘性・しまり共に中強い。



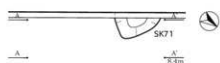
SK24
 1 褐色粘質シルト (T0Y3/G) 粘性・しまり共に中強い、やや少量混入。
 2 褐色粘質シルト (T2Y3/G) 粘性・しまり共に中強い。
 3 褐色粘質シルト (T0Y3/G) 粘性・しまり共に中強い。



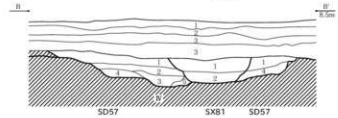
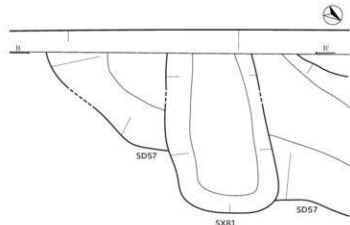
SK50
 1 褐色粘質シルト (T0Y2/G) 粘性・しまり共に中強い、右側砂層状に混入。
 2 オリーブ褐色細砂 (SKY2/G) 粘性中強い、しまり中強い、右側粘質シルト層状に混入。
 3 オリーブ褐色細砂 (SKY2/G) 粘性中強い、しまり中強い、右側粘質シルト層状に混入。
 4 オリーブ褐色細砂 (SKY2/G) 粘性中強い、しまり中強い、右側粘質シルト。
SK70
 1 褐色粘質シルト (T0Y2/G) 粘性・しまり共に中強い、右側砂層状に混入。
 2 褐色粘質シルト (T0Y2/G) 強い、しまり中強い、右側砂層状でトップ状に混入。
P82
 1 褐色粘質シルト (T0Y2/G) 粘性・しまり共に中強い、右側砂層状に混入。
 2 オリーブ褐色細砂 (SKY2/G) 粘性中強い、しまり中強い、右側砂層状に混入。



SK47
 1 オリーブ褐色粘質シルト (T2Y3/G) 粘性強い、しまり中強い。
 2 オリーブ褐色細砂 (T2Y3/G) 粘性中強い、しまり中強い、右側トップ状に混入。
 3 褐色粘質シルト (T2Y3/G) 粘性中強い、しまり中強い、右側トップ状に混入。

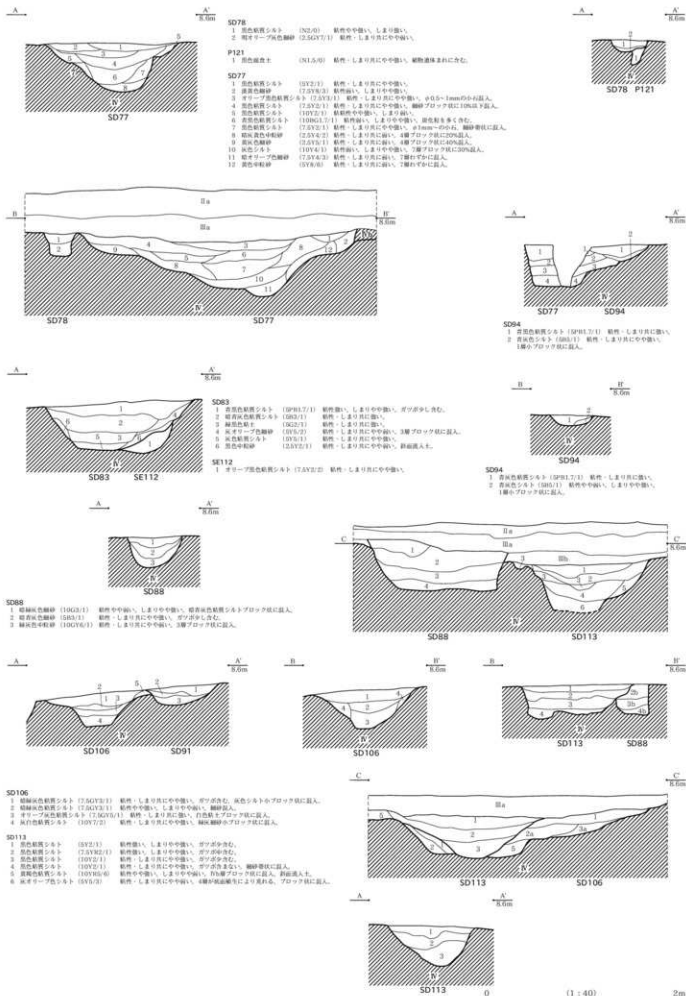


SK71
 1 褐色粘質シルト (T0Y2/G)
 2 濃い黄褐色粘質シルト (T0Y3/G) 右側砂層状に混入。

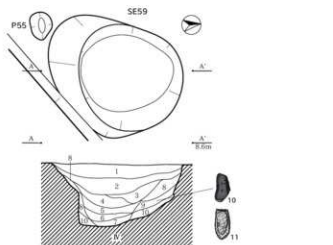


SK81
 1 オリーブ褐色粘質シルト (T0Y3/G) 粘性・しまり共に中強い、やや少量混入。
 2 褐色粘質シルト (T0Y3/G) 粘性・しまり共に中強い。
SD57
 1 褐色粘質シルト (T2Y2/G) 粘性中強い、しまり中強い、壁や中強い。
 2 オリーブ褐色粘質シルト (T2Y3/G) 粘性中強い、しまり中強い、マンガン酸層状に分布。
 3 褐色粘質シルト (N4/G) 粘性・しまり共に中強い。
 4 褐色粘質シルト (T0Y2/G) 粘性・しまり共に中強い、薄い、マンガン酸層状に分布。
 5 オリーブ褐色細砂 (T2Y3/G) 粘性中強い、しまり強い、右側トップ状に混入。



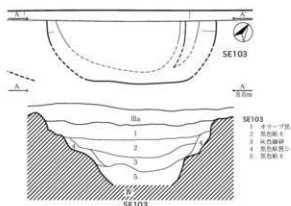


0 (1:40) 2m



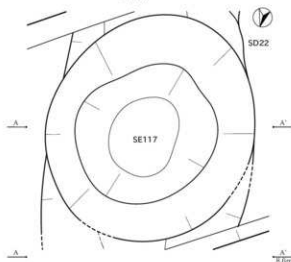
SE59

- 1 黒褐色粘質シルト (J10V4.1) 軟弱・しまり共に中強い。黒褐色シルトがコア付く層に混入。
- 2 黒褐色粘質シルト (J10V3.1) 軟弱・中強い。しまり中強い。黒褐色シルトがコア付く層に混入。
- 3 灰褐色粘質シルト (J2SV7.2) 軟弱・中強い。しまり中強い。黒褐色シルトがコア付く層に混入。
- 4 黒褐色粘質シルト (J2SV2.1) 軟弱・しまり共に中強い。黒褐色シルトがコア付く層に混入。
- 5 黒褐色粘質シルト (J10V2.1) 軟弱・しまり共に中強い。黒褐色シルトがコア付く層に混入。
- 6 黒褐色粘土 (J10V3.1) 軟弱・しまり共に強い。炭化物層状に含む。
- 7 黒褐色・硬質粘土 (N1.4.0) 軟弱・中強い。しまり弱い。
- 8 浅灰色シルト (J2SV7.3) 軟弱・しまり共に中強い。炭化物層状に含む。
- 9 黒褐色粘質シルト (J2SV3.1) 軟弱・しまり共に中強い。炭化物。塊状のわずかに含む。
- 10 暗灰色粘土 (N3.0) 軟弱・しまり共に強い。



SE103

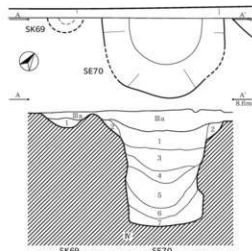
- 1 オリーブ灰色粘質シルト (J7SV3.1) 軟弱強い。しまり中強い。動物遺体層状に含む。中やコア付層。
- 2 褐色粘土 (N2.0) 軟弱強い。しまり中強い。炭化物層状にコア付く層に混入。
- 3 灰褐色粘土 (N4.0) 軟弱・しまり共に中強い。炭褐色粘質シルトがコア付く層に混入。
- 4 灰色粘質シルト (J6V2.1) 軟弱強い。しまり中強い。炭褐色粘質シルトがコア付く層に混入。動物遺体を含む。
- 5 灰色粘土 (N3.0.0) 軟弱・しまり共に強い。コア付く層に混入。



SD22上部1~6層まで (SD22土層法則を参照)

SE117

- 1 オリーブ灰色粘質シルト (J9V.1) 軟弱・中強い。しまり中強い。
- 2 黒褐色粘質シルト (J2SV3.1) 軟弱・しまり共に中強い。オリーブ灰色粘質シルト (J2SV4.4) がコア付く層に多く混入。
- 3 オリーブ灰色粘質シルト (J2SV4.4) 軟弱・しまり共に中強い。黒褐色粘質シルト (J2SV3.1) がコア付く層に多く混入。
- 4 暗灰色粘質シルト (J2SV4.2) 軟弱・しまり共に中強い。炭化物を多く含む。オリーブ灰色粘質シルト (J2SV4.4) がコア付く層に混入。
- 5 黒褐色粘質シルト (J2SV3.1) 軟弱・しまり共に中強い。炭化物を多く含む。
- 6 オリーブ灰色粘質シルト (J2SV4.4) がコア付く層に多く混入。
- 7 黒褐色粘質シルト (J2SV3.1) とオリーブ灰色粘質シルト (J2SV4.4) の混合層 軟弱・しまり共に中強い。炭化物をわずかに含む。
- 8 黒褐色粘質シルト (J2SV4.2) と黒褐色粘質シルト (J2SV4.1) の混合層 軟弱・しまり共に中強い。炭化物を多く含む。
- 9 黒褐色粘質シルト (J2SV3.1) と黒褐色粘質シルト (J2SV3.1) の混合層 軟弱・しまり共に中強い。炭化物を多く含む。
- 10 オリーブ灰色粘質シルト (J2SV3.1) と黒褐色粘質シルト (J2SV3.1) の混合層 軟弱・しまり共に中強い。炭化物を多く含む。

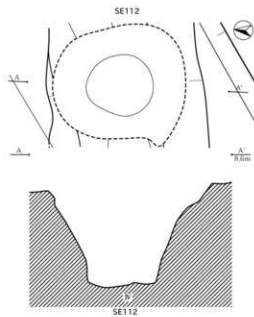


SK69

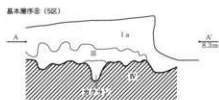
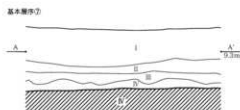
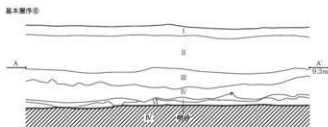
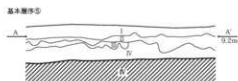
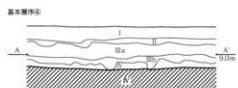
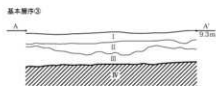
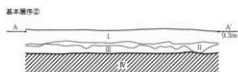
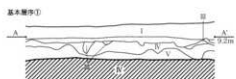
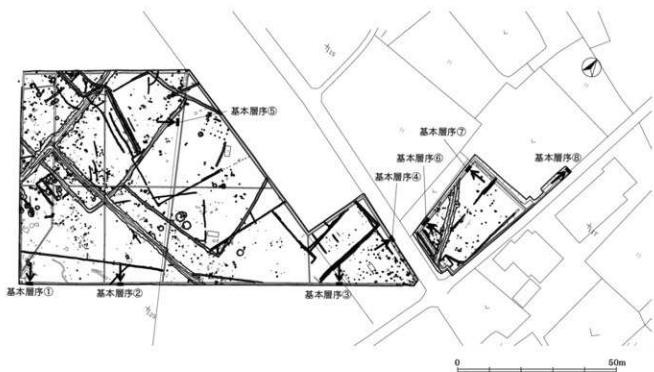
- 1 灰褐色粘質シルト (J2SV7.2) 軟弱・中強い。しまり中強い。白濁層がコア付く層に混入。

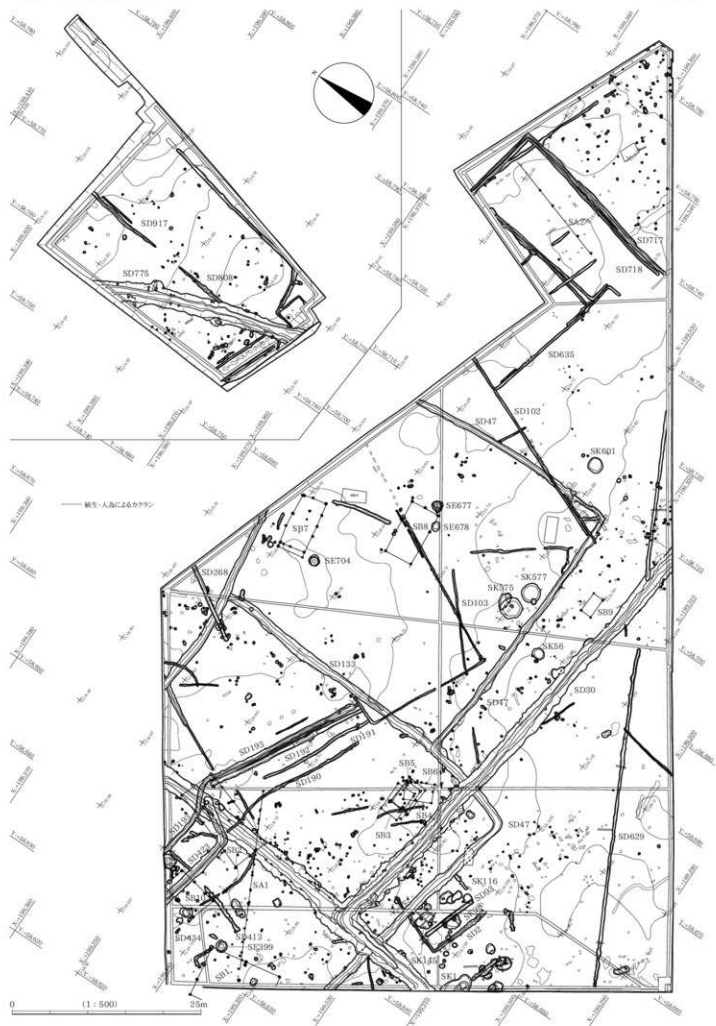
SE70

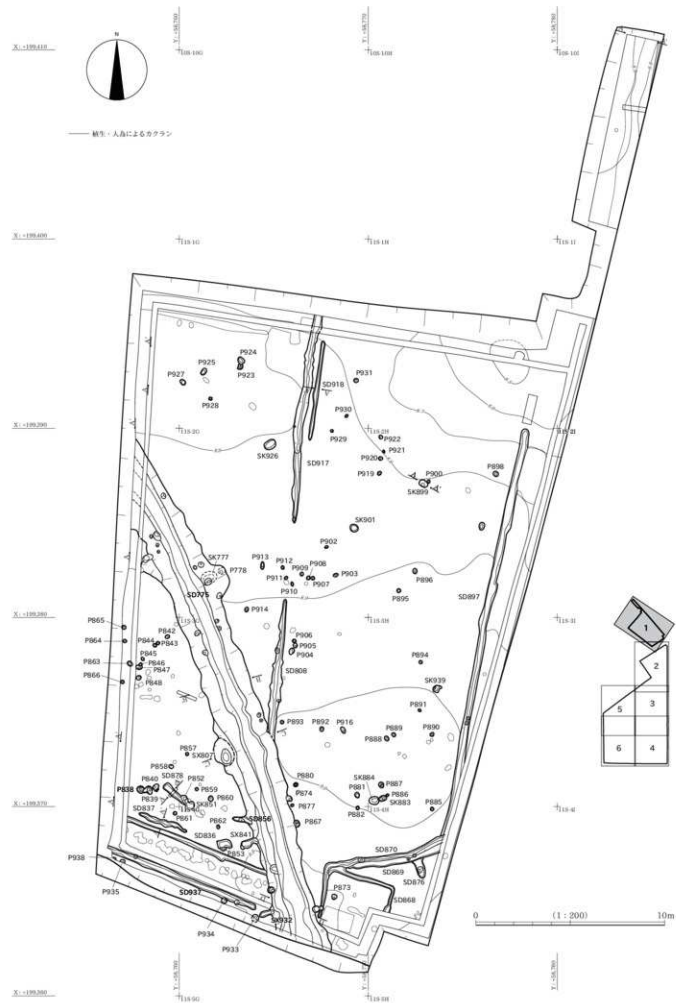
- 1 灰褐色粘質シルト (J7SV4.2) 軟弱・しまり共に中強い。
- 2 黒褐色粘土 (N4.0) 軟弱・しまり共に強い。コア付く層を含む。厚さ約10cm。
- 3 黒褐色粘質シルト (J2SV7.2) 軟弱・しまり共に中強い。厚さ約10cm。コア付く層に混入。炭化物層状に含む。
- 4 黒褐色粘質シルト (J2SV4.2) 軟弱強い。しまり中強い。炭化物層状に含む。厚さ約10cm。
- 5 黒褐色粘質シルト (J7SV2.1) 軟弱強い。しまり中強い。コア付く層を含む。
- 6 オリーブ灰色粘質シルト (J7SV2.1) 軟弱・しまり共に強い。コア付く層を含む。
- 7 青灰色粘質シルト (J9V2.1) 軟弱・しまり共に中強い。厚さ約10cm。炭化物層状に含む。

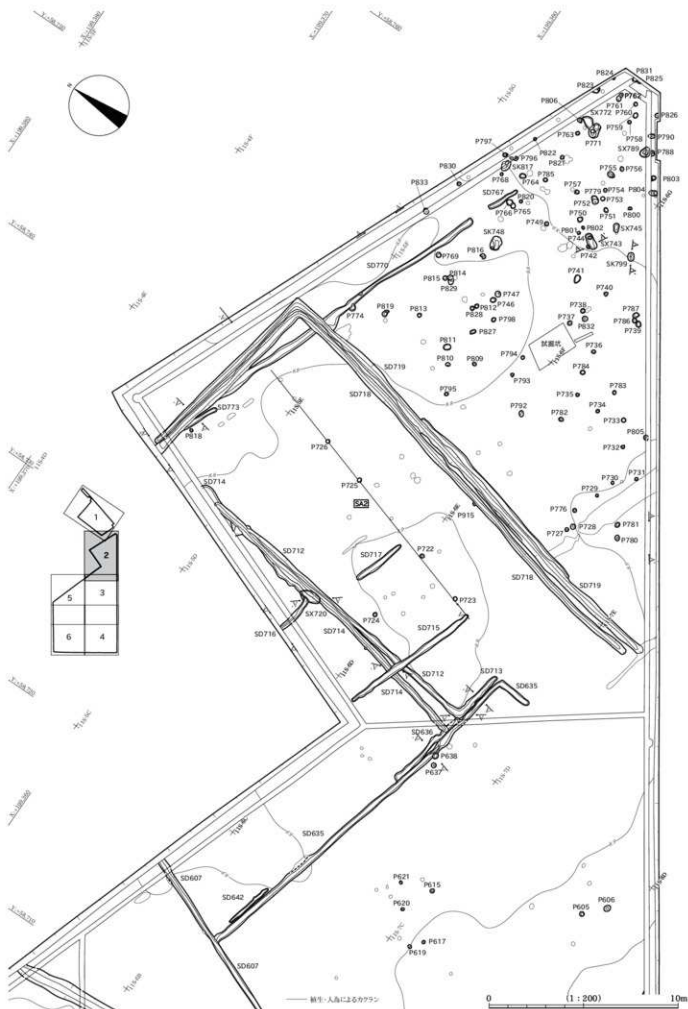


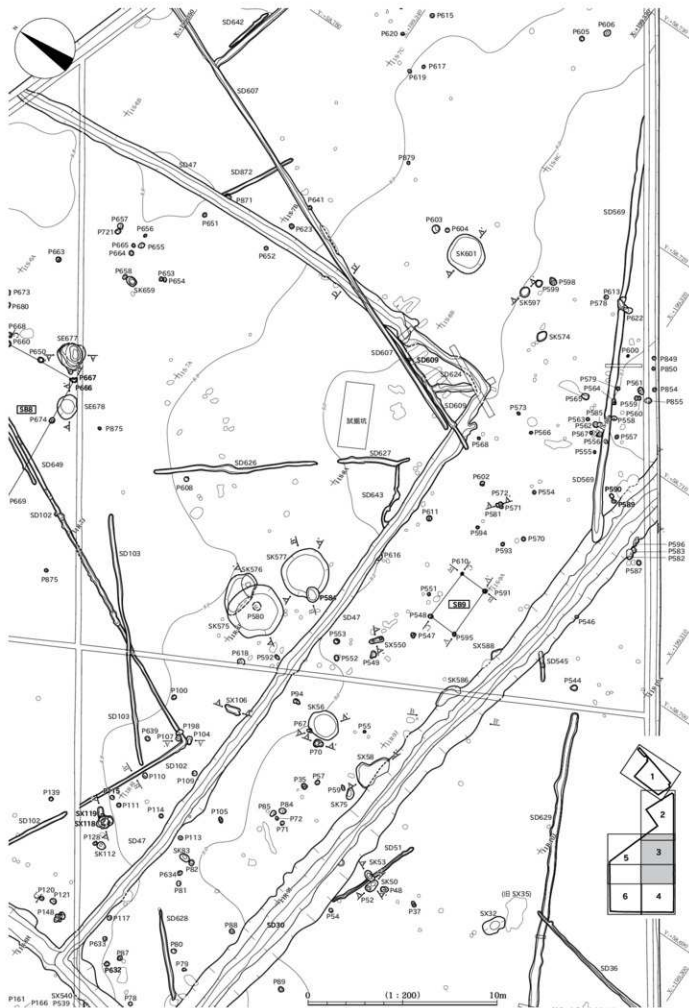
SE112

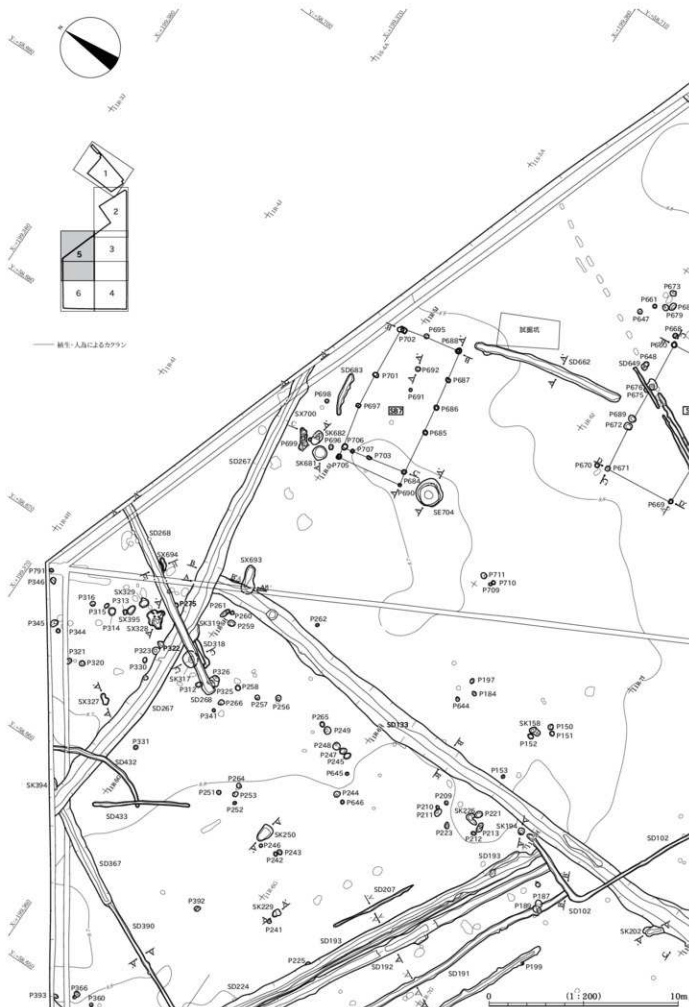


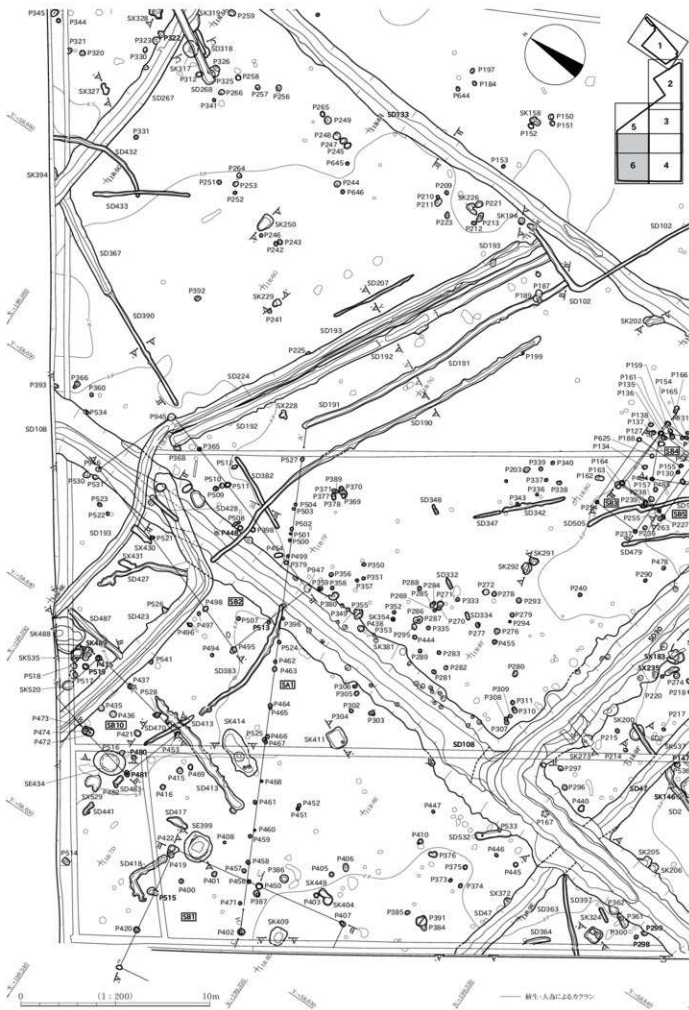


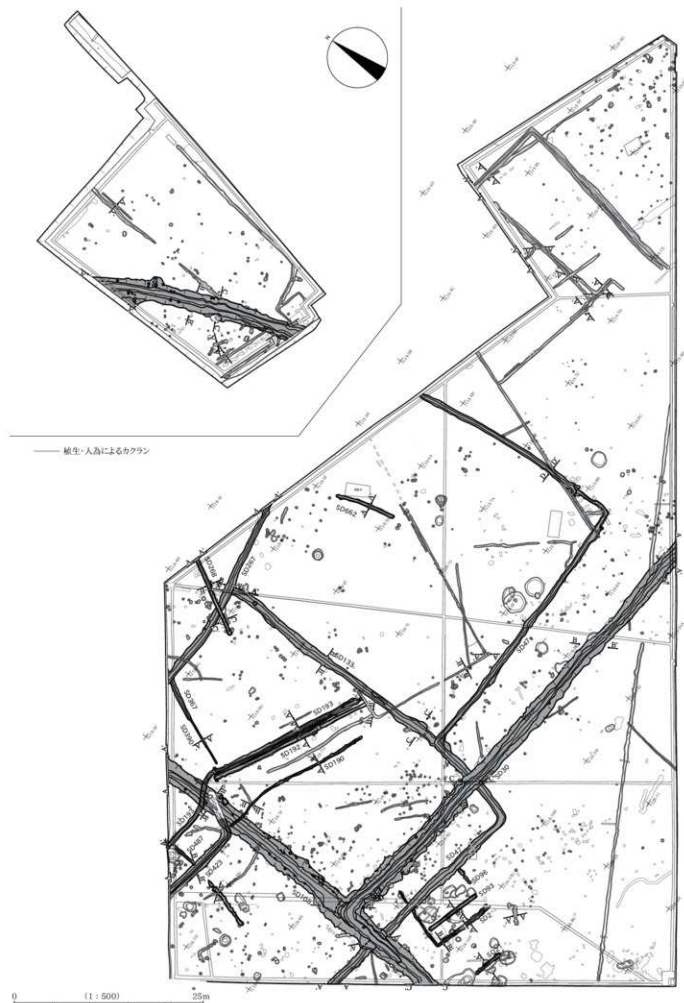


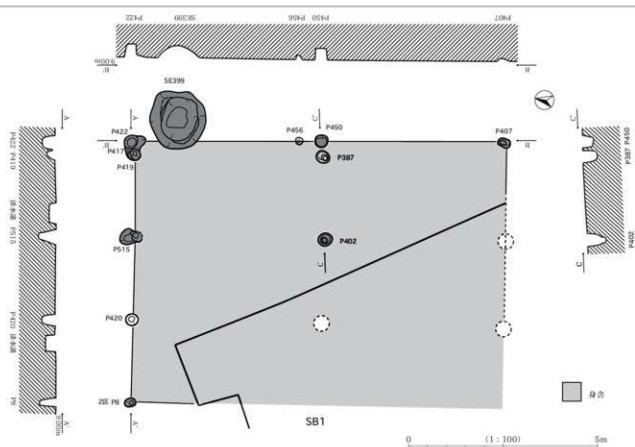
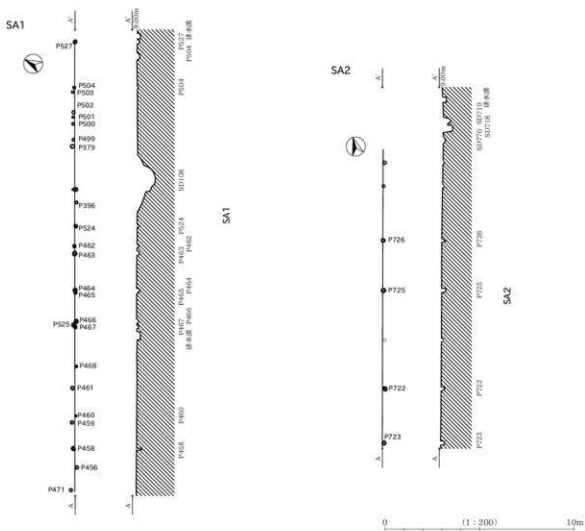


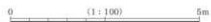
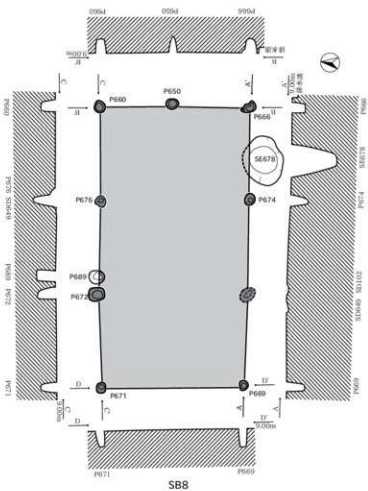
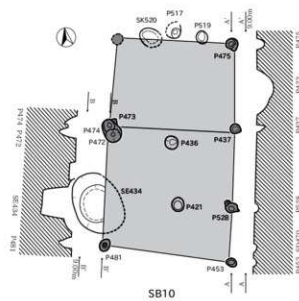
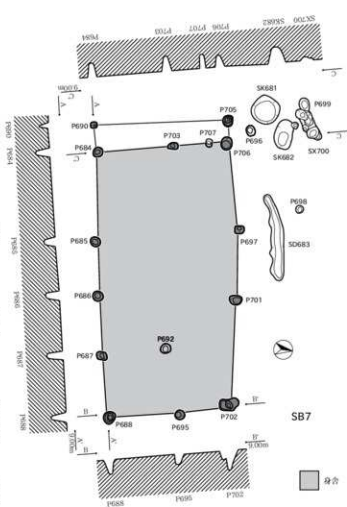
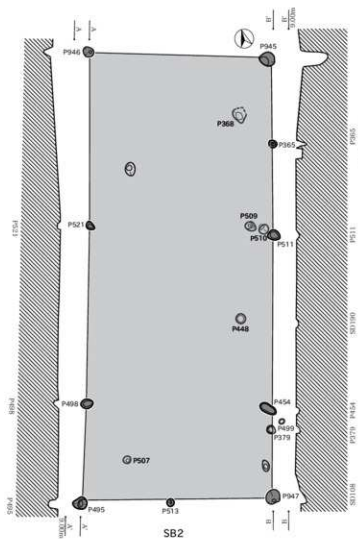


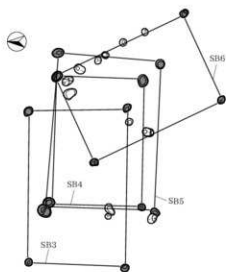
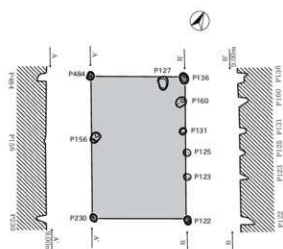
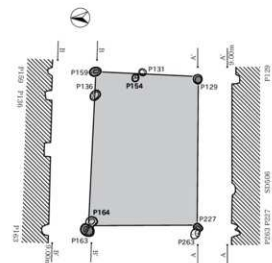
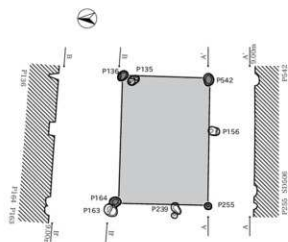
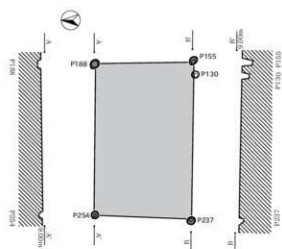




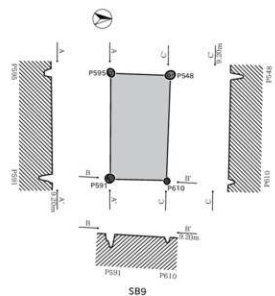


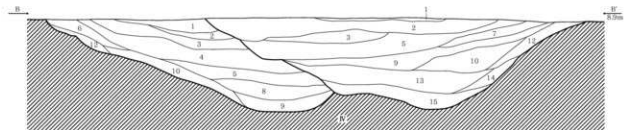






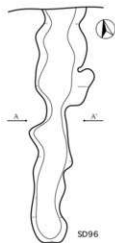
SB3～6重複関係



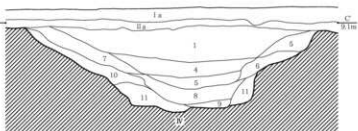


SD108

SD30



SD96



SD108



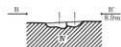
SD93

- 1 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性中であり、しまりあり、中・細粒層状に堆積。
- 2 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性中であり、しまりありを主体とし、中層を帯状に含む。



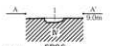
SD190

- 1 灰褐色粘土 (10YR3/2) 粘性、しまり共にあり。
- 2 二色相褐色粘土層 (10YR3/2) 粘性、しまりにあり。



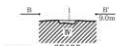
SD382

- 1 灰褐色粘土 (10YR3/2) 粘性、しまり共にあり。
- 2 褐色砂質粘土 (10YR3/2) 外層にプロット状に認められる。



SD96

- 1 灰褐色粘土 (10YR3/2) 粘性、しまりに中であり、層状に中層に認められる。
- 2 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性、しまりに中であり、層状に中層に認められる。

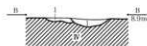


SD102

- 1 灰褐色粘土 (10YR3/2) 粘性、しまりにあり。
- 2 褐色土層 (10YR4/4) の中に入っている。



SD191



SD191

- 1 灰褐色粘土 (10YR3/2) 粘性、しまりにあり。
- 2 褐色砂質粘土 (10YR3/2) 外層にプロット状に認められる。



P104

- 1 灰褐色粘土 (10YR3/2) 粘性、しまりにあり。
- 2 灰褐色粘土 (10YR3/2) 粘性、しまりにあり。
- 3 灰褐色粘土 (10YR3/2) 粘性、しまりにあり。
- 4 褐色土層 (10YR4/4) の中に入っている。



SD192

- 1 灰褐色粘土 (10YR4/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 2 灰褐色粘土 (10YR4/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 3 灰褐色粘土 (10YR4/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 4 灰褐色粘土 (10YR4/2) 粘性あり、しまりにあり。

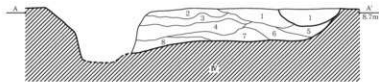
SD224

- 1 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性、しまりにあり。



SD193

- 1 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 2 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 3 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 4 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 5 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 6 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 7 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 8 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。



SD267

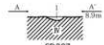
SD133

SX693



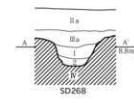
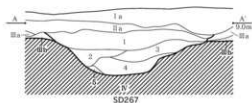
SD133

- 1 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 2 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 3 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 4 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 5 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 6 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 7 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 8 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。

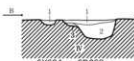
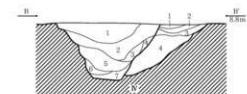


SD207

- 1 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。
- 2 黄褐色粘土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりにあり。

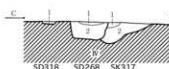


SD268
 1 黒褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、
 片み層がコア部に混入。
 2 黒褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり。

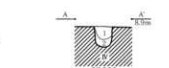
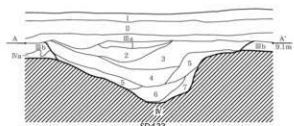


SX694
 1 黒褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、
 片み層がコア部に混入。

SD267
 1 黒褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、
 2 濃い黒褐色シルト状土 (10YR4/2) 軟弱・しまり状にあり、
 3 褐色シルト状土 (10YR4/4) 軟弱・しまり状にあり、
 4 濃い黒褐色シルト状土 (10YR4/2) 軟弱・しまり状にあり、
 5 黒褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、
 6 濃い黒褐色シルト状土 (10YR4/2) 軟弱・しまり状にあり、
 7 黒褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり。



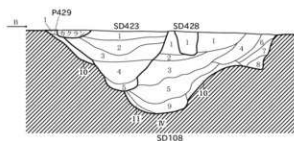
SK317
 1 褐色シルト状土 (10YR3/4) 軟弱・しまり状にあり、
 2 褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、
 3 褐色土がコア部に混入。



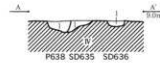
SD390
 1 褐色シルト状土 (10YR3/1) 軟弱・しまり状にあり、
 2 褐色シルト (10YR4/4) 軟弱あり、しまり状、片み層がコア部に混入。



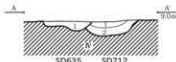
SD470
 1 褐色シルト状土 (10YR4/4) 軟弱あり、しまり状。
SD413
 1 黒褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、
 2 褐色シルト (10YR4/4) 軟弱あり、しまり状中層。



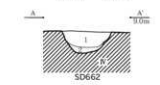
SD428
 1 褐色シルト状土 (7.5Y7/1) 軟弱・しまり状にあり、
 中層も混入。



SD635
 1 褐色シルト状土 (10YR4/1) 軟弱・しまり状にあり、
 中層も混入。

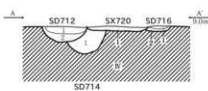
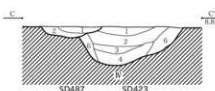


SD635
 1 褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、
 中層も混入。



SD662
 1 褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、
 2 褐色シルト状土 (10YR4/1) 軟弱・しまり状にあり。

SD423
 1 浅黄色粘質シルト (2.5Y7/2) 軟弱・しまり状にあり、
 片み層も混入に存在。
 2 浅黄色粘質シルト (2.5Y7/2) 軟弱あり、しまり状中層。
 3 浅黄色粘質シルト (2.5Y7/2) 軟弱・しまり状にあり、
 底層部も存在。
 4 オリーブ灰色粘質シルト (5Y4/1) 軟弱・しまり状にあり、
 コア部、浸透物も存在。
 5 浅黄色粘質シルト (2.5Y7/2) 軟弱・しまり状にあり、
 片み層も混入に存在。
 6 オリーブ灰色粘質シルト (7.5Y4/1) 軟弱あり、
 しまり状中層、浸透物も存在。細層も存在にあり、
 しまり状中層、片み層がコア部に混入、細層も混入。
 7 オリーブ灰色粘質シルト (7.5Y4/1) 軟弱あり、
 しまり状中層、片み層がコア部に混入、細層も混入。

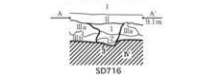
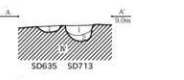


SD712
 1 褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、
 2 褐色シルト状土 (10YR4/1) 軟弱・しまり状にあり。

SD713
 1 褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、
 2 褐色シルト状土 (10YR4/1) 軟弱・しまり状にあり。

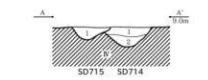
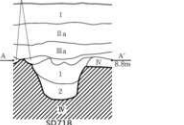
SD714
 1 褐色シルト (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、片み層がコア部に混入。
 2 褐色シルト状土 (10YR4/1) 軟弱・しまり状にあり。

SD715
 1 褐色シルト (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、片み層がコア部に混入。

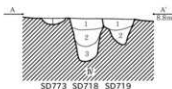


SD716
 1 浅黄色粘土 (10YR4/2) 軟弱あり、しまりあり、
 2 褐色粘土 (10YR4/1) 軟弱あり、しまりあり、
 3 灰オリーブシルト (5Y4/2) 軟弱あり、しまりあり。

SD718
 1 褐色シルト状土 (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、
 2 褐色シルト状土 (10YR4/1) 軟弱・しまり状にあり。



SX720
 1 褐色シルト (10YR3/2) 軟弱・しまり状にあり、片み層がコア部に混入。



SD773 SD718 SD719

SD773

1 灰黒褐色シルト (10YR5/2) 粘質・しまり共にあり、プロット技術の暗褐色粘土層。

SD718

1 灰黒褐色シルト (10YR5/2) 粘質・しまり共にあり、本層底面少量分布。

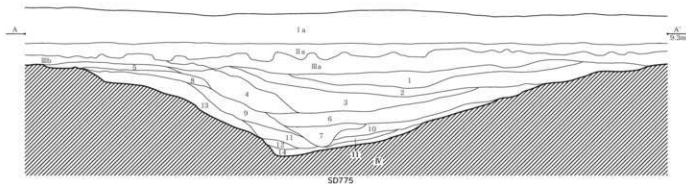
2 暗褐色粘土 (10YR4/2) 粘質あり、しまり弱。

3 灰黒褐色粘土層シルト (10YR5/2) 粘質あり、しまり弱。

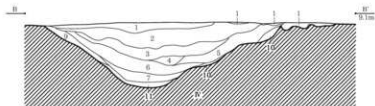
SD719

1 灰黒褐色シルト (10YR5/2) 粘質あり、しまり弱、本層底面少量分布。

2 暗褐色粘土 (10YR4/2) 粘質あり、しまり弱。



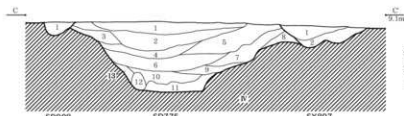
SD775



SD775

SD775

- 1 暗褐色シルト (10YR5/2) 粘質・しまり共にあり。
- 2 暗褐色シルト (10YR5/2) 粘質・しまり共にあり、(層より中心部傾)。粘質・しまり共にあり、(層より中心部傾)。粘質・しまり共にあり。
- 3 暗褐色シルト (10YR5/2) 粘質・しまり共にあり。
- 4 暗褐色シルト (10YR5/2) 粘質・しまり共にあり。
- 5 暗褐色シルト (10YR5/2) 粘質・しまり共にあり。
- 6 暗褐色シルト (10YR5/4) 粘質あり、しまり弱。
- 7 暗褐色シルト (10YR5/2) 粘質あり、しまり弱、若干灰色を伴す。
- 8 暗褐色シルト (10YR5/2) 粘質・しまり共にあり。
- 9 暗褐色シルト (10YR5/2) 粘質・しまり共にあり。
- 10 におい(暗褐色シルト) (10YR4/2) 粘質あり、しまり弱、本層底面少量分布。
- 11 におい(暗褐色シルト) (10YR4/2) 粘質あり、しまり弱。
- 12 灰黒褐色シルト (10YR4/2) 粘質あり、しまり弱、本層底面少量分布。
- 13 暗褐色シルト (10YR5/2) 粘質・しまり共にあり。
- 14 におい(暗褐色シルト) (10YR4/2) 粘質・しまり共にあり、本層底面少量分布。
- 15 におい(暗褐色シルト) (10YR4/2) 粘質あり、しまり弱、本層底面少量分布。



SD808

SD775

SX807

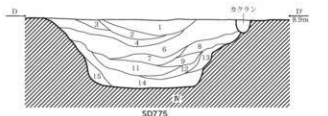
SD808

1 暗褐色シルト (10YR5/2) 粘質・しまり共にあり。

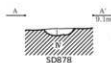
SX807

1 暗褐色シルト (10YR5/2) 粘質あり、しまり弱。

2 暗褐色粘土層シルト (10YR4/2) 粘質あり、しまり弱。

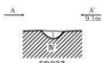


SD775



SD878

1 におい(暗褐色シルト) (7.5YR5/4) 粘質、しまりあり。



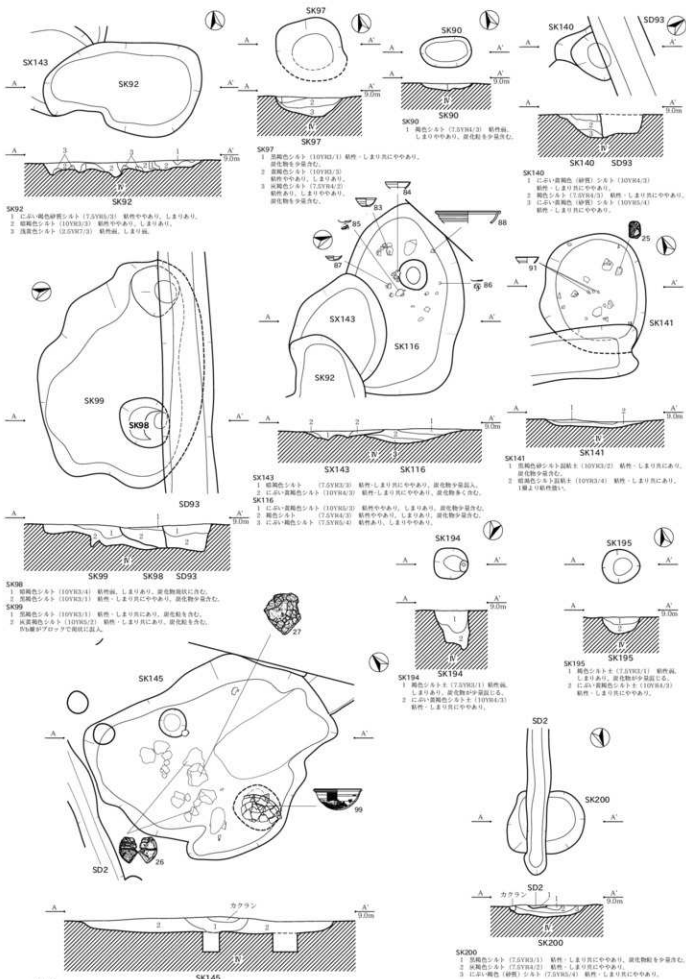
SD837

1 におい(暗褐色シルト) (7.5YR5/4) 粘質、しまりあり。



SD918

1 暗褐色粘土 (10YR5/4) 粘質・しまり共にあり、本層底面少量分布。



0 (1:40) 2m



SK201

- 1 灰褐色土層(10YR4/4) 粘質・しまり度に中であり、底面が平直化。
- 2 灰褐色土層(10YR4/2) 粘質・しまり度に中であり、底面が平直化。
- 3 土色不明粘質土層(10YR5/2) 粘質・しまり度に中であり、底面が平直化。
- 4 灰褐色土層(10YR5/2) 粘質あり、しまり度中であり、底面が平直化。



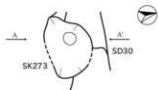
SK202

- 1 褐色土 (10YR4/4) 粘質・しまり度に中であり、底面が中々平直化。
- 2 土色不明粘質土層 (10YR5/4) 粘質あり、しまり度あり、底面が中々平直化。



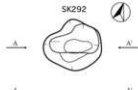
SK250

- 1 灰褐色土層(10YR4/2) 粘質・しまり度に中であり、底面が粘質層に平直化。
- 2 灰褐色土層(10YR4/2) 粘質・しまり度に中あり。



SK273

- 1 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質あり、底面が粘質層に平直化。
- 2 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質あり、しまり度中あり。
- 3 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質より中々粘質あり、粘質・しまり度に中あり。



SK292

- 1 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質・しまり度に中あり。
- 2 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質・しまり度に中あり、右側をブロック状に平直化。
- 3 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質あり、しまり度中。



SK414

- 1 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質・しまり度に中あり。
- 2 灰褐色土層(10YR3/1) 粘質・しまり度に中あり。
- 3 土色不明粘質土層(10YR4/2) 粘質あり、しまり度中。



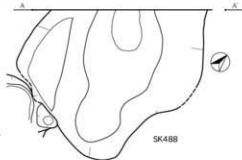
SK324

- 1 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質あり、しまり度中。



SK409

- 1 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質あり、しまり度中。
- 2 灰褐色土層(10YR3/2) 黄褐色粘質土層(10YR4/5)の混層、粘質あり、しまり度中。
- 3 褐色土層(10YR4/6) 粘質あり、しまり度中量混入。



SK488



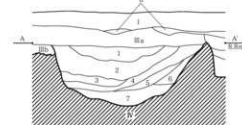
SK411

- 1 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質・しまり度に中あり、右側が少量混入。
- 2 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質あり、しまり度中、粘質層(10YR4/4)混入。
- 3 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質・しまり度に中あり。
- 4 灰褐色土層(10YR3/2) 粘質あり、しまり度中。



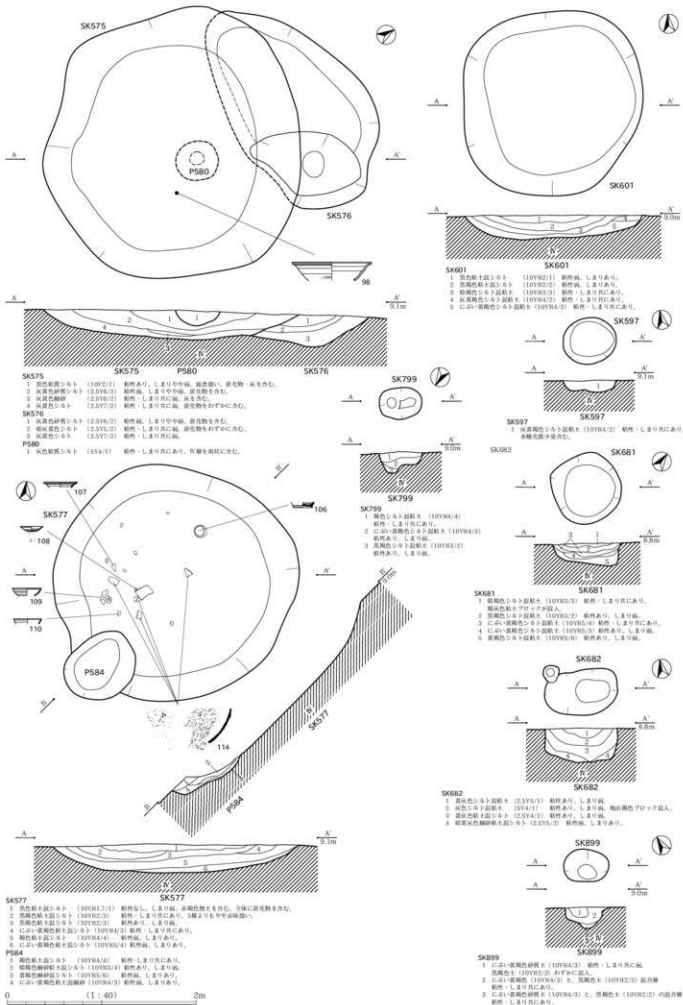
SK442

- 1 土色不明粘質土層(10YR4/2) 粘質・しまり度に中あり、底面が中々平直化。
- 2 褐色土層(10YR4/4) 粘質・しまり度中、粘質層を混入に平直化。

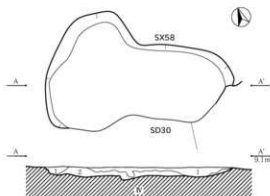


SK488

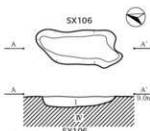
- 1 灰褐色粘質土層(10YR3/2) 粘質中中強、しまり度中。
- 2 灰褐色粘質土層(10Y7/3) 粘質・しまり度中強、底面が粘質層に平直化。
- 3 灰褐色粘質土層(10Y7/3) 粘質・しまり度中強、底面が粘質層に平直化。
- 4 灰褐色粘質土層(10Y7/3) 粘質・しまり度中強、底面が粘質層に平直化。
- 5 灰褐色粘質土層(10Y7/3) 粘質・しまり度中強、底面が粘質層に平直化。
- 6 灰褐色粘質土層(10Y7/3) 粘質・しまり度中強、底面が粘質層に平直化。
- 7 灰褐色粘質土層(10Y7/3) 粘質・しまり度中強、底面が粘質層に平直化。



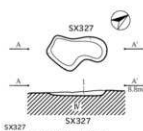
0 (1:40) 2m



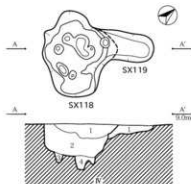
- SX58**
- 1 褐色土 (10YR4/4) 粘質・しまり肌にあり、黒褐色 (10YR3/4) 砂質土が混入。炭化粒がわずかに存在。
 - 2 土色(黄褐色)粘質土 (10YR3/4) 粘質。しまりあり、炭化粒がわずかに存在。



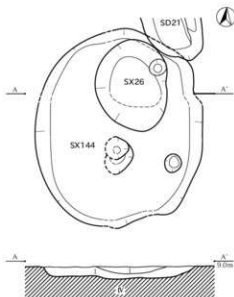
- SX106**
- 1 黒褐色土 (10YR3/4) 粘質・しまり肌にあり、黄褐色土 (10YR2/2) をわずかに含む。



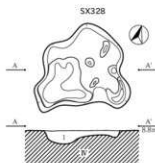
- SX327**
- 1 黄褐色(少)土質土 (10YR3/4) 粘質・しまり肌にあり、片層を境目に含む。



- SX118**
- 1 黒褐色土 (10YR3/4) 粘質・しまり肌にあり、褐色土質土 (10YR4/6) 粘土が混入。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/4) 粘質・しまり肌にあり、褐色土質土 (10YR4/6) をわずかに含む。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質・しまり肌にあり、褐色土質土 (10YR4/6) 粘土にあり、砂質土 (10YR3/2) をわずかに含む。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2) 粘土にあり、砂質土 (10YR3/2) をわずかに含む。
- SX119**
- 1 黒褐色土 (10YR3/4) 粘質・しまり肌にあり、褐色土質土 (10YR4/6) 粘土が混入。



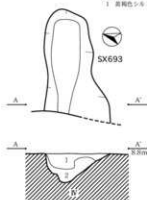
- SX26**
- 1 褐色(少)土質土 (10YR4/4) 粘質・しまり肌にあり、SX144
- SX144**
- 1 黄褐色(少)土質土 (10YR5/6) 粘質。しまりあり。



- SX328**
- 1 黄褐色(少)土質土 (10YR3/4) 粘質・しまり肌にあり、片層を境目に含む。



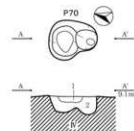
- SX550**
- 1 黄褐色(少)土質土 (10YR3/2) 粘質・しまり肌にあり。
 - 2 黄褐色(少)土質土 (10YR3/4) 粘質・しまり肌にあり。
 - 3 褐色(少)土質土 (10YR4/4) 粘質・しまり肌にあり。



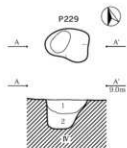
- SX693**
- 1 黄褐色(少)土質土 (10YR3/2) 粘質・しまり肌にあり。
 - 2 黄褐色(少)土質土 (10YR4/4) 粘質・しまり肌にあり。褐色土質土(アツク) (10YR2/2) を少量含む。



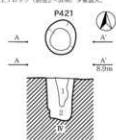
- SX743**
- 1 褐色粘土質(少)土 (10YR4/4) 粘質・しまり肌にあり、P742
- P742**
- 1 褐色(少)土質土 (10YR4/4) 粘質あり、しまりあり。



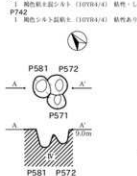
- P70**
- 1 黄褐色土 (10YR2/2) 粘質・しまり肌にあり、褐色土 (10YR4/6) 粘土が混入。
 - 2 黄褐色土 (10YR3/2) 土。褐色土 (10YR4/4) 粘土が混入。炭化粒 (直径1mm程度) がわずかに存在。



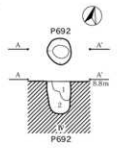
- P229**
- 1 黄褐色(少)土質土 (10YR3/2) 粘質あり、しまりあり。
 - 2 黄褐色(少)土質土 (10YR3/2) 粘質土 (褐色) がアツク状に少量混入。
 - 3 黄褐色(少)土質土 (10YR3/2) 粘質あり、しまりあり。
 - 4 褐色土 (褐色) がアツク状に少量混入。



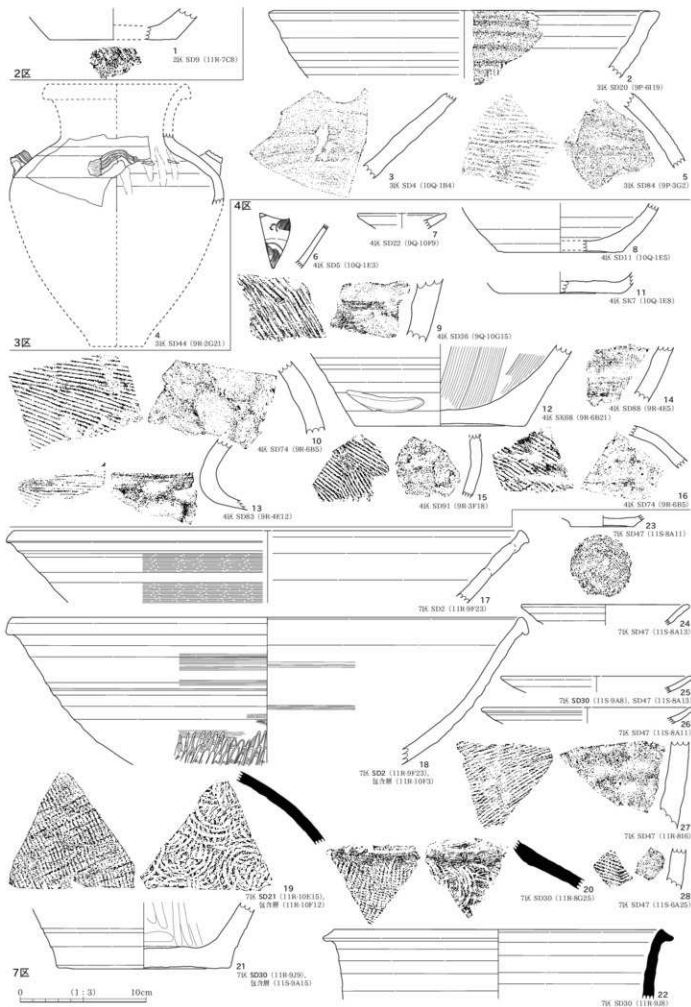
- P421**
- 1 黄褐色(少)土質土 (10YR3/2) 粘質・しまり肌にあり。
 - 2 黄褐色(少)土質土 (10YR2/2) 粘質あり、しまりあり。
 - 3 黄褐色(少)土質土 (10YR2/2) 粘質・しまり肌にあり、片層をアツク状に含む。

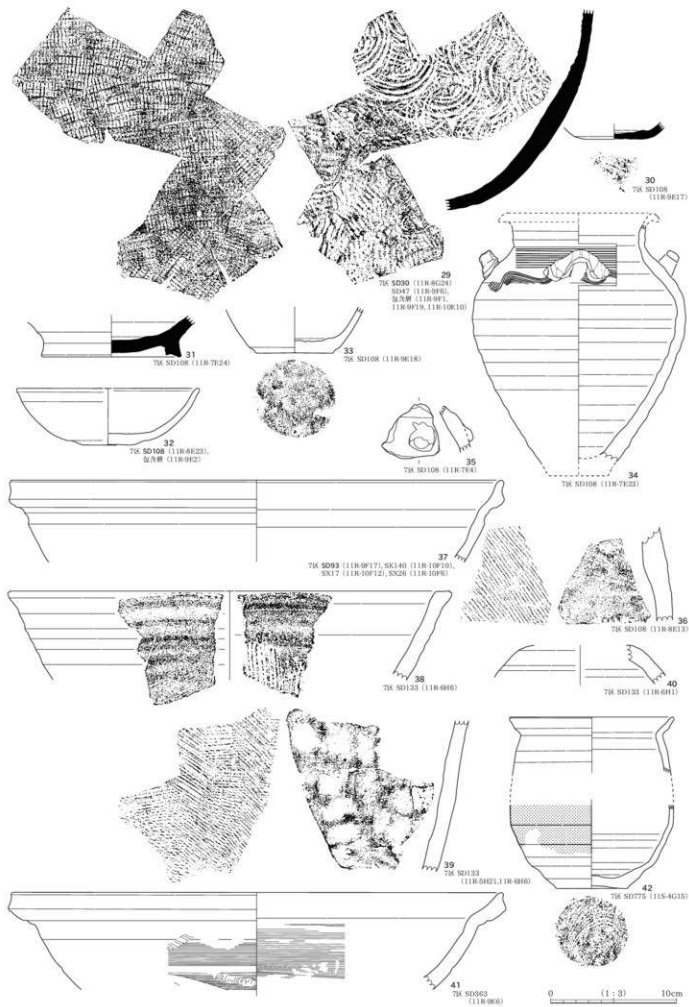


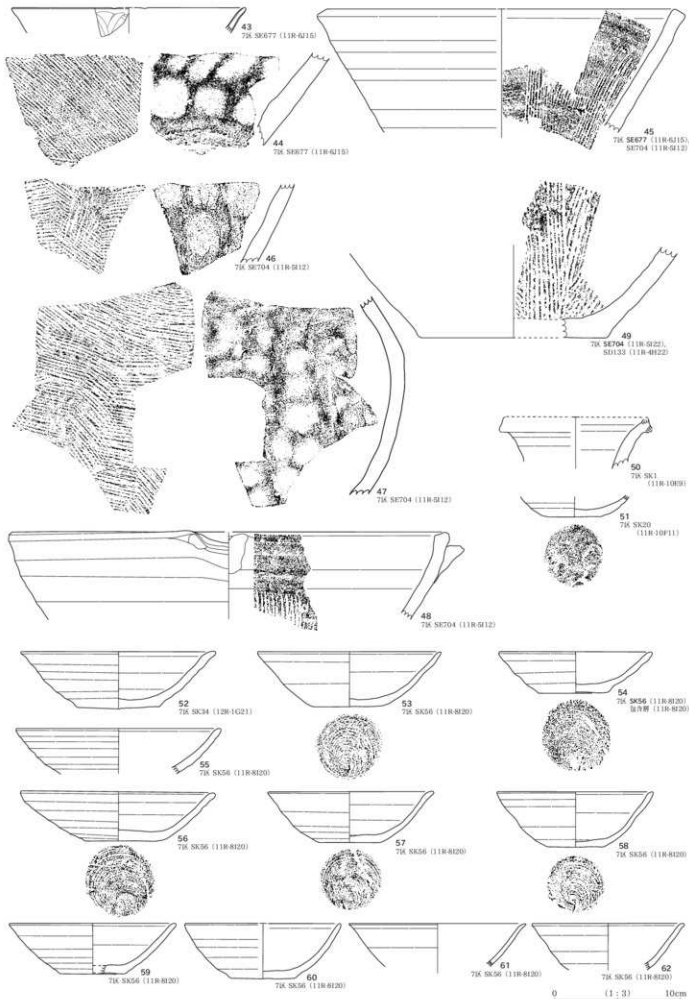
- P581 P572**
- 1 黄褐色(少)土質土 (10YR4/4) 粘質・しまり肌にあり、P571
- P571**
- 1 黄褐色(少)土質土 (10YR2/2) 粘質あり、しまりあり。

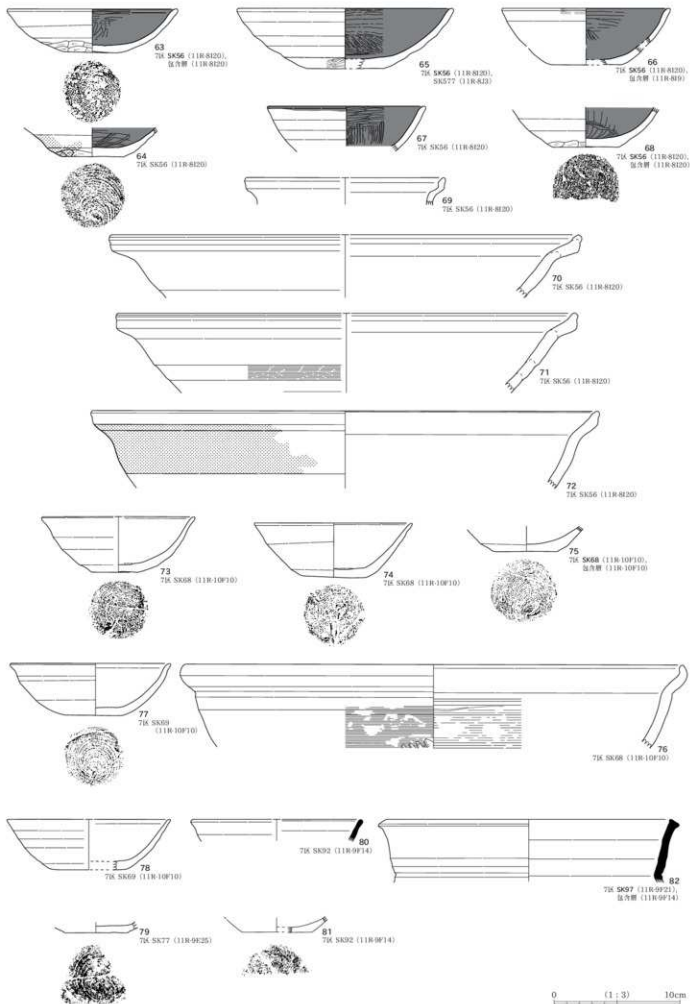


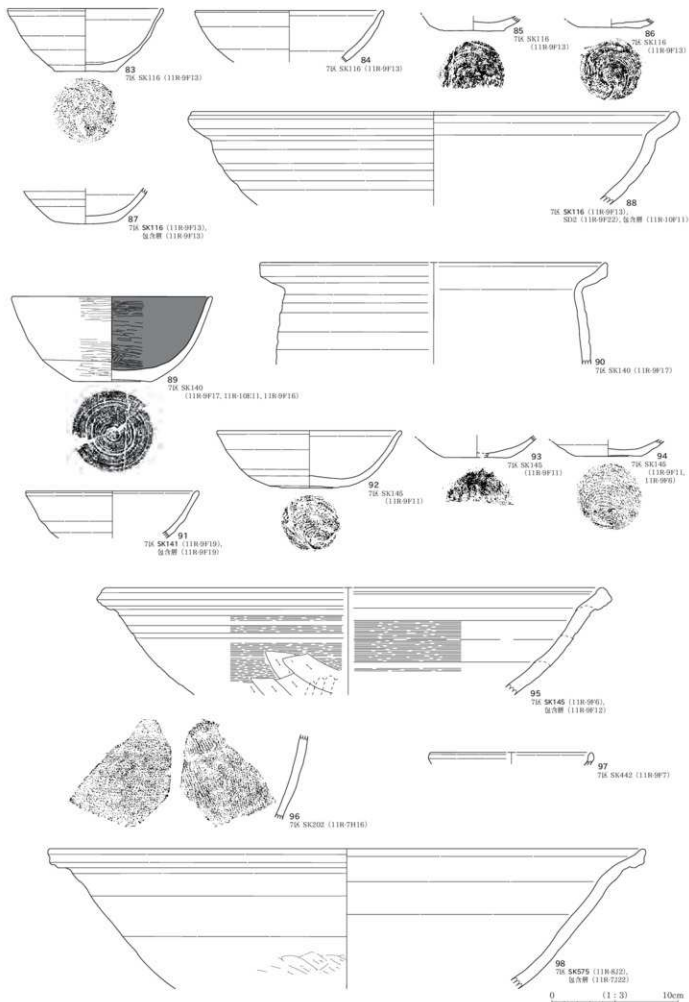
- P692**
- 1 黄褐色(少)土質土 (10YR3/2) 粘質・しまり肌にあり。
 - 2 土色(黄褐色)粘質土 (10YR3/2) 粘質。しまりあり。

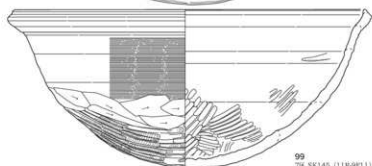
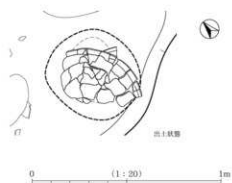




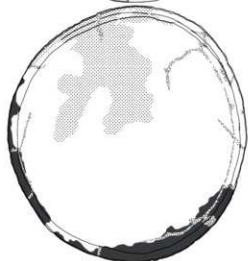
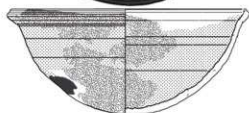
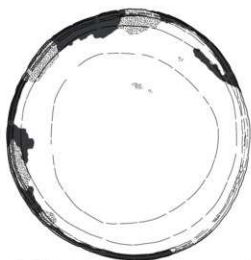








99
7区 SK145 (11R-9F11)

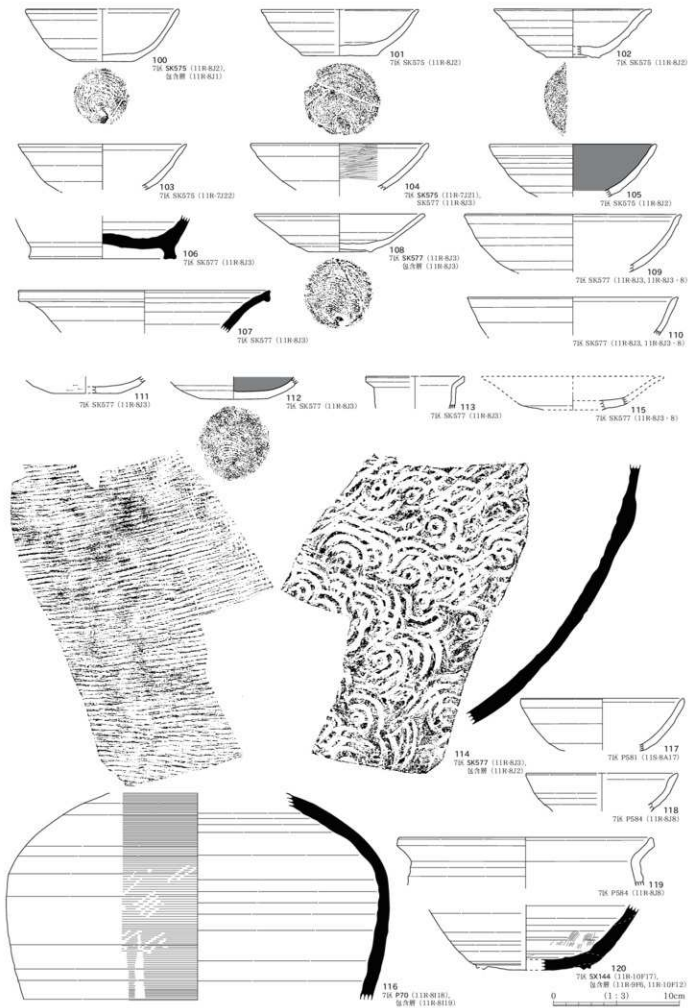


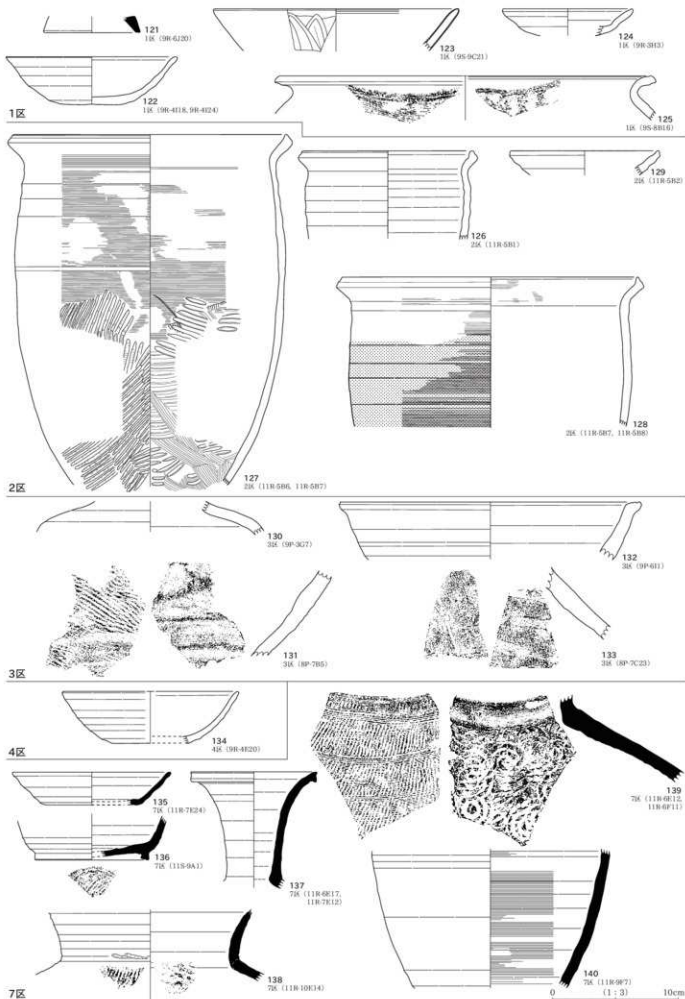
欠失
 赤化
 文脚痕

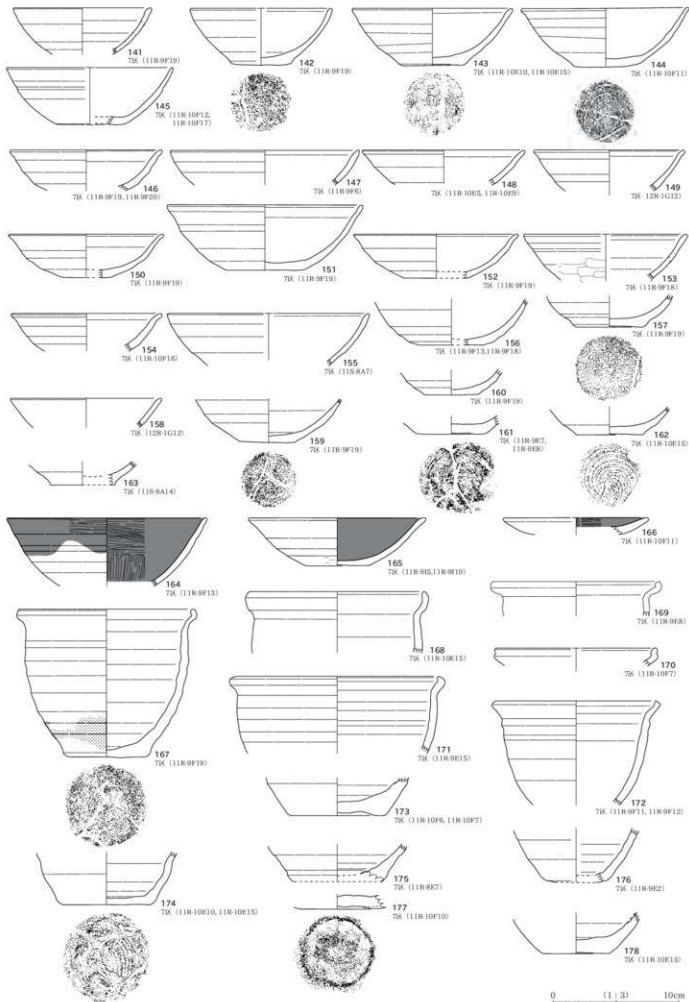
焼熱目およびスス・コウ付着状況

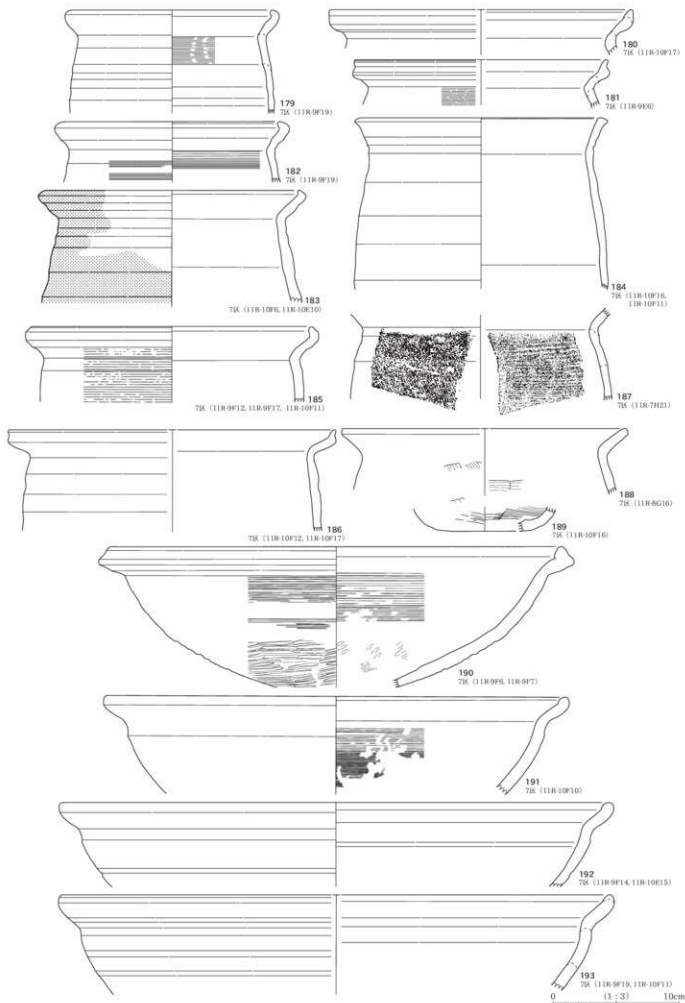
0 (1:6) 20cm

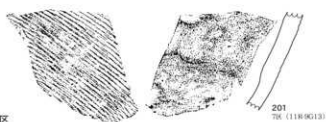
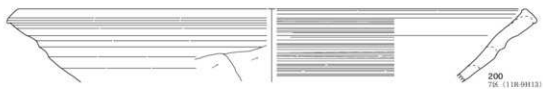
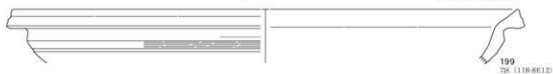
0 (1:4) 10cm



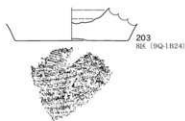






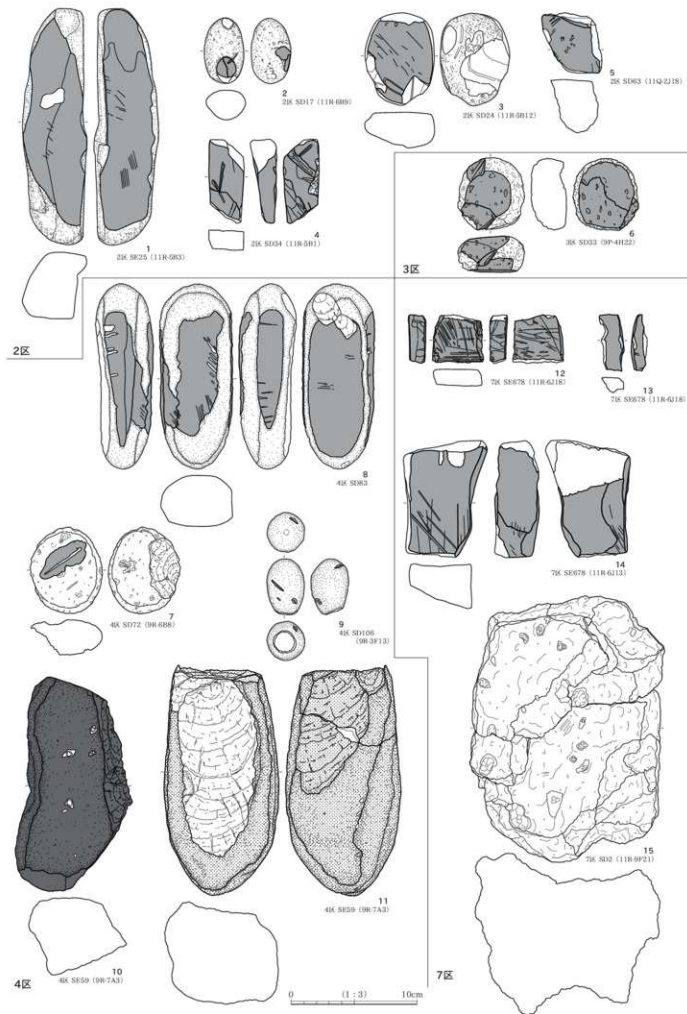


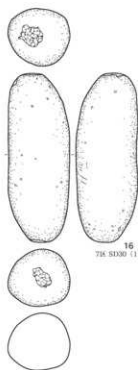
7区



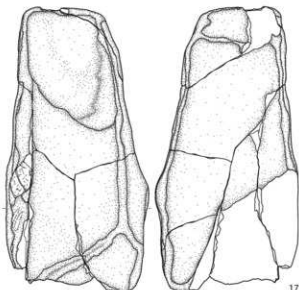
8区

0 (1:3) 10cm

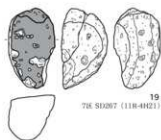




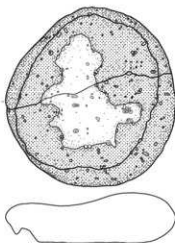
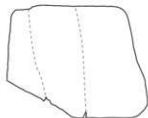
16
7K SD30 (11S-946)



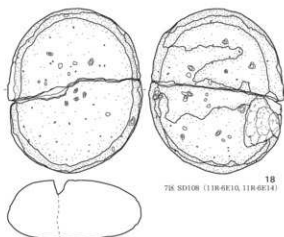
17
7K SD108 (11R-9E17)



19
7K SD267 (11R-4H21)



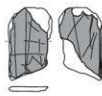
18
7K SD267 (11R-4H18, 11R-4H17)



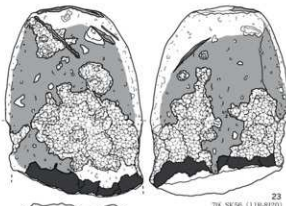
18
7K SD108 (11R-6E10, 11R-6E14)



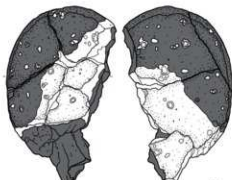
21
7K SD778 (11S-716)



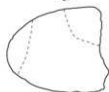
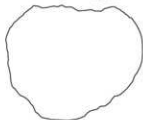
22
7K SD775 (11S-3G13)



23
7K SK56 (11R-8I20)

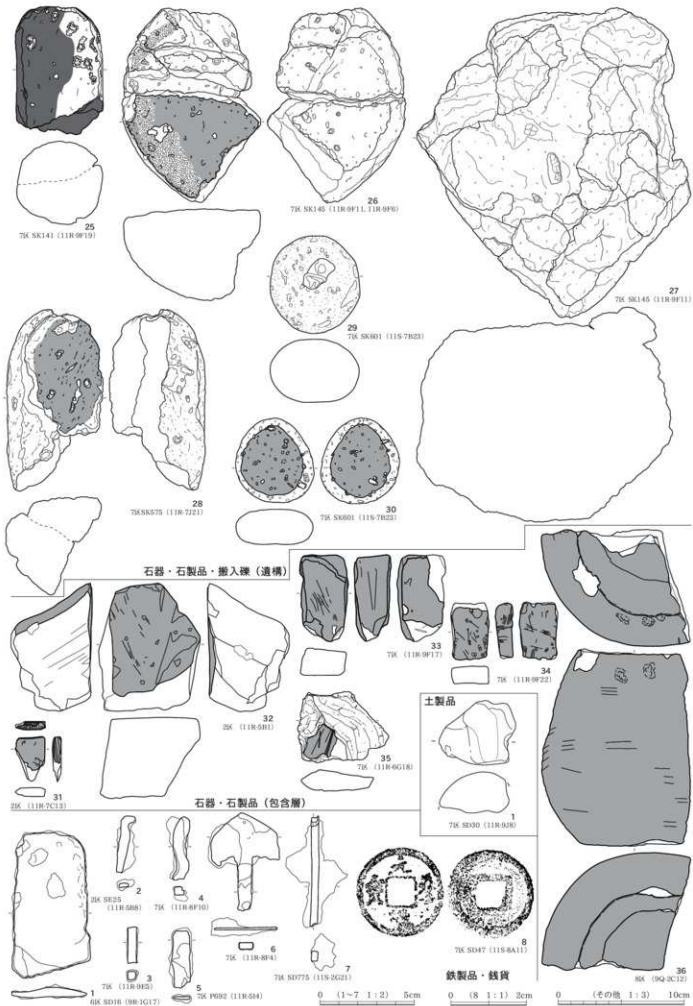


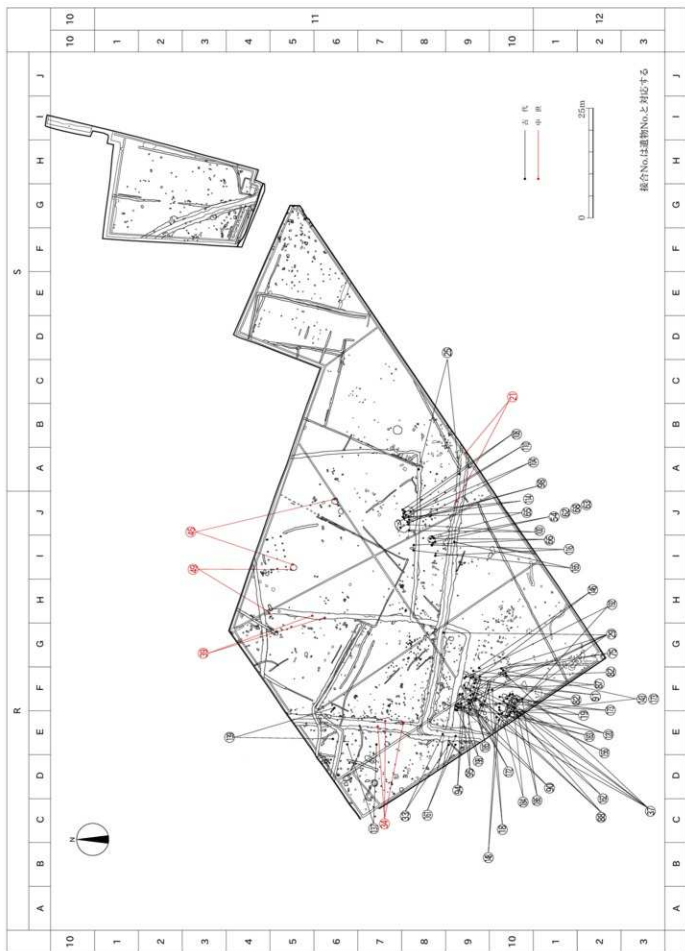
24
7K SK92 (11R-9F14),
SD108 (11R-8E3)

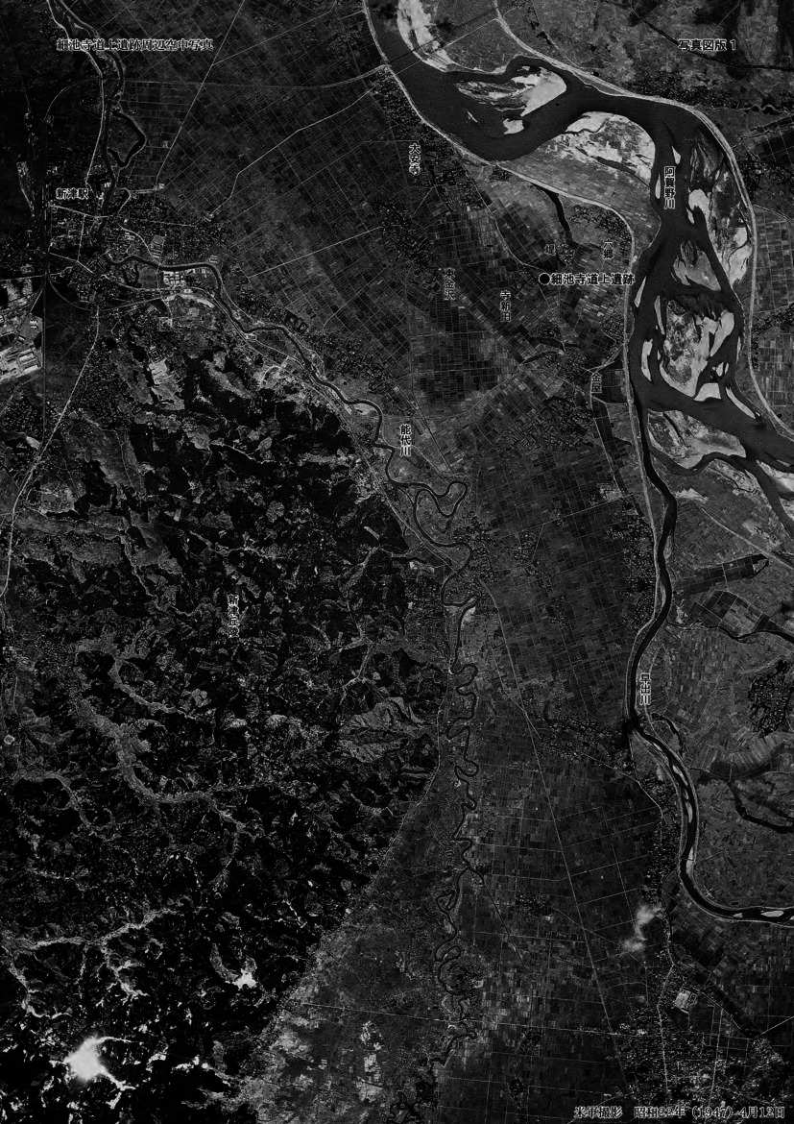


0 (17 1:4) 10cm

0 (その他 1:3) 10cm







○星池寺正門

長家郷

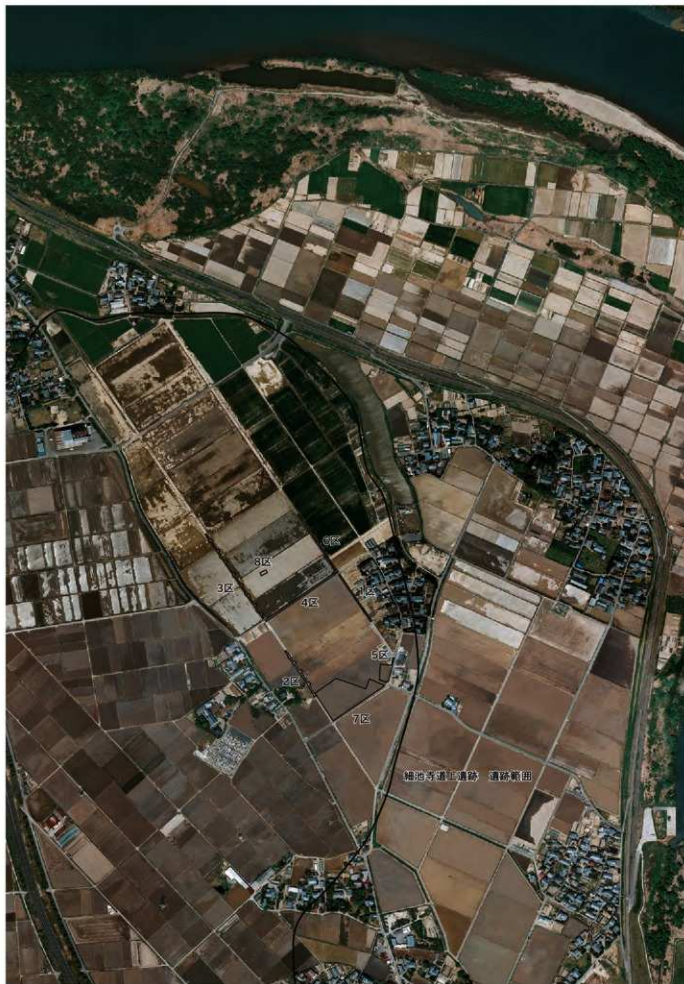
星池寺

星池寺

星池寺

龍城山

星池寺



調査区周辺空中写真 (国土地理院撮影 C-OR TH0 E2K13-001, E2K26-001 を合成)



調査前空中写真 2008年3月撮影（西から五頭山を望む）



調査前空中写真 2008年3月撮影（南から日本海を望む）



1区②



1区⑥



2区①



2区⑥



3区③



3区⑦



4区①



4区⑥



6区⑦



6区①



7区⑦



7区⑤



7区①



7区②



7区⑥



7区④



1区 着手前 北から



1区 完掘 北から



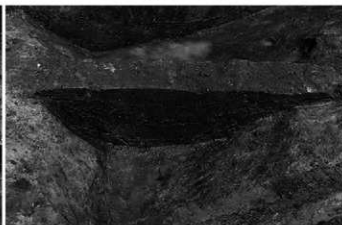
SD11 完掘 西から



SD14 断面 (B-B') 西から



SD14 断面 (A-A') および完掘 西から



SD33 断面 (A-A') 西から



SD33 断面 (B-B') 東から



SD33 完掘 西から



SD46 断面 (A-A') 西から



SD46 完割 西から



SE51 断面 (A-A') 西から



SE51 完割 西から



SE51, SK68 断面 (B-B') 北から



SE51, SK68 完割 西から



SK2, SD3 断面 (A-A') 東から



SK2, SD3 完割 西から



SK20 断面 (A-A') 北から



SK55・20 完掘 南から



SK22 完掘 西から



SK54 完掘 東から



SK55 断面 (A-A') 北から



SX7 断面 (B-B') 南から



SX7 完掘 西から



SX15 断面 (A-A') 西から



2区 着手前 南から



2区 完掘 北から



SD9 断面 (A-A') 北から



SD9 完掘 北から



SD15 断面 (A-A') 東から



SD15 断面 (B-B') 北から



SD17 断面 (A-A') 北から



SD15・17 完掘 北から



SD23 断面 (A-A') 西から



SD24 断面 (A-A') 西から



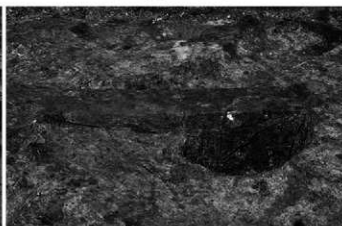
SD23・24 完掘 東から



SD34 断面 (A-A') 北から



SD34 完掘 北から



SD55・56 断面 (A-A') 西から



SD55・56 完掘 西から



SD63 断面 (A-A') 西から



SD89 断面 (A-A') 西から



SD89 断面 (C-C') 南から



SD89 完掘 南から



SD89 完掘 東から



SE25 断面 (A-A') および完掘 西から



SE25 完掘 北から



SE97 断面 (B-B') および完掘、SD63 断面 東から



SK67、SD63、SE97 ほか 完掘 西から



SK10 断面 (A-A') 東から



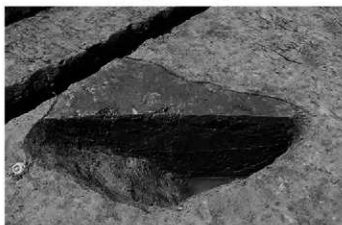
SK10 完掘 東から



SK16 断面 (A-A') 南から



SK16 完掘 南から



SK37 断面 (A-A') 東から



SK37 完掘 東から



SK96 断面 (A-A') 西から



SK96 完掘 南から



3区 着手前 南から



3区 完掘後 南から



SD4 完掘 南から



SD7 断面 (A-A') 西から



SD10 断面 (A-A') 西から



SD7・10 完掘 西から



SD16 断面 (A-A') 東から



SD16 完掘 東から



SD19 断面 (A-A') 東から



SD20 断面 (A-A') 東から



SD19・20 完掘 西から



SD23 断面 (A-A') 南から



SD23, SK24 完掘 南から



SD33 断面 (A-A') 南から



SD33 完掘 南から



SD39 断面 (A-A') 西から



SD39 完掘 西から



SD40 断面 (A-A') 西から



SD40 完掘 西から



SD44・84 断面 (A-A') 西から



SD44・84 完掘 西から



SD45 断面 (A-A') 西から



SD45 完掘 西から



SD57, SX81 断面 (B-B') 東から



SD57, SX81 完掘 南から



SK15 断面 (A-A') 北から



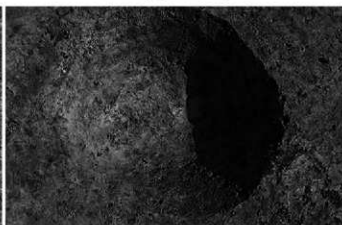
SK15 完掘 北から



SK24 断面 (A-A') 東から



SK47 断面 (A-A') 西から



SK47 完掘 西から



SK70・50, P82 ほか 断面 (A-A') および完掘 東から



SK71 断面 (A-A') および完掘 東から



河1 断面 東から



河1 完掘



4区 着手前 西から



4区 完掘 西から



SD1 断面 (A-A') 北から



SD1 完掘 北から



SD5・18 断面 (A-A') 北から



SD5 完掘 北から



SD5・11・18 断面 (C-C') および完掘 南から



SD11 断面 (A-A') 西から



SD23 断面 (A-A') 北から



SD23 完掘 北から



SD30 断面 (A-A') 東から



SD30 完掘 西から



SD36 断面 (A-A') 西から



SD36・34 完掘 西から



SD50 断面 (A-A') 南から



SD50 断面 (B-B') 東から



SD50 完掘 西から



SD50 完掘 北から



SD50 完掘 西から



SD71 断面 (A-A') および完掘 北から



SD71・72, SK73 完掘 西から



SD72 断面 (A-A') 西から



SD74 断面 (A-A') 北から



SD74 完掘 北から



SD77 断面 (A-A') 西から



SD77 断面 (B-B') 北から



SD77 完掘 西から



SD78、P121 断面 (A-A') 北から



SD78、P121 完掘 北から



SD77・94 断面 (A-A') 南から



SD83、SE112 断面 (A-A') 西から



SD83 完掘 西から



SD88 断面 (A-A') 西から



SD113・88 断面 (B-B') 西から



SD88・113 断面 (C-C') 北から



SD88 完割 西から



SD106・91 断面 (A-A') 西から



SD106 断面 (B-B') 西から



SD106・91・113 完割 西から



SD113 断面 (A-A') 北から



SD113 完掘 北から



SE59 断面 (A-A') 東から



SE59 完掘 東から



SE70 断面 (A-A') 南から



SE70 完掘 南から



SE103 断面 (A-A') 南から



SE103 完掘 北から



SE112 完掘 西から



SE117, SD22 断面 (A-A') 北から



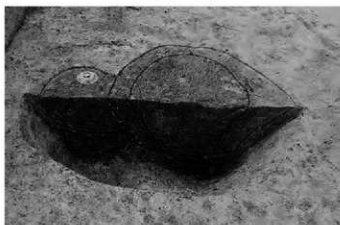
SE117, SD22 完掘 北から



SK6 断面 (A-A') 南から



SK6 完掘 南から



SK7, P118 断面 (A-A') 東から



SK7, P118 完掘 東から



SK14, SD3 断面 (A-A') 西から



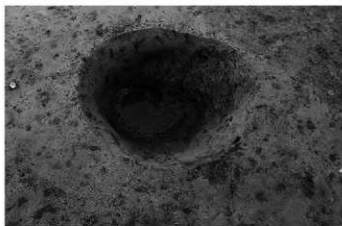
SK14, SD3 完掘 北から



SK40 断面 (A-A') および完掘 南から



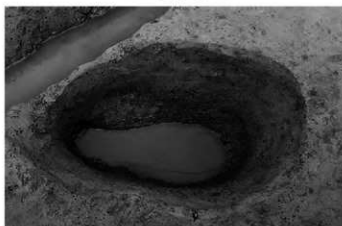
SK41 断面 (A-A') 西から



SK41 完掘 西から



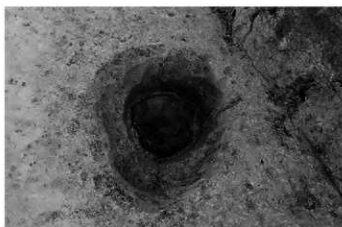
SK44 断面 (A-A') 南から



SK44 完掘 南から



SK46 断面 (A-A') 南から



SK68 遺物出土状況 北から



SK68 完掘 北から



SK69 断面 (A-A') 南から



SK73 断面 (A-A') および完掘 南から



SK109 断面 (A-A') 西から



SK109 完掘 西から



SX19 断面 (A-A') 北から



SD21, SX19 完掘 北から



SX76, SD94 断面 (A-A') 北から



SX76, SD94 完掘 北から



6区 着手前 南から



6区 完掘 北から



SD10 断面 (B-B') 北から



SD10 完掘 北から



SD11 断面 (A-A') 東から



SD11 完掘 東から



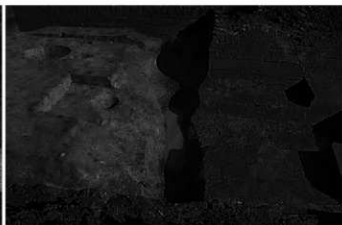
SD16 断面 (A-A') 西から



SD16 完掘 西から



SD18 断面 (A-A') 南から



SD18 完掘 南から



SD19 断面 (A-A') および完掘 東から



SD21・24 断面 (A-A') 北から



SD21・24 完掘 東から



畝状遺構 SD8 ほか 完掘 北から



畝状遺構 SD8・27・28 断面 (A-A') 北から



畝状遺構 SD29・30 断面 (B-B') 北から



畝状遺構 SD31・32 断面 (C-C') 北から



畝状遺構 SD33 断面 (D-D') 北から



畝状遺構 SD34・35・36 断面 (E-E') 北から



畝状遺構 SD37 断面 北から



畝状遺構 SD38 断面 (F-F') 北から



SK1 断面 (A-A') および完掘 東から



SK3 断面 (A-A') 西から



SK3 完掘 西から



SK4 断面 (A-A') および完掘 西から



SK12 断面 (A-A') 東から



SK12 完掘 東から



SK13 断面 (A-A') および完掘 東から



SD18、SK26 断面 (B-B') 東から



SK26 完掘 東から



SX20 断面 (A-A') 南から



SX20 完掘 南から



7区完掘



調査区遠景 東から



調査区遠景 西から



7区 1期遺構集中部分 (SD2・93、SK145 ほか) 南西から



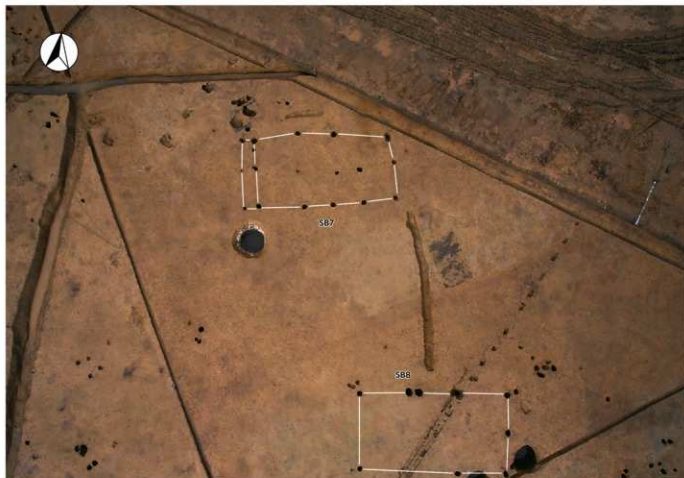
7区 SB7 東から



SA1, SB1・2・10 西から



SB3 ~ 6 南西から



7区 SB7・8 南から



7区 SB9 北から



7区 11S-5F周辺の遺構 南から



7区 SD30・47・108・133ほか 南から



7区 SD108・190ほか 北から



7区 SD775・808 北西から



SD2 断面 (A-A') 東から



SD2 断面 (B-B') 西から



SD2 西側完掘 北から



SD2 遺物出土状況



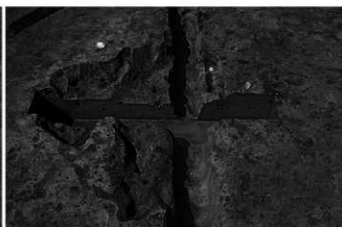
SD17 断面 (A-A') 北東から



SD17 完掘 北東から



SD21, SK20 断面 東から



SD21, SK20 完掘 東から



SD30・47、SK66・74 断面 (C-C') 南西から



SD30 断面 (A-A') 北西から



SD30 断面 (B-B') 南西から



SD30・108 断面 (B-B') 南西から



SD30 完掘 西から



SD47 断面 (A-A') 北東から



SD47・108 断面 (A-A') 南西から



SD47・607 断面 (D-D') 南から



SD93 断面 (A-A' SK98 含む) 東から



SD93 完掘 東から



SD96 断面 (A-A') 南から



SD96 完掘 北から



SD102 断面 (A-A' P104・107 含む) 東から



SD133 断面 (A-A' SD267 エレベーション含む) 南西から



SD133 断面 (B-B') 北から



SD133 断面 (C-C') 南から



SD190 断面 (A-A') 東から



SD191 断面 (B-B' SD102 含む) 南から



SD192・193・224 断面 (A-A') 東から



SD193 断面 (A-A') 東から



SD207 断面 (A-A') 東から



SD267・133 断面 (A-A') 南西から



SD267 断面 (A-A') 南西から



SD268 断面 (A-A') 南西から



SD268 断面 (B-B' SX694 含む) 北東から



SD268 断面 (C-C' SD318, SK317 を含む) 北西から



SD382・190 断面 (B-B') 東から



SD390 断面 (A-A') 北から



SD367 (手前)・SD390 完掘 北東から



SD413 断面 (A-A' SD470 含む) 北から



SD413 完掘 北から



SD423 断面 (A-A') 南東から



SD423 断面 (C-C' SD487 含む) 北西から



SD423・487 完掘



SD635・712 断面 (A-A') 東から



SD635・636、P638 完掘 東から



SD635・713 断面 (A-A') 東から



SD662 断面 (A-A') 南から



SD712・714・716、SX720 断面 (A-A') 北東から



SD715・714 断面 (A-A') 北東から



SD716 断面 (A-A') 東から



SD718 断面 (A-A') 東から



SD773・718・719 断面 (A-A') 東から



SD775 断面 (A-A') 東から



SD775 断面 (C-C' SX807・SD808 含む) 北西から



SD837 断面 (A-A') 南西から



SD878 断面 (A-A') 南東から



SD918 断面 (A-A') 北から



SE399 断面 (A-A') 東から



SE399 完掘 東から



SE434 断面 (A-A') 西から



SE434 完掘 西から



SE677 断面 (A-A') 東から



SE677 断面 (A-A') 下部堆積 東から



SE677 完掘 東から



SE678 断面 (A-A') 南東から



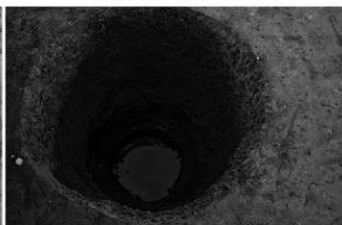
SE678 完掘 南東から



SE704 断面 (A-A') 南から



SE704 断面 (A-A') 下部堆積 南から



SE704 完掘 南から



SK1 断面 (A-A') 西から



SK1 完掘 西から



SK18 断面 (A-A') 南から



SK18 完掘 南から



SK22・23 断面 (A-A') 東から



SK22・23 完掘 東から



SK28 断面 (A-A') 西から



SK28 完掘 西から



SK34 断面 (A-A') 西から



SK34 完掘 西から



SK50、P52 断面 (A-A') 南から



SK50、P52 完掘 南から



SK53 断面 (A-A') 西から



SK53 完掘 西から



SK56 断面 (A-A') 及び遺物出土状況 南西から



SK56 完掘 南西から



SK68・69 断面 (A-A') 西から



SK69・68 完掘 西から



SK76 断面 (A-A') 南から



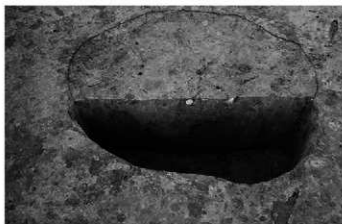
SK76 完掘 南から



SK77 断面 (A-A') 南西から



SK77 完掘 南西から



SK86 断面 (A-A') 南から



SK86 完掘 南から



SK90 断面 (A-A') 南から



SK90 完掘 南から



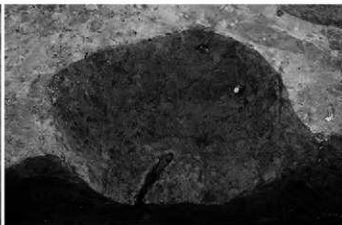
SK92 断面 (A-A') 南から



SK92 完掘 南から



SK97 断面 (A-A') 南から



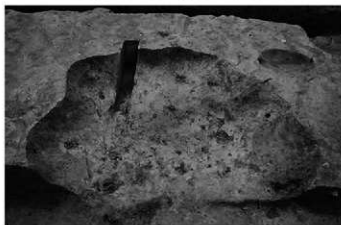
SK97 完掘 南から



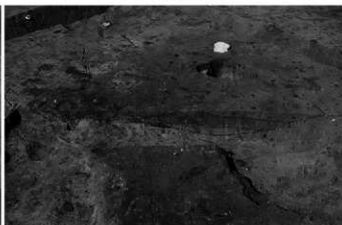
SD93, SK99・98 断面 (A-A') 東から



SK98 完掘 東から



SK99 完掘 北から



SK116, SX143 断面 (A-A') 西から



SK116, SX143 完掘 西から



SK140 断面 (A-A') 南東から



SK140 完掘 南東から



SK141 断面 (A-A') 南から



SK141 遺物出土状況 南から



SK141 完掘 南から



SK145 断面 (A-A') 西半) 南西から



SK145 土師器鍋出土状況 東から



SK145 搬入碟出土状況 北西から



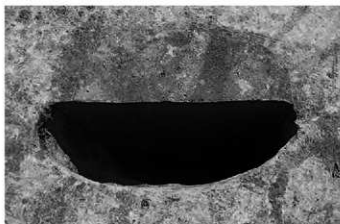
SK145 遺物出土状況 (土師器鍋・搬入碟) 西から



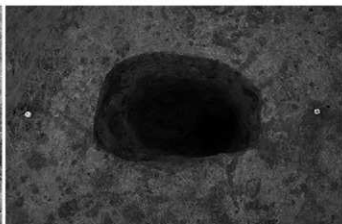
SK145 遺物出土状況 東から



SK145 完掘 東から



SK194 断面 (A-A') 北から



SK194 完掘 北から



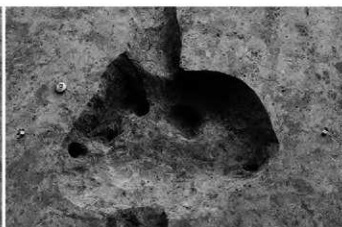
SK195 断面 (A-A') 南から



SK195 完掘 南から



SK200, SD2 断面 (A-A') 北から



SK200 完掘 北から



SK201 断面 (A-A') 東から



SK201 完掘 東から



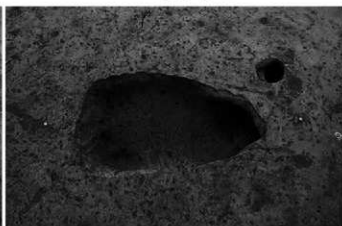
SK202 断面 (A-A') 北から



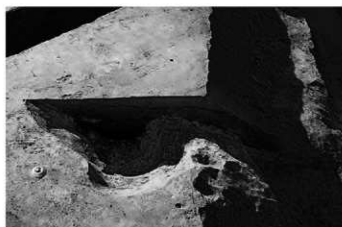
SK202 完掘 北から



SK250 断面 (A-A') 北から



SK250 完掘 北から



SK273 断面 (A-A') 東から



SK273 完掘 東から



SK292 断面 (A-A) 南から



SK292 完掘 南から



SK324 断面 (A-A) 東から



SK324 完掘 東から



SK409 断面 (A-A) 東から



SK409 完掘 東から



SK411 断面 西から



SK411 完掘 西から



SK414 断面 (A-A') 北東から



SK414 完掘 北東から



SK442 断面 (A-A') 南から



SK442 完掘 南から



SK488 断面 (A-A') 南東から



SK488 完掘 南東から



SK575・576、P580 断面 (A-A') 東から



SK575・576、P580 遺物出土状況



SK575・576 完掘 東から



SK577 断面 (A-A') 南から



SK577 遺物出土状況



SK577, P584 完掘 南から



SK597 断面 (A-A') 南から



SK597 完掘 南から



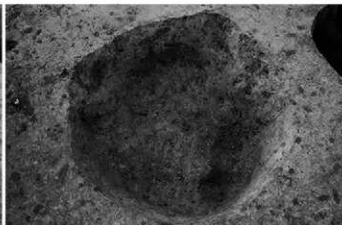
SK601 断面 (A-A') 南から



SK601 完掘 南から



SK681 断面 (A-A') 南東から



SK681 完掘 南東から



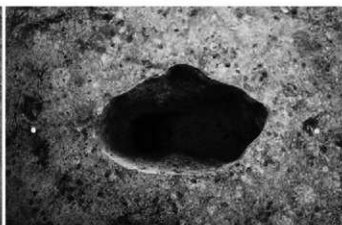
SK682 断面 (A-A') 南から



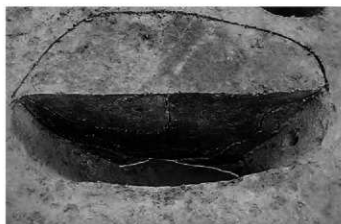
SK682 完掘 南から



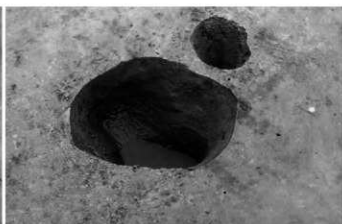
SK799 断面 (A-A') 北から



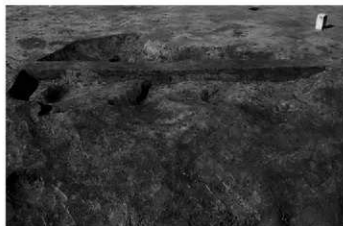
SK799 完掘 北から



SK899 断面 (A-A') 南から



SK899 完掘 南から



SX58 断面 (A-A') 南から



SX58 完掘 南から



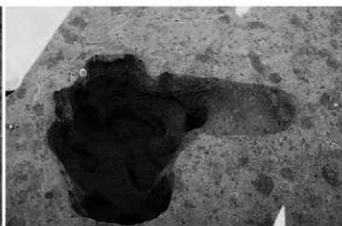
SX106 断面 (A-A') 西から



SX106 完掘 西から



SX118・119 断面 (A-A') 南東から



SX118・119 完掘 南東から



SX144 断面 (A-A') 東から



SX26・144 完掘 東から



SX144 完掘 東から



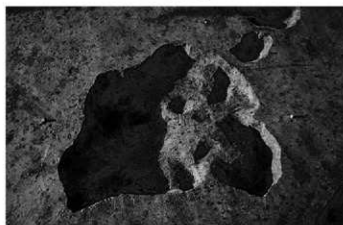
SX327 断面 (A-A') 南から



SX327 完掘 南から



SX328 断面 (A-A') 南から



SX328 完掘 南から



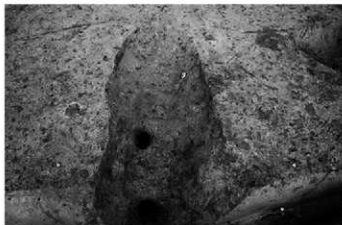
SX550 断面 (A-A') 北東から



SX550 完掘 北東から



SX693 断面 (A-A') 西から



SX693 完掘 西から



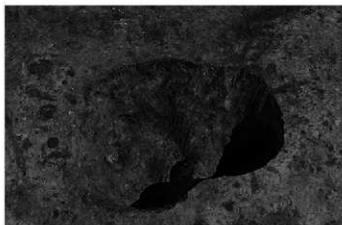
SX743, P742 断面 (A-A') 南から



SX743 完掘 南から



SX807 完掘 北西から



P70 完掘 西から



P229 断面 (A-A') 南から



P229 完掘 南から



P421 完掘 南から



P581 断面



P581 完掘



P584 断面 東から



P584 完掘 東から



P692 断面



8区 遺跡発見時(表土除去前) 東から



8区 遺構検出状況(部分) 北から

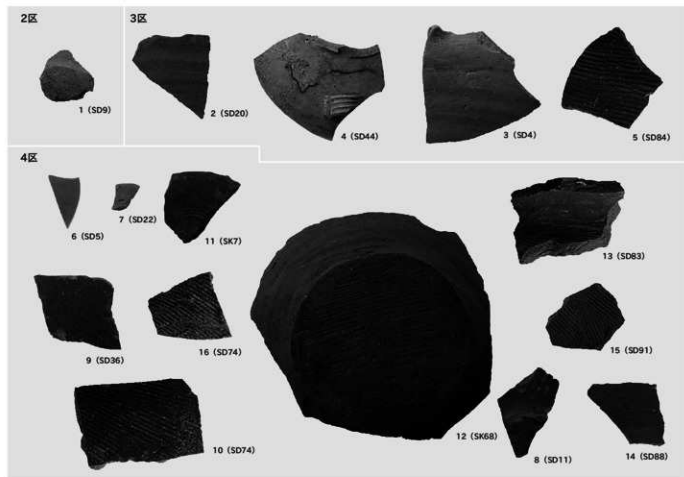


8区 遺構検出状況(全体俯瞰) 北から

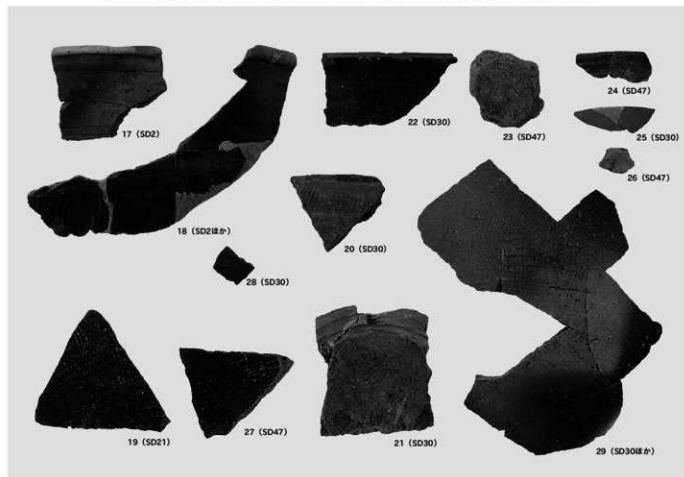




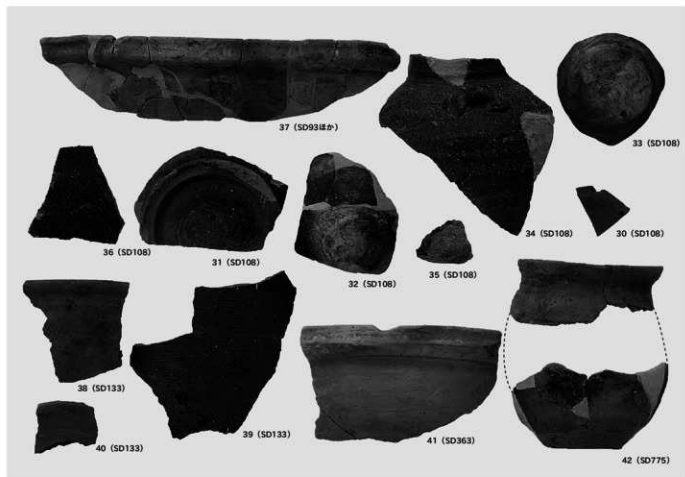
99 (SK145)



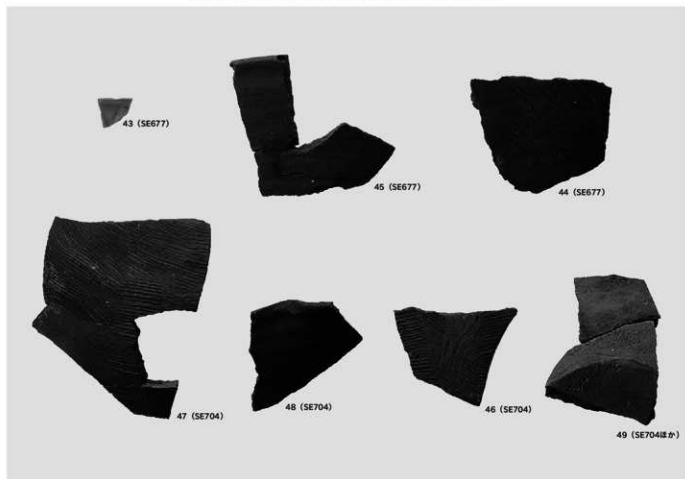
遺構出土土器・陶磁器 2区SD9 3区SD4・20・44・84 4区SD5・11・22・36・74・83・88・91, SK7・68



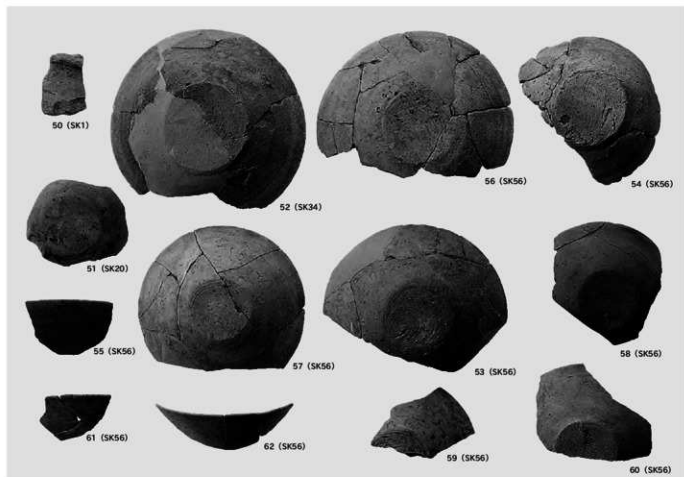
遺構出土土器・陶磁器 7区SD2・3・21・30・47(17~29)



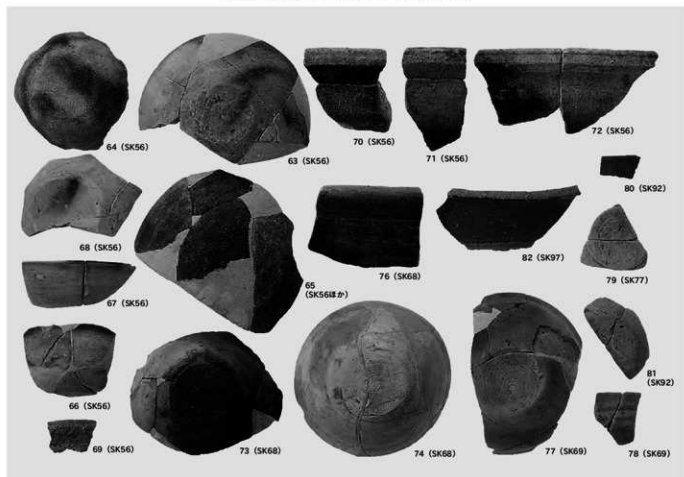
遺構出土土器・陶磁器 7区SD93・108・133・363・775(30~42)



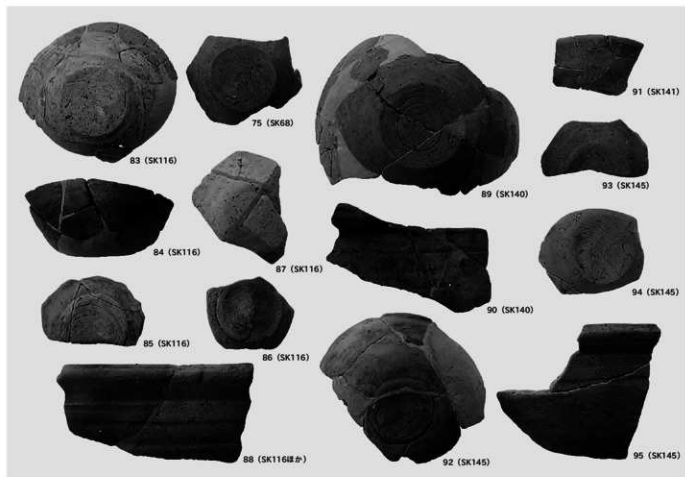
遺構出土土器・陶磁器 7区SE677・704(43~49)



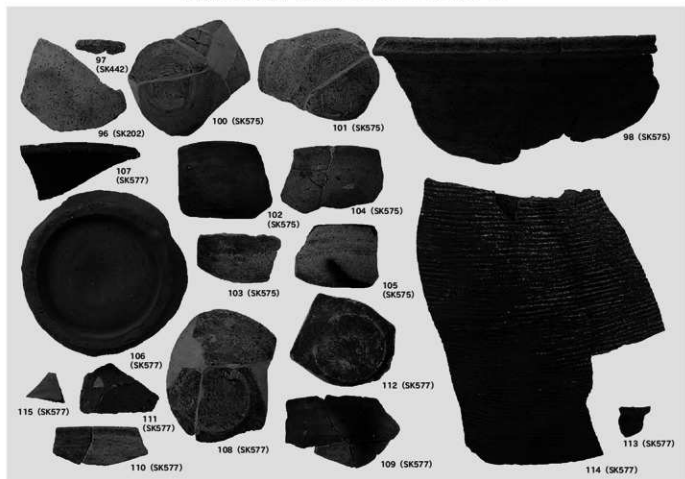
遺構出土土器・陶磁器 7区SK1・20・34・56(50~62)



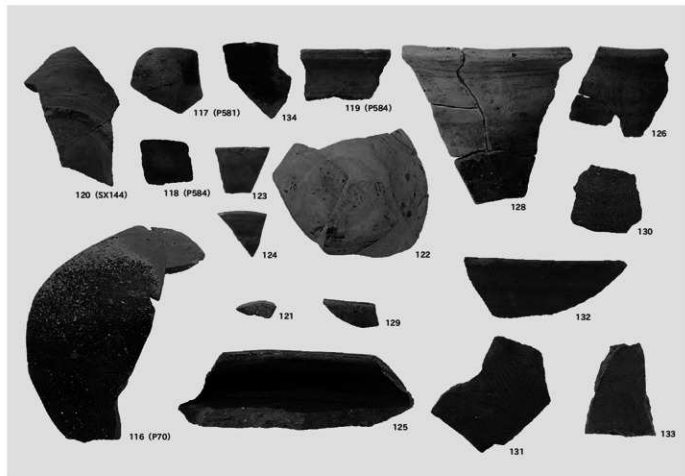
遺構出土土器・陶磁器 7区SK56・68・69・77・92・97(63~74, 76~82)



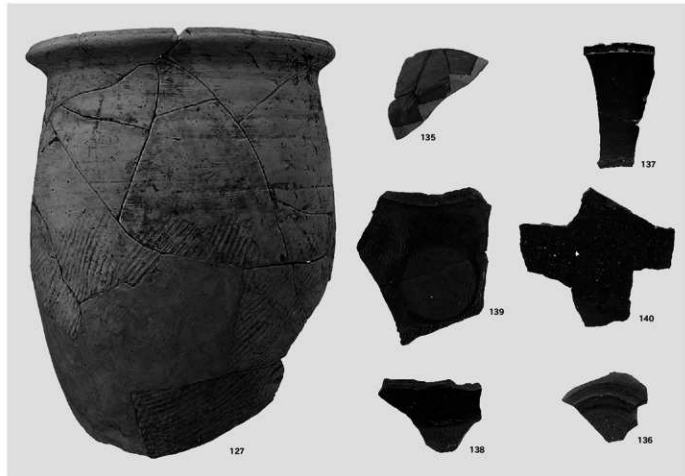
遺構出土土器・陶磁器 7区SK68・116・140・141・145(75, 83~95)



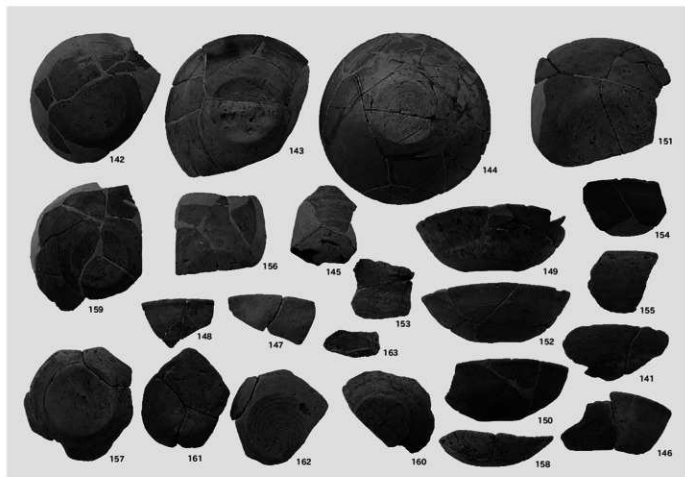
遺構出土土器・陶磁器 7区SK202・442・575・577(96~98, 100~115)



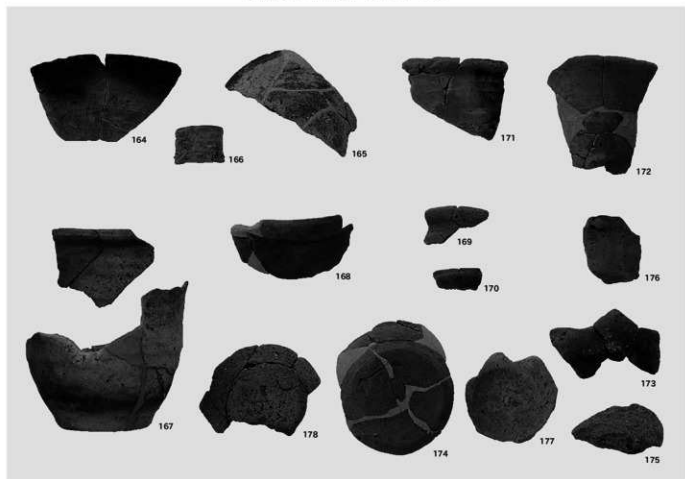
遺構出土土器・陶磁器 7区SX144, P70-581-584(116~120) 包含層出土土器・陶磁器 1区(121~125) 2区(126-128-129) 3区(130~133) 4区(134)



包含層出土土器・陶磁器 2区(127) 7区(135~140)



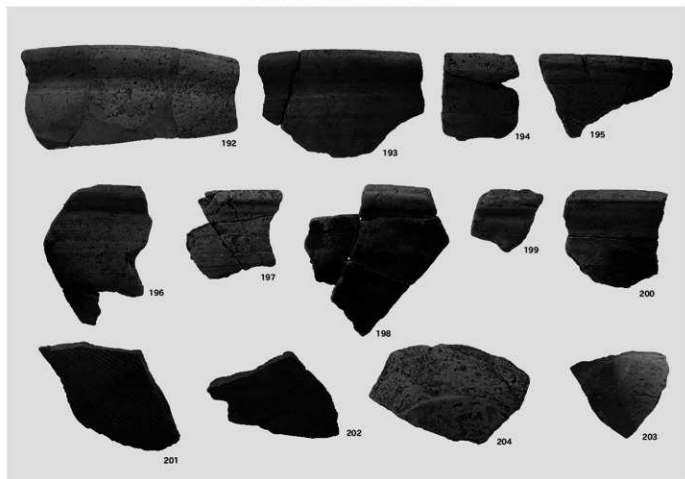
包含層出土土器・陶磁器 7区(141~163)



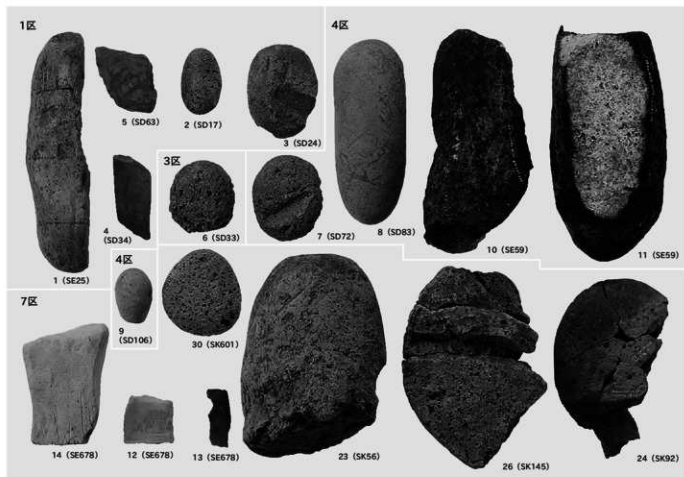
包含層出土土器・陶磁器 7区(164~178)



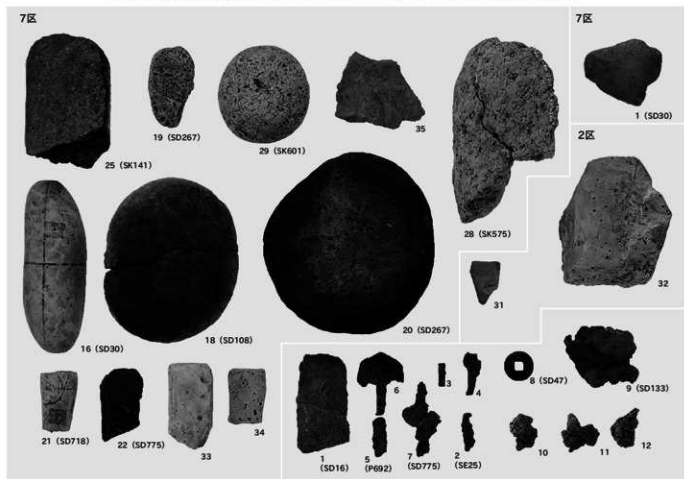
包含层出土土器·陶磁器 7区(179~191)



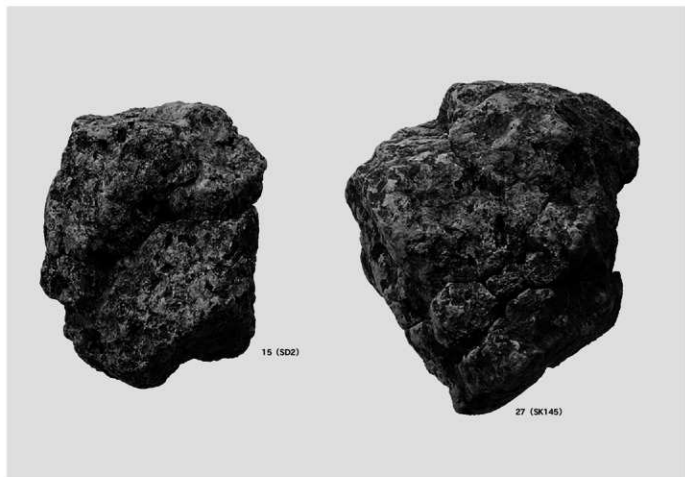
包含层出土土器·陶磁器 7区(192~202) 8区(203, 204)



遺構出土石器・石製品、搬入礫 2区(1~5) 3区(6) 4区(7~11) 7区(12~14, 23-24-26-30)



遺構出土石器・石製品、搬入礫 7区(16, 18~22, 25, 28, 29) 包含層出土石器 2区(31-32), 7区(33~35), 土製品(1), 鉄製品・銭貨・鉄滓 2区(2), 6区(1), 7区(3~12)



遺構出土搬入碑 7区(15・27)



遺構出土搬入碑 7区(17)

包含層出土石製品 8区(36)



須恵器大甕(19) タタキメ



須恵器大甕(139) タタキメとカキメ



須恵器大甕(114) 当て具痕(同心円状)



須恵器大甕(139) 当て具痕(同心円状)



珠洲焼甕(39) タタキメ



珠洲焼棺鉢(12) 卸し目



土師器無台碗(57) 回転系切り痕 右回転



土師器無台碗(77) 回転系切り痕 右回転



黒色土器無台碗(89) ヘラナデ 左回転



土師器甕(190) タタキメ



土師器甕(41) カキメ



土師器長甕(187) ハケメ

報告書抄録

ふりがな	ほそいけてらみちうえいせき に だいにじゅうごじちようさ							
書名	細池寺道上遺跡Ⅱ 第25次調査							
副書名	県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第11次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	潮田憲幸							
編集機関	新潟市文化観光・スポーツ部 新潟市文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区本場 2748 番地 1 TEL 025-378-0480							
発行年月	2014年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ほそいけてらみちうえいせき 細池寺道上遺跡	ほそいけてらみちうえいせき 新潟県新潟市 秋葉区大安寺 15番地1号ほか	15105	151	37° 47' 41"	139° 10' 2"	20070611～ 20071211	8,952.7 m ²	ほ場整備事業
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
細池寺道上遺跡	遺物包含地	平安時代（9世紀末～10世紀初頭） 鎌倉時代（13世紀）		掘立柱建物・井戸・溝状遺構・土坑・洲焼・青磁等陶磁器・性格不明遺構ほか 計1,258基		須恵器・土師器・珠		
要約	<p>新潟市東南部、阿賀野川と早出川の自然堤防上に立地する古代・中世の遺跡である。調査の結果、平安時代（9C末～10C）と鎌倉時代（13C末～14C初頭）の遺跡・遺物が発見された。</p> <p>遺構は鎌倉時代が主体で、溝で区画された中に掘立柱建物や井戸を構築し、居住域としているが、建物の数は少なく、中世散村的な印象を受ける。区画溝は広範囲に構築されていると思われ、建物の共存から、古代末に構築が始まり、中世まで引き継ぎ使用されたことがわかった。これら縦横に走る溝により用・排水管理された農耕地帯が本地域の古代末から中世前半の実態と思われる。</p>							

細池寺道上遺跡Ⅱ 第25次調査

— 県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第11次発掘調査報告書 —

2014年1月30日印刷
2014年1月31日発行

編集 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区本場 2748 番地 1
TEL 025 (378) 0480

発行 新潟市教育委員会
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1
TEL 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社ハイングラフ
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
TEL 025 (233) 0321